

文化庁委嘱調査研究

学校における鑑賞教室等に関する実態調査

調査報告書 2008 年版

2008 年 3 月

社団法人 日本芸能実演家団体協議会

はじめに

次世代を担うあらゆる子どもたちが、文化芸術に触れながら成長できる環境の整備は、子どもたちの感性や創造性を豊かに育み、文化芸術を継承発展させていくために不可欠であるが、その文化環境を整える際に、最も重要なのが学校である。社会生活基本調査によると、10～14歳の小中学生で演芸・演劇・舞踊の鑑賞経験をもっている子どもたちは2006年までの5年間で5%減少し12.2%、クラシック音楽鑑賞は14.9%だが、こちらも減少傾向にあり、芸術体験が家庭や地域にだけに委ねられていると、どのような子どもたちも分け隔てなく芸術体験ができるようにはならない。子どもたちが日常生活の大半を過ごす学校での取組みが重要なゆえんである。学校教育に期待されることが広範囲に及ぶなかで、教育現場では、子どもたちが教科として音楽、美術などに親しむほか、総合学習や国語の時間を利用しての芸術体験や、文化部活動での多彩な取組み、指導のため招聘される外部講師との出会いなどを通じて、さらには演劇や音楽の生演奏など舞台芸術の鑑賞の機会と、多様な形で芸術文化に触れられるような取組みがなされている。

政府が平成19年2月に定めた文化芸術振興基本法の第二次基本方針では、子どもの豊かな心や感性、創造性やコミュニケーション能力をはぐくみ、日本人としての自覚を持ちつつ国際社会で活躍する人材や地域文化の担い手を育成するために「子どもの文化芸術活動の充実」を重点事項として謳った。こどもたちの文化芸術活動の機会、小、中、高等学校における子どもの文化芸術活動の状況はどのようになっているのか。現状から更に充実するためには何が必要なのか、実施できないのは何が阻害要因となっているのか。そんな現状と課題を探るために、今回の調査は文化庁の委嘱で実施された。

前回、舞台芸術鑑賞教室の実態調査が行われたのは平成14年である。その後、芸術関係者からは鑑賞教室が近年さらに減少しているのではないかと指摘が相次ぎ、現場での実態調査でも減少を示すものが多数あがってきた。このような背景もあり前回の調査とは調査内容を変更して5年ぶりに実施することとなった。

前回アンケート内容の趣旨は、その前の平成10年に実施された調査と同様、学校における鑑賞教室の実施を促すことを重点とし、実施内容をデータベースとして公開し、学校への情報提供と共有を主目的に、実施上の阻害要因の調査も行った。それに対し今回は、学校における文化芸術に関わる活動を広く調べることで、政策立案のための資料として鑑賞教室等を実施していないところの阻害要因も調査できるような設計を行い、実施に密接に関わる都道府県、市町村教育委員会の政策方針と支援状況の調査も加え、今後の国の政策立案に参考となるよう実施した。

今回の調査は、ゆとり教育を謳った学習指導要領を見直す議論の渦中で実施したこともあるのか、この種の郵送式アンケートとしては異例の50%を超える高回答率という結果になった。嬉しい限りであるが、先生方の子どもたちの成長には芸術は重要との強い思いの現れと同時に、継続に対する危機感がひしひしと感じられる結果となった。調査実施に当たって、調査票の設計、分析には小中高等学校の現職の先生方、演劇、音楽など芸術団体の方々にご協力いただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

今回の調査結果が基本方針「子どもの文化芸術活動の充実」に活かされることを願っている。

目 次

I. まとめ	1
II. 調査実施概要	9
1. 調査目的	9
2. 調査内容	9
3. 調査対象	9
4. 調査方法	9
5. 調査期間	10
6. 調査票発送数及び回収数（率）	10
7. 調査実施機関	10
8. 回答校のプロフィール	11
(1) 設置者	11
(2) 学校の所在地	14
(3) 児童・生徒数	15
III. 学校調査の調査結果	22
1. 鑑賞教室の実施状況	22
(1) 平成 19 年度の鑑賞教室の実施状況	22
(2) 実施（予定）月	29
(3) 作品の種類	30
(4) 鑑賞対象学年	33
(5) 鑑賞者数	35
(6) 実施場所	37
(7) 開催の方法	39
(8) 家族や地域住民の参加	41
2. 鑑賞教室の機会	43
(1) 鑑賞教室の開催頻度	43
(2) 鑑賞教室で実施する分野のローテーション	49
(3) 鑑賞教室の状況	51
(4) 鑑賞教室の非実施理由	55
3. 鑑賞教室をめぐる現状	59
(1) 学校教育における鑑賞教室の位置づけ	59
① 鑑賞教室の位置づけ	59
② 鑑賞教室が位置づけられている教科	61
(2) 鑑賞教室における作品の選定	63
① 鑑賞教室の内容の決定方法	63
② 鑑賞教室の内容を選定する際に参考にする情報	65

(3) 鑑賞教室の実施に対する支援体制	66
① 外部の団体による協力	66
② 公立文化施設の役割	71
③ 公演料の支払いの有無	75
④ 公演料の負担・支援	78
⑤ 児童・生徒が負担した金額	80
⑥ 公演料を支払わなかった理由	87
4. 学校教育における鑑賞教室のあり方	90
(1) 学校教育における鑑賞教室の活かし方	90
(2) 鑑賞教室を実施する際に困難を感じる事	94
① 各意見の比較	94
② 「公共団体等の情報が不足している」という意見について	95
③ 「作品に関する情報が不足している」という意見について	97
④ 「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見について	99
⑤ 「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見について	101
⑥ 「他の教員の理解を得るのが難しい」という意見について	103
⑦ 「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」という意見について	105
⑧ 「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」という意見について	107
⑨ 「鑑賞教室を開催するのには児童・生徒数が不十分」という意見について	109
⑩ 「保護者の理解を得るのが難しい」という意見について	111
⑪ 「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見について	113
(3) 鑑賞教室が児童・生徒に与える効果	115
(4) 鑑賞教室の代替としてのCD・DVD等の効果	118
(5) 鑑賞教室の実施に関わる方針	119
(6) 鑑賞教室の実施に積極的な方針をとる理由	123
(7) 鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策	124
(8) 舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞の機会	130
5. 文化芸術関連の外部指導員の導入状況	131
(1) 芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無	131
(2) 招聘する指導者の専門芸術分野	135
(3) 指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけ	137
(4) 指導者（芸術）招聘の目的	139
(5) 招聘する指導者（芸術）の決定方法	142
(6) 指導者（芸術）を招聘することによる効果	145
(7) 指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じる事	148
(8) 指導者（芸術）招聘の活用方針	151

6. 文化部活動の実態	156
(1) 1校あたりの文化部の数	156
(2) 部の類型	157
(3) 部の位置づけ	163
(4) 所属児童・生徒数	170
(5) 活動頻度	180
(6) 学校外部の指導者・講師の有無	187
(7) 県大会以上の大会参加実績	194
(8) 他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況	201
(9) 文化部の新設・廃止状況	208
IV. 教育委員会調査の調査結果	209
1. 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度	209
(1) 小学校・中学校・高等学校での舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度	209
(2) 小学校・中学校運営費の費目における1人あたりの算定上限	215
(3) 小学校・中学校の財政的支援における1人当たりの算定上限	216
2. 今年度実施した鑑賞教室の分野	217
3. 鑑賞機会の分野	223
4. 鑑賞機会の確保の方針	226
5. 鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用	228
6. 舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針	231
7. 指導者（芸術）を招聘する際の予算措置	233
8. 指導者（芸術）の導入・活用に対する予算措置以外のサポート	237
V. 調査票及び単純集計結果	240
1. 学校調査票及び単純集計結果	240
2. 市区町村教育委員会調査票及び単純集計結果	248
3. 都道府県教育委員会調査票及び単純集計結果	252
図表一覧	255

I. まとめ

■ 調査および報告書の構成について

21 世紀に入って、教育の現場は大きな波に揺られている。前回調査の行われた平成 14 年は、「生きる力」を育むことを目標に総合的な学習の時間の導入などを行った新学習指導要領の施行年だった。今回は、平成 18 年の学力到達度調査 PISA の結果を受け、ゆとり教育への批判と、新しい学習指導要領（平成 21 年 4 月施行予定）に向けての議論の渦中での調査となった。文化庁による鑑賞教室や外部指導員の導入に対する支援施策が拡充される中、現場の実態はどのように変化しているのか、前回調査を概ね踏襲し、時系列分析を行ったほか、別途行われていた文化部活動の実態調査を新たに盛り込んだ。また、都道府県、市町村教育委員会に対して鑑賞教室や外部指導員招聘に対する支援についてのアンケートを行ったことで、行政の対応状況の把握も可能となった。

本調査の目的は、全国の学校現場における鑑賞教室や文化部活動の実態を把握し、「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第二次）」の重点項目「子どもの文化芸術活動の充実」にむけた具体的な施策立案の基礎資料とすることである。次代を担う子どもたちのために豊かな文化芸術環境を整えていくため、文化庁の委嘱を受け、2003 年以来の変化を探る実態調査を行い、下記の 4 点を明らかにした。

- ①鑑賞教室の実態：実施状況の推移（事業内容、位置付け等）費用、課題内容等
- ②外部指導員の導入状況
- ③文化部活動の実態
- ④都道府県、市区町村教育委員会の鑑賞教室、外部指導員への支援状況

全国のすべての小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校（計 39,804 校）に対してアンケート調査を行った結果、50.8%の有効回答が得られ、前回調査の 34.3%を大きく上回っている。前回調査では、鑑賞教室を行っていない学校の意識把握ができなかったため、今回は鑑賞教室を行っていない場合も、後段の設問への回答を促し、外部指導員の導入や文化部活動の状況についての回答が得られた。

調査票の設計にあたっては、鑑賞教室を各地で行なってきた実績の多い劇団、オーケストラ、教育関係者を交えて質問の仕方や選択肢などについて検討を行った。文化部活動に関する調査は、平成 13 年度に行われた小学校 527 校、中学校 531 校、高等学校 468 校、合計 1,526 校を対象としたサンプル調査（回収数 545、回答率 35.7%）の設問を参照し、数値データを拾うことを主眼とした。

また、集計結果に対しての検討委員会を設け、教育課程や都道府県ごとに異なる実施率や意識の差について数値の裏付けとなる現場状況のヒアリングを行い、分析の補足とした。

■ 鑑賞教室の実施状況

①頻度・実施率

平成 19 年度の鑑賞教室の実施状況は 68.9%であり、前回調査時（70.3%）とほぼ同程度の実施率を保っている。小学校および高等学校（全日制）では生徒数が多くなるほど実施率が高くなるが、中学校は生徒数の多寡に関わらず実施率は一定しており、なおかつ小学校、高等学校（全日制）よりも常に低い。

1 年間に実施した作品数は、「1 作品」が全体の 54.5%と、前回の 57.3%よりも若干減少しているが、「実施しない」と2 作品以上の割合が増えている。

鑑賞教室の開催頻度は、「毎年 1 回」が 69.6%と最も高いが、前回調査時より「1 年に数回」(11.5%)が若干減少し、「不定期」(10.5%)が若干増加している。特に「不定期」は、小学校および中学校で生徒数が少なくなるほど割合が高くなる。また、鑑賞教室で実施する分野のローテーションは小学校および中学校で生徒数が多くなるほど実施率が高くなる。

平成 19 年度の鑑賞教室非実施校における鑑賞教室の状況は、「もともと実施していない」が 53.7%と最も高く、「以前は実施していたが鑑賞教室は取り止めた」は小学校および中学校で生徒数が多くなるほど割合が高くなる。非実施理由としては、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「実施したいが予算がない」は生徒数が少なくなるほど割合が高くなり、「授業時間との兼ね合いで難しい」は生徒数が多くなるほど割合が高くなる。

鑑賞教室の実施（予定）月は、「19 年 11 月」(19.4%)、「19 年 10 月」(18.5%)、「19 年 6 月」(15.7%)で半分以上を占めているが、中学校では「19 年 6 月」のみ小学校、高等学校（全日制）よりも割合が低く、「20 年 3 月」が高くなっている。

②作品の種類

上演された作品の種類は、「現代演劇」(24.8%)、「室内楽」(12.7%)、「ミュージカル」(10.2%)が比較的多く実施されており、前回調査時よりも「現代演劇」が 2.9 ポイント減少し、「室内楽」や「オーケストラ」が 2 ポイント増加しており、「室内楽」は学年が低くなるほど割合が高くなる。また、中学校、高等学校では小学校に比べ能・狂言、落語・演芸といった国語を用いる古典芸能の割合が高くなっている。現代演劇、音楽全般（クラシック、ポピュラー、伝統音楽含む）、古典芸能（落語、能等）という括りで見ると、小学校では現代演劇 27.3%、音楽 55.5%、古典芸能は 4.5%。中学校ではそれぞれ 20%、60.9%、12.9%、高等学校で 25.9%、46.8%、22.8%と教育課程ごとの特徴が大きく出ている。

③開催にあたって

鑑賞者数は、平均 306 人で前回調査時（348 人）よりも 12%減少している。実施場所は、「自校」が 62.6%と最も高く、「他校」とともに学年が低くなるほど割合が高くなる一方で、「公立文化施設」「民間の文化施設」は学年が高くなるほど割合が高くなる。徒歩圏内に通学している小学生が学校外で鑑賞する場合には、引率の気配り、バスの手配（経費負担）が生じる一方、高校生は各自で会場に集合、解散といった形態も可能であることも一因と考えられる。開催の方法は、「自校単独」が 53.1%と最も高く、「教育委員会と共同」(20.1%)、「他校と共同」(17.6%)も比較的高い。前回調査時よりも「自校単独」が若干減少し、「他校と共同」が若干増加している。家族や地域住民の参加状況は 54.3%であり、前回調査時よりも若干増加している。

鑑賞教室の位置づけは、「学芸的行事として」が 72.0%と最も高いが、前回調査時より若干減少している。一方で、「総合的な学習の時間の中で」(6.4%)が前回調査時よりも若干増加している。「教科の授業として」は学年が低くなるほど割合が高くなっており、位置づけられる教科は「音楽」が 72.4%で、前回調査時より増加している。

鑑賞教室の内容の決定方法は、「自校で独自に決める」が 64.8%と最も高く、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも生徒数が多くなるほど割合が高くなる。「教育委員会で決められる」は小学校および中学校で生徒数が少なくなるほど割合が高くなる。また、学校区分別にみると、「自校単独」での決定は中学校が最も低

く 57.1%で教育委員会の決定が 21.5%となっているのが特徴的である。実際、公演料を生徒に負担してもらう必要がなかった理由として、中学校では教育委員会の負担が 5 割を占めているため、教育委員会の支援に依存するところが大きく、逆にそうした支援がえられなければ開催しない傾向が強いとも考えられる。

鑑賞教室の内容選定時に参考にする情報は、「ダイレクトメール」(39.1%)、「公演団体等の人の話」(28.0%)、「他校や研究会等で聞いた評判」(25.1%)が比較的高いが、いずれも前回調査時よりも減少している一方で、「インターネット」(11.3%)は増加している。

外部団体による協力は、「市町村の教育委員会」が 30.9%で最も高いが、前回調査時よりも若干減少しており、小学校および中学校で生徒数が少なくなるほど割合が高くなる。一方で、「団体からの協力は得なかった」は小学校および中学校で生徒数が多くなるほど割合が高くなる。

公立文化施設の役割は、「施設を利用した」が 19.3%と最も高く、前回調査時よりも若干増加している。「施設を利用した」、「利用料を減免して施設を提供してもらった」は学年が高くなるほど割合が高くなり、「以前から特に関わりを持たなかった」は学年が低くなるほど割合が高くなる。小学校で「施設を利用した」は生徒数が少なくなるほど割合が高くなり、中学校で「公立文化施設の企画提案に乗った」は生徒数が少なくなるほど割合が高くなる。

④ 費用負担の状況

公演料の支払いは、「支払った」が 65.9%で前回調査時と同程度であった。小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「支払った」は生徒数が多くなるほど割合が高くなる。公演料の負担・支援は、「児童・生徒の負担があった」が 78.4%と最も高く、小学校および中学校で生徒数が多くなるほど割合が高くなる。「教育委員会の支援があった」、「他校と費用を分担した」は小学校、中学校、高等学校（全日制）とも生徒が少なくなるほど割合が高くなる。児童・生徒の平均負担額は、小学校では生徒数に関わらず 650 円前後であるが、中学校では「100 人以下」で 1,200 円近くなり、高等学校（全日制）では生徒数が少なくなるほど負担額が高くなる。

公演料を支払わなかった理由は、「教育委員会が費用を負担した」が 44.3%と最も高いが、前回調査時よりも 13.7 ポイント減少している。「文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だった」は 26.0%で、前回調査時より 15.5 ポイント増加している。公立文化施設の主催も増加しており、地域への支援のあり方が変化しているようだ。

⑤ 学校教育における鑑賞教室のあり方

学校教育における鑑賞教室の活かし方は、「内容を事前に学習して舞台芸術に親しむきっかけを作る」が 73.7%と最も高く、「学芸会や文化祭等に活かす」(37.1%)、「舞台芸術に児童・生徒が参加できるよう事前に練習する」(19.9%)、「地域との交流を行う機会として利用している」(14.6%)、「公演団体等から指導を受ける機会を増やす」(11.4%)とともに前回調査時よりも増加している。

鑑賞教室を実施する際に困難を感じることは、設問ごとに「そう思う（＋２）」、「どちらかといえばそう思う（＋１）」、「あまりそうは思わない（－１）」、「そう思わない（－２）」の選択肢で加重平均を出して分析を行った。「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」が 0.9 と最も高く、「教員の間で情報交換する場が少ない」(0.2)、「作品に関する情報が不足している」(0.0)も比較的高い。いずれの項目も前回調査時と同程度か困難を感じる程度が減少している。小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「公演団体等の情報が不足している」、「作品に関する情報が不足している」、「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」、「費

用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」は、いずれも生徒数が少なくなるほど困難に感じる程度が高くなる。

鑑賞教室が児童・生徒に与える効果は、「舞台芸術への関心を高められた」が 85.1%と最も高く、「豊かな心や感性・創造性をはぐくめた」(82.0%)、「CDやDVD等では得られない反応があった」(54.4%)も比較的高い。「日本の文化芸術に親しみ理解を深められた」、「文化部活動に役立てられた」は学年が高くなるほど割合が高くなる。

鑑賞教室の代替としてのCD・DVD等の効果は、「そう思う」(0.4%)と「どちらかといえばそう思う」(4.4%)をあわせて効果を期待する割合は4.8%にすぎず、中学校では6.6%と若干高いが、総じて代替効果は疑問視されている。

鑑賞教室の実施に関わる方針は、「従来と変わらない」が62.2%と最も高く、「鑑賞教室の実施を増やしたい」(7.1%)とともに、前回調査時よりも増加している。小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「従来と変わらない」は生徒数が多くなるほど割合が高くなり、小学校および中学校では「鑑賞教室の実施を増やしたい」は生徒数が少なくなるほど割合が高くなる。鑑賞教室の実施に積極的な方針をとる理由は、「豊かな人間性や社会性の育成がいっそう重要視される」が86.7%と最も高く、「創意工夫による特色ある教育活動の一環として活かせる」(40.8%)とともに前回調査時よりも増加している。

鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策は、「文化庁や教育委員会などからの助成支援」が81.2%と最も高く、小学校および中学校で生徒数が少なくなるほど割合が高くなる。また、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも、「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」は生徒数が少なくなるほど割合が高くなり、「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」は生徒数が多くなるほど割合が高くなる。

舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞の機会は、「美術館・博物館などでの作品鑑賞」が18.0%で、学年が低くなるほど割合が高くなる。また、「映画館などでの映画鑑賞」は学年が高くなるほど割合が高くなる。

■ 文化芸術関連の外部指導員の導入状況

芸術家・芸術団体からの指導者の招聘は、「招いている・招く予定がある」が30.4%で、前回調査時(24.7%)よりも増加している。小学校および高等学校（全日制）では生徒数が多いほど割合が高くなる。招聘する指導者の専門芸術分野は、「音楽（日本の伝統音楽以外）」が42.3%と最も高く、「美術」(13.6%)とともに前回調査時よりも増加しているが、「伝統芸能」(16.1%)は若干減少している。指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけは、「そのほかの正規科目の授業として」が44.1%と最も高い。「総合的な学習の時間の授業として」(33.2%)は前回調査時よりも減少している。指導者（芸術）招聘の目的は、「実演指導をしてもらう」が73.6%と最も高い。「講演をしてもらう」(14.0%)は前回調査時よりも減少している。

招聘する指導者（芸術）の決定方法は、「地域の団体や個人が紹介してくれた」(42.3%)、「教員が独自に個人的なネットワークによって探した」(40.4%)が比較的高い。「教員が独自に個人的なネットワークによって探した」、「専門の団体や個人による宣伝・営業活動によって知った」(11.2%)は前回調査時よりも若干増加しており、「児童・生徒の家族や身近な人の中に専門家がいた」(24.5%)は減少している。指導者（芸術）を招聘することによる効果は、「豊かな心や感性・創造性をはぐくめた」が64.9%と最も高く、学年が低くなるほど割合が高くなる。

指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じることは、「十分な謝礼を用意できない」が76.6%と最も高く、「学校の内外での手続きが煩雑である」(23.8%)とともに前回調査時よりも増加している一方で、「特別指導

のためにまとまった時間を確保できない」(27.2%)は減少している。

指導者(芸術)招聘の活用方針は、「今後の方針は未定」が50.2%と最も高く、高等学校(全日制)では生徒数が少ないほど割合が高くなる。また、小学校、中学校、高等学校(全日制)とも、「従来と変わらない」は生徒数が多くなるほど割合が高くなる。

■ 文化部活動の実態

1校あたりの文化部の平均数は「小学校」2件、「中学校」3件、「高等学校(全日制)」10件となっており、生徒数が多いほど平均数は多くなる傾向にある。部の類型は、小学校で「コンピュータ」(11.8%)、「手芸」(9.2%)、「器楽」(7.5%)が、中学校で「吹奏楽」(25.4%)、「美術・工芸」(20.7%)が、高等学校(全日制)で「美術・工芸」「吹奏楽」(8.0%)、「茶道」(6.9%)が、前回と同様に比較的高くなっている。部の位置づけは、小学校で「必修」が53.8%と半数以上を占めるが、前回の87.3%から割合が大きく下がった。中学校、高等学校(全日制)では「課外」が8割以上を占めている。

所属児童・生徒数は、平均人数が小学校で20人、中学校で21人、高等学校(全日制)で15人である。活動頻度は、小学校で「週1～2回程度」が29.2%、中学校で「週5回以上」が49.0%、高等学校(全日制)で「週1～2回程度」が43.2%とそれぞれ最も割合が高い。

学校外部の指導者・講師がいるのは、小学校で17.4%、中学校で19.0%、高等学校(全日制)で15.8%である。県大会以上の大会参加実績があるのは、小学校で4.2%、中学校で23.8%、高等学校(全日制)で28.7%である。他校や地域の芸術団体と一体になった部活動を実施しているのは、小学校で5.4%、中学校で17.8%、高等学校で16.4%である。文化部の新設・廃止状況は、「新設された文化部」が4.3%、「廃止された文化部」が4.5%である。

■ 教育委員会調査

舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度は、小学校で70.9%、中学校で64.5%、高等学校で42.5%と何らかの財政的支援を行っており、具体的な支援制度としては、小学校、中学校とも「教育委員会実施の公演への無料参加」(小学校:28.8%、中学校:23.9%)、「学校外の鑑賞機会における移動費用の負担」(小学校:28.3%、中学校:21.4%)が比較的高く、高等学校では「教育委員会実施の公演への少ない費用負担による参加」が12.2%と高い。

今年度実施した鑑賞教室の分野は、小学校および中学校で「現代演劇」(小学校:23.9%、中学校:20.3%)、「オーケストラ」(小学校:21.4%、中学校:25.0%)が比較的高い。鑑賞機会の分野は、小学校および中学校で「分野は年によって違う」(小学校:66.7%、中学校:67.6%)が7割近く、「毎年対象学年ごとに同一である」(小学校:21.4%、中学校:21.3%)が2割程度である。

鑑賞機会の確保の方針は、小・中学校で69.0%、高等学校で31.7%、いずれかの方法で鑑賞機会を確保しており、具体的な方針としては、小・中学校で「市区町村立小中学校一律に鑑賞機会を確保」が34.5%と最も高く、高等学校で「希望のある校に対して鑑賞機会を確保」が17.1%と最も高い。鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用は、小・中学校で54.9%、高等学校で58.5%、いずれかの方法で外部支援制度を利用しており、具体的な外部支援制度としては、「文化庁の支援制度」が小・中学校で40.0%、高等学校で53.7%とそれぞれ最も高い。

舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針は、小・中学校で「諸条件の許す範囲で拡充させていきたい」(41.3%)、「現状維持に努めたい」(41.2%)が同程度であるが、高等学校では「諸条件の許す範囲で拡充さ

せていきたい」が 51.2%と半数を占めている。

指導者（芸術）を招聘する際の予算措置は、小学校および中学校で「正課・選択授業で年に数回程度の謝金を支給する制度」（小学校：27.5%、中学校：25.9%）が最も高く、高等学校では「正課・選択授業で年に数回程度の謝金を支給する制度」「課程外の部活で通年指導するための謝金を支給する制度」「課程外の部活で時々指導するための謝金を支給する制度」（24.4%）がいずれも同程度である。

指導者（芸術）の導入・活用に対する予算措置以外のサポートは、小・中学校で「指導が可能な人材の情報を収集して学校に提供」（17.0%）、「指導者の活用事例に関する情報を学校に提供」（16.8%）が同程度であるが、高等学校では「指導が可能な人材の情報を収集して学校に提供」が 22.0%で最も高い。

■ 調査を終えて

鑑賞教室は教師、保護者間でもその重要性について理解が得られており、子どもたちへの効果の認識が高いにもかかわらず、実施は減少傾向にある。こうした鑑賞教室の阻害要因は、予算と時間にあることが明らかになった。背景となるのは、一つは少子化、生徒数減による学校規模の縮小、もう一つは文化芸術へのアクセス、享受環境といった都道府県ごとの格差である。以下、学校規模と都道府県に焦点を当て、本調査結果とともに人口統計や社会生活基本調査のデータを利用し、それぞれの詳細分析を試みる。

■ 少子化、小規模化による格差

近年社会的にも問題となっている少子化の実態を数字でみると、前回調査から 5 年の間に学校の統廃合が進み、小学校は 1,056 校、中学校 219 校、高等学校 104 校の減少となった。また、回答校の生徒数規模を見てみると、100 人以下の小規模校が小学校で 1.8 ポイント、中学校で 0.4 ポイント、1.3 ポイント増えている。

鑑賞教室の実施状況から、小学校および高等学校（全日制）の小規模校および中学校では実施率が低めであり、小学校および中学校の小規模校で「不定期」の開催頻度が高めであることが明らかになった。100 人以下の学校では不定期開催がどちらも 2 割を占める。また、鑑賞教室を実施していない学校への設問でも、もともと実施していない 100 人以下の学校は 6 割に達し、理由として「実施したいが予算がない」としているのも 7 割と、生徒数が少なくなるほど割合が高くなっている。逆に大規模校になるほど、鑑賞教室を以前は実施していたが取り止め、理由に「授業時間との兼ね合いで難しい」をあげている。

芸術団体の関係者によると、オーケストラや演劇などの公演費用は 1 人当たり負担額に人数をかけて決められることが多く、300 人以上でないと実施が難しい現実があり、小規模校にはダイレクトメールは送っていないようだ。「鑑賞教室を実施する際に困難に感じることも」、小規模校ほど公演団体や作品に関する情報の不足と費用負担の大きさを問題と感じている。費用が見込めないため、外部からの情報も少なく、開催を考えたときに方法が見出せない、という悪循環に陥っているようだ。教育委員会や国からの支援が得られた年度に限って不定期に開催する傾向が強いものと推測される。

小学校、中学校では自校単独での鑑賞教室の開催は 5 割程度に留まり、教育委員会や他校との共同開催がそれぞれ 2 割前後、文化庁事業は 5 %を占めている。一方、高等学校では 7 割が自校単独で開催しており、学校の教育方針により自律的に運営されているものと考えられる。今回の集計では、高等学校の生徒数の最小区分を 400 人以下で区切ったため、規模による差はあまり大きくはないが、生徒数が少ないほど経済的な要因で開催できない、といった小中学校と同様の傾向があるのは明らかになった。

小学校および中学校の小規模校では、鑑賞教室の内容の決定方法、外部団体の協力、公演料の支援で教育委

員会の存在が大きい。小学校を中心とした小規模校に対する重点的な財政支援が必要であると同時に、鑑賞教室の実施ノウハウ等、ソフト面でのサポートの検討が求められる。

■ 都道府県格差

都道府県別の実施率をみると、全体で 92.8%～43.2%と大きな差がある。この要因として推測されるのは、①地域に小規模校が多いのではないか、②都道府県の政策との関連性があるのではないか、③地域の文化的特性によるものではないか、と 3 つの要因が挙げられる。ここでは、地域政策と密接な関わりのある小学校の調査結果をもとに分析を試みる。

都道府県別の生徒数ごとの鑑賞教室実施率の分布をみると、生徒数 600 人以上の大規模校では実施率が 60%から 100%となっているが、規模が小さくなるにつれ実施率 60%を切る都道府県が増えている。100 人以下の小規模校の割合が 30%以上となる都道府県は半数を占め、そのうち 4 割の都道府県において実施率 60%以下となっており、こうした小規模校の多寡が都道府県格差につながっていると考えられ、小規模校への積極的な支援が求められる。

都道府県ごとの実施率の上位 5 府県をみると、宮崎県（92.8%）、大阪府（85.2%）、山形県、長野県（84.5%）、奈良県（81.9%）となっている。大阪府を除く 4 県は鑑賞教室に対して何らかの支援を行っている割合が 100%に近く、生徒負担も全国平均を下回っている。逆に実施率の低い都道府県では、支援率も低く、都道府県ごとに他の事情によるばらつきはあれども、支援の多寡が実施率へ与える影響は大きいようだ。

地域の歴史的な背景との関係性については、『社会生活基本調査』（2006 年）の鑑賞行動者率とあわせてみると、鑑賞教室の実施率の低い 13 県においては、ライブでの演芸・演劇・舞踊鑑賞、クラシック音楽鑑賞、ポピュラー音楽鑑賞行動者率がすべて全国平均よりも低くなっている。逆に、実施率の高い府県の中で支援が少ない大阪府では、演芸・演劇・舞踊への鑑賞行動者率が高く、住民の嗜好が反映されていることがわかる。また、首都圏域にあたる埼玉県、千葉県やプロオーケストラを持つ北海道、広島県、オペラの盛んな滋賀県において当然鑑賞行動者率は高いが、今回の調査では学校における鑑賞教室の実施率は平均以下となっていた。埼玉県、千葉県、滋賀県の市町村教育委員会からの回答は「財政的支援を一切行っていない」が 4 割以上を占めており、芸術団体が存在し、芸術文化鑑賞度が高い地域でも、やはり自治体の考え方、支援の有無が大きく影響しているようだ。

■ 今後に向けて

芸術に対する教育現場の方針は様々であるが、あらゆる子どもたちが芸術文化の豊かさを体験できるようにするために、学校が果たすべき役割は大きい。芸術家の招聘は前回調査より 5.7 ポイント増加し 30.4%となったものの、今後の方針については 50.2%が未定で、謝礼と適切な人材の確保が困難なためほとんど見通しが立っていない状況だ。一方、鑑賞教室の実施率はかろうじて前回と同程度に留まっているが、最も大きな阻害要因となっているのは、小規模校では費用であり、大規模校では授業時間の確保となっている。

費用的な問題を緩和するには、地域ごとの細かい配慮が必要となるが、市区町村教育委員会の回答から「小中学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針」をみると、全体平均で「積極的に拡充させていきたい」「諸条件の許す範囲で拡充させていきたい」の合計は 45.8%、「現状維持に努めたい」の 41.2%を加えると、87%の自治体が鑑賞教室の継続を表明している。継続的、網羅的な地域への支援をより強

固にしていくために、各自治体と国との連携により、詳細な実態把握に努めるとともに、支援のあり方の改善が求められる。

今回鑑賞教室を実施していない学校は、「鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策」として実施した学校よりも「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」「公立文化施設等による地域も含めた鑑賞の機会」を多くあげており、文化施設との連携が望まれる。また、鑑賞教室への家族や地域の人々の参加も前回調査より 3.1 ポイント増えて 54.3% となっており、子育てでなかなか文化施設に足を運べない親世代や、地域のお年寄りが文化芸術に親しむ機会としての活用も期待される。こうした地域における鑑賞機会の創出や前述の小規模校、アクセスの悪い地域への具体的な支援策としては、児童生徒の学校から施設までの移動費用負担や、地域を巡回する芸術団体への支援が挙げられる。

時間がないことを理由に、特に大規模校においては学校行事の精選が進んでいるが、音楽や国語の授業の一環として催している学校も多い。成長過程にある子どもたちの感じ方、理解度にあわせて必要なものを選び、外部の人材の協力によって子どもたちの可能性を広げるといった試みの実行の難しさは、鑑賞教室のみならず、適切な人材を探すのが難しいという声の多い外部指導員の導入状況からも伺える。鑑賞教室を実施している学校では実施していない学校よりも芸術家・芸術団体から指導者を招聘している割合が高く、また実施意向の高い学校ほど今後の方針はしっかり定まっており、学校内外で芸術の有用性が認識されている、あるいは良好なネットワークが築けているように推察される。教育関係者が公演費用の助けとなるような助成制度を知り、作品選択のための芸術に対する理解を深めるために芸術関係者等のネットワークを醸成し、サポートする制度の整備など地域の現状に即した工夫が求められる。

最後に、今回の調査では、都道府県別の大まかな現状は明らかになったが、人口密度、アクセシビリティの差、要保護および準要保護児童・生徒等の要因により都道府県内でも格差があるものと推測される。また、本設問では、鑑賞教室の上演主体の詳細は尋ねておらず、実演芸術の職能団体によるものだけでなく、アマチュアグループ等のボランティアによる公演も含まれている。限られた鑑賞の機会を十二分に生かせる公演であったか、子どもたちの関心を喚起する工夫や、作品の充実度等内容面についても調査研究が必要であろう。全国津々浦々の子どもたち、ひいては地域の人々がより豊かに芸術に親しむ機会を得るための具体的な目標設定と、細やかな施策立案・実施が期待される。

Ⅱ. 調査実施概要

1. 調査目的

全国の学校現場における鑑賞教室や文化部活動の実態を把握し、「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第二次）」の重点項目「子どもの文化芸術活動の充実」にむけた具体的な施策立案の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査内容

（1）学校調査

- 鑑賞教室の実施状況
- 学校教育における鑑賞教室のあり方について
- 文化芸術関連の外部指導員の導入状況
- 文化部活動の実態

（2）教育委員会調査

- 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度について
- 主催（共催）した鑑賞教室の分野
- 鑑賞機会の確保、今後の方針について
- 外部指導員（芸術）を招聘する際の予算措置、サポートについて

3. 調査対象

（1）学校調査

全国の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の総数 39,804 校

（2）教育委員会調査

都道府県および市区町村の教育委員会の総数 1,865

4. 調査方法

郵送配布・回収調査

5. 調査期間

(1) 学校調査

平成 20 年（2008）年 1 月 14 日～3 月 4 日（※ 2 月 11 日に特別支援学校への追加発送を実施）

(2) 教育委員会調査

平成 20 年（2008）年 1 月 30 日～3 月 4 日

6. 調査票発送数及び回収数（率）

< 学校調査 >

学校区分	発送数	実回収数	有効回収数	有効回収率	
				今回調査	前回調査
小学校	22,519		11,331	50.3%	32.3%
中学校	10,880		5,724	52.6%	34.2%
高等学校	5,377		2,487	46.3%	42.9%
中等教育学校	27		22	81.5%	—
特別支援学校	1,001		639	63.8%	—
無回答	—		34	—	—
計	39,804	20,425	20,237	50.8%	34.3%

< 教育委員会調査 >

区分	発送数	回収数	回収率
都道府県	47	41	87.2%
市区町村	1,818	1,055	58.0%
計	1,865	1,096	58.8%

7. 調査実施機関

（社）日本芸能実演家団体協議会

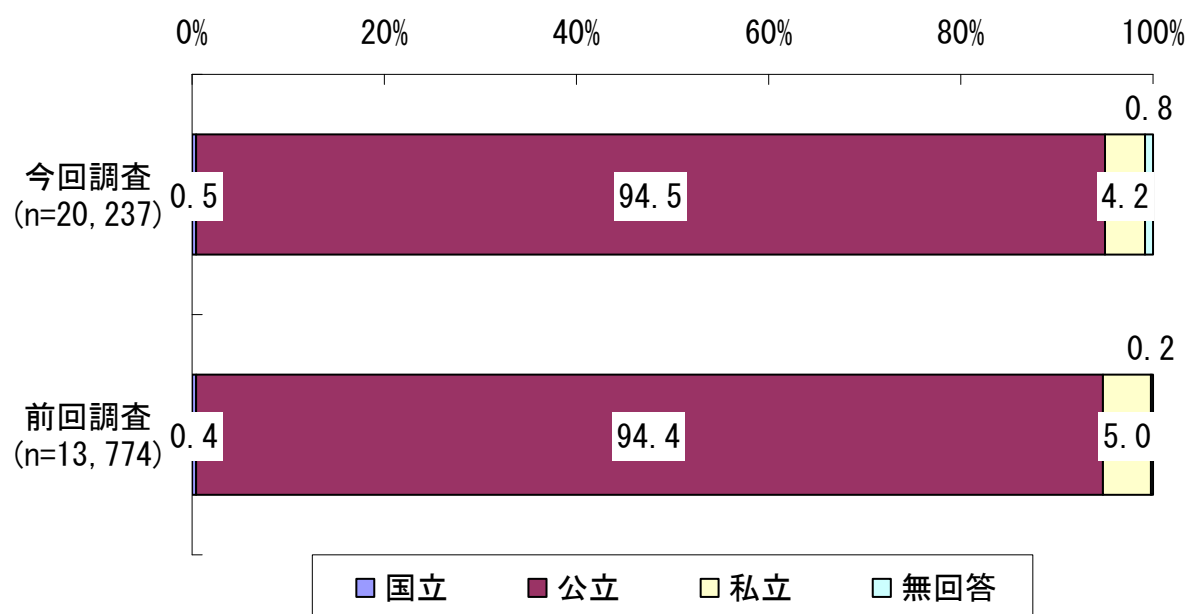
8. 回答校のプロフィール

(1) 設置者

今回のアンケートに回答した学校を設置者別でみると、「公立」が94.5%、「私立」が4.2%、「国立」が0.5%となっている。

前回調査と同様の傾向である。

図表Ⅱ—1 設置者〔学校調査〕



回答校の設置者について学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「私立」の割合が 20.1%と小学校・中学校よりも高い。

図表Ⅱ—2 設置者〔学校調査〕

<学校区分別>

		（％）			
	n	国立	公立	私立	無回答
全 体	20,237	0.5	94.5	4.2	0.8
小学校	11,331	0.3	97.9	1.0	0.9
中学校	5,724	0.5	94.7	4.3	0.5
高等学校 （全日制）	2,361	0.3	79.0	20.1	0.5
高等学校 （定時制）	274	0.0	94.5	4.4	1.1
中等教育 学校	22	4.5	72.7	22.7	0.0
特別支援 学校	639	4.2	93.4	1.1	1.3
無回答	34	2.9	38.2	2.9	55.9

回答校の設置者について都道府県別でみると、私立の割合は「東京都」が 18.9%と最も高く、「神奈川県」(10.1%)、「大阪」(9.5%)と続いている。

図表Ⅱ—3 設置者〔学校調査〕

<都道府県別>

(%)						(%)					
	n	国立	公立	私立	無回答		n	国立	公立	私立	無回答
全 体	20,237	0.5	94.5	4.2	0.8	全 体	20,237	0.5	94.5	4.2	0.8
北海道	1,226	0.4	94.5	3.4	1.6	滋賀県	232	0.4	96.1	2.6	0.9
青森県	443	0.5	95.9	1.6	2.0	京都府	315	1.0	89.8	8.3	1.0
岩手県	520	0.2	97.1	1.7	1.0	大阪府	715	0.7	89.1	9.5	0.7
宮城県	529	0.4	96.0	2.6	0.9	兵庫県	636	0.2	95.3	4.1	0.5
秋田県	352	0.3	98.9	0.3	0.6	奈良県	237	0.8	93.7	5.1	0.4
山形県	368	0.3	96.7	2.4	0.5	和歌山県	242	0.0	94.6	4.5	0.8
福島県	597	0.3	96.6	2.2	0.8	鳥取県	153	1.3	94.8	2.6	1.3
茨城県	529	0.2	96.6	2.5	0.8	島根県	245	0.4	98.4	1.2	0.0
栃木県	447	0.2	97.3	1.6	0.9	岡山県	432	0.5	95.4	3.9	0.2
群馬県	379	0.3	97.4	1.3	1.1	広島県	514	0.2	94.0	4.7	1.2
埼玉県	528	0.4	93.8	5.1	0.8	山口県	345	0.6	95.9	2.9	0.6
千葉県	805	0.2	95.8	3.7	0.2	徳島県	220	0.5	97.3	1.4	0.9
東京都	838	1.0	79.2	18.9	1.0	香川県	218	1.8	97.2	0.9	0.0
神奈川県	686	0.4	88.6	10.1	0.9	愛媛県	340	0.9	95.6	2.6	0.9
新潟県	581	0.5	97.6	1.5	0.3	高知県	220	0.5	97.3	0.0	2.3
富山県	241	0.8	96.3	2.9	0.0	福岡県	581	0.7	93.6	5.3	0.3
石川県	258	0.8	95.3	2.7	1.2	佐賀県	207	1.0	95.7	2.4	1.0
福井県	199	1.0	98.5	0.0	0.5	長崎県	385	0.0	95.3	4.2	0.5
山梨県	230	0.9	96.5	1.7	0.9	熊本県	356	0.3	96.9	2.0	0.8
長野県	420	1.0	95.2	3.1	0.7	大分県	275	0.7	96.4	2.5	0.4
岐阜県	425	0.5	95.3	2.8	1.4	宮崎県	277	0.7	96.0	2.9	0.4
静岡県	604	0.2	94.0	5.5	0.3	鹿児島県	429	0.2	95.8	2.8	1.2
愛知県	827	0.2	94.6	4.7	0.5	沖縄県	240	0.4	95.4	2.5	1.7
三重県	390	0.5	94.9	3.3	1.3	不 明	1	0.0	100.0	0.0	0.0

(2) 学校の所在地

回答校の所在地について都道府県別でみると、「北海道」が 6.1%と最も高く、「東京都」「愛知県」(4.1%)、千葉(4.0%)と続いている。

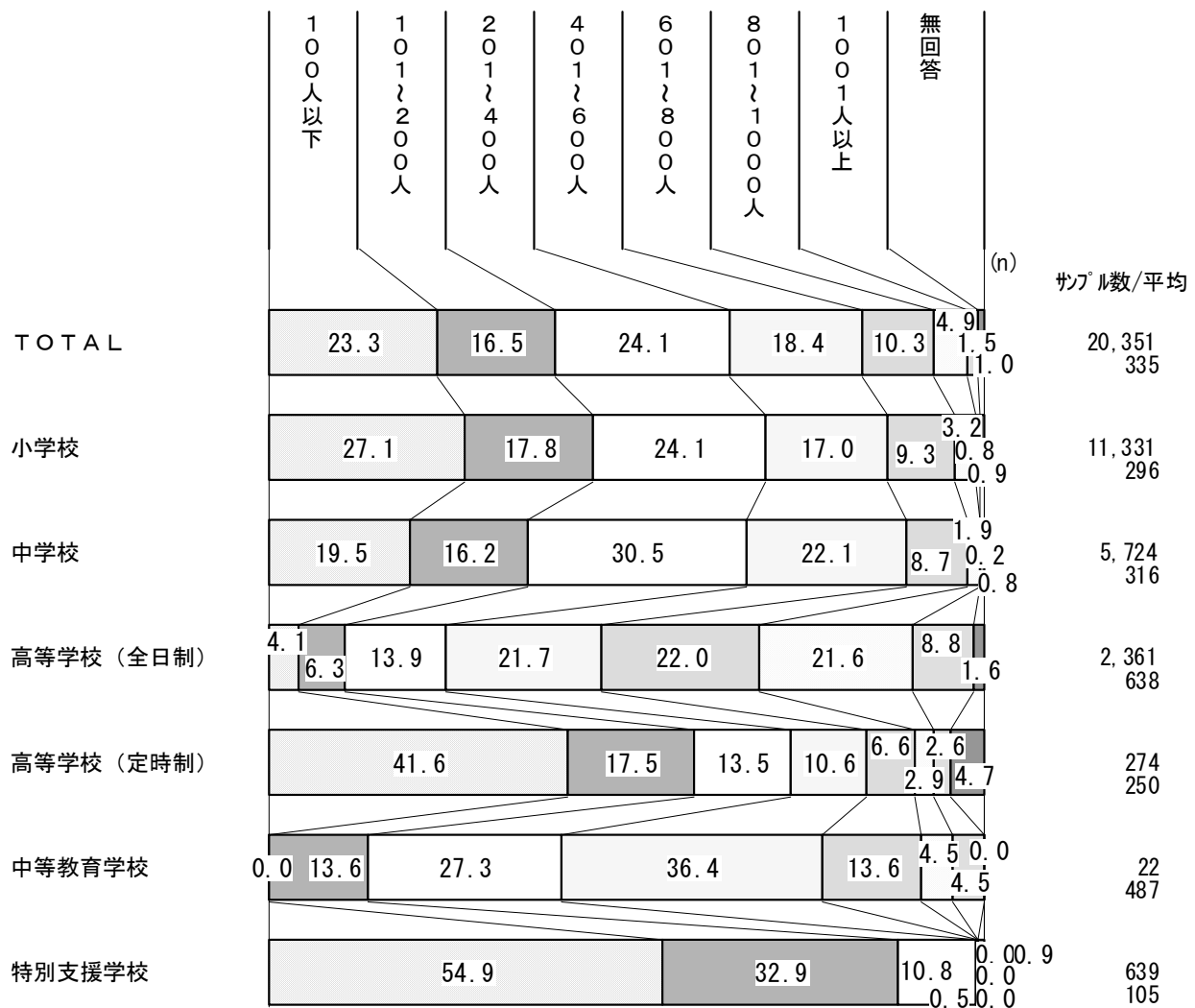
図表Ⅱ—4 学校の所在地〔学校調査〕

都道府県	発送数	回収数 (n)	今回調査 (n=20,237)	前回調査 (n=13,774)	都道府県	発送数	回収数	今回調査 (n=20,237)	前回調査 (n=13,774)
北海道	2,451	1,226	6.1	6.4	滋賀県	410	232	1.1	1.2
青森県	665	443	2.2	2.6	京都府	776	315	1.6	1.3
岩手県	748	520	2.6	2.3	大阪府	1,898	715	3.5	3.3
宮城県	829	529	2.6	2.6	兵庫県	1,489	636	3.1	3.0
秋田県	504	352	1.7	1.9	奈良県	416	237	1.2	1.2
山形県	543	368	1.8	1.5	和歌山県	505	242	1.2	1.1
福島県	927	597	3.0	2.7	鳥取県	267	153	0.8	0.8
茨城県	982	529	2.6	2.5	島根県	438	245	1.2	1.4
栃木県	703	447	2.2	2.5	岡山県	718	432	2.1	2.3
群馬県	645	379	1.9	1.8	広島県	1,019	514	2.5	2.3
埼玉県	1,517	528	2.6	2.4	山口県	621	345	1.7	1.5
千葉県	1,506	805	4.0	3.7	徳島県	372	220	1.1	0.7
東京都	2,728	838	4.1	4.0	香川県	327	218	1.1	1.0
神奈川県	1,674	686	3.4	3.2	愛媛県	604	340	1.7	1.7
新潟県	974	581	2.9	3.2	高知県	456	220	1.1	1.0
富山県	362	241	1.2	1.4	福岡県	1,379	581	2.9	2.5
石川県	419	258	1.3	1.3	佐賀県	346	207	1.0	1.2
福井県	351	199	1.0	1.2	長崎県	717	385	1.9	1.6
山梨県	371	230	1.1	1.1	熊本県	743	356	1.8	1.9
長野県	727	420	2.1	2.3	大分県	573	275	1.4	1.3
岐阜県	694	425	2.1	2.4	宮崎県	495	277	1.4	1.5
静岡県	1,012	604	3.0	3.1	鹿児島県	994	429	2.1	2.3
愛知県	1,687	827	4.1	4.3	沖縄県	528	240	1.2	1.4
三重県	694	390	1.9	1.9	不 明	—	1	0.0	0.3

(3) 児童・生徒数

回答校の児童・生徒数の平均人数は、「小学校」で 296 人、「中学校」で 316 人、「高等学校（全日制）」で 638 人となっている。

図表Ⅱ—5 児童・生徒数〔学校調査〕



小学校の児童・生徒数の平均人数は、「神奈川県」が 529 人と最も多く、「大阪府」(458 人)、「埼玉県」(452 人)と続いている。

図表Ⅱ—6 児童・生徒数〔学校調査：小学校〕

<都道府県別>

		(%)						平均
n		1 0 0 人 以 下	1 0 1 5 2 0 0 人	2 0 1 5 4 0 0 人	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 人 以 上	無 回 答	
合 計	11,331	27.1	17.8	24.1	17.0	13.2	0.9	296
北海道	627	41.9	14.2	22.8	13.7	6.1	1.3	213
青森県	250	36.4	22.0	20.8	10.8	8.0	2.0	229
岩手県	317	50.8	20.2	17.0	6.3	5.4	0.3	173
宮城県	302	28.5	21.9	25.2	13.9	9.9	0.7	265
秋田県	199	37.2	29.6	17.6	9.5	5.5	0.5	200
山形県	225	40.9	24.9	19.6	11.1	2.2	1.3	186
福島県	367	35.4	24.5	18.3	15.0	6.5	0.3	228
茨城県	323	15.5	26.3	30.7	15.2	11.8	0.6	298
栃木県	283	26.5	22.3	28.6	11.7	10.6	0.4	272
群馬県	212	18.9	15.6	27.4	26.9	9.9	1.4	324
埼玉県	249	5.2	11.2	30.5	24.9	26.9	1.2	452
千葉県	450	17.3	15.8	28.4	18.4	18.4	1.6	360
東京都	372	3.5	10.5	33.9	33.3	15.3	3.5	413
神奈川県	339	2.9	5.3	20.6	33.9	36.3	0.9	529
新潟県	347	34.9	23.1	22.8	11.0	7.8	0.6	229
富山県	134	17.9	17.2	30.6	20.1	13.4	0.7	321
石川県	138	21.0	23.2	26.1	21.0	8.0	0.7	283
福井県	128	33.6	20.3	25.0	18.0	3.1	0.0	229
山梨県	138	27.5	18.8	30.4	18.1	5.1	0.0	252
長野県	228	18.0	18.9	25.0	20.2	16.7	1.3	335
岐阜県	247	20.6	22.7	23.5	20.2	13.0	0.0	312
静岡県	318	15.1	13.8	24.5	17.9	26.7	1.9	406
愛知県	441	9.1	8.6	29.0	25.2	27.4	0.7	449
三重県	242	24.4	25.2	26.4	14.9	8.7	0.4	260

		(%)						
	n	1 0 0 人 以 下	1 0 1 5 2 0 0 人	2 0 1 5 4 0 0 人	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 人 以 上	無 回 答	平 均
合 計	11, 331	27. 1	17. 8	24. 1	17. 0	13. 2	0. 9	296
滋賀県	132	7. 6	24. 2	31. 8	19. 7	16. 7	0. 0	361
京都府	168	27. 4	14. 9	28. 0	17. 3	12. 5	0. 0	301
大阪府	384	2. 6	8. 9	31. 0	30. 2	25. 8	1. 6	458
兵庫県	358	17. 9	17. 0	29. 6	14. 5	20. 7	0. 3	369
奈良県	127	17. 3	14. 2	31. 5	27. 6	9. 4	0. 0	329
和歌山県	137	39. 4	23. 4	22. 6	12. 4	2. 2	0. 0	193
鳥取県	88	34. 1	18. 2	25. 0	18. 2	3. 4	1. 1	223
島根県	150	51. 3	18. 0	19. 3	8. 7	2. 7	0. 0	167
岡山県	262	35. 9	22. 1	19. 5	11. 5	10. 3	0. 8	248
広島県	304	34. 9	18. 1	17. 1	13. 8	16. 1	0. 0	286
山口県	199	41. 7	15. 6	13. 6	18. 1	11. 1	0. 0	252
徳島県	129	39. 5	29. 5	19. 4	6. 2	5. 4	0. 0	181
香川県	135	19. 3	17. 8	31. 1	16. 3	13. 3	2. 2	309
愛媛県	213	39. 9	16. 9	18. 3	9. 9	14. 6	0. 5	257
高知県	130	61. 5	12. 3	11. 5	9. 2	4. 6	0. 8	155
福岡県	311	14. 5	19. 9	31. 2	19. 0	15. 4	0. 0	341
佐賀県	121	19. 0	22. 3	24. 8	21. 5	12. 4	0. 0	311
長崎県	211	42. 7	20. 4	19. 0	10. 9	6. 6	0. 5	211
熊本県	207	36. 7	21. 3	24. 2	7. 2	9. 7	1. 0	233
大分県	161	47. 2	19. 3	16. 8	11. 2	5. 0	0. 6	192
宮崎県	160	40. 6	11. 9	20. 0	15. 0	11. 9	0. 6	258
鹿児島県	243	61. 7	11. 9	7. 8	10. 7	5. 8	2. 1	161
沖縄県	124	31. 5	10. 5	16. 9	16. 9	22. 6	1. 6	348
不 明	1	0. 0	0. 0	0. 0	100. 0	0. 0	0. 0	512

中学校の児童・生徒数の平均人数は、「愛知県」が 479 人と最も多く、「神奈川県」(474 人)、「大阪府」(431 人)と続いている。

図表Ⅱ—7 児童・生徒数〔学校調査：中学校〕

<都道府県別>

		(%)						平均
n		1 0 0 人 以 下	1 0 1 5 2 0 0 人	2 0 1 5 4 0 0 人	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 人 以 上	無 回 答	
合 計	5,724	19.5	16.2	30.5	22.1	10.9	0.8	316
北海道	367	38.4	21.3	21.8	14.2	3.8	0.5	210
青森県	126	34.9	19.0	22.2	15.9	7.1	0.8	244
岩手県	140	36.4	23.6	20.7	15.0	4.3	0.0	218
宮城県	150	18.0	19.3	39.3	17.3	6.0	0.0	278
秋田県	102	20.6	37.3	26.5	12.7	2.9	0.0	232
山形県	87	20.7	20.7	33.3	17.2	8.0	0.0	282
福島県	158	26.6	20.3	27.2	16.5	7.6	1.9	260
茨城県	132	3.0	9.8	43.2	33.3	9.8	0.8	380
栃木県	115	13.9	14.8	38.3	20.9	11.3	0.9	333
群馬県	110	10.9	19.1	31.8	28.2	8.2	1.8	329
埼玉県	176	5.1	9.1	39.2	29.5	16.5	0.6	398
千葉県	233	4.7	11.6	41.2	25.3	16.3	0.9	393
東京都	290	9.3	11.0	39.3	28.3	11.7	0.3	364
神奈川県	203	3.9	5.4	29.1	37.4	23.2	1.0	474
新潟県	153	15.7	22.9	38.6	17.0	5.9	0.0	279
富山県	58	12.1	15.5	41.4	13.8	17.2	0.0	347
石川県	72	20.8	15.3	25.0	25.0	12.5	1.4	325
福井県	51	23.5	17.6	25.5	23.5	9.8	0.0	306
山梨県	66	24.2	18.2	22.7	25.8	7.6	1.5	293
長野県	120	15.8	13.3	32.5	24.2	12.5	1.7	336
岐阜県	118	19.5	16.9	29.7	25.4	8.5	0.0	309
静岡県	181	6.6	14.4	33.1	29.8	14.9	1.1	379
愛知県	229	2.2	7.0	27.5	35.4	27.5	0.4	479
三重県	105	18.1	20.0	31.4	22.9	7.6	0.0	298

		(%)						
	n	1 0 0 人 以 下	1 0 1 5 2 0 0 人	2 0 1 5 4 0 0 人	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 人 以 上	無 回 答	平均
合 計	5,724	19.5	16.2	30.5	22.1	10.9	0.8	316
滋賀県	61	4.9	9.8	41.0	19.7	24.6	0.0	407
京都府	90	13.3	17.8	32.2	20.0	16.7	0.0	349
大阪府	182	3.3	7.1	34.1	39.0	15.4	1.1	431
兵庫県	157	7.6	15.9	34.4	29.3	12.1	0.6	368
奈良県	78	24.4	7.7	24.4	32.1	10.3	1.3	349
和歌山県	74	36.5	12.2	32.4	10.8	8.1	0.0	247
鳥取県	35	5.7	28.6	51.4	8.6	5.7	0.0	288
島根県	64	46.9	26.6	10.9	10.9	3.1	1.6	182
岡山県	116	19.0	22.4	22.4	24.1	9.5	2.6	310
広島県	151	25.2	17.9	29.1	19.2	8.6	0.0	288
山口県	97	37.1	15.5	30.9	11.3	5.2	0.0	225
徳島県	69	33.3	21.7	23.2	13.0	7.2	1.4	234
香川県	53	15.1	18.9	26.4	22.6	17.0	0.0	352
愛媛県	80	32.5	16.3	25.0	20.0	5.0	1.3	257
高知県	68	58.8	13.2	20.6	5.9	0.0	1.5	136
福岡県	173	5.8	11.6	40.5	24.3	16.8	1.2	384
佐賀県	60	23.3	23.3	30.0	15.0	6.7	1.7	250
長崎県	121	35.5	22.3	21.5	14.0	6.6	0.0	229
熊本県	98	21.4	26.5	27.6	9.2	11.2	4.1	289
大分県	76	39.5	18.4	23.7	14.5	3.9	0.0	219
宮崎県	83	37.3	15.7	25.3	18.1	3.6	0.0	227
鹿児島県	127	46.5	22.0	17.3	7.9	6.3	0.0	187
沖縄県	69	31.9	8.7	17.4	21.7	15.9	4.3	317
不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0

高等学校（全日制）の児童・生徒数の平均人数は、「愛知県」が 819 人と最も多く、「大阪府」（813 人）、「埼玉県」（792 人）と続いている。

図表Ⅱ—8 児童・生徒数〔学校調査：高等学校〕

<都道府県別>

		(%)						
	n	4 0 0 人 以 下	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 5 8 0 0 人	1 8 0 0 0 1 0 5 人	1 0 0 0 1 人 以 上	無 回 答	平 均
合 計	2,361	24.2	21.7	22.0	21.6	8.8	1.6	638
北海道	180	48.9	17.2	13.3	15.0	5.0	0.6	462
青森県	45	37.8	26.7	20.0	11.1	0.0	4.4	471
岩手県	46	45.7	17.4	21.7	13.0	0.0	2.2	470
宮城県	61	21.3	29.5	18.0	23.0	6.6	1.6	613
秋田県	35	40.0	40.0	11.4	8.6	0.0	0.0	456
山形県	44	31.8	29.5	22.7	13.6	2.3	0.0	532
福島県	52	25.0	15.4	21.2	30.8	3.8	3.8	645
茨城県	53	26.4	18.9	17.0	26.4	7.5	3.8	659
栃木県	35	11.4	37.1	22.9	25.7	2.9	0.0	665
群馬県	42	26.2	16.7	31.0	19.0	4.8	2.4	615
埼玉県	82	15.9	14.6	28.0	22.0	19.5	0.0	792
千葉県	92	19.6	28.3	15.2	26.1	7.6	3.3	656
東京都	131	16.8	25.2	28.2	14.5	13.7	1.5	692
神奈川県	109	7.3	19.3	50.5	14.7	8.3	0.0	726
新潟県	53	28.3	17.0	22.6	22.6	9.4	0.0	636
富山県	34	26.5	44.1	14.7	11.8	2.9	0.0	552
石川県	35	37.1	22.9	17.1	11.4	11.4	0.0	578
福井県	10	20.0	50.0	10.0	10.0	10.0	0.0	1,114
山梨県	16	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5	583
長野県	56	32.1	28.6	10.7	23.2	3.6	1.8	547
岐阜県	47	6.4	21.3	23.4	38.3	8.5	2.1	741
静岡県	81	19.8	14.8	33.3	19.8	11.1	1.2	678
愛知県	127	7.9	12.6	26.0	28.3	19.7	5.5	819
三重県	25	24.0	28.0	12.0	20.0	16.0	0.0	680

		(%)						
	n	4 0 0 人 以 下	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 5 8 0 0 人	1 8 0 0 0 1 0 5 人	1 0 0 0 1 人 以 上	無 回 答	平 均
合 計	2,361	24.2	21.7	22.0	21.6	8.8	1.6	638
滋賀県	29	6.9	34.5	27.6	20.7	10.3	0.0	694
京都府	43	11.6	20.9	25.6	18.6	23.3	0.0	746
大阪府	117	6.8	11.1	28.2	43.6	8.5	1.7	813
兵庫県	93	14.0	18.3	26.9	35.5	3.2	2.2	685
奈良県	25	8.0	8.0	32.0	20.0	32.0	0.0	835
和歌山県	21	19.0	14.3	14.3	42.9	9.5	0.0	724
鳥取県	21	23.8	19.0	28.6	23.8	4.8	0.0	638
島根県	21	38.1	33.3	19.0	0.0	0.0	9.5	424
岡山県	40	17.5	30.0	12.5	35.0	5.0	0.0	670
広島県	47	46.8	17.0	14.9	19.1	0.0	2.1	459
山口県	37	48.6	35.1	8.1	8.1	0.0	0.0	396
徳島県	19	47.4	26.3	26.3	0.0	0.0	0.0	401
香川県	20	25.0	25.0	15.0	25.0	5.0	5.0	597
愛媛県	35	45.7	14.3	5.7	11.4	22.9	0.0	598
高知県	13	69.2	15.4	0.0	15.4	0.0	0.0	325
福岡県	73	11.0	21.9	26.0	21.9	19.2	0.0	747
佐賀県	19	15.8	36.8	15.8	26.3	0.0	5.3	608
長崎県	39	33.3	20.5	10.3	33.3	2.6	0.0	555
熊本県	32	28.1	28.1	9.4	12.5	21.9	0.0	616
大分県	28	32.1	35.7	14.3	14.3	3.6	0.0	515
宮崎県	21	33.3	19.0	23.8	14.3	9.5	0.0	600
鹿児島県	45	40.0	28.9	8.9	15.6	6.7	0.0	508
沖縄県	32	18.8	9.4	34.4	21.9	12.5	3.1	724
不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0

Ⅲ. 学校調査の調査結果

1. 鑑賞教室の実施状況

(1) 平成 19 年度の鑑賞教室の実施状況

【学校調査：問 1 <学校ベース>】

貴校では今年度（平成 19 年度）、舞台芸術の鑑賞教室を実施しましたか。または実施する予定ですか。

平成 19 年の鑑賞教室の実施率は 68.9%であり、上演された作品数については「1 作品」は全体の 54.5%、「2 作品」は 12.3%、「3 作品以上」は 1.7%となっている。

前回調査と比較すると、「1 作品」の割合が若干減少傾向にある。

学校区分別でみると、「小学校」（75.4%）、「中学校」（55.3%）、「高等学校（全日制）」（73.1%）と、小学校・高等学校（全日制）では約 3/4 の実施となっているが、中学校では半分程度の実施となっている。

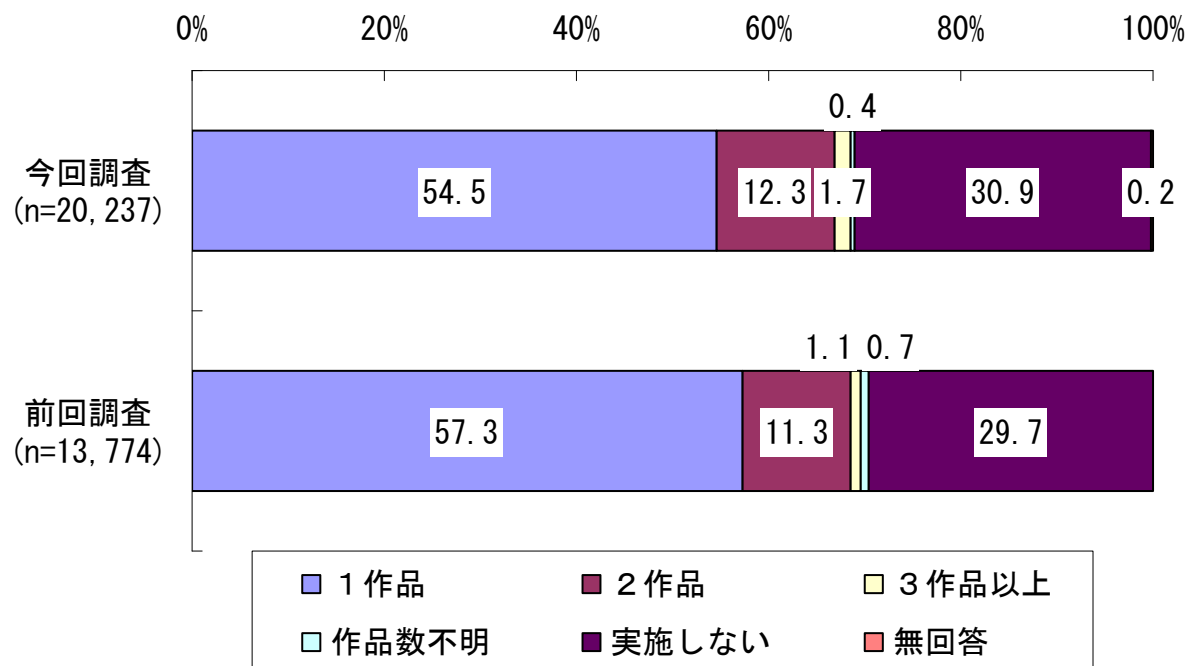
生徒数別でみると、小学校、高等学校（全日制）は人数が多くなるほど実施する割合が高くなる傾向にあり、中学校は人数に関係なく約 5 割強の実施となっている。

都道府県別でみると、「宮崎県」が 92.8%と最も実施している割合が高く、「大阪府」（85.2%）、「山形県」「長野県」（84.5%）と続いている。

部活動の有無でみると、特に違いは見られなかった。

小学校における都道府県別の生徒数ごとの鑑賞教室実施率の分布をみると、生徒数 600 人以上の大規模校では実施率が 60%から 100%となっているが、規模が小さくなるにつれ実施率 60%を切る都道府県が増えている。100 人以下の小規模校の割合が 30%以上となる都道府県は半数を占め、そのうち 4 割の都道府県において実施率 60%以下となっている。

図表Ⅲ—1 平成19年度の鑑賞教室の実施状況＜上演作品数で細分＞



図表Ⅲ—２ 平成１９年度の鑑賞教室の実施状況

<学校区分別・生徒数別>

		(%)			
		n	(実施した る予定)	実施しない	無回答
全 体		20,237	68.9	30.9	0.2
区 分	小学校	11,331	75.4	24.4	0.2
	中学校	5,724	55.3	44.6	0.1
	高等学校 (全日制)	2,361	73.1	26.7	0.2
	高等学校 (定時制)	274	59.5	40.5	0.0
	中等教育学校	22	68.2	31.8	0.0
	特別支援学校	639	64.2	35.4	0.5
小学校	100人以下	3,072	65.3	34.5	0.2
	101～200人	2,016	74.0	25.6	0.3
	201～400人	2,727	79.1	20.8	0.1
	401～600人	1,927	81.3	18.7	0.1
	601人以上	1,492	83.8	16.0	0.3
中学校	100人以下	1,117	54.4	45.4	0.2
	101～200人	929	58.8	41.0	0.2
	201～400人	1,744	54.2	45.7	0.1
	401～600人	1,267	53.4	46.6	0.1
	601人以上	623	57.8	42.1	0.2
高等学校 (全日制)	400人以下	572	58.2	41.6	0.2
	401～600人	513	74.9	25.0	0.2
	601～800人	520	79.4	20.4	0.2
	801 ～1000人	511	77.3	22.5	0.2
	1001人以上	208	87.5	12.5	0.0

図表Ⅲ—３ 平成１９年度の鑑賞教室の実施状況

<都道府県別>

（％）

（％）

	n	（実施した 実施する予定）	実施しない	無回答
全 体	20,237	68.9	30.9	0.2
北海道	1,226	60.3	39.4	0.3
青森県	443	73.6	26.2	0.2
岩手県	520	81.7	18.3	0.0
宮城県	529	71.6	28.2	0.2
秋田県	352	74.4	25.6	0.0
山形県	368	84.5	15.5	0.0
福島県	597	79.4	20.3	0.3
茨城県	529	57.1	42.7	0.2
栃木県	447	79.4	20.1	0.4
群馬県	379	57.3	42.5	0.3
埼玉県	528	64.2	35.6	0.2
千葉県	805	62.6	37.3	0.1
東京都	838	67.7	32.0	0.4
神奈川県	686	67.8	32.2	0.0
新潟県	581	60.1	39.8	0.2
富山県	241	73.0	26.6	0.4
石川県	258	67.4	32.6	0.0
福井県	199	64.8	35.2	0.0
山梨県	230	80.4	19.6	0.0
長野県	420	84.5	15.5	0.0
岐阜県	425	74.4	25.4	0.2
静岡県	604	80.0	19.9	0.2
愛知県	827	77.0	22.7	0.2
三重県	390	62.8	36.9	0.3

	n	（実施した 実施する予定）	実施しない	無回答
全 体	20,237	68.9	30.9	0.2
滋賀県	232	62.1	37.9	0.0
京都府	315	70.8	29.2	0.0
大阪府	715	85.2	14.7	0.1
兵庫県	636	70.4	29.4	0.2
奈良県	237	81.9	17.7	0.4
和歌山県	242	59.9	40.1	0.0
鳥取県	153	62.7	36.6	0.7
島根県	245	58.8	41.2	0.0
岡山県	432	76.4	23.4	0.2
広島県	514	65.6	34.4	0.0
山口県	345	56.8	42.9	0.3
徳島県	220	43.2	56.8	0.0
香川県	218	55.5	44.5	0.0
愛媛県	340	55.3	44.7	0.0
高知県	220	50.9	48.6	0.5
福岡県	581	75.9	24.1	0.0
佐賀県	207	57.5	42.5	0.0
長崎県	385	56.9	42.9	0.3
熊本県	356	67.7	32.3	0.0
大分県	275	50.5	49.5	0.0
宮崎県	277	92.8	6.5	0.7
鹿児島県	429	58.7	41.0	0.2
沖縄県	240	74.6	25.4	0.0
不 明	1	0.0	100.0	0.0

図表Ⅲ—4 平成１９年度の鑑賞教室の実施状況
 ＜パフォーミングアーツ系の文化部活動の有無別＞

(%)

			問 1		
		n	(実施した 実施する 予定)	実施しない	無回答
全 体		20, 237	68. 9	30. 9	0. 2
問 20 1	パフォーミングアーツ系の 文化部活動有	11, 340	68. 5	31. 4	0. 1
	パフォーミングアーツ系の 文化部活動無	2, 472	69. 9	30. 0	0. 1
	文化部活動自体無	6, 425	69. 3	30. 4	0. 3

図表Ⅲ—５ 小学校における児童数の分布と平成１９年度の鑑賞教室の実施率

<都道府県別>

(%)

都道府県	n	児童数の分布					実施率				
		1 0 0 人 以下	1 0 1 ～ 2 0 0 人	2 0 1 ～ 4 0 0 人	4 0 1 ～ 6 0 0 人	6 0 1 ～ 8 0 0 人	1 0 0 人 以下	1 0 1 ～ 2 0 0 人	2 0 1 ～ 4 0 0 人	4 0 1 ～ 6 0 0 人	6 0 1 ～ 8 0 0 人
北海道	1,353	45.0	12.6	19.9	15.9	6.7	71.1	69.7	72.7	72.1	60.5
青森県	379	40.6	19.0	21.4	11.9	7.2	56.0	78.2	90.4	96.3	90.0
岩手県	436	51.6	19.0	16.7	6.4	6.2	79.5	87.5	81.5	80.0	88.2
宮城県	464	28.4	19.0	23.5	16.2	12.9	74.4	71.2	82.9	83.3	73.3
秋田県	290	37.6	27.9	20.3	7.6	6.5	74.3	84.7	97.1	84.2	81.8
山形県	338	42.9	23.7	17.2	9.8	6.5	83.7	89.3	77.3	80.0	100.0
福島県	544	37.5	23.2	17.3	15.3	6.8	80.8	92.2	94.0	98.2	100.0
茨城県	580	16.0	26.4	29.0	18.3	10.3	54.0	58.8	65.7	63.3	71.1
栃木県	421	29.5	20.0	25.7	15.2	9.8	86.7	88.9	91.4	93.9	90.0
群馬県	347	15.9	14.7	30.3	25.6	13.6	55.0	72.7	62.1	61.4	76.2
埼玉県	827	3.7	9.9	26.6	28.2	31.5	46.2	85.7	78.9	72.6	67.2
千葉県	863	12.6	16.1	29.1	19.1	23.1	57.7	73.2	69.5	74.7	79.5
東京都	1,387	2.9	9.4	36.1	34.2	17.4	69.2	64.1	69.0	73.4	82.5
神奈川県	900	2.6	5.0	19.6	34.9	37.9	70.0	66.7	75.7	79.1	83.7
新潟県	576	34.2	22.0	23.8	11.8	8.0	49.6	61.3	70.9	81.6	77.8
富山県	207	20.8	16.9	32.9	18.4	11.1	62.5	78.3	85.4	85.2	88.9
石川県	236	25.4	21.2	22.9	19.1	11.4	41.4	53.1	72.2	55.2	90.9
福井県	214	32.2	20.6	25.7	16.8	4.7	65.1	69.2	75.0	78.3	25.0
山梨県	211	29.4	20.4	28.0	15.6	6.6	76.3	92.3	92.9	84.0	85.7
長野県	400	22.0	19.0	26.3	15.8	17.1	73.2	88.4	86.0	87.0	92.1
岐阜県	393	19.1	22.1	23.9	20.9	14.0	82.4	78.6	89.7	98.0	90.6
静岡県	544	17.5	13.6	23.3	18.8	26.9	79.2	86.4	92.3	93.0	95.3
愛知県	985	8.6	9.0	28.6	28.1	25.5	82.5	84.2	86.7	86.5	86.0
三重県	420	26.0	23.1	26.4	16.4	8.1	62.7	65.6	76.6	83.3	81.0

(%)

都道府県	n	児童数の分布					実施率				
		1 0 0 人 以下	1 0 1 5 2 0 0 人	2 0 1 5 4 0 0 人	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 5 8 0 0 人	1 0 0 人 以下	1 0 1 5 2 0 0 人	2 0 1 5 4 0 0 人	4 0 1 5 6 0 0 人	6 0 1 5 8 0 0 人
滋賀県	233	10.7	21.0	28.8	19.7	19.8	60.0	59.4	81.0	80.8	63.6
京都府	441	22.2	13.8	30.4	20.4	13.2	50.0	80.0	80.9	79.3	90.5
大阪府	1,047	2.9	6.1	30.5	31.9	28.6	80.0	79.4	90.8	94.8	94.9
兵庫県	829	14.8	15.9	27.6	18.8	22.8	50.0	65.6	63.2	80.8	75.7
奈良県	225	16.9	11.6	30.7	23.6	17.3	81.8	94.4	95.0	82.9	100.0
和歌山県	294	41.8	18.7	22.1	13.6	3.8	50.0	75.0	71.0	76.5	66.7
鳥取県	162	32.1	20.4	30.2	13.6	2.5	66.7	68.8	72.7	68.8	100.0
島根県	263	58.2	16.0	14.8	7.2	3.8	53.2	70.4	82.8	84.6	100.0
岡山県	432	34.3	22.5	21.5	8.8	12.9	81.9	84.5	92.2	93.3	88.9
広島県	585	34.9	16.9	19.3	14.7	14.2	64.2	78.2	80.8	90.5	89.8
山口県	337	43.6	14.5	15.4	15.4	11.0	65.1	45.2	59.3	77.8	95.5
徳島県	225	39.1	26.7	19.1	9.3	5.7	45.1	50.0	68.0	75.0	100.0
香川県	193	18.1	23.8	29.5	16.6	11.9	42.3	54.2	71.4	68.2	72.2
愛媛県	362	47.8	14.6	16.9	8.6	12.1	48.2	61.1	82.1	66.7	77.4
高知県	261	60.5	12.6	13.0	8.8	4.9	57.5	75.0	86.7	58.3	66.7
福岡県	779	13.5	15.8	30.2	23.2	17.3	82.2	79.0	84.5	86.4	91.7
佐賀県	192	26.6	19.3	24.0	20.8	9.3	56.5	70.4	53.3	65.4	60.0
長崎県	403	39.7	19.4	23.1	9.9	8.0	52.2	55.8	70.0	60.9	78.6
熊本県	448	37.5	21.4	20.3	10.5	10.3	61.8	77.3	88.0	73.3	75.0
大分県	339	47.8	19.2	15.0	10.6	7.4	61.8	54.8	51.9	88.9	62.5
宮崎県	275	41.5	14.2	16.7	16.0	11.6	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0
鹿児島県	596	60.4	12.9	10.6	9.2	6.8	40.7	65.5	57.9	92.3	92.9
沖縄県	283	31.8	11.7	11.3	19.4	25.8	69.2	76.9	90.5	100.0	92.9

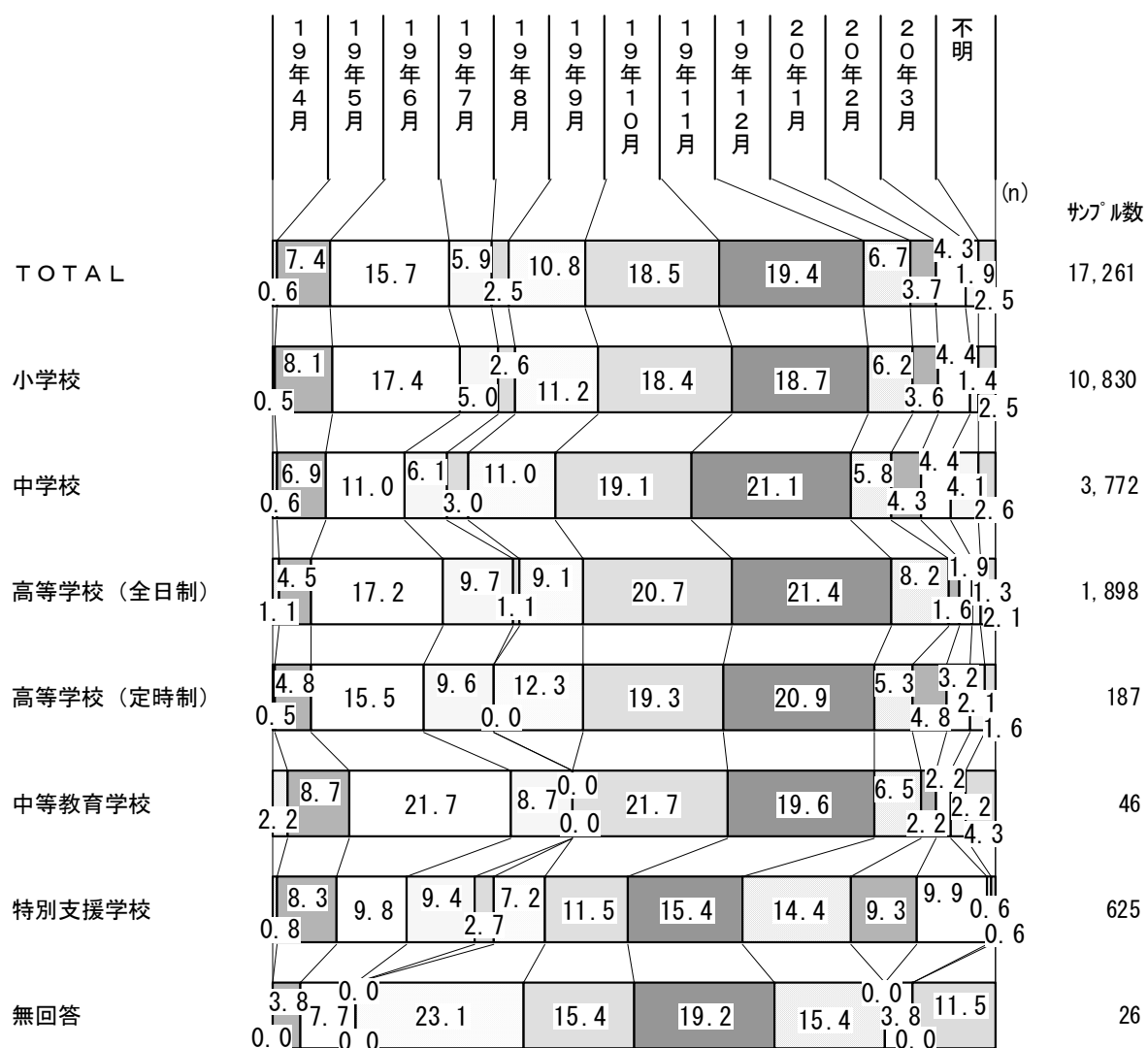
(2) 実施（予定）月

【学校調査：問2（1）＜鑑賞教室ベース＞】〔問1で「1実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
実施日・実施予定日

実施（予定）月では、「19年11月」が19.4%と最も高く、「19年10月」（18.5%）、「19年6月」（15.7%）と続いている。

学校区分別でみると、中学校の「19年6月」の割合が11.0%と、「小学校」（17.4%）、「高等学校（全日制）」（17.2%）よりも低くなっている。

図表Ⅲ—6 実施（予定）月



（３）作品の種類

【学校調査：問２（２－１）＜鑑賞教室ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
作品の種類（複数回答）

作品の種類では、「現代演劇」が 24.8%と最も高く、「室内楽」（12.7%）、「ミュージカル」（10.2%）と続いている。

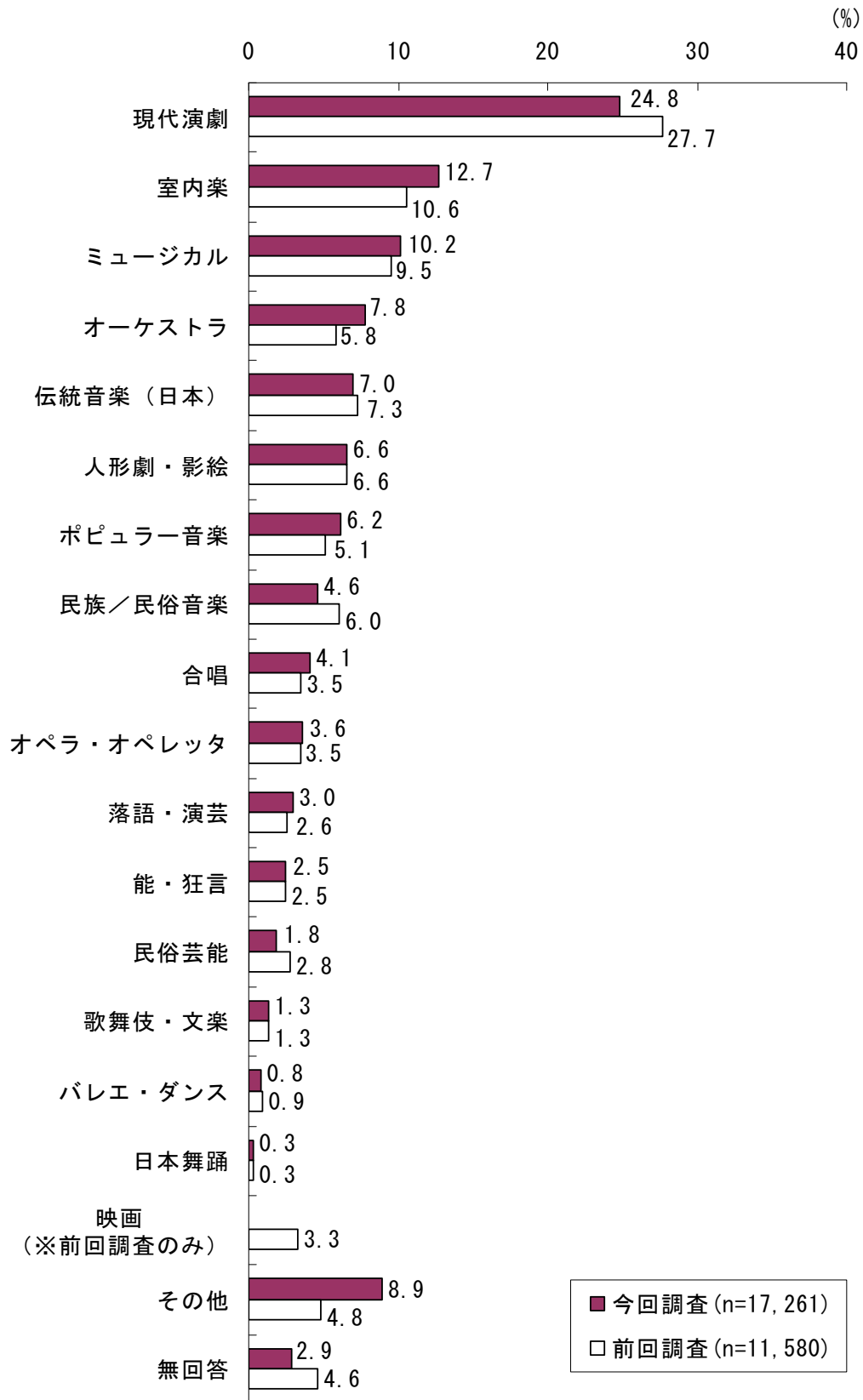
前回調査の結果と比較すると、「室内楽」「オーケストラ」の割合が若干高くなり、「現代演劇」では若干低くなっている。

学校区分別でみると、「室内楽」は高等学校（全日制）、中学校、小学校と学年が低くなるほど割合が高くなり、「落語・演芸」「歌舞伎・文楽」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。

小学校は「人形劇・影絵」の割合が 9.5%で、中学校、高等学校（全日制）よりも高くなっており、「能・狂言」の割合が 1.4%で、中学校、高等学校（全日制）よりも低くなっている。

中学校は「オーケストラ」の割合が 11.2%、「伝統音楽（日本）」の割合が 9.0%で、いずれも小学校、高等学校（全日制）よりも高くなっている。

図表Ⅲ—7 作品の種類(複数回答)



図表Ⅲ—8 作品の種類(複数回答)

<学校区分別>

(%)

	n	現代演劇	室内楽	ミュージカル	オーケストラ	伝統音楽(日本)	人形劇・影絵	ポピュラー音楽	民族／民俗音楽	合唱
全 体	17,261	24.8	12.7	10.2	7.8	7.0	6.6	6.2	4.6	4.1
小学校	10,830	27.3	13.4	10.5	7.2	6.7	9.5	5.7	4.7	3.7
中学校	3,772	20.0	11.7	8.8	11.2	9.0	0.9	6.0	4.2	5.7
高等学校(全日制)	1,898	25.9	7.4	12.3	4.4	5.2	0.3	7.5	4.3	3.0
高等学校(定時制)	187	21.9	11.2	9.6	2.1	5.9	0.5	10.7	4.3	2.1
中等教育学校	46	28.3	10.9	15.2	10.9	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2
特別支援学校	625	6.6	22.1	7.2	7.5	6.7	12.2	12.0	5.3	5.3
無回答	26	11.5	15.4	3.8	15.4	3.8	3.8	0.0	7.7	0.0

(%)

	n	オペレッタ	落語・演芸	能・狂言	民俗芸能	歌舞伎・文楽	バレエ・ダンス	日本舞踊	その他	無回答
全 体	17,261	3.6	3.0	2.5	1.8	1.3	0.8	0.3	8.9	2.9
小学校	10,830	3.6	1.3	1.4	1.4	0.4	0.6	0.2	8.1	2.9
中学校	3,772	4.3	4.3	4.3	2.3	2.0	0.9	0.5	9.3	2.8
高等学校(全日制)	1,898	2.7	9.9	5.4	2.8	4.7	1.2	0.4	10.1	2.5
高等学校(定時制)	187	1.1	11.2	3.7	1.6	2.7	1.1	0.0	11.8	3.7
中等教育学校	46	4.3	8.7	4.3	2.2	6.5	0.0	2.2	4.3	4.3
特別支援学校	625	2.2	1.1	0.5	2.9	1.0	1.4	0.3	15.8	3
無回答	26	0.0	7.7	3.8	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	15.4

(4) 鑑賞対象学年

【学校調査：問2（3）＜鑑賞教室ベース＞】〔問1で「1実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞対象学年（複数回答）

鑑賞対象学年を学校区分別でみると、小学校は高学年になるほど対象となる割合が高くなる一方、中学校、高等学校（全日制）は最高学年で対象となる割合が若干低くなっている。

図表Ⅲ—9 鑑賞対象学年（複数回答）

＜学校区分別＞

		(%)								
	n	小学 1 年	小学 2 年	小学 3 年	小学 4 年	小学 5 年	小学 6 年	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年
全 体	17,261	54.8	55.0	56.4	58.1	59.4	60.3	22.5	22.2	21.5
小学校	10,830	83.3	83.5	85.5	88.1	90.2	91.7	0.0	0.0	0.0
中学校	3,772	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.8	88.9	85.7
高等学校 (全日制)	1,898	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高等学校 (定時制)	187	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中等教育学校	46	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.6	32.6	30.4
特別支援学校	625	68.8	70.1	72.6	73.9	74.4	73.9	74.6	73.3	74.1
無回答	26	50.0	53.8	53.8	53.8	53.8	50.0	23.1	23.1	19.2

		(%)						
	n	(高 校 全 日 制 1 年)	(高 校 全 日 制 2 年)	(高 校 全 日 制 3 年 以 上)	(高 校 定 時 制 1 年)	(高 校 定 時 制 2 年)	(高 校 定 時 制 3 年 以 上)	無 回 答
全 体	17,261	12.4	12.3	12.1	0.5	0.5	0.5	1.3
小学校	10,830	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
中学校	3,772	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
高等学校 (全日制)	1,898	90.8	90.7	88.6	1.3	1.3	1.3	1.1
高等学校 (定時制)	187	55.6	55.1	55.6	36.9	36.9	37.4	11.2
中等教育学校	46	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.2
特別支援学校	625	66.4	64.3	65.0	1.3	1.3	1.3	3.8
無回答	26	7.7	7.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8

（５）鑑賞者数

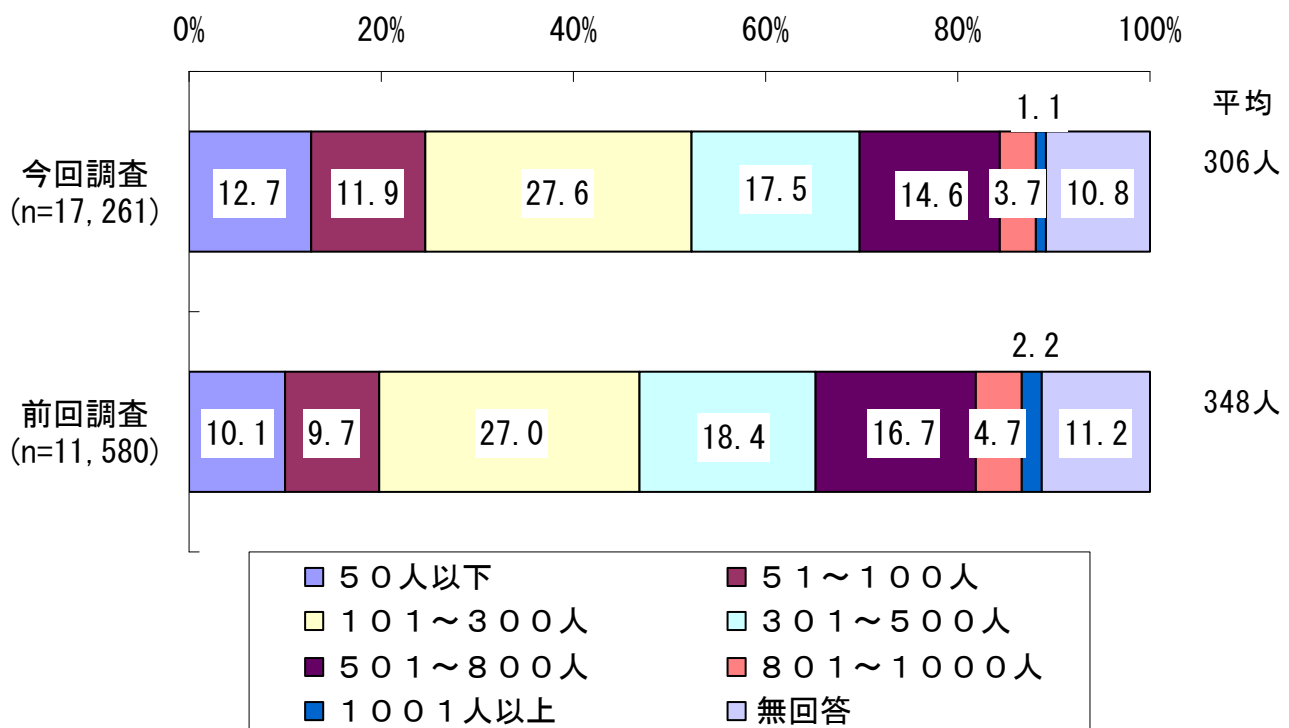
【学校調査：問２（４）＜鑑賞教室ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞者数

鑑賞者数では、「101～300 人」が 27.6%と最も高く、「301～500 人」（17.5%）、「501～800 人」（14.6%）と続いている。

前回調査の結果と比較すると、平均人数は前回調査が 348 人、今回調査が 306 人と前回に比べて減少している。

学校区分別でみると、平均人数は小学校では 277 人、中学校では 275 人と同程度であるが、高等学校（全日制）では 604 人であり、これは P. 15 の生徒数と同程度である。

図表Ⅲ—10 鑑賞者数



図表Ⅲ—11 鑑賞者数

<学校区分別>

(%)

	n	5 0 人 以 下	5 1 5 1 0 0 人	1 0 1 5 3 0 0 人	3 0 1 5 0 0 人	5 0 1 5 8 0 0 人	8 0 1 5 1 0 0 0 人	1 0 0 1 人 以 上	無 回 答	平 均
全 体	17,261	12.7	11.9	27.6	17.5	14.6	3.7	1.1	10.8	306
小学校	10,830	14.2	12.8	27.9	17.5	13.2	2.4	0.5	11.5	277
中学校	3,772	10.1	12.1	33.2	20.6	13.4	1.2	0.1	9.3	275
高等学校 (全日制)	1,898	1.6	2.0	14.1	17.2	29.9	17.5	6.8	10.9	604
高等学校 (定時制)	187	4.3	8.6	15.0	11.8	33.2	15.0	4.8	7.5	527
中等教育学校	46	0.0	2.2	39.1	21.7	23.9	4.3	0.0	8.7	404
特別支援学校	625	38.1	24.8	28.3	1.4	0.0	0.0	0.0	7.4	86
無回答	26	11.5	19.2	26.9	15.4	7.7	0.0	0.0	19.2	238

（６）実施場所

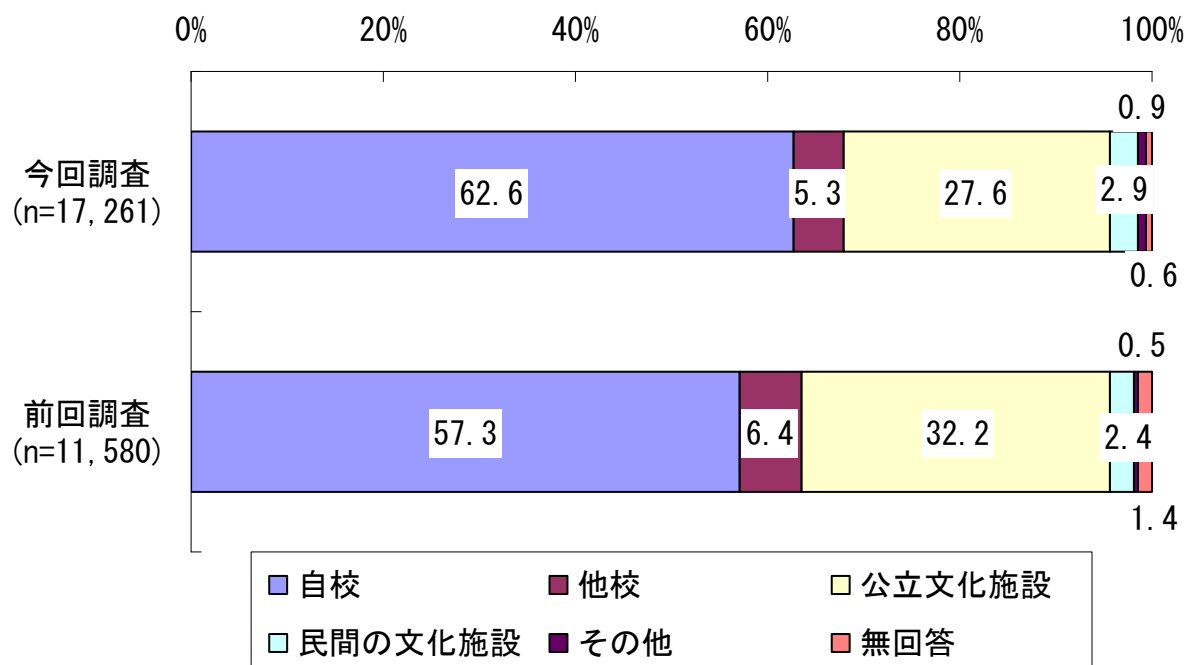
【学校調査：問２（５）＜鑑賞教室ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
実施場所

実施場所では、「自校」が 62.6%と最も高く、「公立文化施設」(27.6%)、「他校」(5.3%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「自校」の割合が前回より増加している一方で、「公立文化施設」の割合が減少している。

学校区分別でみると、「自校」「他校」は学年が低くなるほど割合が高くなり、「公立文化施設」「民間の文化施設」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—12 実施場所



図表Ⅲ—13 実施場所

<学校区分別>

(%)

	n	自校	他校	公立文化施設	民間の文化施設	その他	無回答
全 体	17,261	62.6	5.3	27.6	2.9	0.9	0.6
小学校	10,830	71.1	7.0	19.8	1.2	0.4	0.6
中学校	3,772	54.0	3.9	35.6	4.5	1.4	0.6
高等学校 (全日制)	1,898	26.9	0.3	59.9	9.6	2.6	0.8
高等学校 (定時制)	187	27.3	0.0	62.0	8.6	1.1	1.1
中等教育学校	46	60.9	0.0	13.0	15.2	0.0	10.9
特別支援学校	625	78.6	1.8	16.0	2.2	0.8	0.6
無回答	26	61.5	11.5	23.1	0.0	3.8	0.0

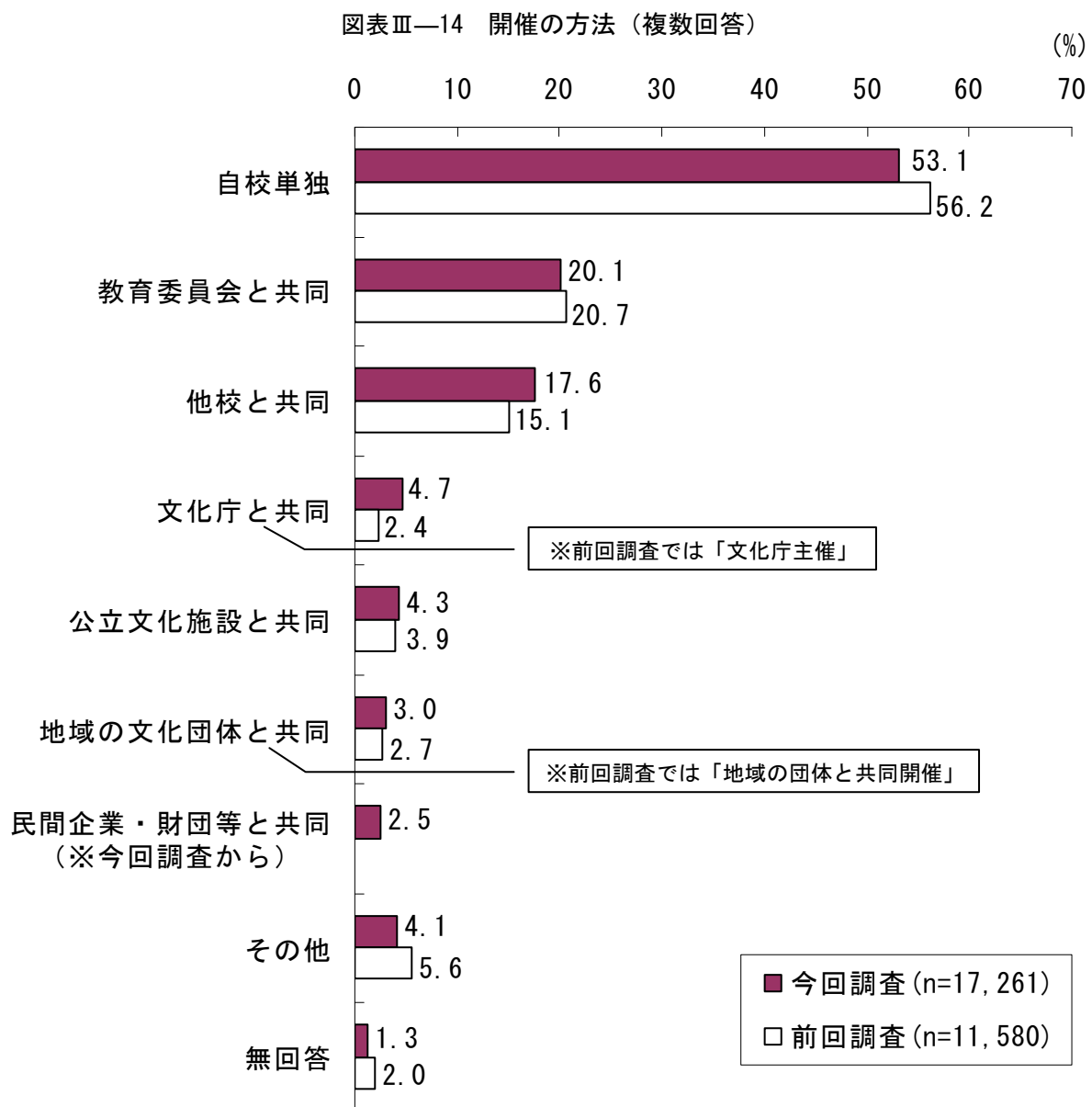
（７）開催の方法

【学校調査：問２（６）＜鑑賞教室ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
開催運営の方法（複数回答）

開催の方法では、「自校単独」が 53.1%と最も高く、「教育委員会と共同」（20.1%）、「他校と共同」（17.6%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「他校と共同」「文化庁と共同」の割合が前回より若干増加している一方で、「自校単独」の割合が若干減少している。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「自校単独」の割合が 71.8%と小学校、中学校よりも割合が高くなり、「教育委員会と共同」（2.7%）、「文化庁と共同」（0.6%）は小学校、中学校よりも割合が低くなっている。



図表Ⅲ—15 開催の方法（複数回答）

<学校区分別>

（％）

	n	自校 単独	教育 委員会 と共同	他校 と共同	文化 庁と 共同	公立 文化 施設と 共同	地域の 文化 団体と 共同	民間 企業・ 財団等 と共同	その他	無 回 答
全 体	17,261	53.1	20.1	17.6	4.7	4.3	3.0	2.5	4.1	1.3
小学校	10,830	51.8	21.6	17.8	5.4	4.3	3.1	2.3	3.7	1.1
中学校	3,772	46.9	26.1	19.2	5.0	4.6	3.4	2.2	4.7	1.5
高等学校 （全日制）	1,898	71.8	2.7	15.0	0.6	3.6	1.1	2.5	4.2	1.4
高等学校 （定時制）	187	71.1	4.3	18.2	1.6	3.7	0.5	1.1	1.6	1.1
中等教育学校	46	69.6	2.2	8.7	0.0	2.2	0.0	2.2	2.2	13.0
特別支援学校	625	52.3	14.2	11.2	4.8	3.8	6.7	6.7	6.7	3.0
無回答	26	57.7	11.5	30.8	0.0	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0

（８）家族や地域住民の参加

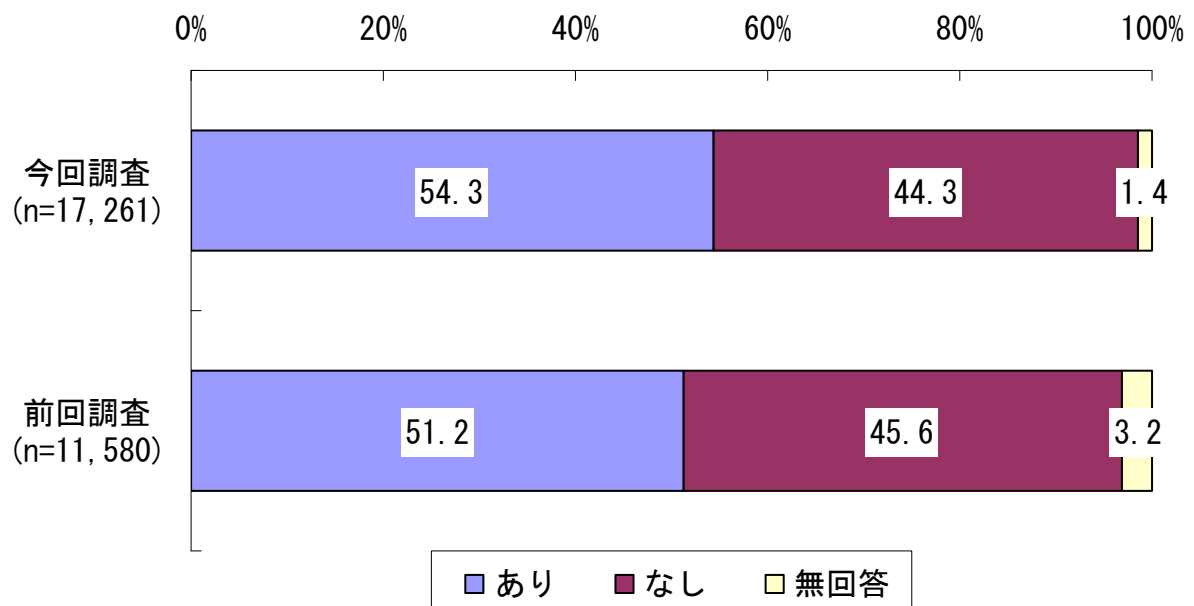
【学校調査：問２（７）＜鑑賞教室ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
家族や地域の人々の参加

家族や地域の住民の参加では、「あり」が 54.3%、「なし」が 44.3%となっている。

前回調査結果と比較すると、「あり」の割合が前回よりも若干増加している。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「あり」の割合が 57.4%と小学校、中学校よりも若干割合が高くなっている。

図表Ⅲ—16 家族や地域の人々の参加



図表Ⅲ—17 家族や地域の人々の参加

<学校区分別>

(%)

	n	あり	なし	無回答
全 体	17,261	54.3	44.3	1.4
小学校	10,830	53.7	45.1	1.2
中学校	3,772	52.4	45.5	2.1
高等学校 (全日制)	1,898	57.4	41.6	1.0
高等学校 (定時制)	187	59.9	40.1	0.0
中等教育学校	46	67.4	32.6	0.0
特別支援学校	625	64.8	32.8	2.4
無回答	26	42.3	57.7	0.0

2. 鑑賞教室の機会

(1) 鑑賞教室の開催頻度

【学校調査：付問1－1＜学校ベース＞】〔問1で「1実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
貴校では、舞台芸術の鑑賞教室の機会を、どのような頻度でお持ちですか。

鑑賞教室の開催頻度では、「毎年1回」が69.6%と最も高く、「1年に数回」(11.5%)、「不定期」(10.5%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「1年に数回」の割合が前回よりも若干減少している一方で、「不定期」の割合が若干増加している。

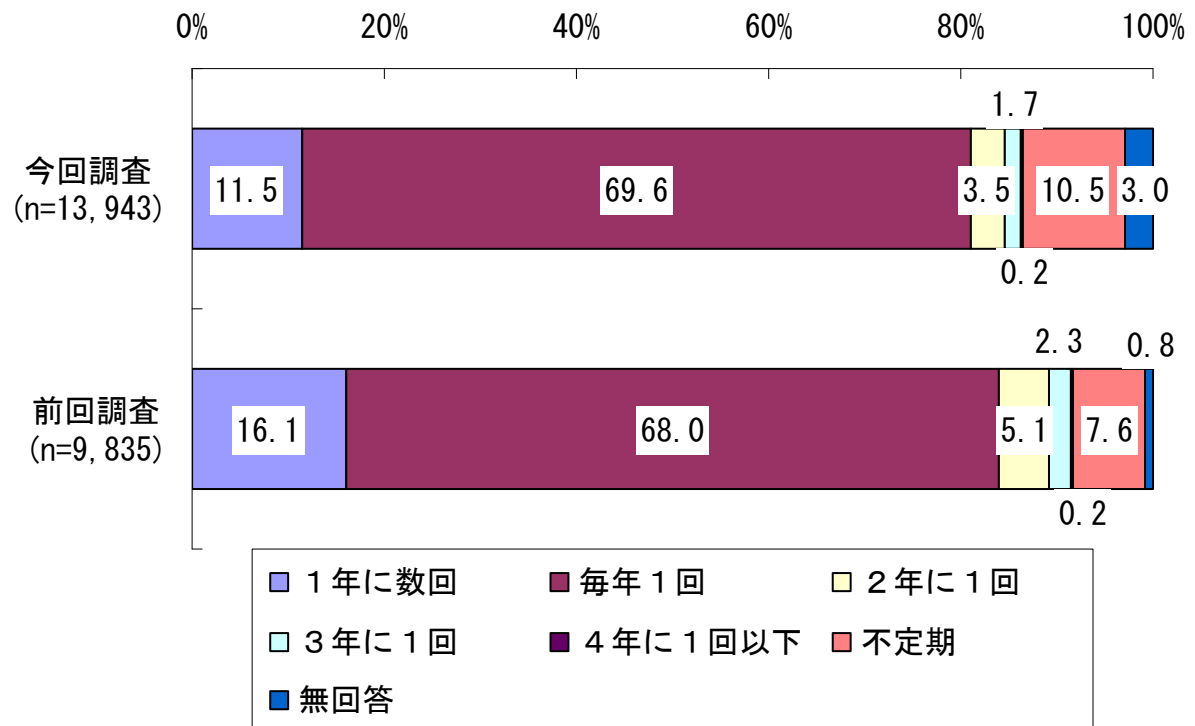
学校区分別でみると、「1年に数回」「2年に1回」は、学年が低くなるほど割合が高くなり、「3年に1回」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、中学校は「不定期」の割合が15.1%と、小学校、高等学校（全日制）よりも高くなっており、高等学校（全日制）は「毎年1回」の割合が79.5%と小学校、中学校よりも高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校とも、「毎年1回」は人数が多くなるほど割合が高くなり、「不定期」は人数が少なくなるほど割合が高くなる傾向にある。高等学校（全日制）では、「毎年1回」の割合が「601～800人」(85.0%)で他の層よりも高く、「400人以下」(70.9%)で他の層よりも低くなっている。また、「不定期」の割合は「400人以下」(8.7%)で他の層よりも高くなっている。

都道府県別でみると、「1年に数回」は「長野県」が22.8%と割合が最も高く、「富山県」(21.0%)、「東京都」(19.8%)と続いている。また、「不定期」は「愛媛県」が43.1%と割合が高く、「高知県」(39.3%)、「大分県」(37.4%)と続き、こうした県では「毎年1回」の割合が低くなっており、都道府県ごとにばらつきがある。

分野のローテーション実施状況別にみると、ローテーションを実施している学校は、「毎年1回」の割合が82.6%と高くなっており、実施していない学校は「不定期」の割合が22.6%と高くなっている。

図表Ⅲ—18 鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—19 鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】

<学校区分別・生徒数別>

									(%)
		n	1 年 に 数 回	毎 年 1 回	2 年 に 1 回	3 年 に 1 回	4 年 に 1 回 以下	不 定 期	無 回 答
全 体		13,943	11.5	69.6	3.5	1.7	0.2	10.5	3.0
区 分	小学校	8,548	12.3	70.0	4.3	0.5	0.2	9.8	2.9
	中学校	3,163	10.3	65.7	2.4	2.7	0.2	15.1	3.6
	高等学校 (全日制)	1,727	6.3	79.5	1.7	6.0	0.0	3.8	2.8
	高等学校 (定時制)	163	5.5	77.3	3.7	5.5	0.0	3.7	4.3
	中等教育学校	15	33.3	46.7	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0
	特別支援学校	410	26.3	51.2	1.7	1.0	0.0	17.6	2.2
小学校	100人以下	2,006	13.2	59.6	4.0	0.6	0.2	19.3	3.0
	101～200人	1,492	12.8	66.0	4.8	0.5	0.3	12.7	2.9
	201～400人	2,156	12.2	72.4	5.0	0.4	0.2	6.7	3.1
	401～600人	1,566	11.4	76.9	4.1	0.6	0.2	4.3	2.5
	601人以上	1,250	11.5	78.6	3.7	0.3	0.0	3.4	2.5
中学校	100人以下	608	11.0	58.4	3.5	2.1	0.5	20.6	3.9
	101～200人	546	11.2	63.2	2.4	2.0	0.2	17.0	4.0
	201～400人	946	9.5	66.8	2.7	3.0	0.2	14.3	3.5
	401～600人	676	9.3	70.6	1.5	2.8	0.0	12.3	3.6
	601人以上	360	11.7	70.0	1.4	3.3	0.0	10.8	2.8
高等学校 (全日制)	400人以下	333	6.0	70.9	1.8	8.4	0.0	8.7	4.2
	401～600人	384	7.0	79.4	2.3	6.0	0.0	3.4	1.8
	601～800人	413	4.8	85.0	1.2	4.8	0.0	2.2	1.9
	801 ～1000人	395	6.1	80.8	1.3	6.1	0.0	2.0	3.8
	1001人以上	182	8.8	79.7	1.6	4.4	0.0	3.3	2.2

図表Ⅲ—20 鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】

<都道府県別>

(%)

	n	1 年 に 数 回	毎 年 1 回	2 年 に 1 回	3 年 に 1 回	4 年 に 1 回 以下	不 定 期	無 回 答
全 体	13,943	11.5	69.6	3.5	1.7	0.2	10.5	3.0
北海道	739	9.9	74.4	4.3	1.8	0.1	7.0	2.4
青森県	326	12.9	75.5	3.1	0.0	0.0	5.5	3.1
岩手県	425	11.1	78.6	2.6	0.7	0.0	5.2	1.9
宮城県	379	10.8	68.1	2.9	2.4	0.3	14.2	1.3
秋田県	262	9.2	80.5	0.8	0.8	0.0	7.6	1.1
山形県	311	10.9	79.7	4.2	0.0	0.0	2.9	2.3
福島県	474	5.9	85.4	1.1	1.5	0.0	4.0	2.1
茨城県	302	8.6	75.2	2.0	2.0	0.0	9.6	2.6
栃木県	355	19.2	67.9	3.1	1.1	0.0	6.5	2.3
群馬県	217	14.3	47.5	12.4	10.6	0.0	10.1	5.1
埼玉県	339	7.7	74.3	3.5	1.8	0.3	8.8	3.5
千葉県	504	10.7	70.0	2.6	4.0	0.0	8.9	3.8
東京都	567	19.8	66.1	1.4	1.4	0.0	6.2	5.1
神奈川県	465	12.7	75.3	3.0	0.6	0.2	4.5	3.7
新潟県	349	13.2	62.5	4.6	2.3	0.0	14.3	3.2
富山県	176	21.0	61.4	0.6	0.6	0.0	15.3	1.1
石川県	174	17.8	64.4	0.0	0.6	0.0	12.6	4.6
福井県	129	16.3	54.3	3.1	1.6	0.0	21.7	3.1
山梨県	185	14.1	75.1	2.2	1.6	0.5	3.8	2.7
長野県	355	22.8	62.8	6.2	0.0	0.3	2.5	5.4
岐阜県	316	10.8	72.2	2.2	1.6	0.3	10.1	2.8
静岡県	483	11.6	74.1	4.8	1.0	0.0	5.8	2.7
愛知県	637	9.3	79.7	2.7	1.6	0.3	4.1	2.4
三重県	245	10.6	68.6	2.0	2.9	0.4	12.2	3.3

		(%)						
	n	1 年 に 数 回	毎 年 1 回	2 年 に 1 回	3 年 に 1 回	4 年 に 1 回 以 下	不 定 期	無 回 答
全 体	13,943	11.5	69.6	3.5	1.7	0.2	10.5	3.0
滋賀県	144	6.9	77.1	1.4	1.4	0.0	11.1	2.1
京都府	223	8.5	72.2	1.8	2.7	0.0	11.7	3.1
大阪府	609	14.1	75.4	2.3	1.6	0.3	1.6	4.6
兵庫県	448	13.6	69.0	3.1	0.4	0.2	10.3	3.3
奈良県	194	9.3	75.8	4.1	2.6	0.0	5.2	3.1
和歌山県	145	9.0	60.7	6.9	1.4	0.0	18.6	3.4
鳥取県	96	10.4	60.4	1.0	1.0	0.0	20.8	6.3
島根県	144	11.1	61.8	4.2	2.1	0.0	19.4	1.4
岡山県	330	6.4	78.2	5.8	2.1	0.0	6.1	1.5
広島県	337	10.1	62.6	3.0	2.7	0.0	19.0	2.7
山口県	196	6.6	59.2	7.1	3.6	0.0	21.9	1.5
徳島県	95	9.5	38.9	5.3	0.0	1.1	36.8	8.4
香川県	121	14.9	51.2	3.3	2.5	1.7	21.5	5.0
愛媛県	188	12.2	39.4	2.7	0.5	0.5	43.1	1.6
高知県	112	9.8	42.9	6.3	0.0	0.0	39.3	1.8
福岡県	441	9.5	72.8	4.1	1.4	0.0	7.5	4.8
佐賀県	119	5.0	68.1	10.9	1.7	0.0	10.1	4.2
長崎県	219	9.1	40.6	5.9	4.1	0.5	36.1	3.7
熊本県	241	7.1	64.7	5.4	0.4	0.8	19.9	1.7
大分県	139	7.2	46.0	5.8	2.9	0.0	37.4	0.7
宮崎県	257	11.7	76.3	1.6	1.2	0.4	7.4	1.6
鹿児島県	252	7.1	62.3	5.2	2.8	0.0	19.0	3.6
沖縄県	179	11.2	73.2	5.0	0.0	1.1	7.8	1.7
不 明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表Ⅲ—21 鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】

〈鑑賞教室で実施する分野のローテーション実施状況別〉

(%)

			付問 1 － 1							
			n	1 年 に 数 回	毎 年 1 回	2 年 に 1 回	3 年 に 1 回	4 年 に 1 回 以下	不 定 期	無 回 答
全 体			13, 943	11. 5	69. 6	3. 5	1. 7	0. 2	10. 5	3. 0
付 問 1 ― 2	実施している	7, 247	11. 5	82. 6	3. 5	1. 3	0. 0	0. 8	0. 3	
	実施していない	6, 137	12. 0	58. 6	3. 7	2. 3	0. 3	22. 6	0. 5	
	無回答	559	7. 0	22. 7	1. 1	0. 7	0. 0	2. 9	65. 7	

（２）鑑賞教室で実施する分野のローテーション

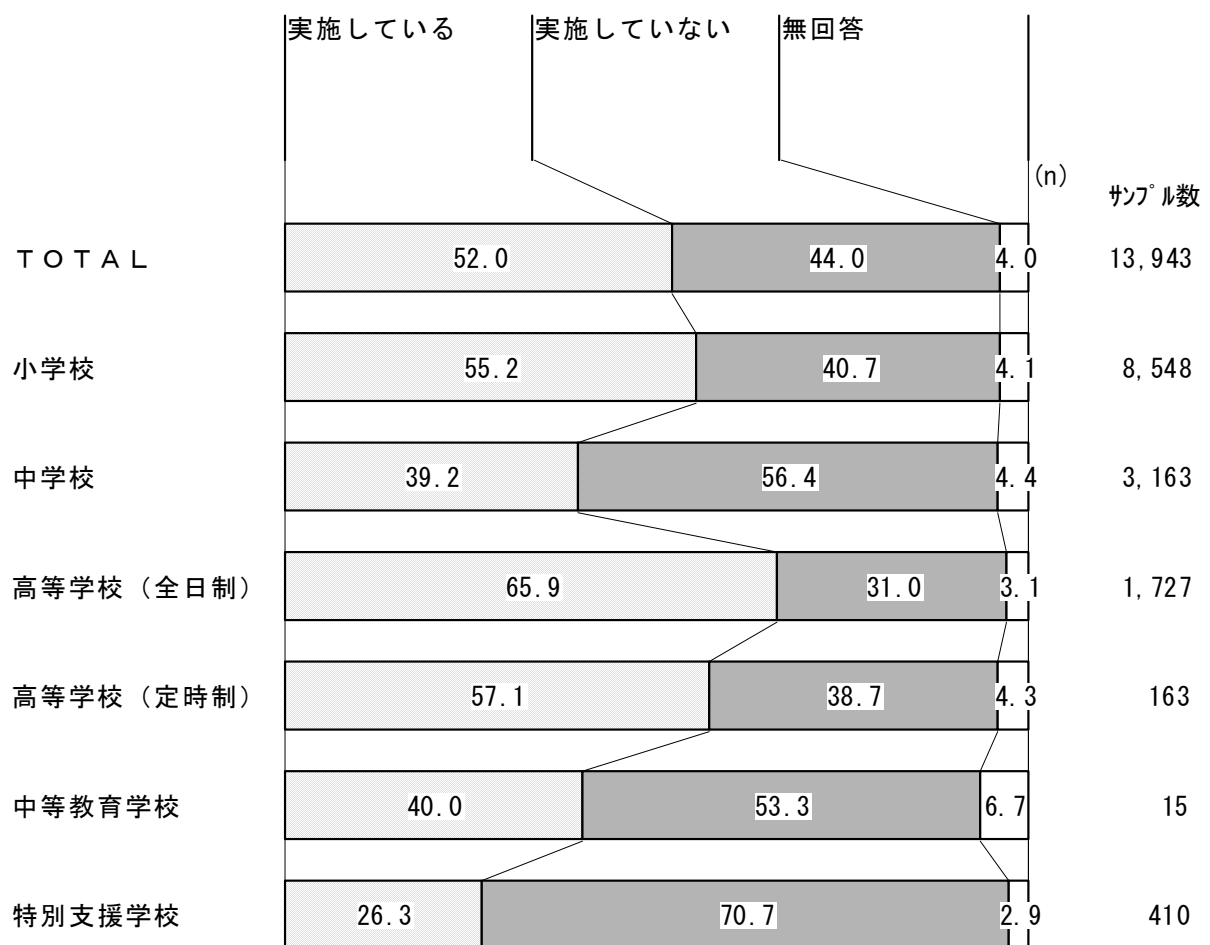
【学校調査：付問１－２＜学校ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
貴校では、鑑賞教室を、舞台芸術の多様な分野を考慮し、計画的なローテーションで実施していますか。（例：年に１回の鑑賞教室で演劇、音楽、舞踊を３年で一回りするようにしている、など）

実施する分野のローテーションでは、「実施している」が 52.0%、「実施していない」が 44.0% となっている。

学校区分別でみると、ローテーションを実施している割合は、「高等学校（全日制）」（65.9%）で高く、「中学校」（39.2%）で低くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校とも、人数が多くなるほど実施する割合が高くなる傾向にあり、「高等学校（全日制）」は、「401～600 人」「601～800 人」「801～1000 人」の層で割合が高くなっている。

図表Ⅲ－22 鑑賞教室で実施する分野のローテーション状況【平成１９年度鑑賞教室実施校】
＜学校区分別＞



図表Ⅲ—23 鑑賞教室で実施する分野のローテーション状況【平成19年度鑑賞教室実施校】

<生徒数別>

		(%)			
		n	実施している	実施していない	無回答
全 体		13,943	52.0	44.0	4.0
小学校	100人以下	2,006	37.8	57.5	4.6
	101～200人	1,492	48.3	47.7	4.0
	201～400人	2,156	58.4	37.3	4.2
	401～600人	1,566	66.7	29.4	3.9
	601人以上	1,250	71.2	25.8	3.0
中学校	100人以下	608	29.4	66.0	4.6
	101～200人	546	33.3	61.2	5.5
	201～400人	946	40.4	55.0	4.7
	401～600人	676	47.5	48.8	3.7
	601人以上	360	45.6	51.7	2.8
高等学校 (全日制)	400人以下	333	52.9	43.8	3.3
	401～600人	384	68.8	28.9	2.3
	601～800人	413	70.5	26.4	3.1
	801～1000人	395	71.6	25.1	3.3
	1001人以上	182	59.9	36.3	3.8

（３）鑑賞教室の状況

【学校調査：付問１－３＜学校ベース＞】〔問１で「２実施しない」を選択した学校にお尋ねします。〕
貴校における鑑賞教室の状況は、次のどれに当てはまりますか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

鑑賞教室の状況では、「今年は計画上実施しない年に当たる」が 20.6%であり、「以前は実施していたが鑑賞教室は取り止めた」(23.5%)、「もともと実施していない」(53.7%)を含めて、鑑賞教室を実施していないところは約 8 割を占めている。

学校区分別でみると、「今年は計画上実施しない年に当たる」は高等学校（全日制）で 31.1%と割合が高く、中学で 15.1%と低くなっている。また、高等学校（全日制）は「以前は実施していたが鑑賞教室は取り止めた」の割合が 31.3%と高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校とも「以前は実施していたが鑑賞教室は取り止めた」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にあり、「もともと実施していない」は「100 人以下」で他の層よりも割合が高くなっている。高等学校（全日制）では、「今年は計画上実施しない年に当たる」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にあり、「以前は実施していたが鑑賞教室は取り止めた」は「801～1000 人」で他の層よりも割合が低く、「もともと実施していない」は「400 人以下」で他の層よりも割合が高くなっている。

都道府県別でみると「今年は計画上実施しない年に当たる」は、「佐賀県」が 50.0%と最も高く、「鳥取県」(35.7%)、「山梨」(35.6%)と続いている。また、「以前は実施していたが鑑賞教室は取り止めた」は、「京都府」が 46.7%と最も高く、「神奈川県」(41.2%)、「秋田県」(41.1%)、と続いている。

図表Ⅲ—24 鑑賞教室の状況【平成19年度鑑賞教室非実施校】

＜学校区分別＞

	今年度は計画上 実施しない年に 当たる	以前は実施して いたが鑑賞教室 は取り止めた	もともと実施し ていない	無回答	(n)	サンプル数
TOTAL	20.6	23.5	53.7	2.2	6,259	
小学校	23.8	23.5	50.2	2.6	2,762	
中学校	15.1	22.8	60.3	1.8	2,554	
高等学校（全日制）	31.1	31.3	35.2	2.4	630	
高等学校（定時制）	16.2	26.1	56.8	0.9	111	
中等教育学校	28.6	28.6	42.9	0.0	7	
特別支援学校	15.9	11.1	70.4	2.7	226	

図表Ⅲ—25 鑑賞教室の状況【平成19年度鑑賞教室非実施校】

<生徒数別>

		(%)				
		n	る施今 し年 ない は年 計に 画 当 上 た 実	りた以 止が前 め鑑は た賞実 教施 室し はて 取い	いも ない も と 実 施 し て	無 回 答
全 体		6,259	20.6	23.5	53.7	2.2
小学校	100人以下	1,060	18.9	18.9	59.6	2.6
	101～200人	517	25.7	20.5	50.1	3.7
	201～400人	568	26.8	29.0	42.3	1.9
	401～600人	360	27.8	27.8	41.9	2.5
	601人以上	238	27.7	31.5	39.5	1.3
中学校	100人以下	507	17.2	14.2	66.1	2.6
	101～200人	381	16.3	21.8	60.6	1.3
	201～400人	797	15.1	26.9	56.6	1.5
	401～600人	590	14.1	23.6	60.8	1.5
	601人以上	262	11.8	27.5	58.4	2.3
高等学校 (全日制)	400人以下	238	23.5	29.8	42.9	3.8
	401～600人	128	37.5	32.8	28.1	1.6
	601～800人	106	34.9	40.6	23.6	0.9
	801 ～1000人	115	40.0	23.5	34.8	1.7
	1001人以上	26	19.2	38.5	38.5	3.8

図表Ⅲ—26 鑑賞教室の状況【平成19年度鑑賞教室非実施校】

<都道府県別>

(%)

(%)

	n	る施今 し年 な度 いは 年計 に画 上た 実	りた以 止が前 め鑑は た賞実 教施 室し はて 取い	いも ないも とと 実 施 し て	無 回 答
全 体	6,259	20.6	23.5	53.7	2.2
北海道	483	16.4	33.1	47.4	3.1
青森県	116	23.3	30.2	44.8	1.7
岩手県	95	14.7	23.2	60.0	2.1
宮城県	149	10.7	30.9	53.0	5.4
秋田県	90	26.7	41.1	30.0	2.2
山形県	57	26.3	15.8	57.9	0.0
福島県	121	14.9	13.2	71.1	0.8
茨城県	226	17.3	18.6	62.8	1.3
栃木県	90	26.7	20.0	53.3	0.0
群馬県	161	28.6	22.4	47.2	1.9
埼玉県	188	10.1	26.6	61.7	1.6
千葉県	300	23.7	22.7	52.0	1.7
東京都	268	8.2	29.9	59.0	3.0
神奈川県	221	5.4	41.2	51.1	2.3
新潟県	231	20.8	20.8	57.6	0.9
富山県	64	28.1	7.8	62.5	1.6
石川県	84	20.2	17.9	57.1	4.8
福井県	70	30.0	18.6	48.6	2.9
山梨県	45	35.6	8.9	51.1	4.4
長野県	65	23.1	13.8	60.0	3.1
岐阜県	108	18.5	16.7	62.0	2.8
静岡県	120	23.3	19.2	55.8	1.7
愛知県	188	17.0	27.7	53.7	1.6
三重県	144	16.7	26.4	52.1	4.9

	n	る施今 し年 な度 いは 年計 に画 上た 実	りた以 止が前 め鑑は た賞実 教施 室し はて 取い	いも ないも とと 実 施 し て	無 回 答
全 体	6,259	20.6	23.5	53.7	2.2
滋賀県	88	25.0	33.0	40.9	1.1
京都府	92	18.5	46.7	33.7	1.1
大阪府	105	21.9	41.0	36.2	1.0
兵庫県	187	14.4	25.1	56.7	3.7
奈良県	42	23.8	21.4	54.8	0.0
和歌山県	97	19.6	21.6	57.7	1.0
鳥取県	56	35.7	30.4	33.9	0.0
島根県	101	21.8	21.8	53.5	3.0
岡山県	101	26.7	27.7	43.6	2.0
広島県	177	25.4	23.7	49.2	1.7
山口県	148	26.4	19.6	51.4	2.7
徳島県	125	12.0	15.2	69.6	3.2
香川県	97	27.8	16.5	55.7	0.0
愛媛県	152	23.0	5.9	69.7	1.3
高知県	107	15.9	13.1	67.3	3.7
福岡県	140	25.7	25.0	45.0	4.3
佐賀県	88	50.0	22.7	27.3	0.0
長崎県	165	27.3	7.9	63.6	1.2
熊本県	115	29.6	18.3	50.4	1.7
大分県	136	22.1	14.0	63.2	0.7
宮崎県	18	22.2	11.1	66.7	0.0
鹿児島県	176	26.1	13.1	57.4	3.4
沖縄県	61	32.8	23.0	36.1	8.2
不 明	1	0.0	0.0	100.0	0.0

(4) 鑑賞教室の非実施理由

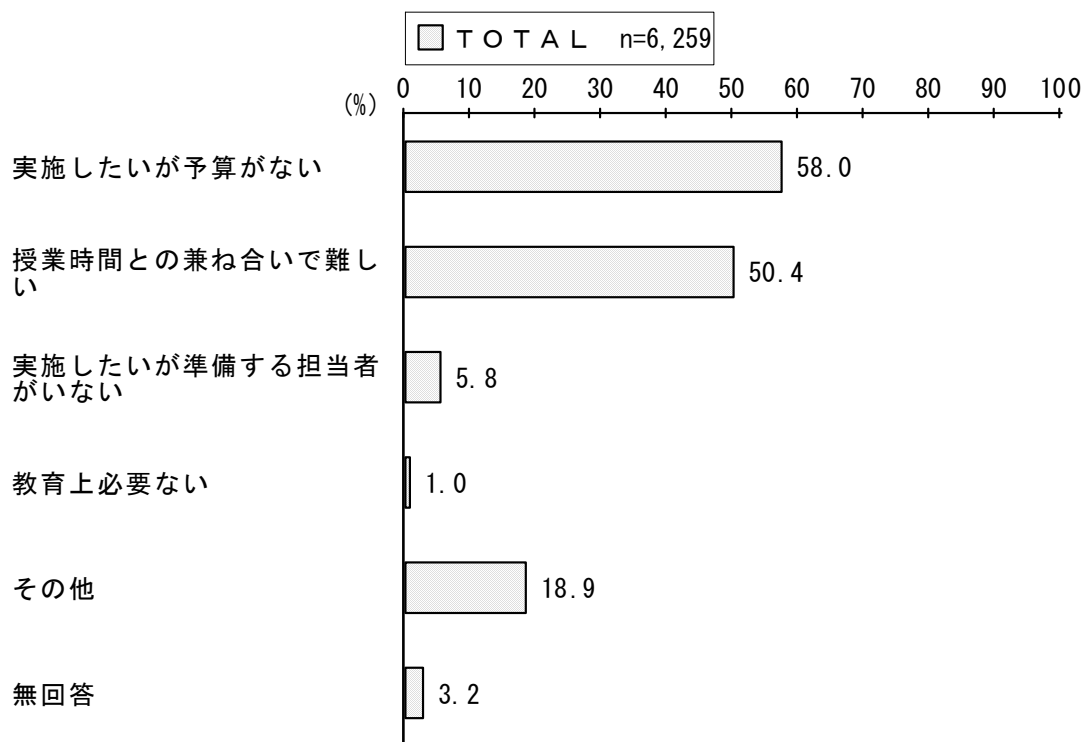
【学校調査：付問１－４＜学校ベース＞】〔問１で「２実施しない」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞教室を実施しない理由は何ですか。（複数回答）

鑑賞教室の非実施理由では、「実施したいが予算がない」が58.0%と最も高く、「授業時間との兼ね合いで難しい」(50.4%)、「実施したいが準備する担当者がいない」(5.8%)と続いている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「実施したいが予算がない」は人数が少なくなるほど割合が高くなり、「授業時間との兼ね合いで難しい」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

都道府県別でみると、「実施したいが予算がない」は、「鹿児島県」が73.3%と最も高く、「香川県」(70.1%)、「高知県」(68.2%)と続いている。また、「授業時間との兼ね合いで難しい」は、「東京都」が69.4%と最も高く、「埼玉県」「神奈川県」(66.5%)と続いている。

図表Ⅲ—27 鑑賞教室の非実施理由（複数回答）【平成19年度鑑賞教室非実施校】



図表Ⅲ—28 鑑賞教室の非実施理由（複数回答）【平成19年度鑑賞教室非実施校】

<生徒数別>

		(%)						
		n	が実施 したい が予算	合授 いで難 しとの 兼ね	いす実 施担 当者 いが 準備	教育 上必 要な い	そ の 他	無 回 答
全 体		6, 259	58. 0	50. 4	5. 8	1. 0	18. 9	3. 2
小学校	1 0 0人以下	1, 060	70. 8	28. 3	7. 0	0. 8	21. 6	3. 0
	1 0 1～2 0 0人	517	68. 5	35. 8	4. 6	0. 8	17. 6	3. 5
	2 0 1～4 0 0人	568	56. 2	50. 9	4. 0	0. 9	19. 9	4. 2
	4 0 1～6 0 0人	360	44. 7	54. 2	2. 8	1. 1	21. 1	5. 6
	6 0 1人以上	238	38. 2	58. 4	2. 9	1. 3	27. 3	1. 7
中学校	1 0 0人以下	507	65. 3	44. 8	6. 5	0. 6	21. 9	2. 6
	1 0 1～2 0 0人	381	61. 4	57. 7	6. 6	1. 0	11. 8	4. 2
	2 0 1～4 0 0人	797	56. 2	68. 1	6. 9	0. 9	12. 7	1. 8
	4 0 1～6 0 0人	590	52. 0	71. 9	6. 4	1. 4	12. 5	2. 4
	6 0 1人以上	262	42. 7	79. 0	4. 2	1. 5	9. 9	1. 5
高等学校 (全日制)	4 0 0人以下	238	71. 0	31. 5	6. 7	1. 3	20. 2	1. 7
	4 0 1～6 0 0人	128	44. 5	46. 1	5. 5	1. 6	25. 8	5. 5
	6 0 1～8 0 0人	106	47. 2	49. 1	6. 6	0. 0	26. 4	4. 7
	8 0 1 ～1 0 0 0人	115	30. 4	60. 0	4. 3	1. 7	27. 0	4. 3
	1 0 0 1人以上	26	23. 1	73. 1	11. 5	0. 0	19. 2	11. 5

図表Ⅲ—29 鑑賞教室の非実施理由（複数回答）【平成19年度鑑賞教室非実施校】

<都道府県別>

（％）

	n	が実施 したい が予算	合授 業で 時間 との 兼ね	いす る施 担し たい 者が い 準備	教育 上 必要 ない	そ 他	無 回 答
全 体	6,259	58.0	50.4	5.8	1.0	18.9	3.2
北海道	483	56.9	52.0	3.5	0.8	17.4	3.7
青森県	116	65.5	39.7	2.6	2.6	19.8	2.6
岩手県	95	49.5	31.6	1.1	1.1	34.7	4.2
宮城県	149	55.0	54.4	2.7	2.0	18.8	4.0
秋田県	90	55.6	34.4	3.3	0.0	27.8	1.1
山形県	57	49.1	24.6	3.5	1.8	36.8	5.3
福島県	121	64.5	43.8	4.1	2.5	21.5	1.7
茨城県	226	62.8	47.8	5.8	0.4	20.8	2.2
栃木県	90	52.2	40.0	2.2	0.0	24.4	4.4
群馬県	161	48.4	64.6	6.8	1.2	18.6	6.2
埼玉県	188	55.9	66.5	5.9	0.5	14.4	3.7
千葉県	300	65.3	50.0	5.7	1.0	19.3	1.3
東京都	268	41.8	69.4	6.3	1.1	22.0	2.2
神奈川県	221	44.3	66.5	4.1	4.5	18.6	2.7
新潟県	231	62.3	42.0	8.2	1.7	20.8	2.2
富山県	64	51.6	46.9	6.3	0.0	28.1	0.0
石川県	84	58.3	52.4	2.4	0.0	16.7	6.0
福井県	70	52.9	41.4	8.6	1.4	28.6	4.3
山梨県	45	48.9	51.1	11.1	0.0	20.0	4.4
長野県	65	44.6	56.9	4.6	3.1	24.6	1.5
岐阜県	108	55.6	51.9	1.9	0.0	23.1	1.9
静岡県	120	41.7	60.0	4.2	0.8	19.2	6.7
愛知県	188	50.5	58.5	5.3	1.1	14.9	3.2
三重県	144	66.7	46.5	6.9	0.7	14.6	2.8

(%)

	n	が実施 したい が予算	合授 いで 時間 との 兼ね	いす 実 担 当 者 が い 準 備	教 育 上 必 要 な い	そ の 他	無 回 答
全 体	6,259	58.0	50.4	5.8	1.0	18.9	3.2
滋賀県	88	61.4	59.1	5.7	0.0	17.0	2.3
京都府	92	58.7	52.2	4.3	1.1	16.3	2.2
大阪府	105	55.2	50.5	3.8	1.0	27.6	1.9
兵庫県	187	66.3	46.0	1.6	0.0	13.9	5.3
奈良県	42	57.1	50.0	7.1	2.4	19.0	0.0
和歌山県	97	67.0	44.3	7.2	0.0	19.6	1.0
鳥取県	56	41.1	46.4	3.6	1.8	23.2	1.8
島根県	101	65.3	46.5	7.9	0.0	17.8	5.0
岡山県	101	65.3	44.6	3.0	1.0	15.8	5.9
広島県	177	65.0	45.8	9.0	0.6	14.1	3.4
山口県	148	62.2	43.9	5.4	1.4	14.9	4.1
徳島県	125	64.0	50.4	12.0	0.0	12.8	3.2
香川県	97	70.1	52.6	14.4	0.0	15.5	0.0
愛媛県	152	54.6	55.9	13.2	0.7	22.4	2.0
高知県	107	68.2	43.9	12.1	0.9	11.2	1.9
福岡県	140	53.6	57.1	4.3	1.4	14.3	5.0
佐賀県	88	58.0	53.4	3.4	2.3	19.3	1.1
長崎県	165	63.0	53.9	6.1	0.6	12.7	3.0
熊本県	115	57.4	48.7	5.2	0.0	22.6	0.9
大分県	136	62.5	52.9	8.1	1.5	11.8	4.4
宮崎県	18	61.1	22.2	5.6	0.0	27.8	0.0
鹿児島県	176	73.3	26.7	7.4	0.0	18.8	4.5
沖縄県	61	55.7	27.9	6.6	1.6	27.9	8.2
不 明	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

3. 鑑賞教室をめぐる現状

(1) 学校教育における鑑賞教室の位置づけ

① 鑑賞教室の位置づけ

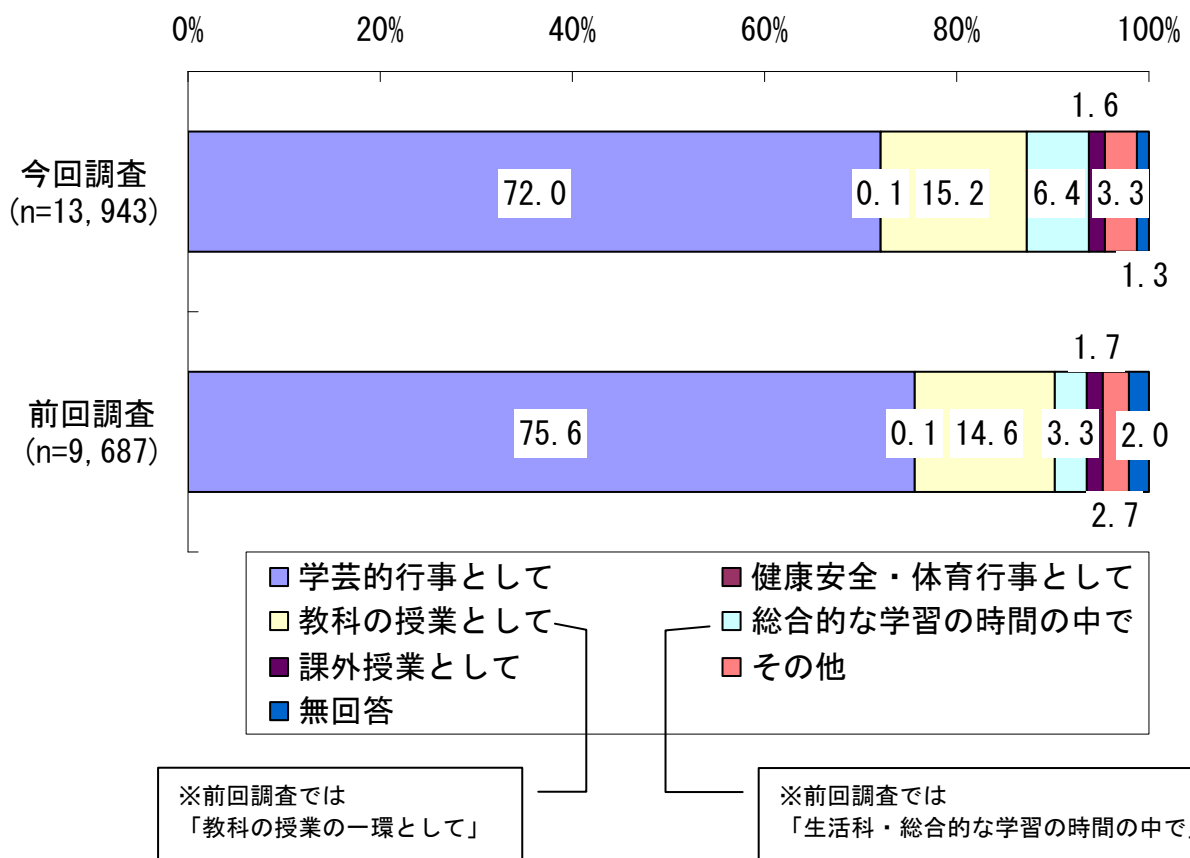
【学校調査：問3＜学校ベース＞】〔問1で「1 実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
その鑑賞教室は学校教育の中で、どのように位置づけて実施しましたか。

鑑賞教室の位置づけでは、「学芸的行事として」が 72.0%と最も高く、「教科の授業として」(15.2%)、「総合的な学習の時間の中で」(6.4%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「学芸的行事として」の割合が前回よりも若干減少し、「総合的な学習の時間のなかで」の割合が若干増加している。

学校区分別でみると、「教科の授業として」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、「学芸的行事として」は高等学校（全日制）の割合が 85.5%と小学校、中学校よりも高く、「総合的な学習の時間の中で」は中学校の割合が 17.1%と小学校、高等学校（全日制）よりも高くなっている。

図表Ⅲ—30 鑑賞教室の位置づけ【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—31 鑑賞教室の位置づけ【平成19年度鑑賞教室実施校】

＜学校区分別＞

(%)

	n	学 芸 的 行 事 と し て	体 育 ・ 健 康 安 全 ・ 行 事 と し て	教 科 の 授 業 と し て	時 間 的 ・ 総 合 的 な 学 習 の 中 で	課 外 授 業 と し て	そ の 他	無 回 答
全 体	13,943	72.0	0.1	15.2	6.4	1.6	3.3	1.3
小学校	8,548	72.8	0.1	19.3	2.8	1.1	2.5	1.3
中学校	3,163	63.3	0.1	11.3	17.1	2.5	4.3	1.4
高等学校 (全日制)	1,727	85.5	0.1	2.1	4.6	2.0	4.5	1.3
高等学校 (定時制)	163	88.3	0.0	0.6	3.1	2.5	5.5	0.0
中等教育 学校	15	53.3	0.0	13.3	6.7	6.7	20.0	0.0
特別支援 学校	410	66.1	0.0	17.1	5.1	2.7	7.1	2.0
無回答	22	59.1	0.0	27.3	4.5	0.0	9.1	0.0

② 鑑賞教室が位置づけられている教科

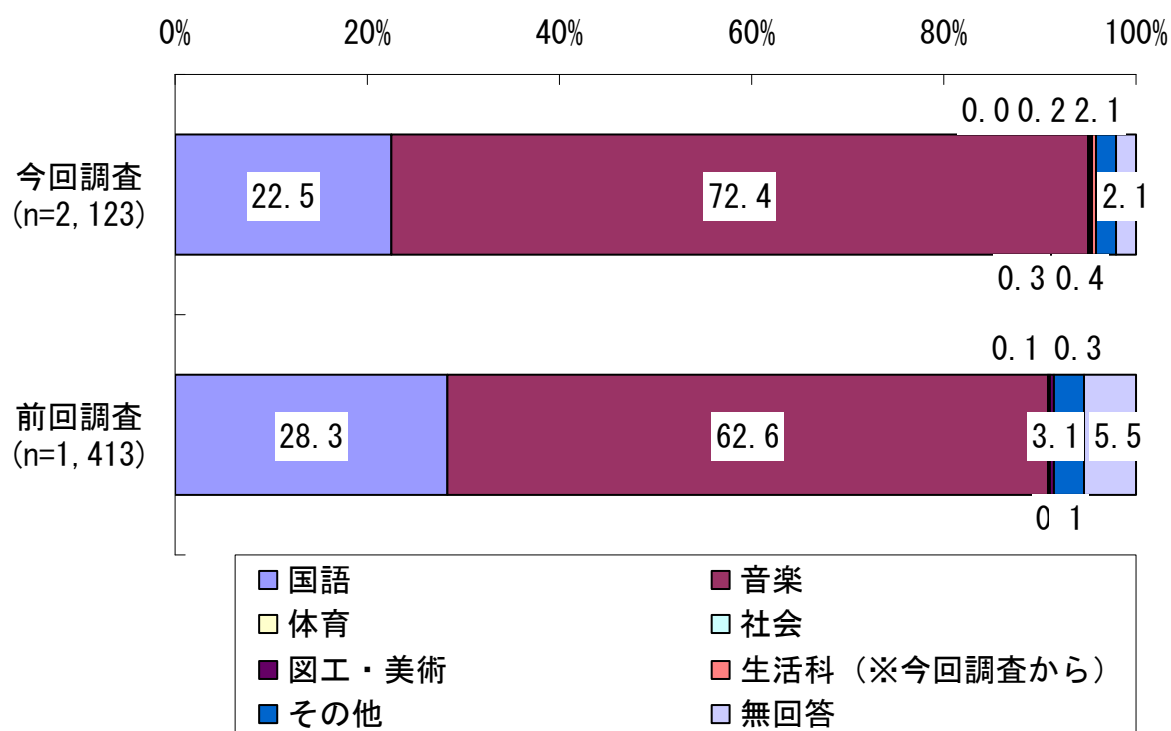
【学校調査：付問3－1＜学校ベース＞】〔問3で「3教科の授業として」を選択した学校にお尋ねします。〕
それはどのような教科ですか。

鑑賞教室が位置づけられている教科では、「音楽」が72.4%と最も高く、「国語」(22.5%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「音楽」の割合が増加し、「国語」の割合が減少している。

学校区分別でみると、中学校は「音楽」の割合が84.6%と小学校、高等学校（全日制）よりも高く、高等学校（全日制）は「国語」の割合が52.8%と小学校、中学校よりも高くなっている。

図表Ⅲ—32 鑑賞教室が位置づけられている教科【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—33 鑑賞教室が位置づけられている教科【平成１９年度鑑賞教室実施校】

<学校区分別>

		(%)							
	n	国語	音楽	体育	社会	図工・美術	生活科	その他	無回答
全 体	2,123	22.5	72.4	0.0	0.3	0.2	0.4	2.1	2.1
小学校	1,652	25.1	70.5	0.1	0.3	0.1	0.5	1.4	2.1
中学校	357	10.9	84.6	0.0	0.3	0.6	0.0	2.2	1.4
高等学校 (全日制)	36	52.8	22.2	0.0	2.8	0.0	0.0	16.7	5.6
高等学校 (定時制)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中等教育 学校	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
特別支援 学校	70	5.7	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	4.3
無回答	6	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（２）鑑賞教室における作品の選定

① 鑑賞教室の内容の決定方法

【学校調査：問４＜学校ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞教室の内容は、どのようにして決めましたか。

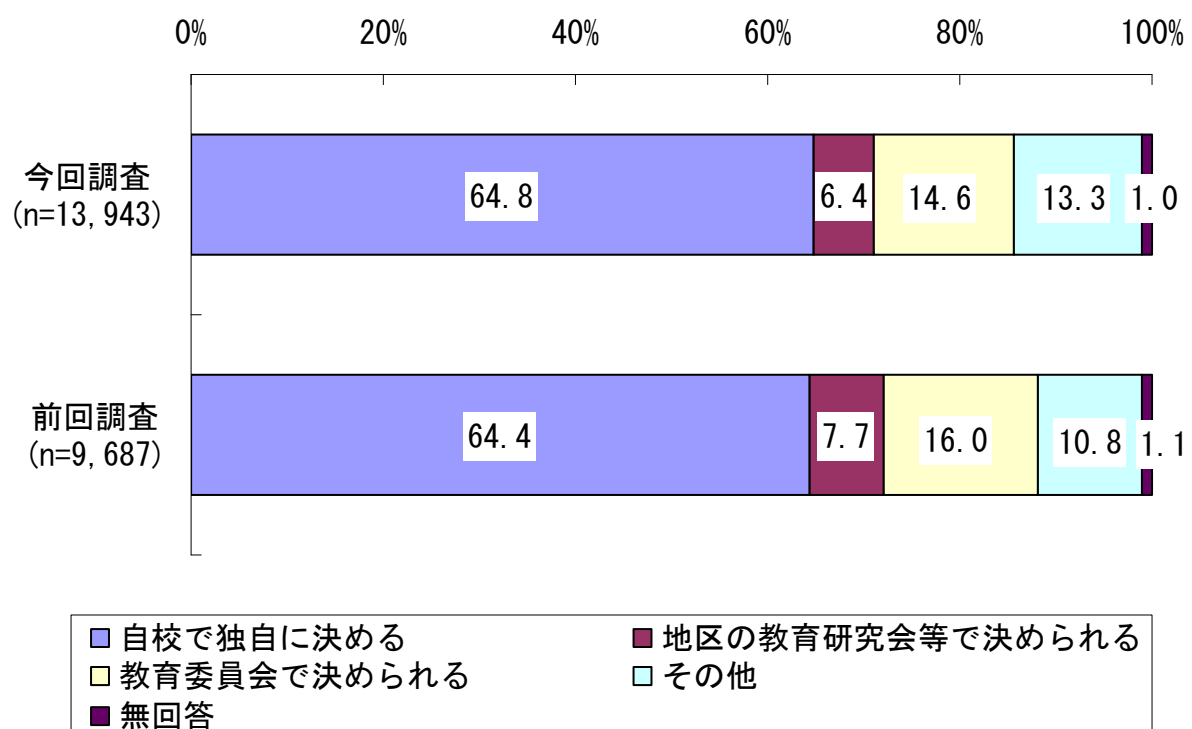
鑑賞教室の内容の決定方法では、「自校で独自に決める」が 64.8%と最も高く、「教育委員会で決められる」(14.6%)、「地区の教育研究会等で決められる」(6.4%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向である。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「自校で独自に決める」の割合が 84.2%と小学校、中学校よりも高く、中学校は「教育委員会で決められる」の割合が 21.5%と小学校、高等学校（全日制）よりも高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「自校で独自に決める」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、小学校、中学校とも「教育委員会で決められる」は人数が少なくなるほど割合が高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—34 鑑賞教室の内容の決定方法【平成１９年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—35 鑑賞教室の内容の決定方法【平成19年度鑑賞教室実施校】

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)					
		n	決 自 め 校 る で 独 自 に	等 地 で 区 決 の め 教 ら 育 れ ら る 研 究 会	決 教 め 育 ら 委 れ る 員 会 で	そ の 他	無 回 答
全 体		13,943	64.8	6.4	14.6	13.3	1.0
区 分	小学校	8,548	63.5	6.5	15.1	14.0	1.0
	中学校	3,163	57.1	7.7	21.5	12.8	0.9
	高等学校 (全日制)	1,727	84.2	4.3	1.5	9.2	0.8
	高等学校 (定時制)	163	80.4	8.6	0.6	9.8	0.6
	中等教育学校	15	66.7	6.7	0.0	26.7	0.0
	特別支援学校	410	67.3	2.9	8.5	19.0	2.2
小学校	100人以下	2,006	34.3	9.6	30.3	24.1	1.7
	101～200人	1,492	58.2	7.2	17.2	16.3	1.1
	201～400人	2,156	72.8	5.6	9.6	11.4	0.6
	401～600人	1,566	77.8	5.2	8.0	8.3	0.7
	601人以上	1,250	81.8	3.9	6.7	6.8	0.7
中学校	100人以下	608	35.5	9.4	33.9	20.4	0.8
	101～200人	546	49.1	7.9	25.1	17.0	0.9
	201～400人	946	61.6	7.8	18.3	11.1	1.2
	401～600人	676	68.0	7.2	16.0	8.1	0.6
	601人以上	360	72.5	5.8	13.6	7.2	0.8
高等学校 (全日制)	400人以下	333	69.7	7.2	4.8	17.4	0.9
	401～600人	384	83.6	5.7	0.8	8.3	1.6
	601～800人	413	87.2	2.9	1.0	8.0	1.0
	801 ～1000人	395	89.6	3.5	0.5	6.1	0.3
	1001人以上	182	91.8	1.1	0.5	6.6	0.0

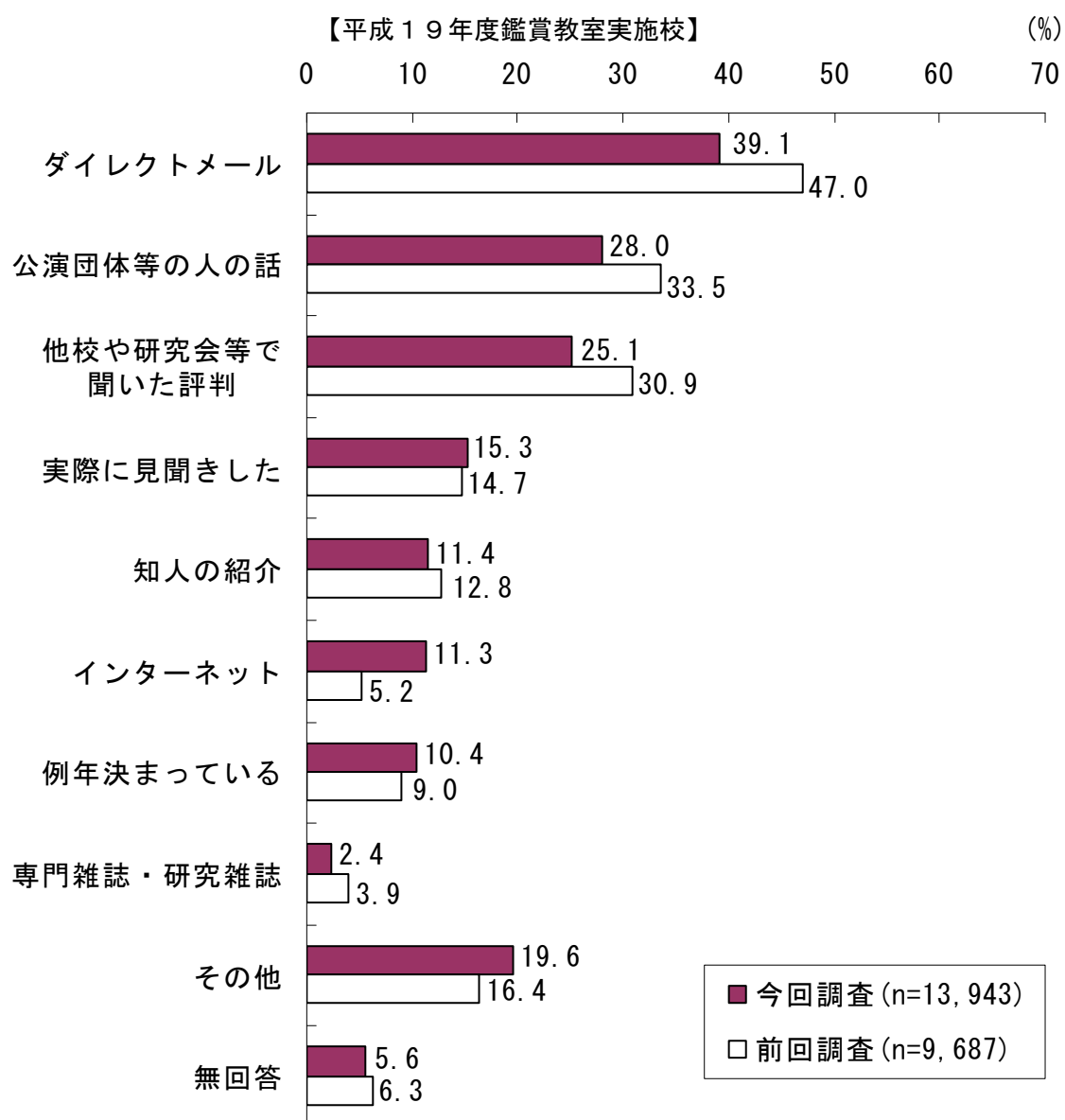
② 鑑賞教室の内容を選定する際に参考にする情報

【学校調査：問5＜学校ベース＞】〔問1で「1 実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
作品や劇団・楽団等の公演団体（以下、公演団体等）を選定する際に、どのような情報を参考にしましたか。（複数回答）

鑑賞教室の内容を選定する際に参考にする情報では、「ダイレクトメール」が 39.1%と最も高く、「公演団体等の人の話」（28.0%）、「他校や研究会等で聞いた評判」（25.1%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「ダイレクトメール」「公演団体等の人の話」「他校や研究会等で聞いた評判」の割合が前回よりも減少している一方で、「インターネット」の割合が増加している。

図表Ⅲ—36 鑑賞教室の内容を選定する際に参考にする情報（複数回答）



(3) 鑑賞教室の実施に対する支援体制

① 外部の団体による協力

【学校調査：問6＜学校ベース＞】〔問1で「1 実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞教室を実施するにあたり、何らかの団体から協力を得ましたか。（複数回答）

外部の団体による協力では、「市町村の教育委員会」が30.9%と最も高く、「地域の公立文化施設」(8.2%)、「都道府県の教育委員会」(7.7%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「市町村の教育委員会」の割合が前回よりも若干減少している。

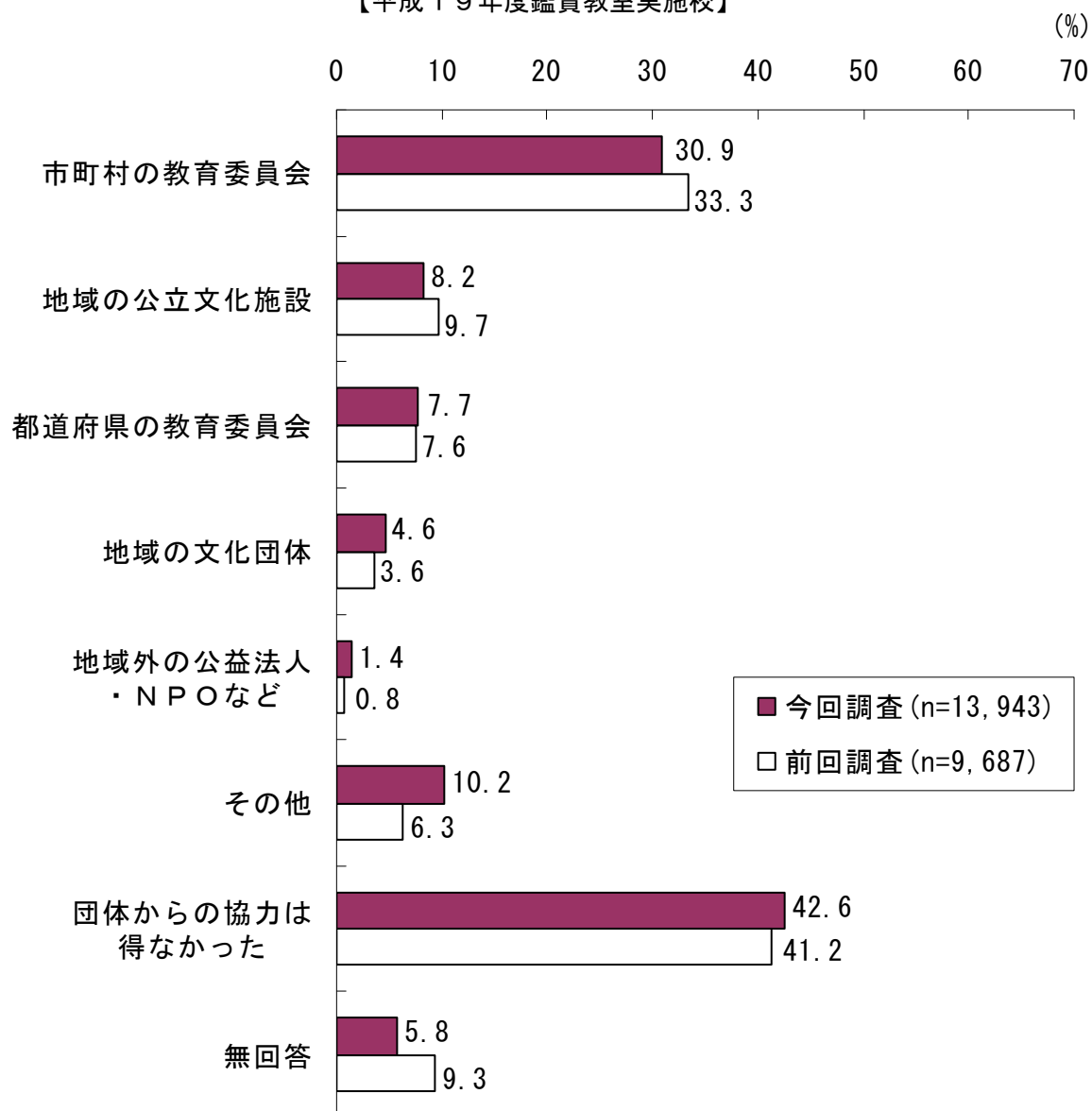
学校区分別でみると、「地域の公立文化施設」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。中学校は「市町村の教育委員会」の割合が42.4%と小学校、高等学校（全日制）よりも高く、高等学校（全日制）は「団体からの協力は得なかった」の割合が61.0%と小学校、中学校よりも高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校とも「市町村の教育委員会」は人数が少なくなるほど割合が高く、「団体からの協力は得なかった」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。高等学校（全日制）は、「400人以下」で「市町村の教育委員会」が8.1%、「都道府県の教育委員会」が13.5%と他の層よりも割合が高くなっており、「団体からの協力は得なかった」が48.9%と他の層よりも割合が低くなっている。

都道府県別でみると、「市町村の教育委員会」では「山形県」が56.6%と最も高く、「岩手県」(53.6%)、「長崎県」(52.1%)と続き、「地域の公立文化施設」では「富山県」が20.5%と最も高く、「岩手県」(20.0%)、「山形県」(19.0%)と続いている。また、「都道府県の教育委員会」では、「佐賀県」が28.6%と最も高く、「愛媛県」(25.5%)、「長崎県」(22.8%)と続き、「地域の文化団体」では「鳥取県」が19.8%と最も高く、「兵庫県」(12.7%)、「大分県」(11.5%)と続いている。なお、「団体からの協力は得なかった」では、「愛知県」が62.3%と最も高く、「神奈川県」(61.9%)、「静岡県」(61.3%)と続いている。

図表Ⅲ—37 外部の団体による協力（複数回答）

【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—38 外部の団体による協力（複数回答）【平成19年度鑑賞教室実施校】

<学校区分別・生徒数別>

(%)

		n	教 育 市 町 委 員 の 会	施 設 地 域 の 公 立 文 化	教 育 都 道 府 県 の 委 員 会	地 域 の 文 化 団 体	N 地 域 外 の 公 益 法 人 ・ P O な ど	そ の 他	得 団 体 な か ら の 協 力 は	無 回 答
全 体		13,943	30.9	8.2	7.7	4.6	1.4	10.2	42.6	5.8
区 分	小学校	8,548	33.5	6.0	6.8	4.5	1.3	11.4	42.0	6.2
	中学校	3,163	42.4	9.8	7.3	5.3	1.7	9.1	34.9	5.1
	高等学校 (全日制)	1,727	3.8	16.4	8.7	2.8	0.8	5.9	61.0	5.1
	高等学校 (定時制)	163	6.7	14.7	7.4	3.1	0.6	7.4	61.3	3.7
	中等教育学校	15	0.0	13.3	20.0	20.0	0.0	6.7	53.3	0.0
	特別支援学校	410	7.3	4.6	24.9	8.8	5.4	13.9	35.4	5.6
小学校	100人以下	2,006	53.3	9.4	9.8	5.3	1.5	11.3	21.4	6.3
	101～200人	1,492	37.1	7.2	9.5	5.2	1.8	14.2	35.3	5.7
	201～400人	2,156	28.0	4.5	5.9	4.9	1.1	12.6	46.8	5.9
	401～600人	1,566	24.3	4.5	5.0	3.0	1.0	9.0	54.1	6.1
	601人以上	1,250	19.0	3.8	2.8	3.5	1.0	8.9	59.5	7.3
中学校	100人以下	608	55.3	8.7	8.4	8.1	2.1	11.7	20.1	3.9
	101～200人	546	50.4	11.9	10.4	5.3	1.3	9.5	27.3	4.0
	201～400人	946	40.7	10.7	7.2	5.1	2.1	7.9	36.7	5.6
	401～600人	676	34.3	8.0	5.5	4.0	1.5	8.3	44.4	5.9
	601人以上	360	28.3	9.2	4.7	3.9	1.4	9.2	48.1	5.6
高等学校 (全日制)	400人以下	333	8.1	18.6	13.5	3.9	1.5	8.4	48.9	3.6
	401～600人	384	3.4	16.9	9.4	2.9	0.5	4.2	61.2	6.8
	601～800人	413	3.1	18.6	6.8	1.9	0.0	4.8	65.6	3.9
	801 ～1000人	395	2.5	14.9	8.6	3.0	1.0	4.3	62.3	6.3
	1001人以上	182	1.1	11.0	3.3	1.6	1.1	11.5	66.5	4.9

図表Ⅲ—39 外部の団体による協力（複数回答）【平成19年度鑑賞教室実施校】

<都道府県別>

（％）

	n	市町村の 教育委員会	地域の 公立文化 施設	都道府県の 教育委員会	地域の文化 団体	N地域の P O などの 公益法人・	その他	団体からの 協力は 得なかった	無回答
全 体	13,943	30.9	8.2	7.7	4.6	1.4	10.2	42.6	5.8
北海道	739	51.6	5.5	2.0	3.8	1.5	6.2	31.1	6.2
青森県	326	30.4	11.7	2.8	3.7	1.8	8.3	46.0	5.8
岩手県	425	53.6	20.0	4.2	4.9	0.9	6.1	21.9	6.4
宮城県	379	37.5	9.2	7.1	3.4	0.5	10.6	41.4	5.3
秋田県	262	40.5	7.3	11.8	3.1	0.4	8.4	37.8	5.0
山形県	311	56.6	19.0	3.2	1.6	0.3	10.3	19.6	5.1
福島県	474	33.1	7.8	5.7	2.3	0.4	11.2	47.9	3.6
茨城県	302	33.8	9.3	7.9	6.0	1.7	11.3	36.1	6.3
栃木県	355	31.3	15.8	2.5	5.6	0.3	5.6	46.2	7.6
群馬県	217	34.1	8.8	13.8	5.1	0.9	9.2	39.2	3.2
埼玉県	339	13.0	5.9	1.8	3.5	1.8	13.0	56.3	8.6
千葉県	504	17.9	5.2	6.9	2.6	0.6	14.7	52.4	8.3
東京都	567	22.2	5.6	2.5	3.7	2.6	10.1	53.8	6.5
神奈川県	465	13.8	5.8	2.4	2.8	1.3	9.0	61.9	7.3
新潟県	349	41.3	16.3	2.9	5.4	1.1	12.6	27.8	9.2
富山県	176	35.2	20.5	10.2	8.5	1.7	13.6	31.8	4.0
石川県	174	45.4	10.3	15.5	9.2	1.7	13.2	21.3	4.0
福井県	129	41.9	8.5	14.0	3.1	1.6	10.9	27.9	7.0
山梨県	185	43.2	8.6	8.6	3.2	0.5	8.1	35.1	1.6
長野県	355	37.5	7.6	16.3	3.4	2.5	9.0	27.0	7.9
岐阜県	316	26.9	6.6	13.0	4.7	0.3	11.1	43.0	4.1
静岡県	483	11.6	6.6	5.6	2.9	1.9	9.9	61.3	7.2
愛知県	637	21.0	4.6	1.9	2.2	0.8	6.1	62.3	4.9
三重県	245	21.6	3.3	9.0	4.1	1.2	18.4	46.9	7.3

(%)

	n	市町村の 教育委員会	地域の公立文化 施設	都道府県の 教育委員会	地域の文化団体	NPOなどの 地域の公益法人・	その他	団体からの協力は なかった	無回答
全 体	13,943	30.9	8.2	7.7	4.6	1.4	10.2	42.6	5.8
滋賀県	144	23.6	10.4	11.1	6.3	0.7	15.3	43.1	3.5
京都府	223	27.8	3.1	6.7	0.9	0.4	12.1	48.4	6.7
大阪府	609	20.2	4.9	1.8	2.8	1.5	5.3	60.9	6.2
兵庫県	448	18.8	10.0	17.9	12.7	1.1	10.5	35.9	6.5
奈良県	194	25.8	6.7	8.2	1.5	0.5	14.4	46.4	4.6
和歌山県	145	26.9	6.2	6.2	6.9	1.4	13.8	48.3	4.1
鳥取県	96	29.2	13.5	19.8	19.8	5.2	6.3	25.0	2.1
島根県	144	30.6	9.7	8.3	6.3	2.8	9.7	42.4	4.2
岡山県	330	19.4	6.4	5.5	3.9	1.2	9.4	55.2	8.5
広島県	337	27.9	5.3	3.0	3.9	1.2	16.3	47.5	3.9
山口県	196	42.9	13.8	12.2	9.2	1.5	14.3	27.0	3.1
徳島県	95	31.6	3.2	20.0	2.1	1.1	10.5	35.8	6.3
香川県	121	36.4	7.4	13.2	6.6	2.5	14.0	33.1	1.7
愛媛県	188	39.9	6.4	25.5	8.5	0.0	16.0	27.1	1.1
高知県	112	49.1	5.4	9.8	4.5	1.8	19.6	25.9	3.6
福岡県	441	24.0	4.1	8.4	6.3	2.5	12.5	43.1	7.3
佐賀県	119	26.9	6.7	28.6	5.9	0.8	10.9	32.8	4.2
長崎県	219	52.1	5.9	22.8	5.9	2.3	7.8	21.9	2.3
熊本県	241	39.4	5.4	12.9	3.3	1.2	6.6	40.7	5.0
大分県	139	38.1	10.8	9.4	11.5	4.3	13.7	26.6	4.3
宮崎県	257	32.7	6.2	12.1	6.2	3.1	11.7	38.1	5.1
鹿児島県	252	41.3	9.5	7.5	5.6	5.2	9.1	32.1	6.3
沖縄県	179	20.7	6.1	9.5	3.9	1.1	5.0	58.1	7.8
不 明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

② 公立文化施設の役割

【学校調査：問7＜学校ベース＞】〔問1で「1 実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞教室では、公立文化施設がどのように関与していましたか。（複数回答）

公立文化施設の役割では、「施設を利用した」が19.3%と最も高く、「利用料を減免して施設を提供してもらった」(8.6%)、「公立文化施設の企画提案に乗った」(6.1%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「施設を利用した」「公立文化施設の企画提案に乗った」の割合が前回よりも若干増加している一方で、「施設を優先的に利用させてもらった」の割合が前回よりも若干減少している。

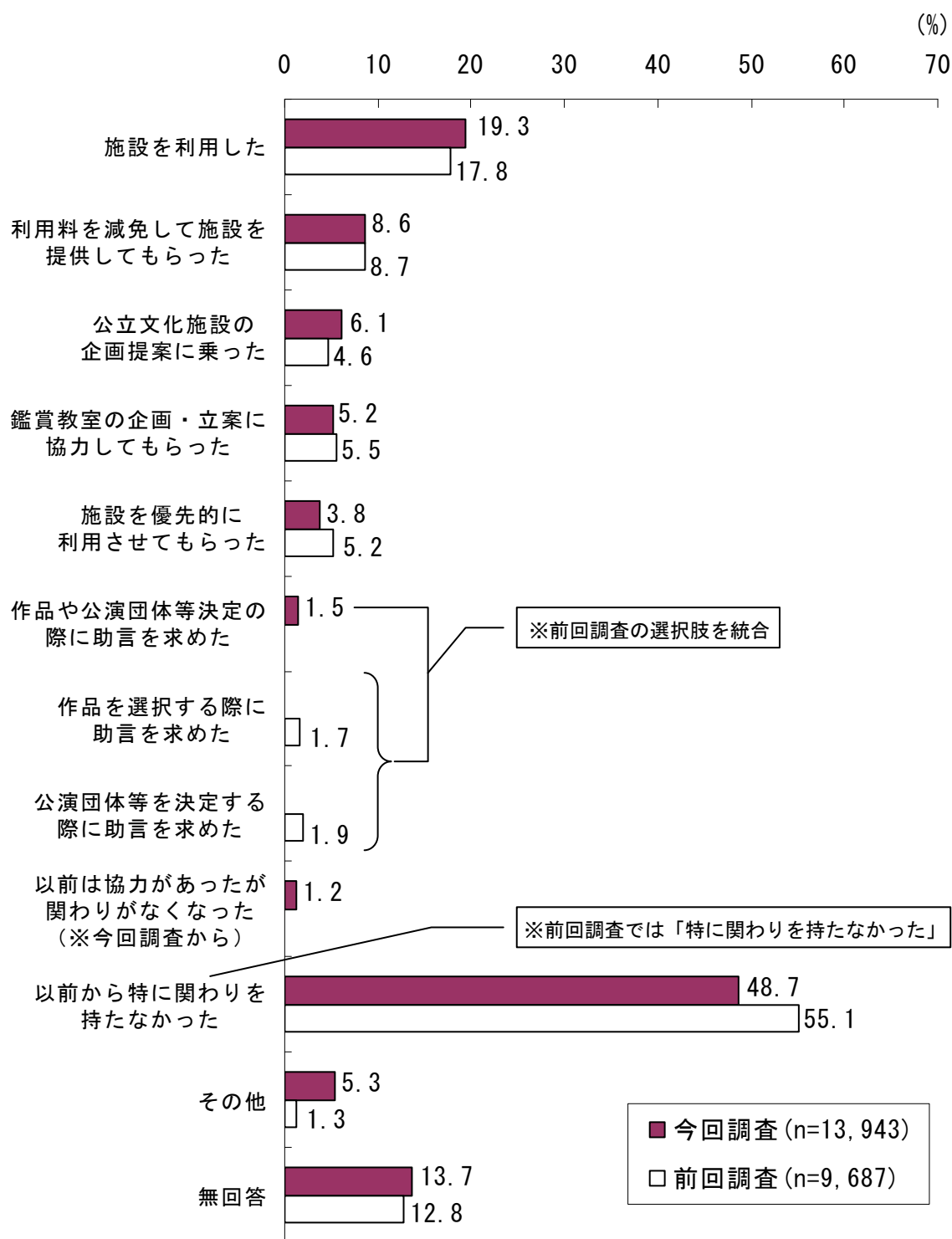
学校区分別でみると、「施設を利用した」「利用料を減免して施設を提供してもらった」は学年が高くなるほど割合が高くなり、「以前から特に関わりを持たなかった」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。

生徒数別でみると、小学校では「施設を利用した」「利用料を減免して施設を提供してもらった」「公立文化施設の企画提案に乗った」「鑑賞教室の企画・立案に協力してもらった」「施設を優先的に利用させてもらった」は人数が少なくなるほど割合が高くなり、「以前から特に関わりを持たなかった」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

中学校では「公立文化施設の企画提案に乗った」は人数が少なくなるほど割合が高くなり、「以前から特に関わりを持たなかった」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、「601人以上」で「施設を利用した」が22.8%と他の層よりも若干割合が低くなっている。

高等学校（全日制）では「601～800人」で「施設を利用した」が54.2%、「利用料を減免して施設を提供してもらった」が27.8%と他の層よりも割合が高くなっており、「以前から特に関わりを持たなかった」が18.6%と他の層よりも若干割合が低くなっている。

図表Ⅲ—40 公立文化施設の役割（複数回答）【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—41 公立文化施設の役割（複数回答）【平成19年度鑑賞教室実施校】

＜学校区分別・生徒数別＞

			(%)				
		n	施設を利用した	施設を利用した料を減免して	公立文化施設の利用を促進した	立案に協力した	施設を優先的に利用させた
全 体		13,943	19.3	8.6	6.1	5.2	3.8
区 分	小学校	8,548	12.0	4.6	6.2	5.1	2.8
	中学校	3,163	24.3	12.1	6.8	6.6	6.3
	高等学校 (全日制)	1,727	47.9	22.7	4.1	3.0	4.9
	高等学校 (定時制)	163	48.5	29.4	3.1	3.7	3.7
	中等教育学校	15	6.7	20.0	13.3	6.7	6.7
	特別支援学校	410	9.5	2.7	5.6	5.4	1.5
小学校	100人以下	2,006	22.9	7.5	9.5	6.3	5.0
	101～200人	1,492	11.4	5.1	7.6	6.2	3.3
	201～400人	2,156	9.6	3.8	5.1	5.4	2.1
	401～600人	1,566	7.2	3.5	4.0	3.7	1.9
	601人以上	1,250	5.6	2.2	4.3	3.4	1.1
中学校	100人以下	608	25.3	9.5	10.5	6.4	4.9
	101～200人	546	25.3	13.9	9.0	7.5	9.0
	201～400人	946	24.0	12.9	6.2	6.8	7.2
	401～600人	676	24.3	12.9	4.7	6.8	5.3
	601人以上	360	22.8	10.8	3.1	5.6	4.4
高等学校 (全日制)	400人以下	333	38.4	17.1	5.4	5.1	3.6
	401～600人	384	44.5	24.7	2.6	3.1	6.0
	601～800人	413	54.2	27.8	5.1	2.4	4.6
	801～1000人	395	51.4	23.5	3.0	2.3	5.1
	1001人以上	182	49.5	14.8	5.5	2.2	6.0

		(%)							
		n	求めた 決定の際に 助言等を	作品や公演 団体を	なつた たが関わり がなくなつ	以前は協力が があつた	りを前持たな 特につけたわ	その他	無回答
全 体		13, 943	1. 5	1. 2	48. 7	5. 3	13. 7		
区 分	小学校	8, 548	1. 3	0. 9	55. 9	5. 3	15. 3		
	中学校	3, 163	2. 1	1. 3	41. 4	5. 7	13. 2		
	高等学校 （全日制）	1, 727	1. 6	2. 1	24. 7	4. 1	6. 1		
	高等学校 （定時制）	163	2. 5	1. 8	22. 1	3. 1	3. 7		
	中等教育学校	15	0. 0	0. 0	60. 0	0. 0	0. 0		
	特別支援学校	410	0. 5	1. 0	57. 1	6. 1	15. 9		
小学校	1 0 0人以下	2, 006	1. 6	1. 0	36. 4	9. 5	15. 7		
	1 0 1～2 0 0人	1, 492	1. 9	1. 1	52. 8	4. 8	16. 2		
	2 0 1～4 0 0人	2, 156	1. 2	1. 1	61. 7	4. 7	14. 2		
	4 0 1～6 0 0人	1, 566	1. 1	0. 9	66. 4	3. 3	14. 3		
	6 0 1人以上	1, 250	0. 8	0. 4	67. 7	2. 9	16. 9		
中学校	1 0 0人以下	608	1. 8	1. 2	32. 2	6. 9	17. 8		
	1 0 1～2 0 0人	546	2. 9	0. 5	39. 2	6. 4	11. 2		
	2 0 1～4 0 0人	946	1. 6	1. 0	42. 6	5. 1	13. 8		
	4 0 1～6 0 0人	676	2. 5	1. 8	45. 3	4. 6	11. 7		
	6 0 1人以上	360	1. 9	2. 8	48. 9	6. 1	9. 7		
高等学校 （全日制）	4 0 0人以下	333	2. 1	2. 1	34. 5	4. 8	6. 9		
	4 0 1～6 0 0人	384	0. 8	2. 1	26. 3	4. 2	5. 7		
	6 0 1～8 0 0人	413	1. 5	2. 2	18. 6	3. 4	4. 6		
	8 0 1～1 0 0 0人	395	2. 0	2. 8	21. 5	5. 1	6. 1		
	1 0 0 1人以上	182	1. 6	1. 1	24. 7	2. 7	8. 2		

③ 公演料の支払いの有無

【学校調査：問8＜学校ベース＞】〔問1で「1 実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
その鑑賞教室で貴校は、公演団体等（または文化施設等）に公演料を支払いましたか。

公演料の支払いの有無では、「支払った」が 65.9%で、「支払わなかった」が 32.9%となっている。

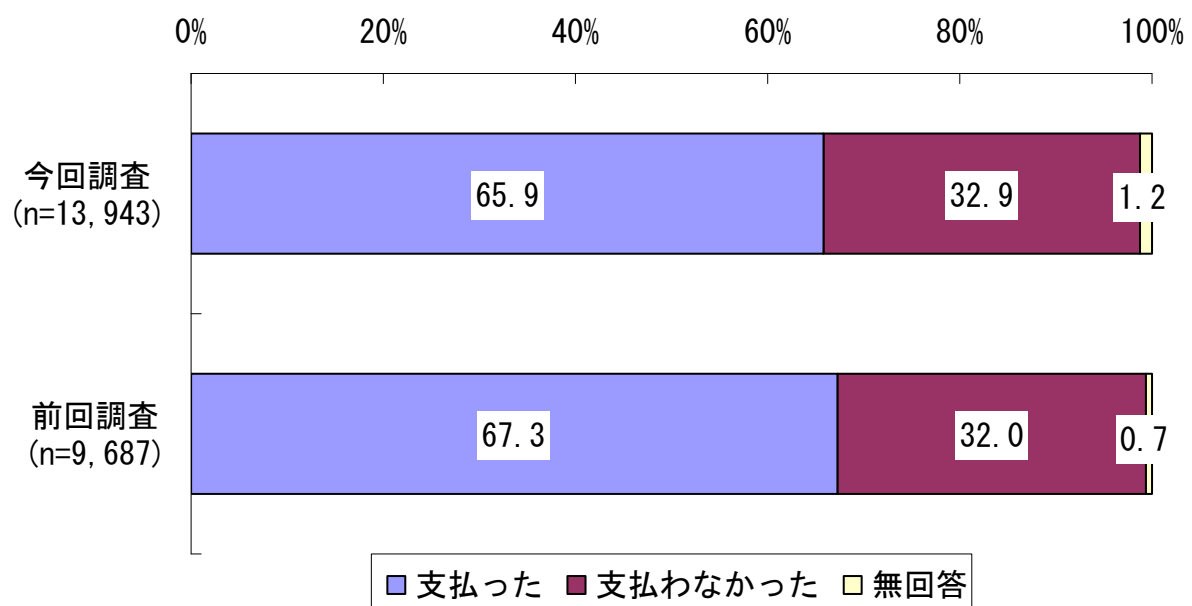
前回調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向である。

学校区分別でみると、「支払った」割合が高等学校（全日制）で 94.4%と小学校、中学校よりも高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数が多くなるほど「支払った」割合が高くなる傾向にある。

都道府県別でみると、「支払った」割合は「長野県」が 88.5%と最も高く、「大阪府」（83.9%）、「山形県」（83.0%）と続いている。

図表Ⅲ—42 公演料の支払いの有無【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—43 公演料の支払いの有無【平成19年度鑑賞教室実施校】

<学校区分別・生徒数別>

		(%)			
		n	支払った	支払わなかった	無回答
全 体		13,943	65.9	32.9	1.2
区 分	小学校	8,548	63.9	35.0	1.1
	中学校	3,163	58.8	40.1	1.2
	高等学校 (全日制)	1,727	94.4	4.3	1.3
	高等学校 (定時制)	163	96.3	3.7	0.0
	中等教育学校	15	93.3	0.0	6.7
	特別支援学校	410	40.2	57.6	2.2
小学校	100人以下	2,006	42.4	56.2	1.4
	101～200人	1,492	56.8	41.9	1.3
	201～400人	2,156	70.7	28.2	1.1
	401～600人	1,566	75.9	23.4	0.7
	601人以上	1,250	79.4	19.4	1.1
中学校	100人以下	608	37.2	61.8	1.0
	101～200人	546	50.0	48.4	1.6
	201～400人	946	62.3	36.6	1.2
	401～600人	676	71.0	28.0	1.0
	601人以上	360	76.1	22.8	1.1
高等学校 (全日制)	400人以下	333	86.8	11.4	1.8
	401～600人	384	94.0	4.7	1.3
	601～800人	413	96.6	1.7	1.7
	801～1000人	395	97.7	2.0	0.3
	1001人以上	182	97.3	1.6	1.1

図表Ⅲ—44 公演料の支払いの有無【平成19年度鑑賞教室実施校】

<都道府県別>

(%)

	n	支払った	支払わなかった	無回答
全 体	13,943	65.9	32.9	1.2
北海道	739	42.1	57.0	0.9
青森県	326	73.3	26.4	0.3
岩手県	425	68.0	31.3	0.7
宮城県	379	55.1	44.1	0.8
秋田県	262	82.8	16.4	0.8
山形県	311	83.0	16.7	0.3
福島県	474	68.4	30.6	1.1
茨城県	302	62.9	35.8	1.3
栃木県	355	75.8	23.4	0.8
群馬県	217	73.7	25.3	0.9
埼玉県	339	77.3	22.1	0.6
千葉県	504	70.0	28.6	1.4
東京都	567	69.5	28.2	2.3
神奈川県	465	80.6	17.0	2.4
新潟県	349	68.8	29.8	1.4
富山県	176	74.4	25.0	0.6
石川県	174	44.3	54.6	1.1
福井県	129	48.1	50.4	1.6
山梨県	185	64.3	35.7	0.0
長野県	355	88.5	11.0	0.6
岐阜県	316	68.0	30.7	1.3
静岡県	483	79.5	19.0	1.4
愛知県	637	82.3	17.0	0.8
三重県	245	70.6	28.2	1.2

(%)

	n	支払った	支払わなかった	無回答
全 体	13,943	65.9	32.9	1.2
滋賀県	144	75.0	25.0	0.0
京都府	223	66.8	31.4	1.8
大阪府	609	83.9	14.1	2.0
兵庫県	448	71.7	26.3	2.0
奈良県	194	69.6	29.9	0.5
和歌山県	145	68.3	30.3	1.4
鳥取県	96	24.0	75.0	1.0
島根県	144	65.3	34.0	0.7
岡山県	330	73.3	26.4	0.3
広島県	337	59.6	39.2	1.2
山口県	196	49.5	48.5	2.0
徳島県	95	40.0	56.8	3.2
香川県	121	43.0	57.0	0.0
愛媛県	188	35.6	63.8	0.5
高知県	112	38.4	58.0	3.6
福岡県	441	65.8	33.1	1.1
佐賀県	119	42.0	55.5	2.5
長崎県	219	16.9	82.6	0.5
熊本県	241	54.4	44.8	0.8
大分県	139	33.1	64.7	2.2
宮崎県	257	45.9	52.5	1.6
鹿児島県	252	50.0	49.2	0.8
沖縄県	179	71.5	26.8	1.7
不 明	0	0.0	0.0	0.0

④ 公演料の負担・支援

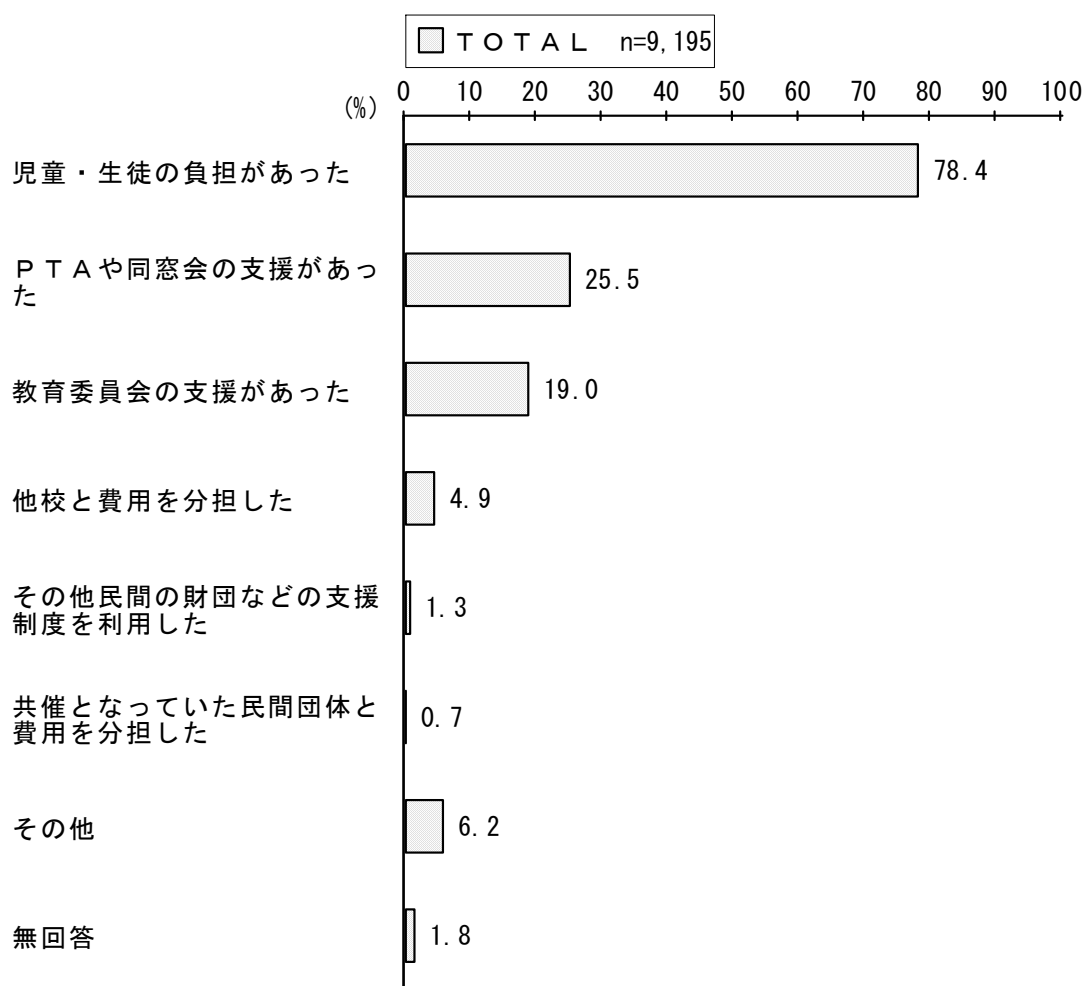
【学校調査：付問８－１＜学校ベース＞】〔問８で「１支払った」を選択した学校にお尋ねします。〕
その鑑賞教室では、児童・生徒の負担や学外の支援・分担がありましたか。（複数回答）

公演料の負担・支援では、「児童・生徒の負担があった」が78.4%で最も高く、「PTAや同窓会の支援があった」(25.5%)、「教育委員会の支援があった」(19.0%)と続いている。

学校区分別でみると、「PTAや同窓会の支援があった」は学年が低くなるほど割合が高くなり、「他校と費用を分担した」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、中学校は「教育委員会の支援があった」が25.0%と小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっており、高等学校（全日制）は「児童・生徒の負担があった」が88.7%と小学校、中学校よりも割合が高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「教育委員会の支援があった」「他校と費用を分担した」は人数が少なくなるほど割合が高くなる傾向にある。また、小学校、中学校とも「児童・生徒の負担があった」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にあり、中学校では「PTAや同窓会の支援があった」は人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—45 公演料の負担・支援（複数回答）【公演料支払有り】



図表Ⅲ—46 公演料の負担・支援（複数回答）【公演料支払有り】

<学校区分別・生徒数別>

（％）

		n	が児童・生徒の負担	PTAや同窓会の支援があつた	が教育委員会の支援があつた	他校と費用を分担	利用したその他の民間の財を支援した	分間団体となつて費用をた	共催となつて費用をた	その他	無回答
全 体		9,195	78.4	25.5	19.0	4.9	1.3	0.7	6.2	1.8	
区 分	小学校	5,460	78.9	28.4	20.3	3.9	1.1	0.8	5.7	1.6	
	中学校	1,859	72.0	21.9	25.0	5.9	1.5	0.8	6.0	2.2	
	高等学校 （全日制）	1,631	88.7	18.7	8.6	7.1	1.3	0.1	6.2	1.9	
	高等学校 （定時制）	157	86.0	21.7	9.6	9.6	1.3	0.0	7.0	3.2	
	中等教育学校	14	85.7	14.3	0.0	21.4	7.1	0.0	7.1	0.0	
	特別支援学校	165	36.4	38.8	16.4	3.0	3.0	1.2	20.6	2.4	
小学校	100人以下	850	67.8	27.5	32.2	12.2	2.4	1.5	6.7	1.4	
	101～200人	848	72.4	36.1	22.9	4.5	1.3	0.8	7.5	1.1	
	201～400人	1,525	78.2	31.7	19.3	3.0	0.7	0.9	6.1	1.6	
	401～600人	1,189	84.4	23.2	16.8	1.8	1.1	0.5	5.0	1.9	
	601人以上	993	87.5	24.4	14.1	0.2	0.6	0.3	3.6	1.7	
中学校	100人以下	226	63.7	19.0	34.1	14.2	0.9	0.9	10.2	0.4	
	101～200人	273	69.2	19.0	29.7	8.8	1.8	0.7	9.5	2.6	
	201～400人	589	74.9	21.9	23.4	6.5	0.8	1.4	5.1	2.4	
	401～600人	480	70.6	23.5	24.4	2.9	1.5	0.4	4.8	2.5	
	601人以上	274	77.0	24.5	17.9	0.4	2.6	0.4	3.3	2.2	
高等学校 （全日制）	400人以下	289	81.3	23.9	13.1	12.8	1.7	0.0	6.9	2.8	
	401～600人	361	87.8	21.9	8.3	8.6	0.8	0.0	4.7	1.7	
	601～800人	399	92.0	16.5	7.5	5.8	1.3	0.3	4.8	2.3	
	801～1000人	386	91.7	15.3	8.8	5.7	0.8	0.0	5.7	0.8	
	1001人以上	177	88.1	16.4	3.4	1.1	3.4	0.6	11.3	2.8	

⑤ 児童・生徒が負担した金額

【学校調査：付問８－１－１＜学校ベース＞】

〔付問８－１で「１負担があった」を選択した学校にお尋ねします。〕

児童・生徒の負担があった（児童・生徒１人当たりの負担額）

児童・生徒の負担した金額では、「301～500 円」が 18.3%と最も高く、「501～700 円」(18.1%)、「801～1000 円」(17.9%)と続いている。

学校区分別でみると、平均金額は小学校で 648 円、中学校で 1,073 円、高等学校（全日制）で 1,697 円と学年が高くなるほど負担する金額が高くなる傾向にある。

生徒数別でみると、平均金額は小学校では 620 円～670 円程度であり、中学校では「100 人以下」が 1,193 円と他の層よりも高くなっている。高等学校（全日制）では人数が少なくなるほど負担する金額が高くなる傾向にある。

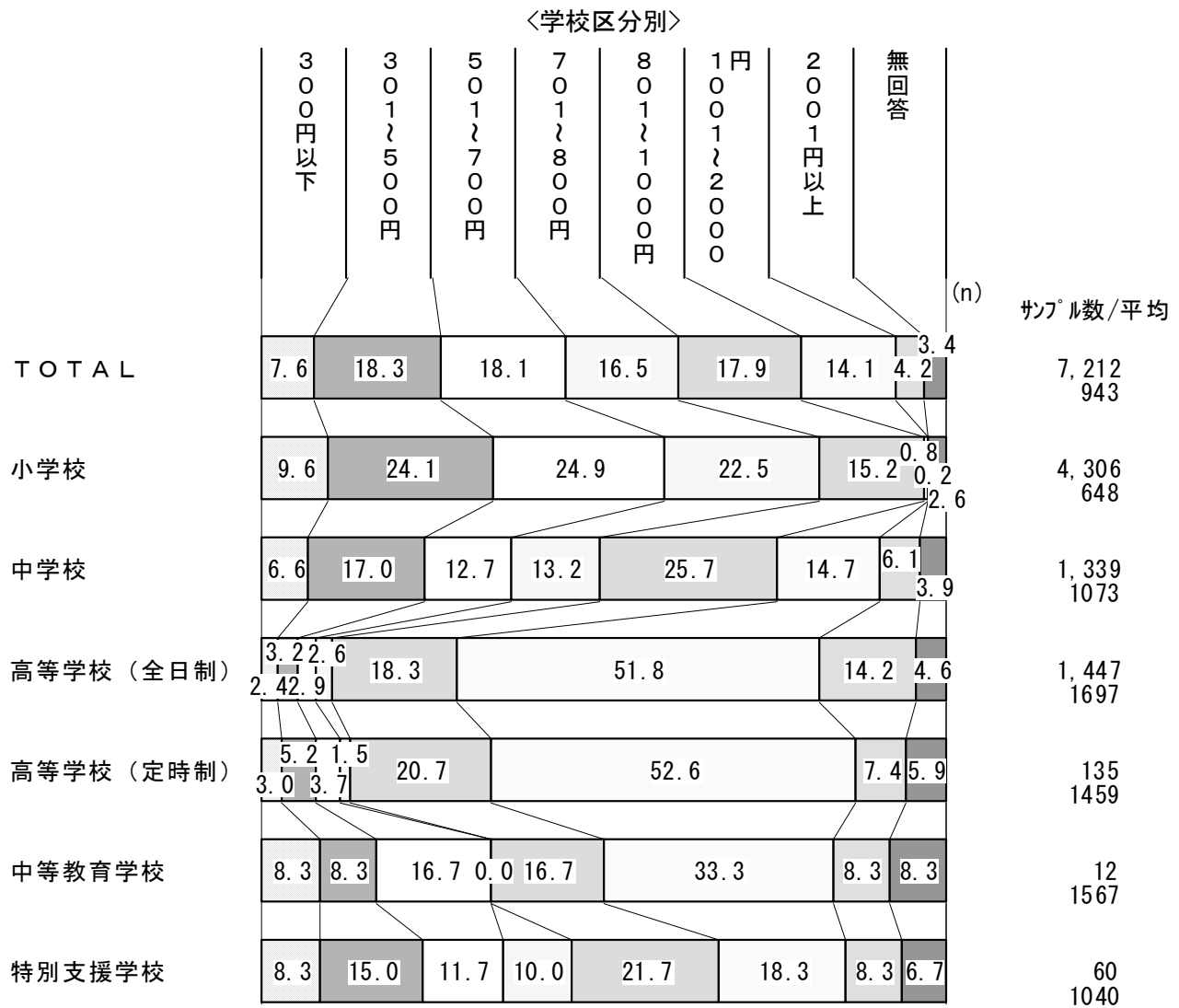
都道府県別でみると、平均金額は「東京都」が 1,720 円と最も高く、「京都府」(1,467 円)、「石川県」(1,234 円)と続いている。

学校設置者別にみると、平均金額は「公立」で 856 円、「私立」で 2,137 円と、私立は公立の 2.5 倍の金額となっている。

公立校に関して学校区分別でみると、平均金額は小学校で 641 円、中学校で 901 円、高等学校（全日制）で 1,587 円と学年が高くなるほど負担する金額が高くなる傾向にある。

公立校に関して生徒数別でみると、平均金額は小学校では 620 円～660 円程度であり、中学校では「601 人以上」が 785 円と他の層よりも低くなっている。高等学校（全日制）では人数が少なくなるほど負担する金額が高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—47 児童・生徒が負担した金額（１人当たり）【公演料支払有り】



図表Ⅲ—48 児童・生徒が負担した金額（１人当たり）【公演料支払有り】

<生徒数別>

			(%)								
		n	3 0 0 円 以下	3 0 1 5 0 0 円	5 0 1 5 7 0 0 円	7 0 1 5 8 0 0 円	1 8 0 0 0 1 0 5 円	2 1 0 0 0 0 0 1 円 5	2 0 0 0 1 円 以上	無 回 答	平 均
全 体		7,212	7.6	18.3	18.1	16.5	17.9	14.1	4.2	3.4	943
小学校	100人以下	576	11.5	34.7	15.5	18.1	16.1	1.2	0.7	2.3	647
	101～200人	614	14.2	26.5	17.4	22.5	16.0	1.6	0.0	1.8	623
	201～400人	1,193	9.4	22.8	21.0	25.0	18.8	0.6	0.1	2.3	654
	401～600人	1,004	7.6	21.0	29.4	25.7	12.4	0.4	0.1	3.5	644
	601人以上	869	8.1	20.8	36.5	18.2	12.5	0.7	0.2	3.0	662
中学校	100人以下	144	5.6	14.6	11.1	11.8	29.9	14.6	7.6	4.9	1,193
	101～200人	189	6.9	18.0	8.5	12.2	23.8	19.6	5.3	5.8	1,054
	201～400人	441	6.3	15.6	12.2	14.7	24.3	17.0	5.9	3.9	1,077
	401～600人	339	5.9	19.2	15.0	12.4	27.4	12.7	4.7	2.7	1,052
	601人以上	211	9.5	16.6	15.2	12.8	24.6	9.5	8.5	3.3	1,041
高等学校 (全日制)	400人以下	235	2.6	2.6	3.4	3.0	17.4	40.0	24.3	6.8	1,907
	401～600人	317	2.2	2.8	1.6	3.2	12.9	56.8	17.4	3.2	1,800
	601～800人	367	2.5	3.3	2.7	1.6	15.5	59.7	9.0	5.7	1,673
	801 ～1000人	354	2.3	3.7	3.7	3.1	23.7	50.6	9.3	3.7	1,468
	1001人以上	156	3.2	3.2	3.2	1.9	24.4	42.9	16.7	4.5	1,761

図表Ⅲ—49 児童・生徒が負担した金額（１人当たり）【公演料支払有り】

<都道府県別>

(%)

	n	3 0 0 円 以下	3 0 1 5 0 0 円	5 0 1 7 0 0 円	7 0 1 8 0 0 円	1 8 0 0 0 1 0 5 円	2 1 0 0 0 0 0 1 円 5	2 0 0 1 円 以上	無 回 答	平 均
全 体	7,212	7.6	18.3	18.1	16.5	17.9	14.1	4.2	3.4	943
北海道	250	9.2	10.8	16.8	28.0	10.4	20.4	1.6	2.8	913
青森県	214	5.6	12.6	16.8	20.1	32.2	8.9	0.9	2.8	848
岩手県	274	5.1	20.4	12.0	15.0	25.5	18.6	2.6	0.7	916
宮城県	183	2.2	12.6	19.7	24.0	10.4	25.1	3.8	2.2	1,078
秋田県	195	3.1	25.6	13.8	16.9	20.0	17.9	1.0	1.5	835
山形県	235	4.3	26.4	24.7	10.6	13.2	13.6	2.6	4.7	915
福島県	268	5.2	21.6	21.6	26.1	10.4	12.7	0.4	1.9	792
茨城県	116	20.7	31.9	12.1	7.8	10.3	7.8	5.2	4.3	963
栃木県	226	6.6	15.5	23.9	22.1	18.6	7.1	3.5	2.7	916
群馬県	135	4.4	39.3	25.2	5.2	12.6	6.7	5.2	1.5	998
埼玉県	196	7.1	20.9	20.9	12.8	9.7	17.9	7.7	3.1	1,058
千葉県	236	8.1	27.1	20.3	9.7	9.7	15.7	5.5	3.8	974
東京都	311	2.3	3.5	10.9	17.0	21.5	20.6	19.9	4.2	1,720
神奈川県	311	4.2	12.9	23.5	22.2	8.0	17.7	7.7	3.9	1,177
新潟県	197	6.1	7.6	8.1	20.3	42.1	12.7	1.0	2.0	940
富山県	109	12.8	20.2	25.7	13.8	11.0	13.8	0.9	1.8	741
石川県	65	10.8	9.2	12.3	13.8	4.6	46.2	0.0	3.1	1,234
福井県	45	11.1	11.1	37.8	11.1	13.3	11.1	2.2	2.2	799
山梨県	59	11.9	22.0	28.8	5.1	13.6	6.8	5.1	6.8	836
長野県	293	3.4	6.1	9.2	21.2	38.6	16.7	1.4	3.4	930
岐阜県	146	6.2	18.5	8.2	15.1	32.2	15.1	0.7	4.1	825
静岡県	319	6.0	15.4	11.0	14.4	32.0	17.6	1.9	1.9	875
愛知県	401	6.0	20.9	14.0	11.2	27.2	9.0	8.2	3.5	1,036
三重県	91	11.0	27.5	20.9	9.9	16.5	2.2	5.5	6.6	773

(%)

	n	3 0 0 円 以下	3 0 1 5 0 0 円	5 0 1 7 0 0 円	7 0 1 8 0 0 円	1 8 0 0 0 1 0 5 円	2 1 0 0 0 0 1 円	2 0 0 0 1 円 以上	無 回 答	平 均
全 体	7,212	7.6	18.3	18.1	16.5	17.9	14.1	4.2	3.4	943
滋賀県	80	12.5	22.5	21.3	6.3	3.8	25.0	5.0	3.8	1,020
京都府	121	4.1	12.4	20.7	10.7	9.1	19.0	17.4	6.6	1,467
大阪府	403	8.9	11.7	24.1	9.9	12.4	20.6	6.5	6.0	1,033
兵庫県	253	11.1	26.5	22.5	11.1	15.0	6.7	0.8	6.3	679
奈良県	80	16.3	18.8	17.5	8.8	20.0	8.8	5.0	5.0	860
和歌山県	72	18.1	29.2	26.4	16.7	4.2	4.2	0.0	1.4	571
鳥取県	19	10.5	5.3	47.4	15.8	21.1	0.0	0.0	0.0	675
島根県	73	15.1	21.9	24.7	27.4	0.0	6.8	1.4	2.7	684
岡山県	185	11.9	34.1	11.9	17.3	10.3	10.8	0.0	3.8	674
広島県	146	6.8	19.9	18.5	28.8	10.3	8.9	4.1	2.7	867
山口県	51	11.8	21.6	33.3	11.8	9.8	5.9	0.0	5.9	649
徳島県	27	14.8	25.9	11.1	29.6	7.4	11.1	0.0	0.0	668
香川県	29	17.2	27.6	10.3	0.0	10.3	27.6	6.9	0.0	946
愛媛県	44	18.2	13.6	9.1	27.3	11.4	20.5	0.0	0.0	783
高知県	28	25.0	35.7	17.9	10.7	3.6	3.6	0.0	3.6	556
福岡県	232	12.1	21.1	18.1	16.8	12.9	6.9	6.0	6.0	863
佐賀県	39	2.6	38.5	15.4	7.7	10.3	23.1	0.0	2.6	777
長崎県	23	4.3	17.4	8.7	21.7	21.7	13.0	4.3	8.7	874
熊本県	92	9.8	26.1	23.9	12.0	14.1	13.0	1.1	0.0	754
大分県	27	18.5	14.8	18.5	7.4	25.9	14.8	0.0	0.0	746
宮崎県	103	2.9	17.5	25.2	27.2	19.4	3.9	1.9	1.9	797
鹿児島県	87	16.1	19.5	19.5	13.8	21.8	6.9	1.1	1.1	723
沖縄県	123	4.9	7.3	17.9	34.1	26.0	7.3	0.0	2.4	788
不 明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0

図表Ⅲ—50 児童・生徒が負担した金額（１人当たり）【公演料支払有り】

<学校設置者別>

			(%)									
			付問 8－1－1									
			n	3 0 0 円 以 下	3 0 1 5 0 0 円	5 0 1 5 7 0 0 円	7 0 1 5 8 0 0 円	1 8 0 0 0 1 0 5 円	2 1 0 0 0 0 0 1 円 5	2 0 0 0 1 円 以 上	無 回 答	平 均
全 体			7,212	7.6	18.3	18.1	16.5	17.9	14.1	4.2	3.4	943
学 校 設 置 者	国立	35	11.4	5.7	11.4	8.6	25.7	20.0	11.4	5.7	1,471	
	公立	6,616	7.9	19.4	19.0	17.5	18.0	12.4	2.7	3.0	856	
	私立	503	2.4	5.2	5.8	3.6	15.1	35.2	24.3	8.5	2,137	

図表Ⅲ—51 児童・生徒が負担した金額（１人当たり）【公演料支払有り】

〔公立校〕＜学校区分別・生徒数別＞

			(%)								
		n	3 0 0 円 以下	3 0 1 5 0 0 円	5 0 1 5 7 0 0 円	7 0 1 5 8 0 0 円	1 8 0 0 0 1 0 5 円	2 1 0 0 0 0 0 1 円 5	2 0 0 0 1 円 以上	無 回 答	平 均
全 体		6,616	7.9	19.4	19.0	17.5	18.0	12.4	2.7	3.0	856
区 分	小学校	4,202	9.7	24.3	25.0	22.5	15.2	0.7	0.1	2.5	641
	中学校	1,169	7.5	18.9	13.6	14.5	27.0	12.3	2.7	3.3	901
	高等学校 (全日制)	1,145	2.3	3.1	3.1	3.0	18.9	54.1	11.8	3.8	1,587
	高等学校 (定時制)	128	3.1	5.5	2.3	1.6	21.9	52.3	7.0	6.3	1,423
	中等教育学校	7	0.0	14.3	28.6	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	954
	特別支援学校	55	7.3	14.5	12.7	10.9	23.6	18.2	7.3	5.5	1,028
小学校	100人以下	566	11.5	34.8	15.5	18.0	15.9	1.2	0.7	2.3	647
	101～200人	605	14.4	26.4	17.7	22.5	15.9	1.5	0.0	1.7	621
	201～400人	1,181	9.4	22.9	21.2	25.0	18.7	0.5	0.1	2.3	654
	401～600人	969	7.5	21.6	29.5	25.6	12.2	0.2	0.1	3.3	639
	601人以上	834	8.2	20.9	36.9	18.2	12.5	0.5	0.0	2.9	632
中学校	100人以下	126	6.3	16.7	12.7	12.7	32.5	11.1	4.0	4.0	975
	101～200人	165	7.3	20.0	9.1	13.3	26.1	17.0	1.8	5.5	874
	201～400人	398	7.0	17.1	13.3	16.3	24.9	14.8	3.3	3.3	930
	401～600人	298	6.7	20.5	16.1	13.4	27.5	10.7	2.3	2.7	911
	601人以上	168	11.9	20.2	15.5	14.3	28.0	6.5	1.8	1.8	785
高等学校 (全日制)	400人以下	185	2.2	2.7	4.3	3.2	18.4	41.1	22.7	5.4	1,747
	401～600人	265	1.9	3.0	1.5	3.4	14.0	59.2	14.7	2.3	1,741
	601～800人	307	2.3	2.6	2.6	2.0	16.3	61.9	7.5	4.9	1,612
	801 ～1000人	311	2.3	4.2	4.2	3.5	23.5	51.4	7.7	3.2	1,387
	1001人以上	62	4.8	1.6	3.2	3.2	29.0	46.8	8.1	3.2	1,286

⑥ 公演料を支払わなかった理由

【学校調査：付問8－2＜学校ベース＞】〔問8で「2支払わなかった」を選択した学校にお尋ねします。〕
その理由は何ですか。（複数回答）

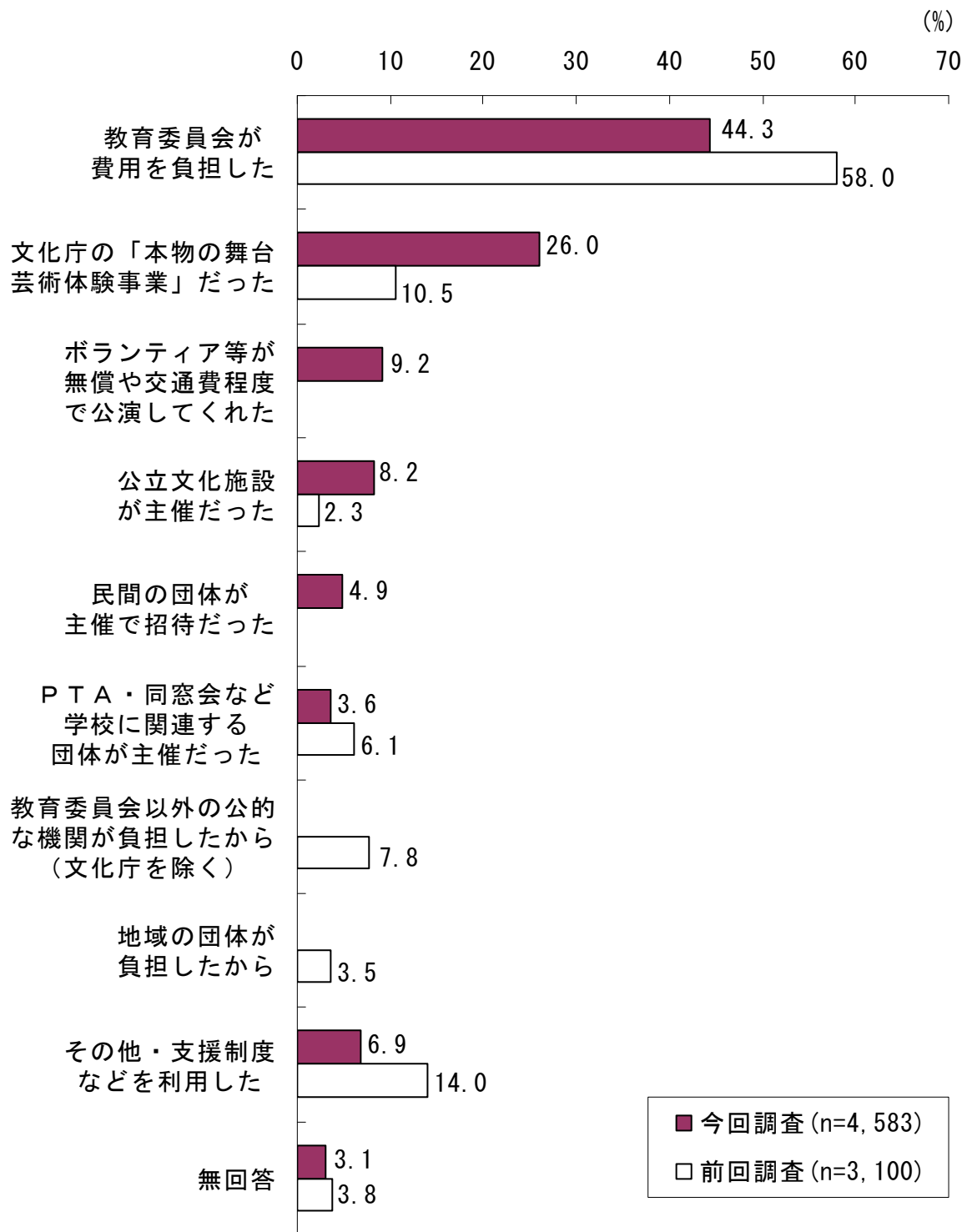
公演料を支払わなかった理由では、「教育委員会が費用を負担した」が44.3%で最も高く、「文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だった」(26.0%)、「ボランティア等が無償や交通費程度で公演してくれた」(9.2%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だった」「公立文化施設が主催だった」の割合が前回よりも増加している一方で、「教育委員会が費用を負担した」「その他・支援制度などを利用した」の割合が前回よりも減少している。

学校区分別でみると、「文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だった」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、中学校は「教育委員会が費用を負担した」が52.7%と小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっており、高等学校（全日制）は「その他・支援制度などを利用した」が18.9%と小学校、中学校より割合が高くなっている。

生徒数別でみると、小学校では「100人以下」で「教育委員会が費用を負担した」が48.8%、「601人以上」で「ボランティア等が無償や交通費程度で公演してくれた」が13.2%と他の層より割合が高く、「100人以下」で「文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だった」が24.4%と他の層より割合が低くなっている。

図表Ⅲ—52 公演料を支払わなかった理由（複数回答）【公演料支払無し】



※「教育委員会が費用を負担した」は前回調査では「教育委員会が支払ったから」
「文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だった」は前回調査では「文化庁の主催だったから」
「公立文化施設が主催だった」は前回調査では「公立文化施設が負担したから」
「P T A・同窓会など学校に関連する団体が主催だった」は前回調査では「P T Aが負担したから」
「その他・支援制度などを利用した」は前回調査では「その他」
「ボランティア等が無償や交通費程度で公演してくれた」「民間の団体が主催で招待だった」は今回調査から
「教育委員会以外の公的な機関が負担したから（文化庁を除く）」「地域の団体が負担したから」は前回調査のみ

図表Ⅲ—53 公演料を支払わなかった理由（複数回答）【公演料支払無し】

<学校区分別・生徒数別>

(%)

		n	を教 育担 任員 が 費 用	業舞 「台 だ芸 つ術 の た体 験本 事 物 の	で無 公償 演や し交 通費 ア れ 程 度 が	催公 だ立 つ文 化施 設 が 主	で民 間の 団体 が主 催	団ど 体学 が校 主に 催関 連窓 つす 会 た る な	なそ のを 他利 ・用 支 援 た 制 度	無 回 答
全 体		4,583	44.3	26.0	9.2	8.2	4.9	3.6	6.9	3.1
区 分	小学校	2,992	41.9	28.0	9.2	8.9	3.9	3.9	7.2	3.1
	中学校	1,267	52.7	24.5	6.2	6.7	5.0	2.8	6.0	2.5
	高等学校 (全日制)	74	32.4	9.5	10.8	5.4	9.5	8.1	18.9	8.1
	高等学校 (定時制)	6	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	33.3
	中等教育学校	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	特別支援学校	236	33.1	13.6	24.2	7.6	16.1	3.0	4.2	3.8
小学校	100人以下	1,128	48.8	24.4	7.9	9.0	3.2	2.6	7.3	2.4
	101～200人	625	36.2	31.7	8.3	10.4	4.6	4.2	8.2	4.0
	201～400人	607	39.5	30.1	10.5	7.1	4.9	4.6	7.4	2.6
	401～600人	366	38.8	31.7	10.1	8.5	3.6	3.0	6.6	2.5
	601人以上	243	33.7	25.1	13.2	9.5	3.3	9.1	5.3	6.2
中学校	100人以下	376	51.9	22.9	7.4	4.8	8.0	1.9	8.5	3.5
	101～200人	264	49.6	29.9	6.1	8.3	2.3	2.3	3.8	2.7
	201～400人	346	54.6	23.7	5.8	6.6	5.5	2.9	5.2	1.7
	401～600人	189	55.6	23.8	5.8	7.9	4.2	1.1	3.7	1.6
	601人以上	82	51.2	20.7	3.7	8.5	0.0	11.0	11.0	3.7
高等学校 (全日制)	400人以下	38	39.5	13.2	7.9	7.9	13.2	5.3	13.2	5.3
	401～600人	18	22.2	5.6	27.8	0.0	5.6	0.0	27.8	11.1
	601～800人	7	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	28.6
	801 ～1000人	8	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	0.0
	1001人以上	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0

4. 学校教育における鑑賞教室のあり方

(1) 学校教育における鑑賞教室の活かし方

【学校調査：問9＜学校ベース＞】

学校教育において、鑑賞教室をどのように活かしていますか。（複数回答）

学校教育における鑑賞教室の活かし方では、「内容を事前に学習して舞台芸術に親しむきっかけを作る」が73.7%で最も高く、「作品について感想文を書く」（48.7%）、「学芸会や文化祭等に活かす」（37.1%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「内容を事前に学習して舞台芸術に親しむきっかけを作る」「学芸会や文化祭等に活かす」「舞台芸術に児童・生徒が参加できるよう事前に練習する」「地域との交流を行う機会として利用している」「公演団体等から指導を受ける機会を増やす」の割合が前回よりも増加している。

学校区分別でみると、「内容を事前に学習して舞台芸術に親しむきっかけを作る」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にあり、「舞台芸術に児童・生徒が参加できるよう事前に練習する」「通常の教科の一環として位置づけている」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、小学校は「作品について感想文を書く」が54.5%、「ホームルーム等で意見交換をする」が16.0%と中学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっており、中学校は「学芸会や文化祭等に活かす」が42.6%と小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっている。

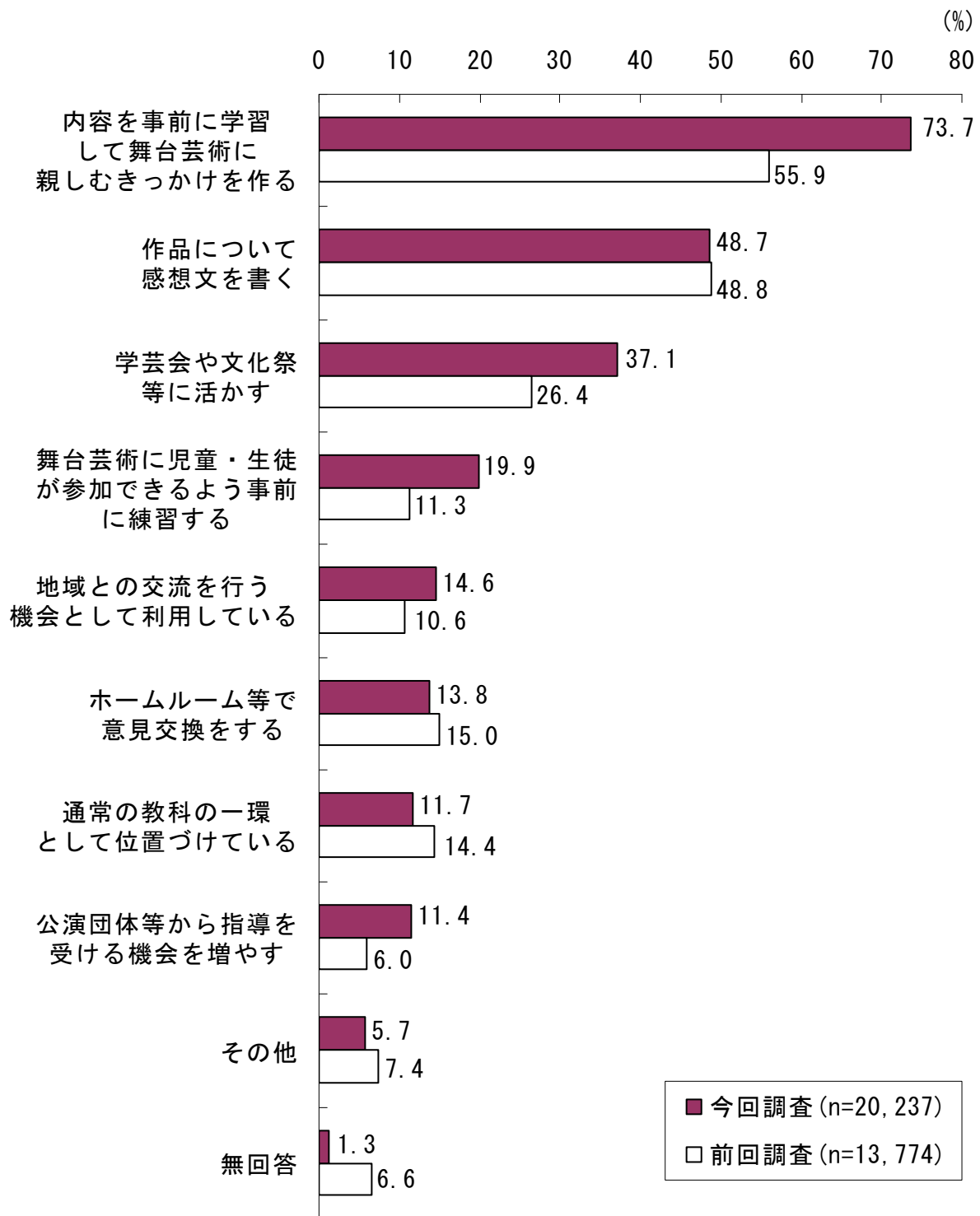
生徒数別でみると、小学校、中学校とも「内容を事前に学習して舞台芸術に親しむきっかけを作る」「学芸会や文化祭等に活かす」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にある。

小学校では、「作品について感想文を書く」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にあり、「地域との交流を行う機会として利用している」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にある。

中学校では、「100人以下」で「地域との交流を行う機会として利用している」が20.7%と他の層より割合が高くなっている。

高等学校（全日制）では、「400人以下」で「作品について感想文を書く」が48.4%、「学芸会や文化祭等に活かす」が30.4%と他の層より割合が高くなっている。

図表Ⅲ—54 学校教育における鑑賞教室の活かし方（複数回答）



図表Ⅲ—55 学校教育における鑑賞教室の活かし方（複数回答）

＜学校区分別・生徒数別＞

				内容を事前に学習し て舞台芸術に親しむ きっかけを作る	作品について感想文 を書く	学芸会や文化祭等 に活かす	舞台芸術に児童・生 徒が参加できるよう 事前に練習する	(%) 地域の交流を行 う機会として利用 している
全 体		20, 237	73. 7	48. 7	37. 1	19. 9	14. 6	
区 分	小学校	11, 331	72. 5	54. 5	37. 1	22. 5	14. 2	
	中学校	5, 724	74. 5	41. 8	42. 6	18. 9	15. 5	
	高等学校 （全日制）	2, 361	77. 6	43. 2	25. 2	8. 7	8. 8	
	高等学校 （定時制）	274	73. 0	37. 2	30. 3	8. 8	13. 9	
	中等教育学校	22	72. 7	54. 5	40. 9	13. 6	9. 1	
	特別支援学校	639	72. 5	33. 2	31. 3	26. 6	33. 5	
小学校	1 0 0人以下	3, 072	74. 6	49. 5	42. 0	24. 0	20. 8	
	1 0 1～2 0 0人	2, 016	73. 5	53. 3	38. 7	26. 3	17. 8	
	2 0 1～4 0 0人	2, 727	71. 4	56. 5	37. 4	22. 7	13. 0	
	4 0 1～6 0 0人	1, 927	71. 1	56. 3	32. 7	19. 5	7. 5	
	6 0 1人以上	1, 492	70. 4	60. 4	29. 8	17. 8	7. 1	
中学校	1 0 0人以下	1, 117	76. 1	39. 6	47. 7	20. 3	20. 7	
	1 0 1～2 0 0人	929	75. 3	41. 8	45. 7	22. 9	14. 3	
	2 0 1～4 0 0人	1, 744	74. 9	44. 4	42. 7	17. 8	15. 7	
	4 0 1～6 0 0人	1, 267	73. 2	40. 1	39. 1	17. 2	13. 0	
	6 0 1人以上	623	72. 4	41. 4	36. 9	17. 3	12. 7	
高等学校 （全日制）	4 0 0人以下	572	76. 2	48. 4	30. 4	10. 0	16. 3	
	4 0 1～6 0 0人	513	76. 6	40. 9	21. 6	9. 0	9. 4	
	6 0 1～8 0 0人	520	78. 7	43. 7	25. 8	7. 9	5. 2	
	8 0 1 ～1 0 0 0人	511	78. 3	39. 3	24. 5	6. 7	5. 5	
	1 0 0 1人以上	208	77. 9	44. 2	20. 7	11. 5	4. 3	

		(%)					
		n	ホームルーム等 意見交換をする	通常の教科 位置づけの 環境	公演団体等 から指 導を受ける 機会を 増やす	その他	無 回 答
全 体		20,237	13.8	11.7	11.4	5.7	1.3
区 分	小学校	11,331	16.0	13.5	11.6	5.3	1.1
	中学校	5,724	10.3	11.2	12.9	5.7	1.3
	高等学校 (全日制)	2,361	11.1	4.4	7.5	6.4	1.9
	高等学校 (定時制)	274	10.6	3.3	8.0	6.9	1.8
	中等教育学校	22	18.2	22.7	9.1	13.6	0.0
	特別支援学校	639	16.6	10.3	10.5	9.9	2.3
小学校	100人以下	3,072	13.4	14.7	12.7	4.6	1.0
	101～200人	2,016	14.7	12.9	12.8	5.2	1.1
	201～400人	2,727	16.2	12.3	11.9	5.4	1.1
	401～600人	1,927	18.0	13.0	10.6	6.0	1.2
	601人以上	1,492	20.2	14.9	8.4	5.6	1.1
中学校	100人以下	1,117	11.0	11.8	13.5	5.6	1.3
	101～200人	929	9.9	10.9	15.6	5.0	1.1
	201～400人	1,744	9.8	10.4	12.3	6.0	1.4
	401～600人	1,267	10.1	11.1	12.6	5.8	1.4
	601人以上	623	11.2	13.0	10.6	5.8	1.3
高等学校 (全日制)	400人以下	572	13.5	4.0	7.7	5.9	2.3
	401～600人	513	11.1	4.7	8.2	6.0	2.7
	601～800人	520	12.1	3.8	6.9	6.0	1.7
	801 ～1000人	511	8.0	4.7	6.7	7.6	0.6
	1001人以上	208	10.6	5.3	8.7	6.3	2.9

(2) 鑑賞教室を実施する際に困難を感じること

【学校調査：問10＜学校ベース＞】

鑑賞教室を実施する際に困難を感じることはありますか。以下の意見について「そう思う」から「そう思わない」までのいずれかに○印を付けてください。

① 各意見の比較

各意見の比較については、「そう思う（＋2）」、「どちらかといえばそう思う（＋1）」、「あまりそう思わない（－1）」、「そう思わない（－2）」の選択肢で加重平均を出して分析を行った。「費用負担が大きいのので企画・実施に制約を受ける」の加重平均が0.9と困難に感じる度合いが最も高く、「教員の間で情報交換する場が少ない」（0.2）、「作品に関する情報が不足している」（0.0）と続いている。また、「保護者の理解を得るのが難しい」が-1.4と困難に感じる度合いが最も低くなっている。

図表Ⅲ—56 各意見の比較

	そう思う (+2)	どちらか といえばそう 思う (+1)	あまりそう は思わない (-1)	そう思わ ない (-2)	無回答	(n)	サンプル数/平均
公演団体等の情報が不足している	11.5	34.6	40.1	12.6	1.3	20,237	-0.1
作品に関する情報が不足している	11.0	37.1	39.3	11.3	1.3	20,237	0.0
情報が多すぎて選ぶのが大変である	7.9	20.4	51.0	18.9	1.7	20,237	-0.5
教員の間で情報交換する場が少ない	14.4	41.5	32.5	10.2	1.3	20,237	0.2
他の教員の理解を得るのが難しい	2.1	9.8	53.2	33.5	1.4	20,237	-1.1
鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい	10.5	17.1	40.2	30.6	1.7	20,237	-0.6
費用負担が大きいのので企画・実施に制約を受ける		45.2	28.5	16.4	8.8	20,237	0.9
鑑賞教室を開催するには児童・生徒数が不十分	16.4	15.3	33.6	33.3	1.4	20,237	-0.5
保護者の理解を得るのが難しい	0.6	3.5	44.8	49.7	1.4	20,237	-1.4
鑑賞教室のための時間を割きにくい	12.4	23.9	38.2	24.3	1.2	20,237	-0.4

② 「公演団体等の情報が不足している」という意見について

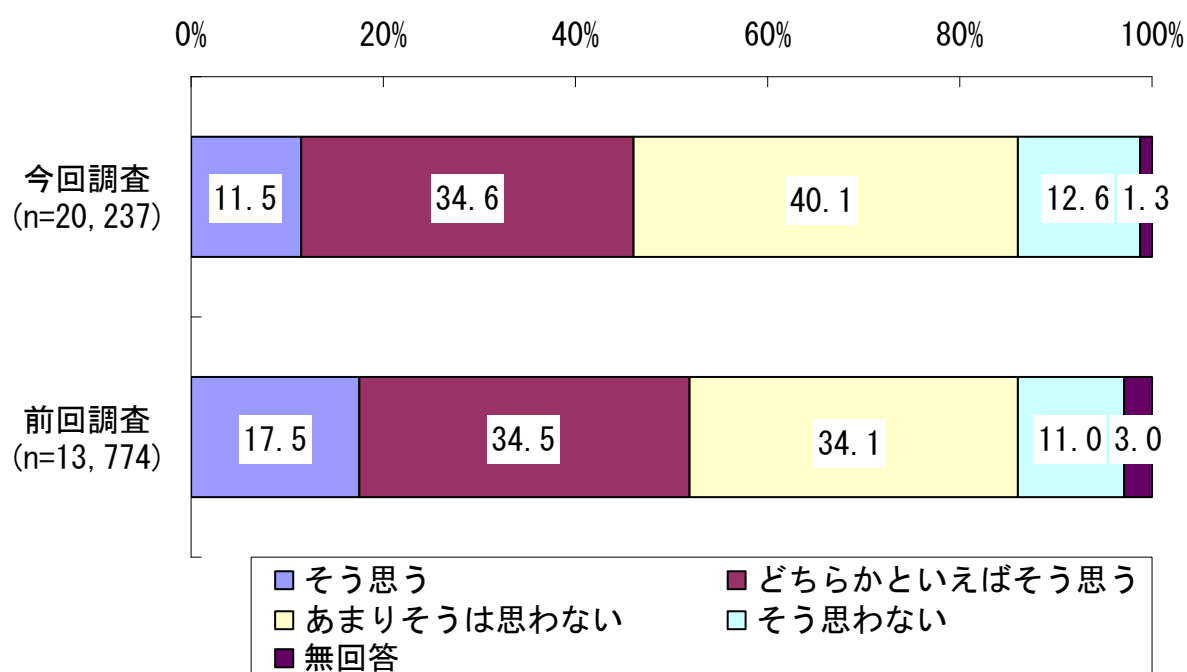
「公演団体等の情報が不足している」という意見については、「そう思う」(11.5%)、「どちらかといえばそう思う」(34.6%)をあわせて困難を感じる割合は46.1%となっている。

前回調査結果と比較すると、困難を感じる割合は前回よりも減少している。

学校区分別でみると、中学校の加重平均が0.1と小学校、高等学校(全日制)よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校(全日制)とも人数が少なくなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—57 「公演団体等の情報が不足している」という意見について



図表Ⅲ—58 「公演団体等の情報が不足している」という意見について

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	11.5	34.6	40.1	12.6	1.3	-0.1
区 分	小学校	11,331	11.0	33.6	41.2	13.0	1.1	-0.1
	中学校	5,724	12.6	38.7	36.8	10.3	1.6	0.1
	高等学校（全日制）	2,361	8.4	27.6	45.4	17.5	1.2	-0.4
	高等学校（定時制）	274	12.0	30.7	41.6	14.6	1.1	-0.2
	中等教育学校	22	9.1	31.8	40.9	18.2	0.0	-0.3
	特別支援学校	639	19.7	41.9	30.4	6.4	1.6	0.4
小学校	100人以下	3,072	16.8	42.3	32.6	6.9	1.4	0.3
	101～200人	2,016	14.1	39.7	36.5	8.6	1.0	0.1
	201～400人	2,727	8.4	31.1	44.9	14.6	1.0	-0.3
	401～600人	1,927	6.2	24.9	49.0	18.6	1.2	-0.5
	601人以上	1,492	6.1	23.8	48.7	20.7	0.7	-0.5
中学校	100人以下	1,117	16.9	45.2	29.6	6.8	1.4	0.4
	101～200人	929	16.1	42.8	30.0	9.9	1.1	0.3
	201～400人	1,744	12.0	38.5	38.4	9.4	1.7	0.1
	401～600人	1,267	8.8	32.8	42.5	14.3	1.6	-0.2
	601人以上	623	9.5	33.1	44.0	11.2	2.2	-0.1
高等学校 （全日制）	400人以下	572	10.5	34.4	39.2	15.2	0.7	-0.1
	401～600人	513	7.6	28.1	46.4	16.6	1.4	-0.4
	601～800人	520	8.3	23.8	50.2	16.3	1.3	-0.4
	801 ～1000人	511	7.2	25.8	46.0	19.8	1.2	-0.5
	1001人以上	208	6.3	21.2	47.6	24.0	1.0	-0.6

③ 「作品に関する情報が不足している」という意見について

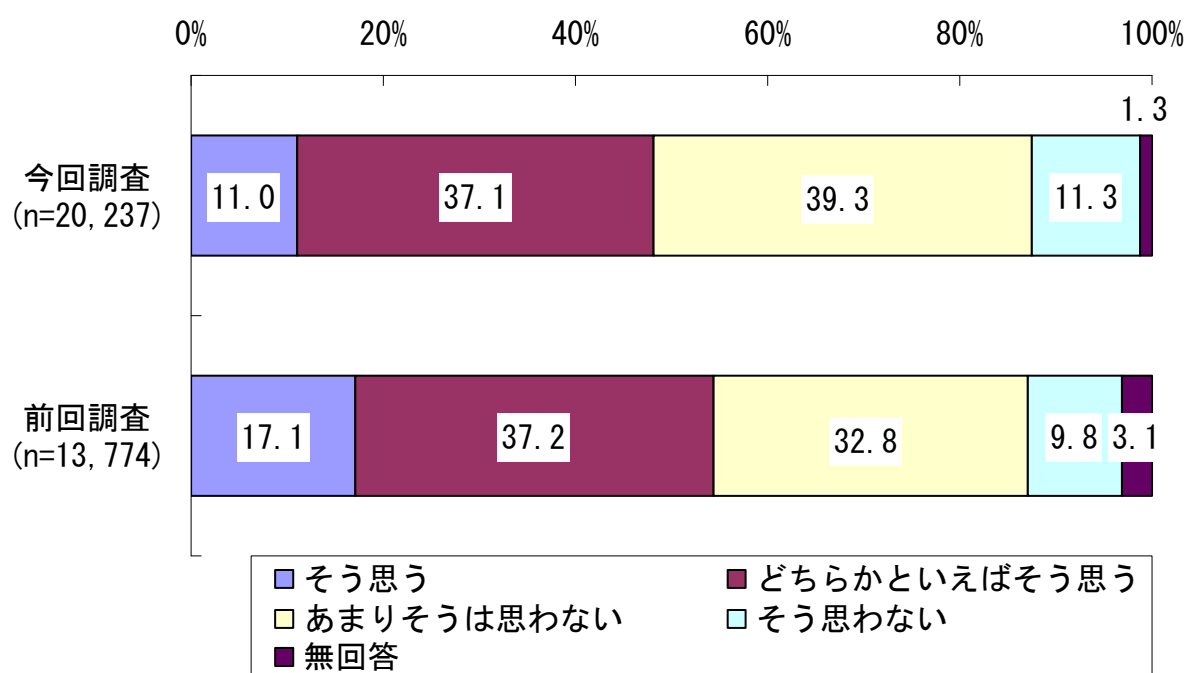
「作品に関する情報が不足している」という意見については、「そう思う」(11.0%)、「どちらかといえばそう思う」(37.1%)をあわせて困難を感じる割合は48.1%となっている。

前回調査結果と比較すると、困難を感じる割合は前回よりも減少している。

学校区分別でみると、中学校の加重平均が0.1と小学校、高等学校(全日制)よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校(全日制)とも人数が少なくなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—59 「作品に関する情報が不足している」という意見について



図表Ⅲ—60 「作品に関する情報が不足している」という意見について
 <学校区分別・生徒数別>

		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	11.0	37.1	39.3	11.3	1.3	0.0
区 分	小学校	11,331	10.5	36.7	40.4	11.2	1.2	-0.1
	中学校	5,724	12.1	40.1	36.3	9.9	1.5	0.1
	高等学校（全日制）	2,361	8.9	30.7	43.5	15.8	1.1	-0.3
	高等学校（定時制）	274	12.8	35.8	38.0	12.4	1.1	0.0
	中等教育学校	22	13.6	40.9	27.3	18.2	0.0	0.0
	特別支援学校	639	17.2	42.3	31.9	6.6	2.0	0.3
小学校	100人以下	3,072	15.2	43.2	33.7	6.5	1.5	0.3
	101～200人	2,016	12.5	42.3	35.8	8.3	1.1	0.1
	201～400人	2,727	8.8	34.5	43.0	12.6	1.1	-0.2
	401～600人	1,927	6.6	30.2	46.9	15.1	1.2	-0.3
	601人以上	1,492	7.0	28.3	47.0	17.0	0.8	-0.4
中学校	100人以下	1,117	15.7	44.0	30.7	8.2	1.3	0.3
	101～200人	929	15.0	44.9	28.8	10.3	1.0	0.3
	201～400人	1,744	11.8	40.7	37.1	8.8	1.6	0.1
	401～600人	1,267	8.8	34.6	42.9	12.2	1.5	-0.2
	601人以上	623	9.3	35.6	41.9	10.8	2.4	-0.1
高等学校 （全日制）	400人以下	572	10.0	36.5	38.3	14.5	0.7	-0.1
	401～600人	513	7.6	30.8	45.2	15.2	1.2	-0.3
	601～800人	520	10.0	26.9	47.3	14.2	1.5	-0.3
	801～1000人	511	8.0	29.4	45.4	16.2	1.0	-0.3
	1001人以上	208	7.2	25.0	42.3	24.5	1.0	-0.5

④ 「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見について

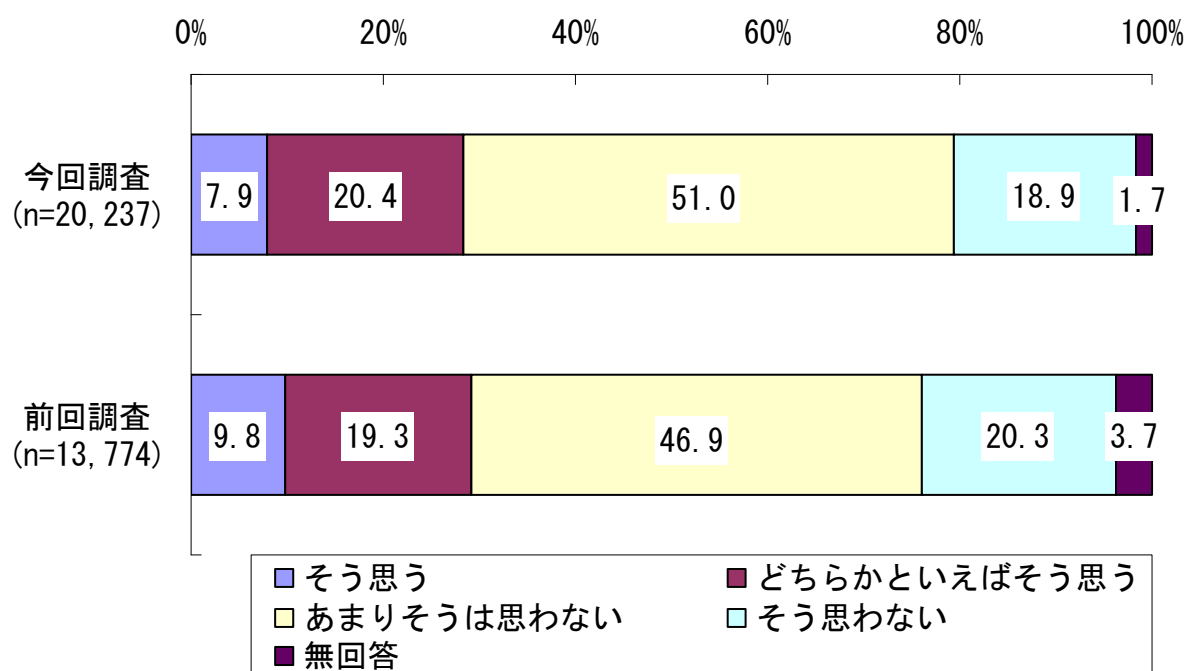
「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見については、「そう思う」(7.9%)、「どちらかといえばそう思う」(20.4%)をあわせて困難を感じる割合は28.3%となっている。

前回調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向である。

学校区分別でみると、高等学校(全日制)の加重平均が-0.1と小学校、中学校よりも困難を感じる割合が高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校(全日制)とも人数が多くなるほどより困難を感じる割合が高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—61 「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見について



図表Ⅲ—62 「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見について

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	7.9	20.4	51.0	18.9	1.7	-0.5
区 分	小学校	11,331	9.4	22.0	49.8	17.3	1.4	-0.4
	中学校	5,724	3.5	14.9	56.9	22.5	2.2	-0.8
	高等学校（全日制）	2,361	13.3	29.6	41.6	14.2	1.2	-0.1
	高等学校（定時制）	274	9.9	27.0	43.4	18.6	1.1	-0.3
	中等教育学校	22	0.0	18.2	59.1	22.7	0.0	-0.9
	特別支援学校	639	1.4	7.4	56.8	32.1	2.3	-1.1
小学校	100人以下	3,072	2.5	11.6	58.9	25.0	2.1	-0.9
	101～200人	2,016	4.1	14.8	56.2	23.6	1.4	-0.8
	201～400人	2,727	10.6	26.7	48.5	13.1	1.2	-0.3
	401～600人	1,927	15.8	31.7	41.3	10.2	1.1	0.0
	601人以上	1,492	20.2	32.1	36.8	9.9	0.9	0.2
中学校	100人以下	1,117	1.4	9.7	59.3	27.7	2.0	-1.0
	101～200人	929	2.7	10.5	58.7	26.7	1.4	-1.0
	201～400人	1,744	3.3	15.8	57.9	20.6	2.4	-0.8
	401～600人	1,267	5.7	19.5	52.4	20.2	2.2	-0.6
	601人以上	623	5.0	19.3	56.2	17.0	2.6	-0.6
高等学校 （全日制）	400人以下	572	8.7	23.8	47.9	18.7	0.9	-0.4
	401～600人	513	12.7	30.8	41.5	13.8	1.2	-0.1
	601～800人	520	14.8	33.7	38.7	11.3	1.5	0.0
	801～1000人	511	17.8	28.4	40.5	12.3	1.0	0.0
	1001人以上	208	11.5	37.5	34.6	15.4	1.0	0.0

⑤ 「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見について

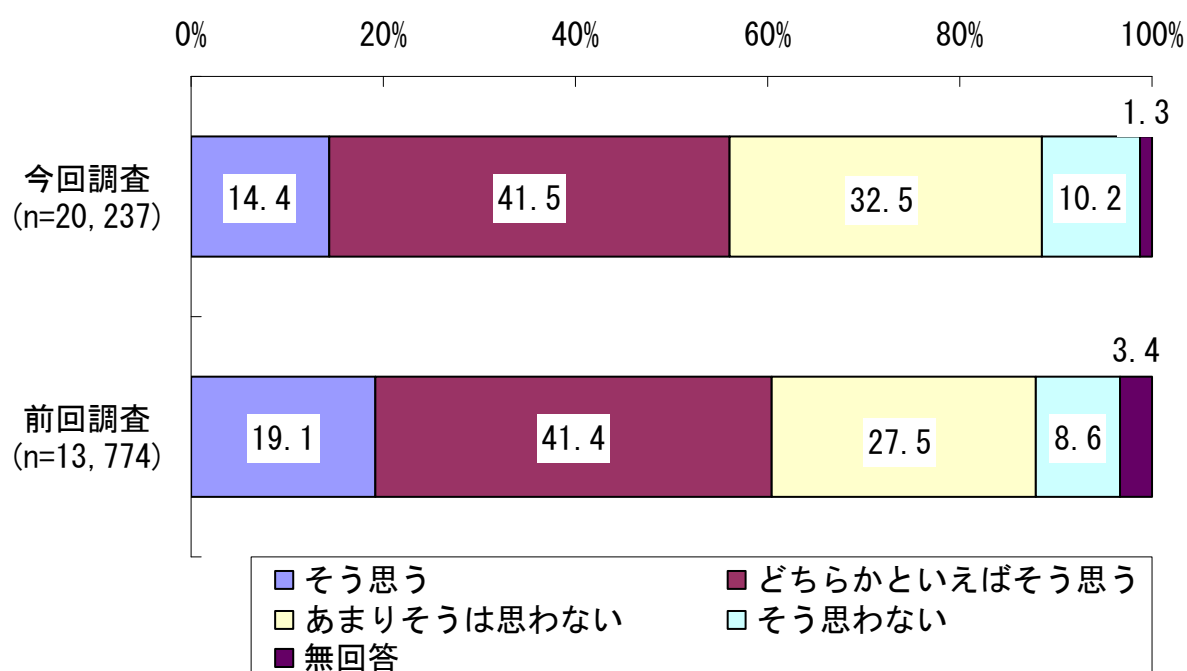
「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見については、「そう思う」(14.4%)、「どちらかといえばそう思う」(41.5%)をあわせて困難を感じる割合は55.9%となっている。

前回調査結果と比較すると、困難を感じる割合は前回よりも減少している。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）の加重平均が0.3と小学校、中学校よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数による違いは特にみられない。

図表Ⅲ—63 「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見について



図表Ⅲ—64 「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見について

＜学校区分別・生徒数別＞

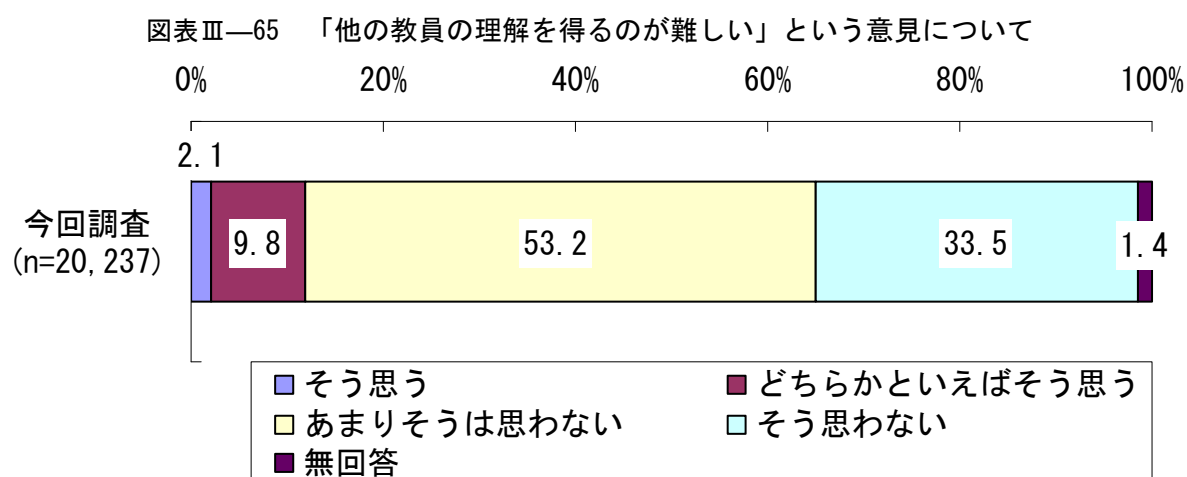
		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	14.4	41.5	32.5	10.2	1.3	0.2
区 分	小学校	11,331	13.4	41.4	34.1	10.0	1.2	0.1
	中学校	5,724	16.0	41.8	30.1	10.4	1.7	0.2
	高等学校（全日制）	2,361	16.9	42.2	29.9	9.9	1.1	0.3
	高等学校（定時制）	274	15.0	45.6	28.1	10.2	1.1	0.3
	中等教育学校	22	4.5	68.2	13.6	13.6	0.0	0.4
	特別支援学校	639	9.5	38.3	36.9	13.3	1.9	-0.1
小学校	100人以下	3,072	12.4	40.9	34.4	10.7	1.6	0.1
	101～200人	2,016	12.7	41.6	33.4	11.2	1.0	0.1
	201～400人	2,727	12.8	42.1	34.5	9.5	1.1	0.1
	401～600人	1,927	14.4	41.6	34.0	9.1	1.0	0.2
	601人以上	1,492	15.5	40.4	34.2	9.0	0.9	0.2
中学校	100人以下	1,117	13.9	42.1	30.7	11.9	1.4	0.2
	101～200人	929	16.1	41.2	29.2	12.3	1.2	0.2
	201～400人	1,744	17.0	42.5	30.1	8.7	1.8	0.3
	401～600人	1,267	17.3	41.0	29.9	10.2	1.7	0.3
	601人以上	623	14.9	42.1	30.3	10.3	2.4	0.2
高等学校 （全日制）	400人以下	572	16.1	45.8	26.7	10.7	0.7	0.3
	401～600人	513	15.8	43.9	29.8	9.4	1.2	0.3
	601～800人	520	18.1	41.7	29.8	9.0	1.3	0.3
	801～1000人	511	16.4	40.7	31.5	10.2	1.2	0.2
	1001人以上	208	16.8	36.1	35.6	10.6	1.0	0.1

⑥ 「他の教員の理解を得るのが難しい」という意見について

「他の教員の理解を得るのが難しい」という意見については、「そう思う」(2.1%)、「どちらかといえばそう思う」(9.8%)をあわせて困難を感じる割合は11.9%となっている。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）の加重平均が-0.8 と小学校、中学校よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数による違いは特にみられない。



図表Ⅲ—66 「他の教員の理解を得るのが難しい」という意見について

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう 思う	(+1) どちら かとい え	(-1) 思わ ない そう は	(-2) そう 思わ ない	無 回 答	平 均
全 体		20,237	2.1	9.8	53.2	33.5	1.4	-1.1
区 分	小学校	11,331	1.0	6.4	53.5	37.8	1.3	-1.2
	中学校	5,724	3.2	14.2	52.7	28.1	1.7	-0.9
	高等学校（全日制）	2,361	4.2	14.7	53.2	26.9	1.0	-0.8
	高等学校（定時制）	274	4.0	18.2	50.4	26.3	1.1	-0.8
	中等教育学校	22	9.1	13.6	40.9	36.4	0.0	-0.8
	特別支援学校	639	2.0	9.1	54.8	32.1	2.0	-1.1
小学校	100人以下	3,072	0.8	5.9	53.3	38.2	1.8	-1.2
	101～200人	2,016	0.6	6.1	53.2	38.9	1.2	-1.3
	201～400人	2,727	1.0	5.9	53.8	38.3	1.0	-1.2
	401～600人	1,927	1.8	6.8	53.9	36.4	1.1	-1.2
	601人以上	1,492	1.2	8.3	53.4	36.0	1.1	-1.2
中学校	100人以下	1,117	2.7	10.8	53.6	31.2	1.6	-1.0
	101～200人	929	2.6	12.9	49.8	33.6	1.1	-1.0
	201～400人	1,744	3.4	14.5	54.6	25.7	1.8	-0.9
	401～600人	1,267	3.9	15.9	52.2	26.2	1.7	-0.8
	601人以上	623	3.4	18.0	51.7	24.7	2.2	-0.8
高等学校 （全日制）	400人以下	572	4.9	15.4	53.7	25.2	0.9	-0.8
	401～600人	513	2.7	14.4	56.5	25.1	1.2	-0.9
	601～800人	520	5.4	14.8	52.1	26.5	1.2	-0.8
	801 ～1000人	511	3.9	13.9	52.1	29.4	0.8	-0.9
	1001人以上	208	3.8	13.9	49.5	32.2	0.5	-0.9

⑦ 「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」という意見について

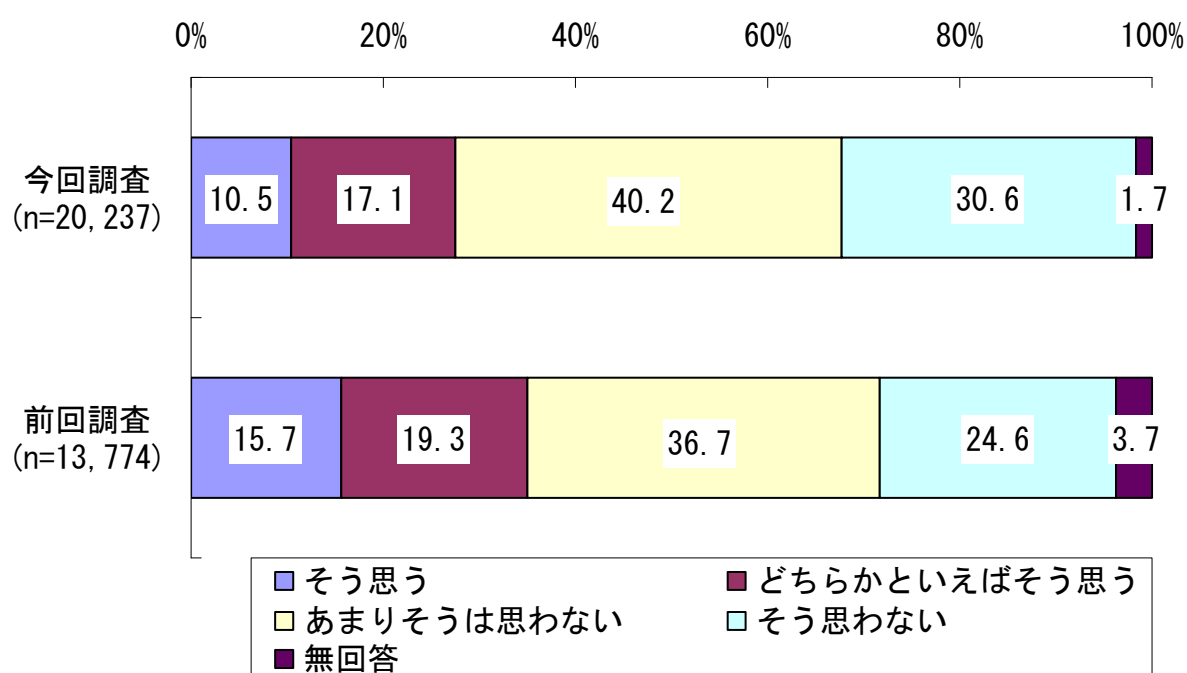
「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」という意見については、「そう思う」(10.5%)、「どちらかといえばそう思う」(17.1%)をあわせて困難を感じる割合は 27.6%となっている。

前回調査結果と比較すると、困難を感じる割合は前回よりも減少している。

学校区分別でみると、中学校の加重平均が-0.5 と小学校、高等学校（全日制）よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数が少なくなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—67 「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」という意見について



図表Ⅲ—68 「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」という意見について
 ＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	10.5	17.1	40.2	30.6	1.7	-0.6
区 分	小学校	11,331	11.2	17.7	39.6	29.9	1.6	-0.6
	中学校	5,724	11.5	18.6	41.0	27.0	1.9	-0.5
	高等学校（全日制）	2,361	4.6	10.8	39.6	43.8	1.3	-1.1
	高等学校（定時制）	274	7.7	13.9	39.1	37.2	2.2	-0.9
	中等教育学校	22	9.1	18.2	40.9	31.8	0.0	-0.7
	特別支援学校	639	9.2	17.2	44.6	26.8	2.2	-0.6
小学校	100人以下	3,072	20.4	22.4	34.4	20.6	2.1	-0.1
	101～200人	2,016	11.2	19.5	39.3	28.3	1.7	-0.5
	201～400人	2,727	7.1	15.3	42.9	33.3	1.3	-0.8
	401～600人	1,927	6.9	15.1	41.4	35.0	1.6	-0.8
	601人以上	1,492	5.1	12.9	42.9	38.0	1.1	-1.0
中学校	100人以下	1,117	19.1	24.8	36.3	18.2	1.6	-0.1
	101～200人	929	13.9	19.7	41.6	23.3	1.6	-0.4
	201～400人	1,744	9.3	19.4	41.5	28.0	1.9	-0.6
	401～600人	1,267	9.0	13.3	43.3	32.5	1.8	-0.8
	601人以上	623	5.6	14.1	43.5	34.3	2.4	-0.9
高等学校 （全日制）	400人以下	572	7.7	16.8	40.0	34.4	1.0	-0.8
	401～600人	513	4.1	10.1	40.9	43.5	1.4	-1.1
	601～800人	520	3.7	9.2	40.6	45.2	1.3	-1.2
	801～1000人	511	3.1	8.4	38.2	49.1	1.2	-1.2
	1001人以上	208	3.8	5.8	34.6	54.8	1.0	-1.3

⑧ 「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」という意見について

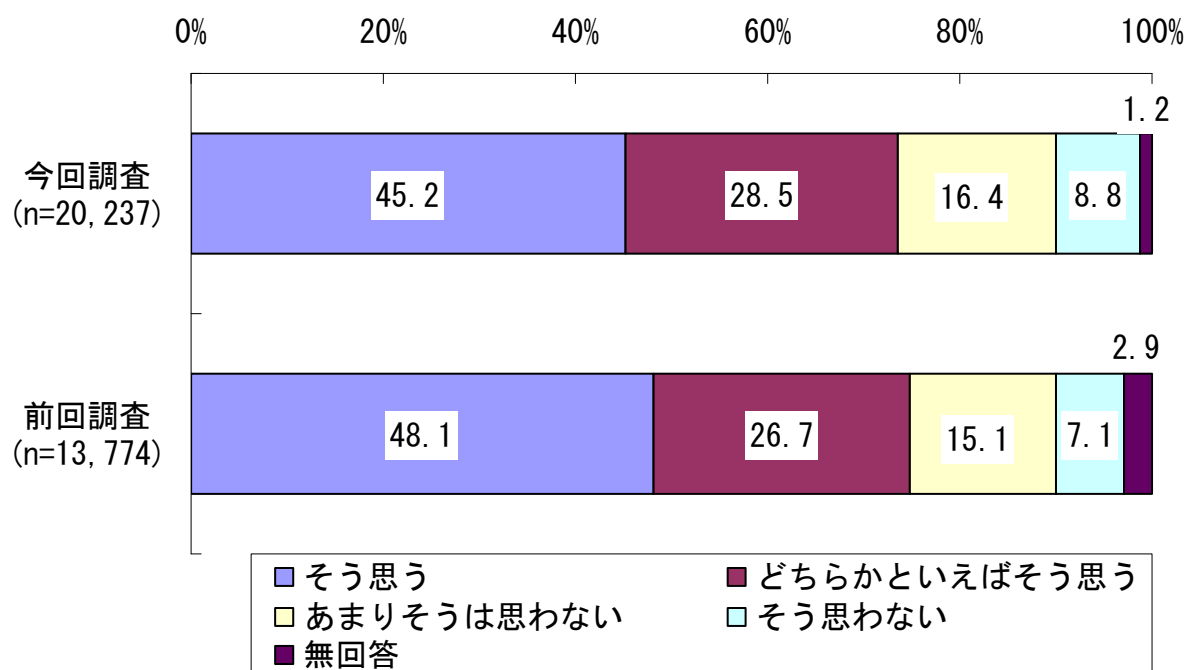
「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」という意見については、「そう思う」(45.2%)、「どちらかといえばそう思う」(28.5%)をあわせて困難を感じる割合は 73.7%となっている。

前回調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向である。

学校区分別でみると、中学校の加重平均が 1.0 と小学校、高等学校（全日制）よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数が少なくなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—69 「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」という意見について



図表Ⅲ—70 「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」という意見について
 <学校区分別・生徒数別>

		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりそうは 思わない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	45.2	28.5	16.4	8.8	1.2	0.9
区 分	小学校	11,331	43.5	27.8	18.0	9.5	1.2	0.8
	中学校	5,724	49.5	28.6	12.9	7.5	1.3	1.0
	高等学校（全日制）	2,361	40.6	32.0	18.6	8.1	0.7	0.8
	高等学校（定時制）	274	51.1	27.0	15.3	6.2	0.4	1.0
	中等教育学校	22	59.1	9.1	18.2	13.6	0.0	0.8
	特別支援学校	639	48.8	26.4	13.5	9.9	1.4	0.9
小学校	100人以下	3,072	58.3	21.1	10.9	8.2	1.6	1.1
	101～200人	2,016	51.3	26.4	12.2	8.9	1.3	1.0
	201～400人	2,727	40.1	31.5	18.8	8.6	1.0	0.8
	401～600人	1,927	31.7	32.3	24.5	10.5	1.0	0.5
	601人以上	1,492	23.9	31.3	30.3	13.4	1.1	0.2
中学校	100人以下	1,117	57.7	23.5	9.0	8.3	1.3	1.1
	101～200人	929	53.9	24.3	12.4	8.3	1.1	1.0
	201～400人	1,744	51.0	30.0	11.4	6.0	1.5	1.1
	401～600人	1,267	42.3	31.8	16.4	8.4	1.1	0.8
	601人以上	623	39.0	34.2	17.5	7.7	1.6	0.8
高等学校 （全日制）	400人以下	572	61.7	24.5	9.3	4.0	0.5	1.3
	401～600人	513	41.1	33.1	18.9	5.5	1.4	0.9
	601～800人	520	34.0	36.0	19.8	9.6	0.6	0.7
	801 ～1000人	511	27.4	35.0	25.8	11.4	0.4	0.4
	1001人以上	208	26.9	33.2	25.0	14.4	0.5	0.3

⑨ 「鑑賞教室を開催するのには児童・生徒数が不十分」という意見について

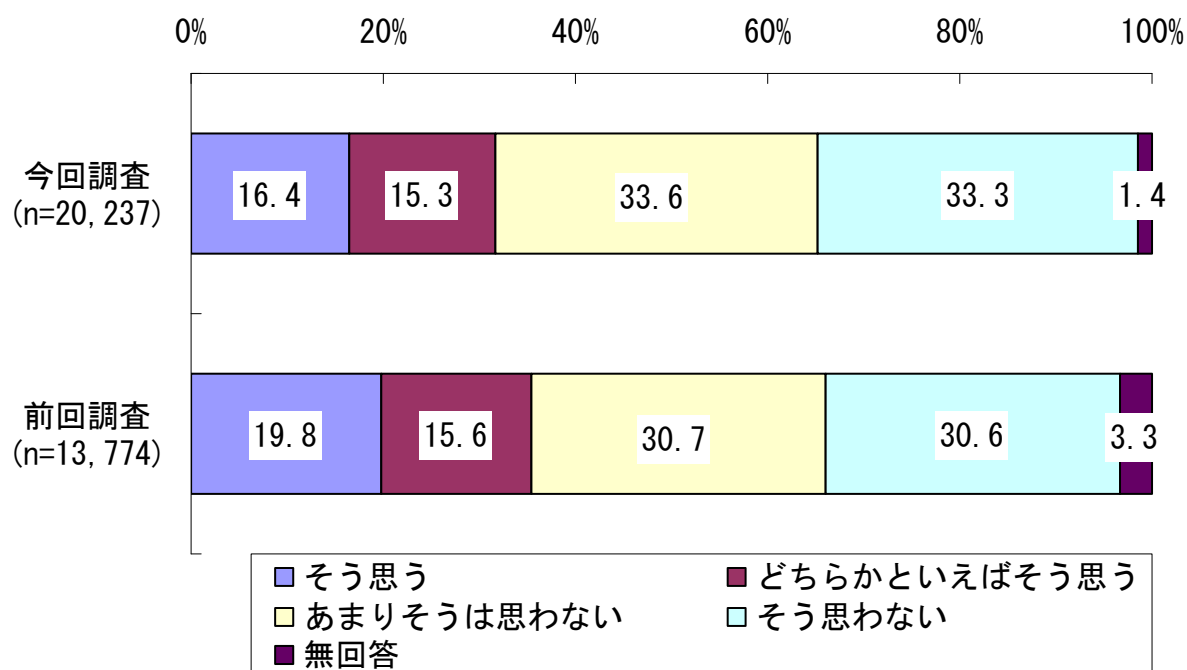
「鑑賞教室を開催するのには児童・生徒数が不十分」という意見については、「そう思う」(16.4%)、「どちらかといえばそう思う」(15.3%)をあわせて困難を感じる割合は 31.7%となっている。

前回調査結果と比較すると、困難を感じる割合は前回よりも減少している。

学校区分別でみると、小学校の加重平均が-0.5 と中学校、高等学校（全日制）よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数が少なくなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—71 「鑑賞教室を開催するのには児童・生徒数が不十分」という意見について



図表Ⅲ—72 「鑑賞教室を開催するには児童・生徒数が不十分」という意見について
 ＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう思う	(+1) どちらかといえば	(-1) あまりない	(-2) そう思わない	無回答	平均
全 体		20,237	16.4	15.3	33.6	33.3	1.4	-0.5
区 分	小学校	11,331	18.2	15.5	32.0	33.0	1.3	-0.5
	中学校	5,724	14.1	14.0	36.9	33.2	1.8	-0.6
	高等学校（全日制）	2,361	11.3	15.9	34.1	37.7	0.9	-0.7
	高等学校（定時制）	274	19.7	17.5	32.5	29.9	0.4	-0.4
	中等教育学校	22	18.2	22.7	36.4	22.7	0.0	-0.2
	特別支援学校	639	20.7	18.3	32.9	26.6	1.6	-0.3
小学校	100人以下	3,072	45.4	22.4	18.6	12.1	1.5	0.7
	101～200人	2,016	20.4	24.8	32.9	20.6	1.2	-0.1
	201～400人	2,727	7.9	15.8	42.4	32.7	1.2	-0.8
	401～600人	1,927	1.4	5.2	40.4	51.7	1.2	-1.4
	601人以上	1,492	0.3	2.1	27.9	68.5	1.1	-1.6
中学校	100人以下	1,117	40.3	23.5	21.1	13.6	1.5	0.6
	101～200人	929	20.5	20.7	35.7	21.7	1.4	-0.2
	201～400人	1,744	8.0	15.5	43.1	31.2	2.2	-0.8
	401～600人	1,267	1.8	4.2	42.9	49.5	1.7	-1.4
	601人以上	623	0.5	2.6	37.1	57.6	2.2	-1.5
高等学校 （全日制）	400人以下	572	32.7	30.1	23.8	12.9	0.5	0.5
	401～600人	513	9.7	21.1	40.2	27.5	1.6	-0.6
	601～800人	520	3.3	11.9	39.8	43.8	1.2	-1.1
	801～1000人	511	1.4	5.5	36.2	56.4	0.6	-1.4
	1001人以上	208	0.5	0.5	28.8	69.7	0.5	-1.7

⑩ 「保護者の理解を得るのが難しい」という意見について

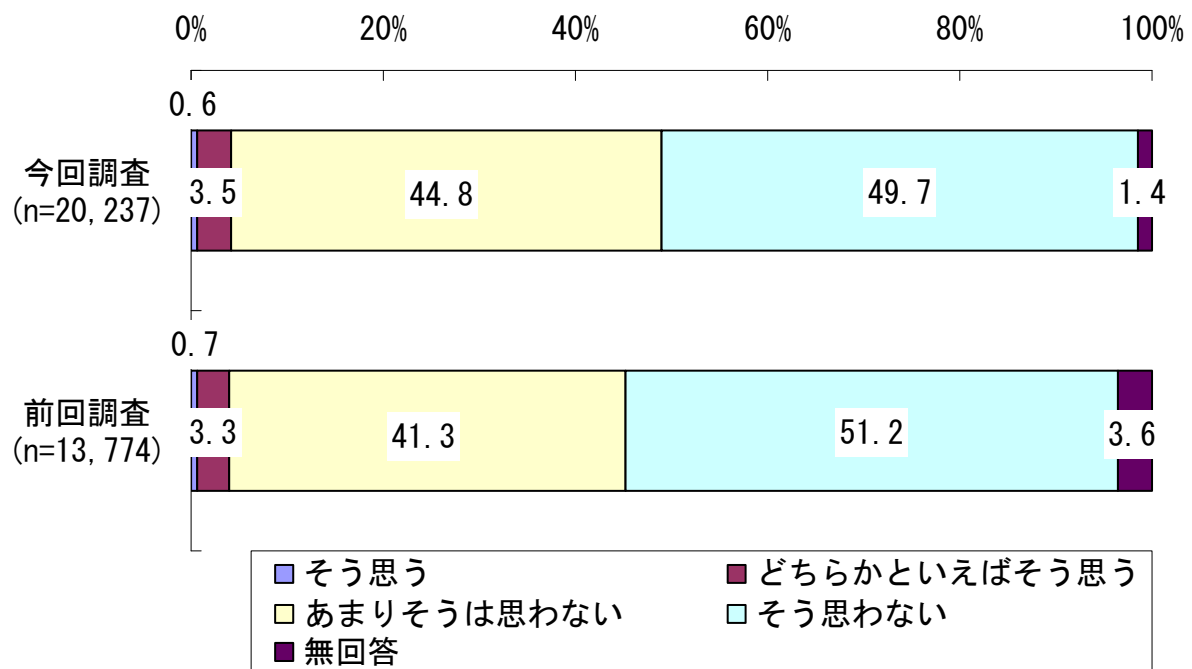
「保護者の理解を得るのが難しい」という意見については、「そう思う」(0.6%)、「どちらかといえばそう思う」(3.5%)をあわせて困難を感じる割合は4.1%となっている。

前回調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向である。

学校区分別でみると、学年による違いは特にみられない。

生徒数別でみると、高等学校（全日制）のみ人数が少なくなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—73 「保護者の理解を得るのが難しい」という意見について



図表Ⅲ—74 「保護者の理解を得るのが難しい」という意見について

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう 思う	(+1) どちら かとい え	(-1) 思わ ない そう は	(-2) そう 思わ ない	無 回 答	平 均
全 体		20,237	0.6	3.5	44.8	49.7	1.4	-1.4
区 分	小学校	11,331	0.6	3.2	43.5	51.4	1.3	-1.4
	中学校	5,724	0.6	4.3	48.2	45.3	1.7	-1.4
	高等学校（全日制）	2,361	0.6	3.0	43.8	51.7	1.0	-1.4
	高等学校（定時制）	274	0.7	5.5	49.6	43.1	1.1	-1.3
	中等教育学校	22	0.0	4.5	40.9	54.5	0.0	-1.5
	特別支援学校	639	0.5	2.5	41.5	53.4	2.2	-1.5
小学校	100人以下	3,072	1.1	2.9	43.4	51.0	1.6	-1.4
	101～200人	2,016	0.5	4.0	44.3	49.8	1.3	-1.4
	201～400人	2,727	0.4	3.6	44.6	50.3	1.2	-1.4
	401～600人	1,927	0.4	3.1	44.0	51.5	1.1	-1.4
	601人以上	1,492	0.3	2.7	40.1	55.9	1.0	-1.5
中学校	100人以下	1,117	1.1	4.4	47.0	45.8	1.7	-1.3
	101～200人	929	0.2	4.5	48.4	45.5	1.3	-1.4
	201～400人	1,744	0.6	3.5	51.7	42.5	1.7	-1.3
	401～600人	1,267	0.8	4.9	44.0	48.7	1.7	-1.4
	601人以上	623	0.3	4.3	49.4	43.8	2.1	-1.3
高等学校 （全日制）	400人以下	572	0.7	4.7	51.7	42.1	0.7	-1.3
	401～600人	513	0.8	2.3	47.8	48.0	1.2	-1.4
	601～800人	520	0.6	3.1	41.2	54.0	1.2	-1.5
	801 ～1000人	511	0.2	2.2	38.4	58.3	1.0	-1.5
	1001人以上	208	0.5	1.0	32.2	65.9	0.5	-1.6

⑪ 「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見について

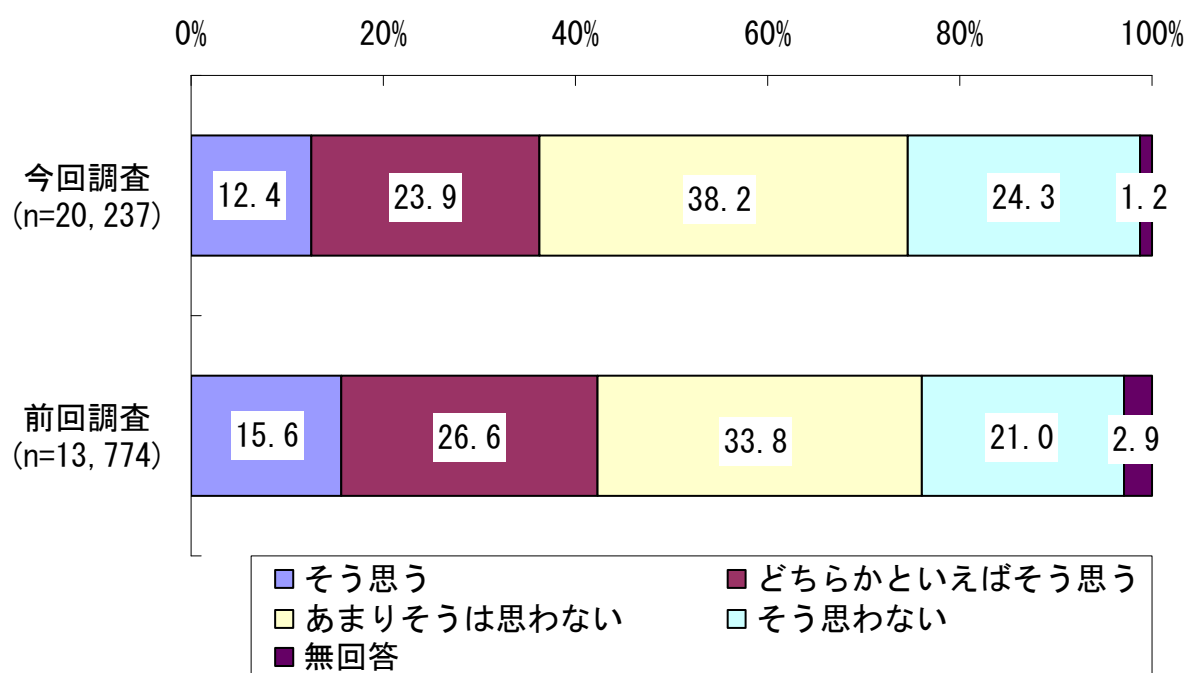
「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見については、「そう思う」(12.4%)、「どちらかといえばそう思う」(23.9%)をあわせて困難を感じる割合は36.3%となっている。

前回調査結果と比較すると、困難を感じる割合は前回よりも減少している。

学校区分別でみると、中学校の加重平均が0.1と小学校、高等学校(全日制)よりも困難を感じる度合いが高い。

生徒数別でみると、中学校のみ人数が多くなるほどより困難を感じる度合いが高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—75 「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見について



図表Ⅲ—76 「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見について

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	(+2) そう 思う	(+1) どちら かとい え	(-1) 思わ ない そう は	(-2) そう 思わ ない	無 回 答	平 均
全 体		20,237	12.4	23.9	38.2	24.3	1.2	-0.4
区 分	小学校	11,331	7.6	21.1	42.9	27.4	1.1	-0.6
	中学校	5,724	22.3	30.3	29.3	16.8	1.3	0.1
	高等学校（全日制）	2,361	11.7	22.5	37.6	27.3	0.9	-0.5
	高等学校（定時制）	274	15.3	23.7	38.3	21.9	0.7	-0.3
	中等教育学校	22	13.6	22.7	40.9	22.7	0.0	-0.4
	特別支援学校	639	9.7	24.4	38.3	25.8	1.7	-0.5
小学校	100人以下	3,072	6.8	21.7	45.4	24.6	1.4	-0.6
	101～200人	2,016	6.4	21.6	44.4	26.6	1.0	-0.6
	201～400人	2,727	7.9	20.5	43.2	27.2	1.1	-0.6
	401～600人	1,927	9.0	20.4	39.4	30.2	1.0	-0.6
	601人以上	1,492	8.2	21.2	39.0	30.6	0.9	-0.6
中学校	100人以下	1,117	12.8	31.3	35.7	18.8	1.3	-0.2
	101～200人	929	19.5	30.4	31.6	17.5	1.0	0.0
	201～400人	1,744	23.5	30.8	28.8	15.5	1.3	0.2
	401～600人	1,267	28.6	29.0	24.5	16.8	1.1	0.3
	601人以上	623	27.6	29.7	25.5	15.1	2.1	0.3
高等学校 （全日制）	400人以下	572	11.7	21.7	38.1	27.8	0.7	-0.5
	401～600人	513	9.9	21.4	40.2	27.5	1.0	-0.5
	601～800人	520	10.6	19.6	41.2	27.5	1.2	-0.6
	801 ～1000人	511	13.9	27.0	31.9	26.4	0.8	-0.3
	1001人以上	208	13.5	23.6	35.6	26.9	0.5	-0.4

（３）鑑賞教室が児童・生徒に与える効果

【学校調査：問１１＜学校ベース＞】〔問１で「１実施する」を選択した学校にお尋ねします。〕
鑑賞教室を実施することで、児童・生徒にどのような効果がありましたか。（複数回答）

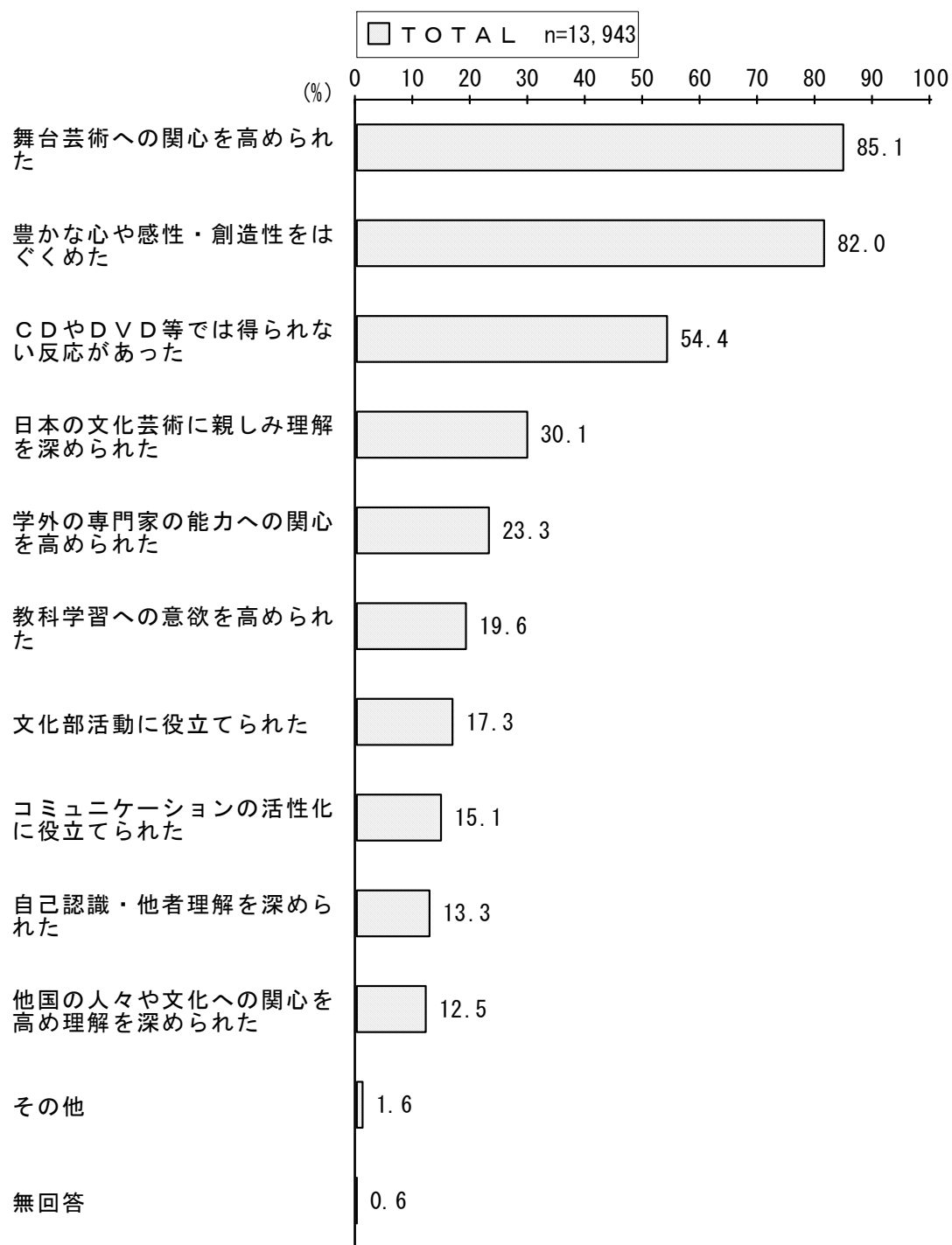
鑑賞教室が児童・生徒に与える効果では、「舞台芸術への関心を高められた」が 85.1%と最も高く、「豊かな心や感性・創造性をはぐくめた」(82.0%)、「CDやDVD等では得られない反応があった」(54.4%)と続いている。

学校区分別でみると、「日本の文化芸術に親しみ理解を深められた」「文化部活動に役立てられた」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。

小学校は「豊かな心や感性・創造性をはぐくめた」が 84.3%、「CDやDVD等では得られない反応があった」が 56.2%と、中学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっている。

高等学校（全日制）は「自己認識・他者理解を深められた」が 21.5%、「他国の人々や文化への関心を高め理解を深められた」が 17.3%と、小学校、中学校よりも割合が高くなっており、「教科学習への意欲を高められた」が 5.6%と、小学校、中学校よりも割合が低くなっている。

図表Ⅲ—77 鑑賞教室が児童・生徒に与える効果（複数回答）【平成19年度鑑賞教室実施校】



図表Ⅲ—78 鑑賞教室が児童・生徒に与える効果（複数回答）【平成19年度鑑賞教室実施校】

<学校区分別>

				を舞 高台 め芸 術ら れた の関 心	た創 造か 性な をは やぐ 感く 性め・	がはC あ得D つらや たれな ないD 反等 応で	ら親日 れし本 たみ の理文 解化 を芸 深術 めに	ら力学 れたの たの専 関心門 を家の 高の能	を教 高科 め学 習ら れた の意 欲
全 体		13,943	85.1	82.0	54.4	30.1	23.3	19.6	
区 分	小学校	8,548	85.9	84.3	56.2	26.7	22.3	22.2	
	中学校	3,163	84.2	77.6	49.3	34.6	26.0	20.6	
	高等学校 （全日制）	1,727	85.9	77.5	51.5	40.3	25.1	5.6	
	高等学校 （定時制）	163	82.8	80.4	46.6	39.9	17.2	4.9	
	中等教育学校	15	86.7	60.0	46.7	53.3	40.0	6.7	
	特別支援学校	410	71.2	86.1	69.8	20.7	17.6	18.3	

				て文化 られた 活動に 役立	てンコ ミの活 性化に 役立	解自己 を認め られ他 者理	解への 関心の 人々を 高め文 理文化	その他	(%) 無回答
全 体		13, 943	17. 3	15. 1	13. 3	12. 5	1. 6	0. 6	
区 分	小学校	8, 548	12. 0	15. 7	11. 9	11. 2	1. 4	0. 5	
	中学校	3, 163	26. 9	11. 6	12. 8	13. 3	2. 1	0. 8	
	高等学校 (全日制)	1, 727	27. 4	14. 2	21. 5	17. 3	1. 4	0. 9	
	高等学校 (定時制)	163	23. 9	15. 3	19. 0	12. 3	1. 8	1. 2	
	中等教育学校	15	33. 3	33. 3	33. 3	20. 0	6. 7	0. 0	
	特別支援学校	410	8. 5	33. 2	10. 5	11. 7	4. 1	0. 5	

（４）鑑賞教室の代替としてのＣＤ・ＤＶＤ等の効果

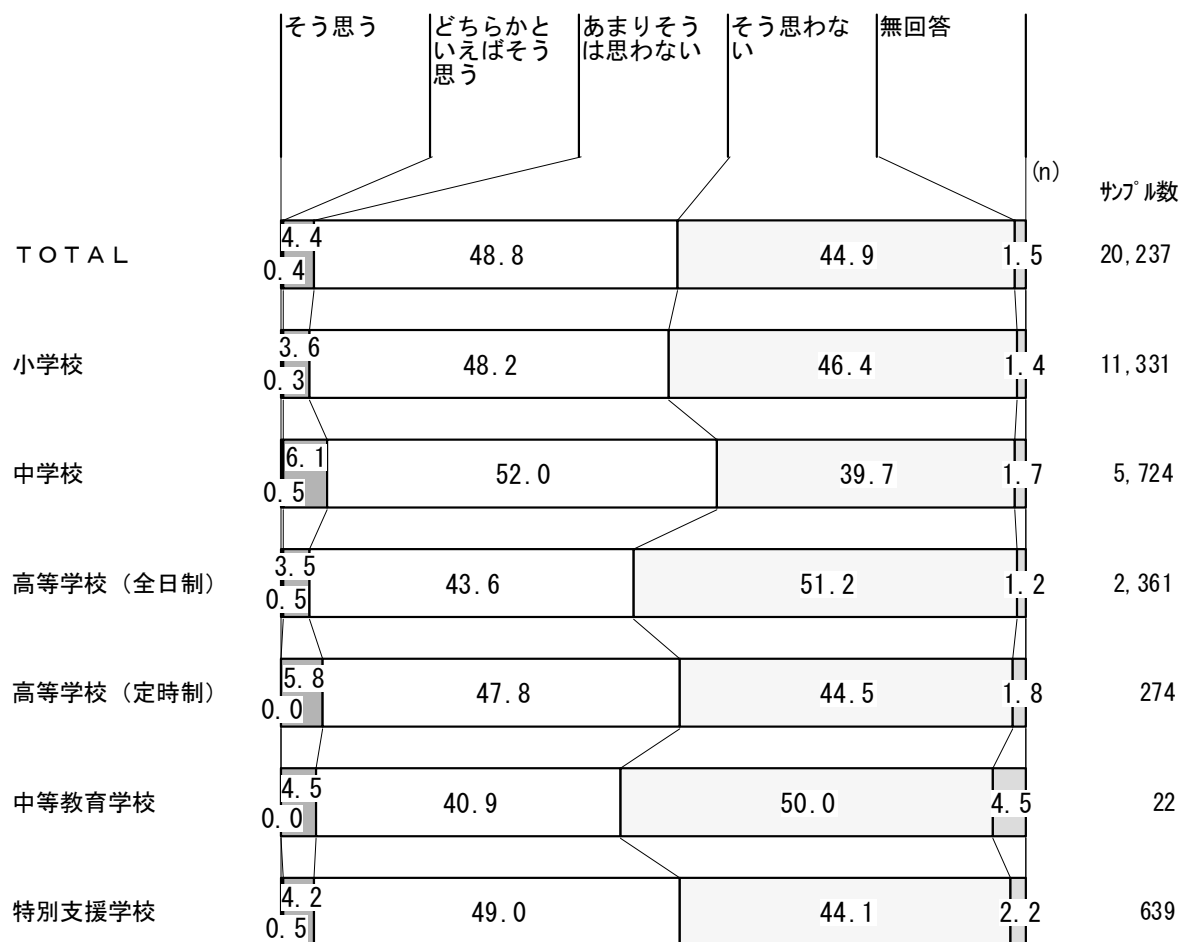
【学校調査：問１２＜学校ベース＞】

鑑賞教室の代替として、ＣＤやＤＶＤ等による鑑賞を行なった場合、同様の効果を期待できると思いますか。

鑑賞教室の代替としてのＣＤ・ＤＶＤ等の効果では、「そう思う」（0.4%）、「どちらかといえばそう思う」（4.4%）をあわせて効果を期待する割合は4.8%となっている。

学校区分別でみると、中学校は効果を期待する割合が6.6%で、小学校、高等学校（全日制）よりも若干高くなっている。

図表Ⅲ—79 鑑賞教室の代替としてのＣＤ・ＤＶＤ等の効果
＜学校区分別＞



（５）鑑賞教室の実施に関わる方針

【学校調査：問１３＜学校ベース＞】

貴校では今後、鑑賞教室をどの程度実施していく方針ですか。

鑑賞教室の実施に関わる方針では、「従来と変わらない」が62.2%と最も高く、「今後の方針は未定」(28.9%)、「鑑賞教室の実施を増やしたい」(7.1%)と続いている。

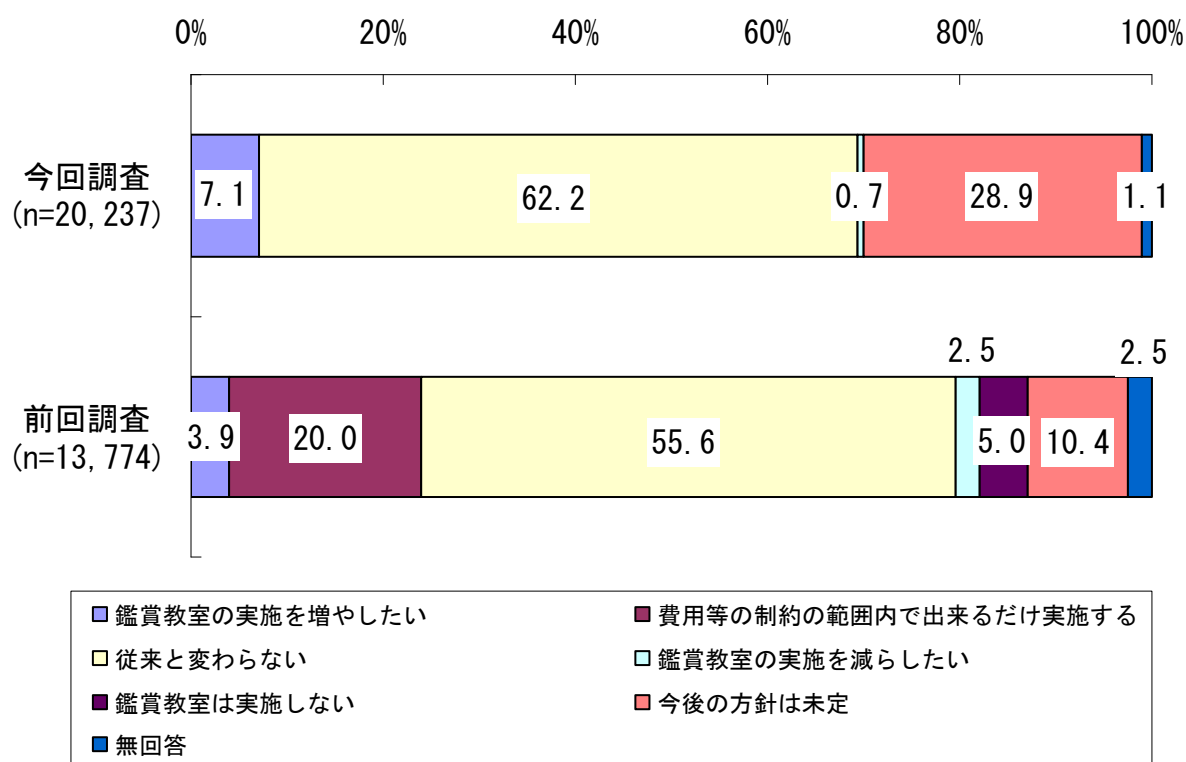
前回調査結果と比較すると、「従来と変わらない」「鑑賞教室の実施を増やしたい」の割合が前回よりも増加している。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「従来と変わらない」が73.2%と小学校、中学校よりも割合が高くなっており、「鑑賞教室の実施を増やしたい」が2.8%と小学校、中学校よりも割合が低くなっている。また、中学校は「今後の方針は未定」が39.6%と小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「従来と変わらない」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にある。また、小学校、中学校では「鑑賞教室の実施を増やしたい」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にあり、小学校では「今後の方針は未定」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にある。

都道府県別でみると、「鑑賞教室の実施を増やしたい」では、「愛媛県」が17.9%と最も高く、「大分県」(17.1%)、「香川県」(17.0%)と続いている。

図表Ⅲ—80 鑑賞教室の実施に関わる方針



※「鑑賞教室の実施を増やしたい」は前回調査では「鑑賞教室をいっそう積極的に実施する」
 「鑑賞教室の実施を減らしたい」は前回調査では「鑑賞教室は減らしていく」
 「費用等の制約の範囲内でできるだけ実施する」「鑑賞教室は実施しない」は前回調査のみ

図表Ⅲ—81 鑑賞教室の実施に関わる方針

<学校区分別・生徒数別>

(%)

		n	鑑賞教室の 実施を 増やした	従来と 変わらない	鑑賞教室の 実施を 減らした	今後の 方針は未 定	無 回 答
全 体		20,237	7.1	62.2	0.7	28.9	1.1
区 分	小学校	11,331	7.9	66.2	0.5	24.3	1.1
	中学校	5,724	7.0	51.3	0.8	39.6	1.2
	高等学校 (全日制)	2,361	2.8	73.2	1.2	21.9	0.9
	高等学校 (定時制)	274	2.2	63.5	1.8	31.8	0.7
	中等教育学校	22	0.0	63.6	0.0	36.4	0.0
	特別支援学校	639	9.7	51.0	0.5	37.1	1.7
小学校	100人以下	3,072	10.6	51.8	0.2	36.0	1.5
	101～200人	2,016	9.2	62.4	0.4	26.8	1.1
	201～400人	2,727	7.9	70.6	0.6	19.8	1.1
	401～600人	1,927	5.0	76.8	0.7	16.7	0.8
	601人以上	1,492	4.7	79.2	0.4	15.1	0.6
中学校	100人以下	1,117	10.2	45.6	0.4	42.3	1.4
	101～200人	929	8.6	50.1	0.9	39.5	1.0
	201～400人	1,744	6.1	51.1	1.1	40.7	1.0
	401～600人	1,267	5.2	56.0	0.8	36.5	1.5
	601人以上	623	4.7	54.4	1.0	38.4	1.6
高等学校 (全日制)	400人以下	572	4.0	59.6	1.6	33.0	1.7
	401～600人	513	2.7	74.1	1.2	21.4	0.6
	601～800人	520	2.1	79.6	1.2	16.2	1.0
	801 ～1000人	511	2.2	79.5	1.2	17.0	0.2
	1001人以上	208	2.9	80.3	0.5	15.4	1.0

図表Ⅲ—82 鑑賞教室の実施に関わる方針

<都道府県別>

(%)

	n	鑑賞教室の 実施を 増やしたい	従来と 変わらない	鑑賞教室の 実施を 減らしたい	今後の 方針は未 定	無 回 答
全 体	20,237	7.1	62.2	0.7	28.9	1.1
北海道	1,226	3.9	62.1	0.9	31.7	1.4
青森県	443	5.4	69.5	0.7	22.3	2.0
岩手県	520	3.3	74.4	1.2	20.4	0.8
宮城県	529	4.2	62.9	1.1	30.8	0.9
秋田県	352	6.0	66.2	1.1	25.9	0.9
山形県	368	6.3	78.8	0.8	13.6	0.5
福島県	597	3.2	75.5	0.3	20.1	0.8
茨城県	529	5.5	54.4	0.4	37.8	1.9
栃木県	447	6.3	70.5	0.0	22.6	0.7
群馬県	379	5.3	59.4	0.8	34.0	0.5
埼玉県	528	5.3	60.8	0.4	30.9	2.7
千葉県	805	7.0	58.1	0.7	32.8	1.4
東京都	838	6.1	66.3	1.3	23.7	2.5
神奈川県	686	3.2	67.5	1.2	25.8	2.3
新潟県	581	4.6	56.1	0.9	37.5	0.9
富山県	241	6.2	58.9	0.8	33.2	0.8
石川県	258	8.5	56.2	0.4	34.5	0.4
福井県	199	8.5	52.8	2.0	36.2	0.5
山梨県	230	5.2	74.8	0.4	18.7	0.9
長野県	420	3.3	78.1	1.2	16.4	1.0
岐阜県	425	6.1	67.8	0.9	24.2	0.9
静岡県	604	6.8	74.0	0.3	18.2	0.7
愛知県	827	3.4	73.2	0.7	22.1	0.6
三重県	390	11.3	52.1	0.3	36.2	0.3

(%)

	n	鑑賞教室の 増やしたい 実施を	従来と 変わらない	鑑賞教室の 減らしたい 実施を	今後の方針は 未定	無回答
全 体	20,237	7.1	62.2	0.7	28.9	1.1
滋賀県	232	5.6	60.3	0.0	33.2	0.9
京都府	315	11.1	64.8	0.3	22.5	1.3
大阪府	715	4.1	79.4	0.4	15.0	1.1
兵庫県	636	7.1	61.2	0.8	29.4	1.6
奈良県	237	8.9	67.5	0.8	21.5	1.3
和歌山県	242	12.0	45.9	0.4	39.7	2.1
鳥取県	153	9.8	59.5	0.7	28.1	2.0
島根県	245	8.2	47.3	0.8	42.4	1.2
岡山県	432	7.4	73.8	0.5	18.3	0.0
広島県	514	13.6	48.6	0.0	36.6	1.2
山口県	345	7.5	46.7	0.6	43.5	1.7
徳島県	220	15.9	23.2	0.0	60.0	0.9
香川県	218	17.0	44.5	0.0	36.7	1.8
愛媛県	340	17.9	38.2	0.3	43.5	0.0
高知県	220	16.8	31.8	0.0	49.5	1.8
福岡県	581	6.9	68.7	1.5	21.7	1.2
佐賀県	207	8.7	59.4	1.0	30.0	1.0
長崎県	385	11.9	41.0	0.0	46.5	0.5
熊本県	356	12.4	53.9	0.0	33.4	0.3
大分県	275	17.1	33.5	0.0	48.0	1.5
宮崎県	277	4.3	83.8	1.1	10.5	0.4
鹿児島県	429	10.5	51.3	0.0	38.0	0.2
沖縄県	240	9.2	66.3	0.0	23.8	0.8
不 明	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

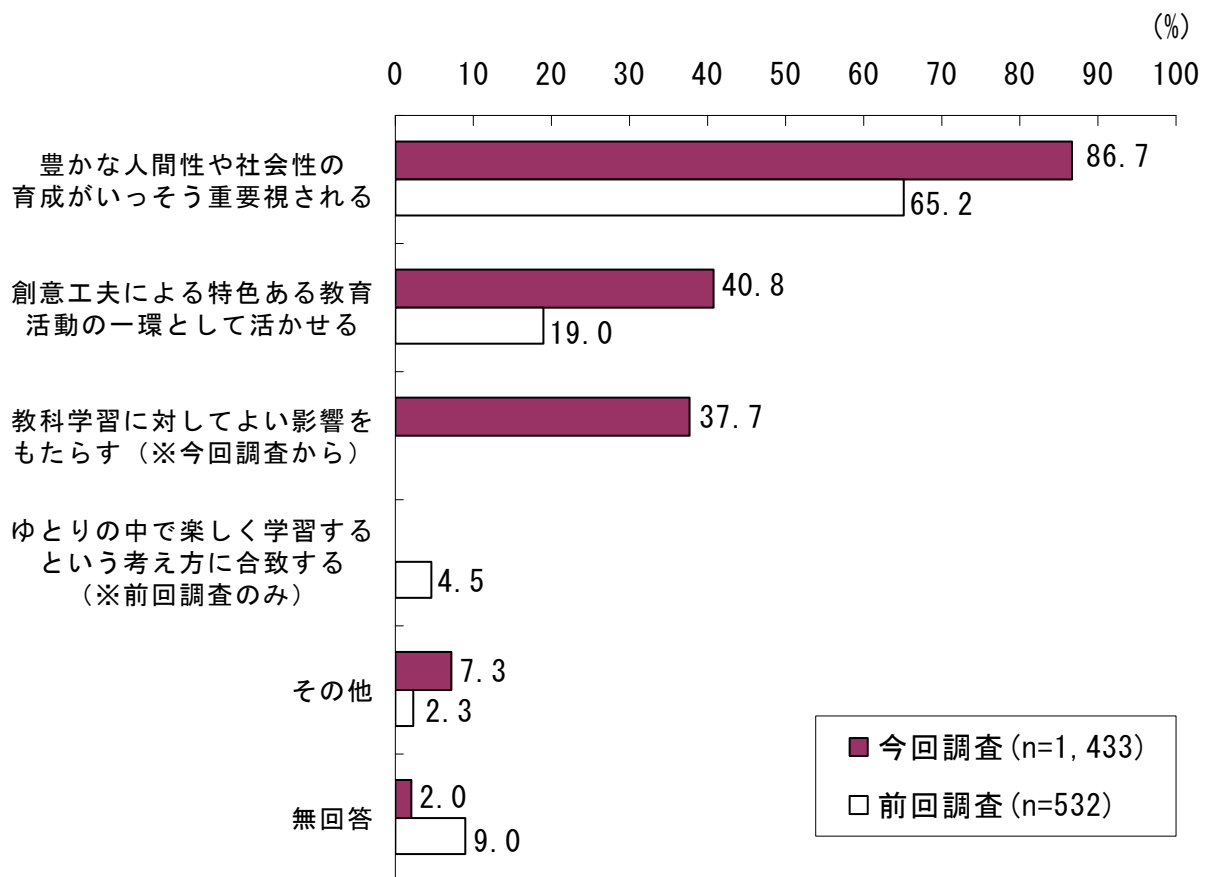
（６）鑑賞教室の実施に積極的な方針をとる理由

【学校調査：付問１３－１＜学校ベース＞】〔問１３で「１実施を増やしたい」を選択した学校にお尋ねします。〕
そのように考える理由は何ですか。（複数回答）

鑑賞教室の実施に積極的な方針をとる理由では、「豊かな人間性や社会性の育成がいっそう重要視される」が86.7%と最も高く、「創意工夫による特色ある教育活動の一環として活かせる」（40.8%）、「教科学習に対してよい影響をもたらす」（37.7%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「豊かな人間性や社会性の育成がいっそう重要視される」「創意工夫による特色ある教育活動の一環として活かせる」の割合が前回よりも増加している。

図表Ⅲ—83 鑑賞教室の実施に積極的な方針をとる理由（複数回答）【実施増加意向有り】



(7) 鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策

【学校調査：問14＜学校ベース＞】

学校における鑑賞教室を増やしていくために、どのような支援があったらよいと思いますか。次のうち、特に必要と思われる支援策を3つまでお答えください。(〇は3つまで)

鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策では、「文化庁や教育委員会などからの助成支援」が81.2%と最も高く、「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」(33.9%)、「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」(33.7%)と続いている。

学校区分別でみると、「文化庁や教育委員会などからの助成支援」「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」「公立文化施設等による地域も含めた鑑賞の機会」はいずれも学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、小学校は「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」が31.1%と中学校、高等学校(全日制)よりも割合が低くなっている。

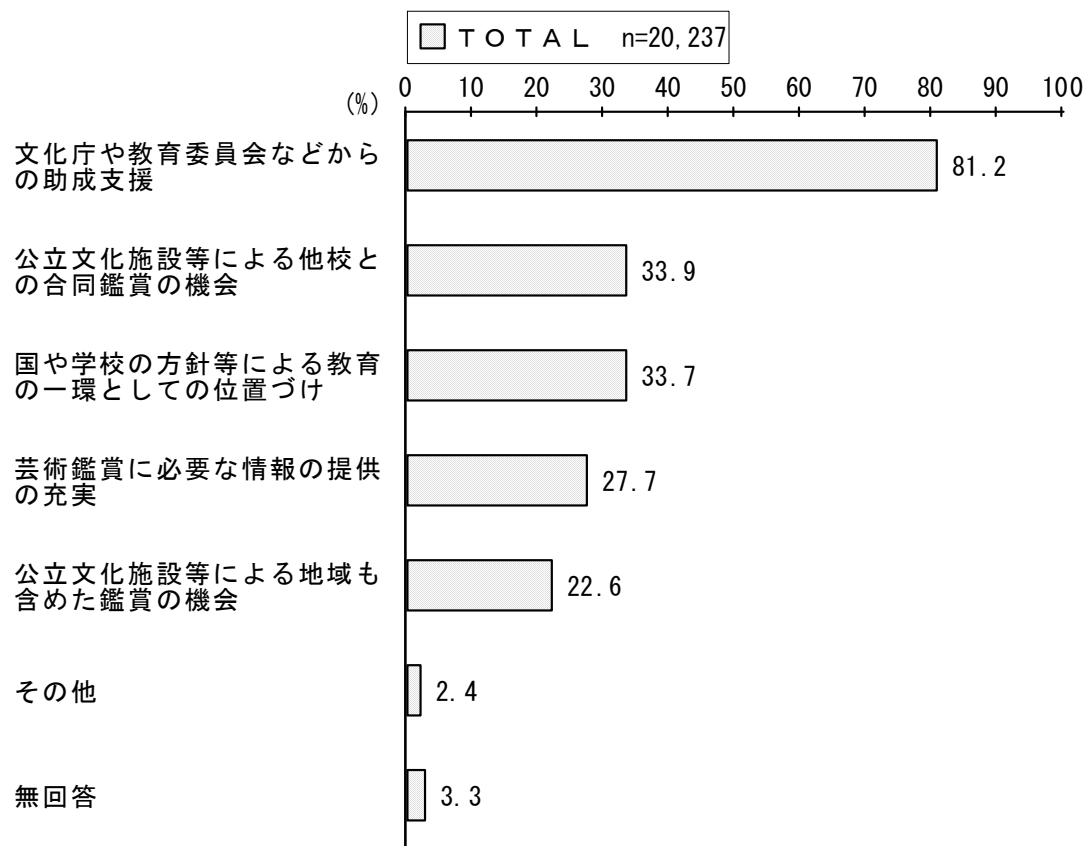
生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校(全日制)とも「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にあり、「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にある。また、小学校、中学校では「文化庁や教育委員会などからの助成支援」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にあり、高等学校(全日制)では「400人以下」で「文化庁や教育委員会などからの助成支援」が84.3%と他の層よりも割合が高くなっている。

都道府県別でみると、「文化庁や教育委員会などからの助成支援」では、「山口県」が89.6%と最も高く、「鹿児島県」(89.3%)、「高知県」(88.6%)と続いており、「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」では、「秋田県」が54.5%と最も高く、「愛媛県」(53.5%)、「鹿児島県」(50.3%)と続いている。また、「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」では、「埼玉県」が42.8%と最も高く、「東京都」(42.0%)、「長崎県」(39.5%)と続いており、「芸術鑑賞に必要な情報の提供の充実」では、「宮崎県」が39.0%と最も高く、「奈良県」(38.0%)、「徳島県」(37.3%)と続いている。さらに、「公立文化施設等による地域も含めた鑑賞の機会」では、「山梨県」が30.9%と最も高く、「香川県」(30.3%)、「富山県」「奈良県」(27.0%)と続いている。

鑑賞教室の実施の有無別でみると、「実施した(実施する予定)」では「芸術鑑賞に必要な情報の提供の充実」が29.9%と「実施しない」よりも割合が高く、「実施しない」では「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」が38.8%、「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」が35.6%、「公立文化施設等による地域も含めた鑑賞の機会」が25.1%と「実施した(実施する予定)」よりも割合が高い。

鑑賞教室の内容の決定方法別でみると、「自校で独自に決める」では「芸術鑑賞に必要な情報の提供の充実」が33.0%と他の決定方法よりも割合が高く、「公立文化施設等による他校との合同鑑賞の機会」が27.8%、「国や学校の方針等による教育の一環としての位置づけ」が31.7%と他の決定方法よりも割合が低い。また、「教育委員会で決められる」では「文化庁や教育委員会などからの助成支援」が84.4%と他の決定方法よりも割合が高い。

図表Ⅲ—84 鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策(複数回答)



＜学校区分別・生徒数別＞

126

図表Ⅲ—86 鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答）

<都道府県別>

（％）

	n	支援文化庁や教育委員会などからの助成	鑑賞の機会と合同による他校の施設等	公立文化施設等における位置づけ	国や学校の方針等としての教育の環境	芸術鑑賞に必要情報提供の充実	鑑賞の機会も含めた公立文化施設等に	その他	無回答
全 体	20,237	81.2	33.9	33.7	27.7	22.6	2.4	3.3	
北海道	1,226	78.8	31.9	35.7	26.4	21.6	3.3	3.2	
青森県	443	80.8	44.0	25.3	29.8	23.7	1.4	4.1	
岩手県	520	77.1	41.0	30.2	25.4	22.3	3.7	2.1	
宮城県	529	80.9	38.4	35.2	23.1	22.1	4.5	2.5	
秋田県	352	86.1	54.5	29.8	23.9	21.3	2.6	2.8	
山形県	368	82.6	38.9	26.9	27.4	23.9	1.6	4.1	
福島県	597	83.4	40.4	30.2	27.1	20.4	1.5	2.8	
茨城県	529	77.9	40.3	32.7	27.8	26.7	1.7	3.2	
栃木県	447	83.4	40.9	29.3	24.4	26.2	1.6	2.7	
群馬県	379	76.8	27.7	39.3	20.1	16.4	2.9	4.5	
埼玉県	528	75.9	23.9	42.8	29.9	22.3	3.8	5.5	
千葉県	805	78.8	32.9	33.7	26.5	24.3	2.1	4.5	
東京都	838	74.2	19.2	42.0	25.4	21.2	3.5	5.8	
神奈川県	686	74.8	17.3	38.9	24.2	20.7	3.4	5.8	
新潟県	581	81.4	48.7	28.9	20.8	24.1	1.2	1.9	
富山県	241	83.4	43.2	31.1	28.6	27.0	3.3	2.1	
石川県	258	78.3	37.6	39.1	25.2	20.5	2.7	4.7	
福井県	199	79.9	40.7	28.1	26.1	21.6	1.5	2.0	
山梨県	230	86.1	25.7	35.7	29.1	30.9	1.3	2.2	
長野県	420	81.0	24.8	35.0	23.1	18.8	3.8	3.8	
岐阜県	425	78.8	27.8	31.5	32.5	26.1	1.4	2.8	
静岡県	604	80.5	32.8	33.6	26.8	25.5	3.8	3.1	
愛知県	827	78.8	19.1	33.9	32.5	24.8	2.1	2.5	
三重県	390	84.9	24.9	30.5	34.9	21.3	2.6	2.1	

(%)

	n	支援 会など から教 育助成 委員	文化 庁や 教育 委員 会	鑑賞 の機 会	公立 文化 施設 の設 置等 に	と しよ る教 育の 位置 づけ 等	国 や学 校の 方針 等	情 報 の提 供に 必要 な	芸 術鑑 賞の 必要 な	鑑賞 の機 会	公立 文化 施設 の設 置等 に	そ の 他	無 回 答
全 体	20,237	81.2	33.9	33.7	27.7	22.6	2.4	3.3					
滋賀県	232	81.0	24.6	37.5	26.3	25.0	3.4	2.6					
京都府	315	87.3	27.9	30.5	30.8	19.4	2.5	4.1					
大阪府	715	77.2	20.6	30.6	30.3	22.0	1.4	5.5					
兵庫県	636	81.6	29.9	31.1	24.2	23.0	2.5	3.9					
奈良県	237	84.8	19.8	34.2	38.0	27.0	3.0	2.1					
和歌山県	242	82.6	37.2	23.1	31.8	20.2	0.4	5.8					
鳥取県	153	81.7	34.6	34.0	26.1	17.0	2.0	3.3					
島根県	245	86.9	48.2	22.9	29.8	24.1	3.3	2.0					
岡山県	432	82.6	30.8	28.2	36.8	18.8	2.3	4.6					
広島県	514	83.1	36.0	37.9	30.5	18.9	1.6	2.9					
山口県	345	89.6	39.1	34.2	28.4	21.7	1.2	2.6					
徳島県	220	80.9	37.3	31.8	37.3	22.3	1.4	2.7					
香川県	218	87.6	38.5	30.7	32.6	30.3	1.4	1.8					
愛媛県	340	82.9	53.5	29.7	28.8	24.1	0.9	1.5					
高知県	220	88.6	42.7	35.0	32.3	23.6	0.9	2.7					
福岡県	581	80.0	29.1	38.2	25.5	24.1	2.4	4.0					
佐賀県	207	85.0	42.0	30.9	15.5	25.1	2.4	2.4					
長崎県	385	86.0	46.8	39.5	24.7	22.3	2.3	1.6					
熊本県	356	88.2	40.4	37.6	31.2	23.6	2.0	0.8					
大分県	275	85.8	38.5	38.9	27.6	18.5	3.6	2.2					
宮崎県	277	85.6	46.6	30.3	39.0	14.4	1.4	1.4					
鹿児島県	429	89.3	50.3	36.8	21.9	21.4	2.1	0.7					
沖縄県	240	85.4	37.5	38.8	31.3	22.5	1.7	4.6					
不 明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0					

図表Ⅲ—87 鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答）

＜鑑賞教室の実施の有無別＞

		(%)													
		問 1 4													
		n	支援 会 な ど か ら 教 育 助 委 成 員	文 化 庁 や 教 育 委 員 会	鑑 賞 の 機 会 と 設 合 等 に	公 立 他 校 の 施 設 等 に	と し よ や の 教 育 の 方 針 に あ わ せ て	国 や 学 校 の 育 の 方 針 に あ わ せ て	情 報 の 提 供 に 必 要 な 実 施 策	芸 術 鑑 賞 の 機 会 と 設 合 等 に	鑑 賞 の 機 会 と 設 合 等 に	公 立 他 校 の 施 設 等 に	そ の 他	無 回 答	
全 体		20, 237	81. 2	33. 9	33. 7	27. 7	22. 6	2. 4	3. 3						
問 1	実施した（実施する予定）	13, 943	81. 7	31. 7	32. 8	29. 9	21. 5	2. 3	3. 0						
	実施しない	6, 259	80. 2	38. 8	35. 6	22. 7	25. 1	2. 6	3. 9						
	無回答	35	68. 6	22. 9	42. 9	37. 1	8. 6	0. 0	14. 3						

図表Ⅲ—88 鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答）

＜鑑賞教室の内容の決定方法別＞

(%)

			問 1 4											
			n	支援 会文化 など の 助 成 員	鑑 賞 の 機 会	公 立 他 校 の 施 設 等 に	と し よ や の 教 育 の 方 針 に	国 や 学 校 の 育 の 方 針 に	情 報 の 提 供 に 必 要 な	芸 術 鑑 賞 の 機 会	鑑 賞 の 機 会	公 立 他 校 の 施 設 等 に	そ の 他	無 回 答
全 体			13,943	81.7	31.7	32.8	29.9	21.5	2.3	3.0				
問 4	自校で独自に決める	9,033	81.2	27.8	31.7	33.0	21.3	2.4	3.4					
	地区の教育研究会等で 決められる	890	80.9	35.4	36.3	21.7	20.2	1.8	2.6					
	教育委員会で決められる	2,035	84.4	38.7	37.1	22.7	20.6	2.2	2.0					
	その他	1,851	82.8	41.3	32.6	26.4	24.0	2.1	2.4					
	無回答	134	70.1	32.1	29.1	26.1	21.6	3.7	8.2					

(8) 舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞の機会

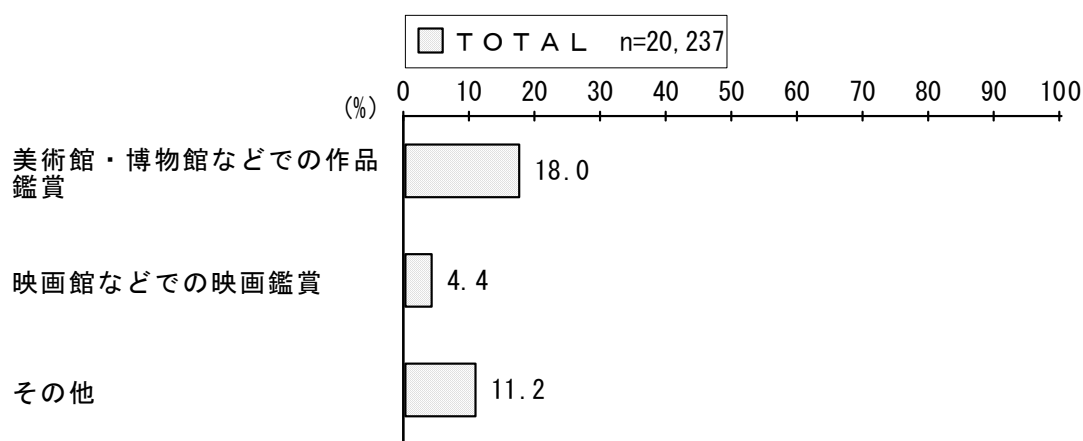
【学校調査：問15＜学校ベース＞】

貴校では、舞台芸術鑑賞以外に芸術文化の鑑賞機会を設けていますか。次のうち、実施しているものすべてに○印をつけてください。（複数回答）

舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞の機会では、「美術館・博物館などでの作品鑑賞」が18.0%、「映画館などでの映画鑑賞」が4.4%となっている。

学校区分別でみると、「美術館・博物館などでの作品鑑賞」は学年が低くなるほど割合が高く、「映画館などでの映画鑑賞」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。

図表Ⅲ—89 舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞機会（複数回答）



図表Ⅲ—90 舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞機会（複数回答）

＜学校区分別＞

		（％）			
		n	ど美 で術 の館 作・品 鑑物 賞館 な	画映 鑑画 賞館 など での 映	そ 他
全 体		20,237	18.0	4.4	11.2
区 分	小学校	11,331	19.4	2.5	11.3
	中学校	5,724	16.5	5.2	10.7
	高等学校 (全日制)	2,361	11.3	8.0	10.8
	高等学校 (定時制)	274	9.1	17.5	10.9
	中等教育学校	22	18.2	4.5	13.6
	特別支援学校	639	33.3	13.1	15.8

5. 文化芸術関連の外部指導員の導入状況

(1) 芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無

【学校調査：問16＜学校ベース＞】

平成19年度に、貴校では教員以外に、専門の芸術家などの指導者を外部から招いていますか。あるいは、招く予定がありますか。

芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無では、「招いている・招く予定がある」が30.4%、「招いていない・招く予定はない」が67.9%となっている。

前回調査結果と比較すると、「招いている・招く予定がある」の割合が前回よりも増加している。

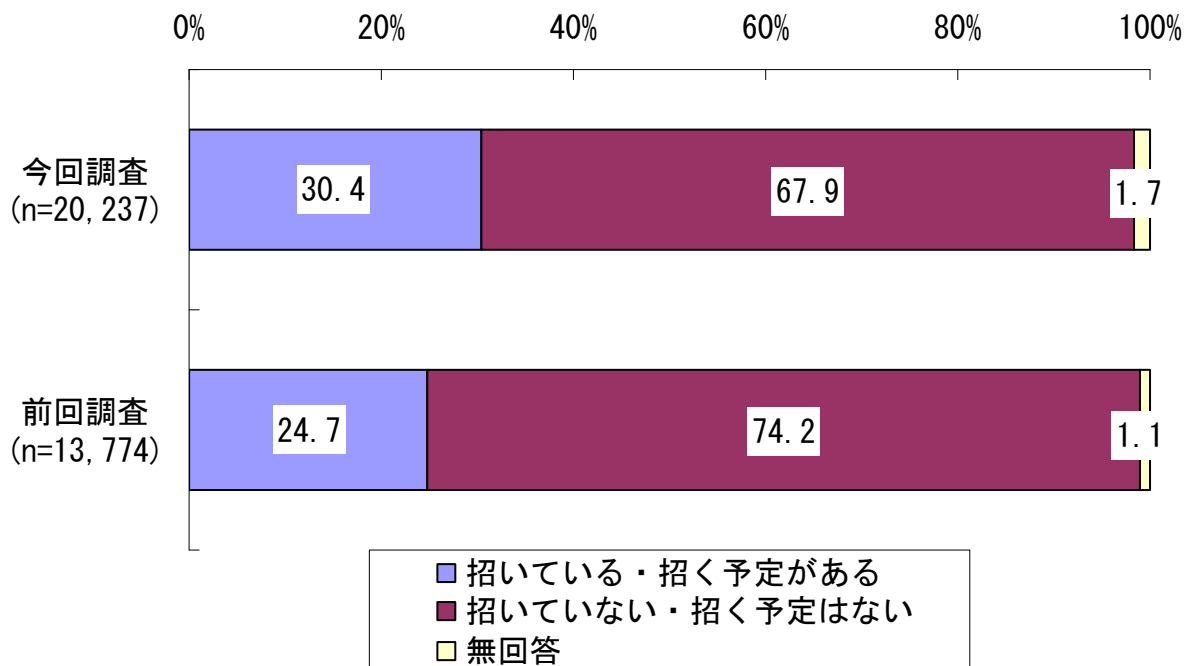
学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「招いている・招く予定がある」が25.0%と小学校、中学校よりも割合が低くなっている。

生徒数別でみると、小学校、高等学校（全日制）とも「招いている・招く予定がある」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にある。

都道府県別でみると、「招いている・招く予定がある」は「富山県」が46.5%と最も高く、「福井県」（46.2%）、「山梨県」（43.9%）と続いている。

鑑賞教室の実施の有無別でみると、「実施した（実施する予定）」は「招いている・招く予定がある」が33.1%と「実施しない」よりも割合が高くなっている。

図表Ⅲ—91 芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無



図表Ⅲ—92 芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無
 ＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)			
		n	招 招 く く い い 予 て 定 い が る あ ・ る	招 招 く く い い 予 て 定 い は な い い ・	無 回 答
全 体		20,237	30.4	67.9	1.7
区 分	小学校	11,331	31.6	66.8	1.7
	中学校	5,724	31.1	67.1	1.8
	高等学校 (全日制)	2,361	25.0	73.6	1.4
	高等学校 (定時制)	274	22.3	77.7	0.0
	中等教育学校	22	18.2	77.3	4.5
	特別支援学校	639	27.2	70.9	1.9
小学校	100人以下	3,072	25.9	72.4	1.7
	101～200人	2,016	31.2	67.0	1.8
	201～400人	2,727	33.1	65.2	1.7
	401～600人	1,927	35.5	62.8	1.7
	601人以上	1,492	35.8	62.7	1.5
中学校	100人以下	1,117	27.6	70.6	1.8
	101～200人	929	33.0	65.3	1.6
	201～400人	1,744	30.4	67.8	1.8
	401～600人	1,267	32.4	65.8	1.7
	601人以上	623	34.2	63.9	1.9
高等学校 (全日制)	400人以下	572	20.5	77.4	2.1
	401～600人	513	24.4	74.7	1.0
	601～800人	520	25.8	72.5	1.7
	801 ～1000人	511	29.4	69.9	0.8
	1001人以上	208	26.9	71.6	1.4

図表Ⅲ—93 芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無

<都道府県別>

(%)

(%)

	n	招 く い 予 て 定 い が る あ ・ る	招 く い 予 て 定 い は な い ・ い	無 回 答
全 体	20,237	30.4	67.9	1.7
北海道	1,226	17.6	80.8	1.6
青森県	443	16.0	81.7	2.3
岩手県	520	22.1	77.1	0.8
宮城県	529	27.0	71.6	1.3
秋田県	352	25.9	72.7	1.4
山形県	368	31.0	67.9	1.1
福島県	597	27.3	71.2	1.5
茨城県	529	30.4	67.1	2.5
栃木県	447	43.0	55.9	1.1
群馬県	379	29.8	68.3	1.8
埼玉県	528	30.9	67.4	1.7
千葉県	805	32.5	65.6	1.9
東京都	838	38.2	59.9	1.9
神奈川県	686	37.6	60.3	2.0
新潟県	581	30.5	67.8	1.7
富山県	241	46.5	51.5	2.1
石川県	258	33.3	64.3	2.3
福井県	199	46.2	52.8	1.0
山梨県	230	43.9	55.2	0.9
長野県	420	35.7	62.4	1.9
岐阜県	425	40.0	58.6	1.4
静岡県	604	36.8	61.9	1.3
愛知県	827	37.0	62.0	1.0
三重県	390	28.2	69.0	2.8

	n	招 く い 予 て 定 い が る あ ・ る	招 く い 予 て 定 い は な い ・ い	無 回 答
全 体	20,237	30.4	67.9	1.7
滋賀県	232	30.2	68.5	1.3
京都府	315	33.0	63.5	3.5
大阪府	715	26.7	71.2	2.1
兵庫県	636	28.1	69.5	2.4
奈良県	237	33.3	65.0	1.7
和歌山県	242	20.2	78.1	1.7
鳥取県	153	39.2	60.1	0.7
島根県	245	36.3	62.0	1.6
岡山県	432	30.6	68.1	1.4
広島県	514	37.4	61.5	1.2
山口県	345	26.1	72.2	1.7
徳島県	220	34.1	63.6	2.3
香川県	218	32.6	66.1	1.4
愛媛県	340	31.5	67.6	0.9
高知県	220	30.5	68.2	1.4
福岡県	581	29.8	68.5	1.7
佐賀県	207	30.4	67.1	2.4
長崎県	385	22.6	76.4	1.0
熊本県	356	24.7	73.9	1.4
大分県	275	24.4	74.5	1.1
宮崎県	277	30.3	66.8	2.9
鹿児島県	429	16.1	82.8	1.2
沖縄県	240	27.1	69.6	3.3
不 明	1	0.0	100.0	0.0

図表Ⅲ—94 芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無
 ＜鑑賞教室の実施の有無別＞

(%)

		問 1 6			
		n	招 招 く い く い 予 て 定 い が る あ ・ る	招 招 く い く い 予 て 定 い は な い ・ い ・	無 回 答
全 体		20,237	30.4	67.9	1.7
問 1	実施した（実施する予定）	13,943	33.1	65.6	1.3
	実施しない	6,259	24.5	73.1	2.4
	無回答	35	25.7	60.0	14.3

(2) 招聘する指導者の専門芸術分野

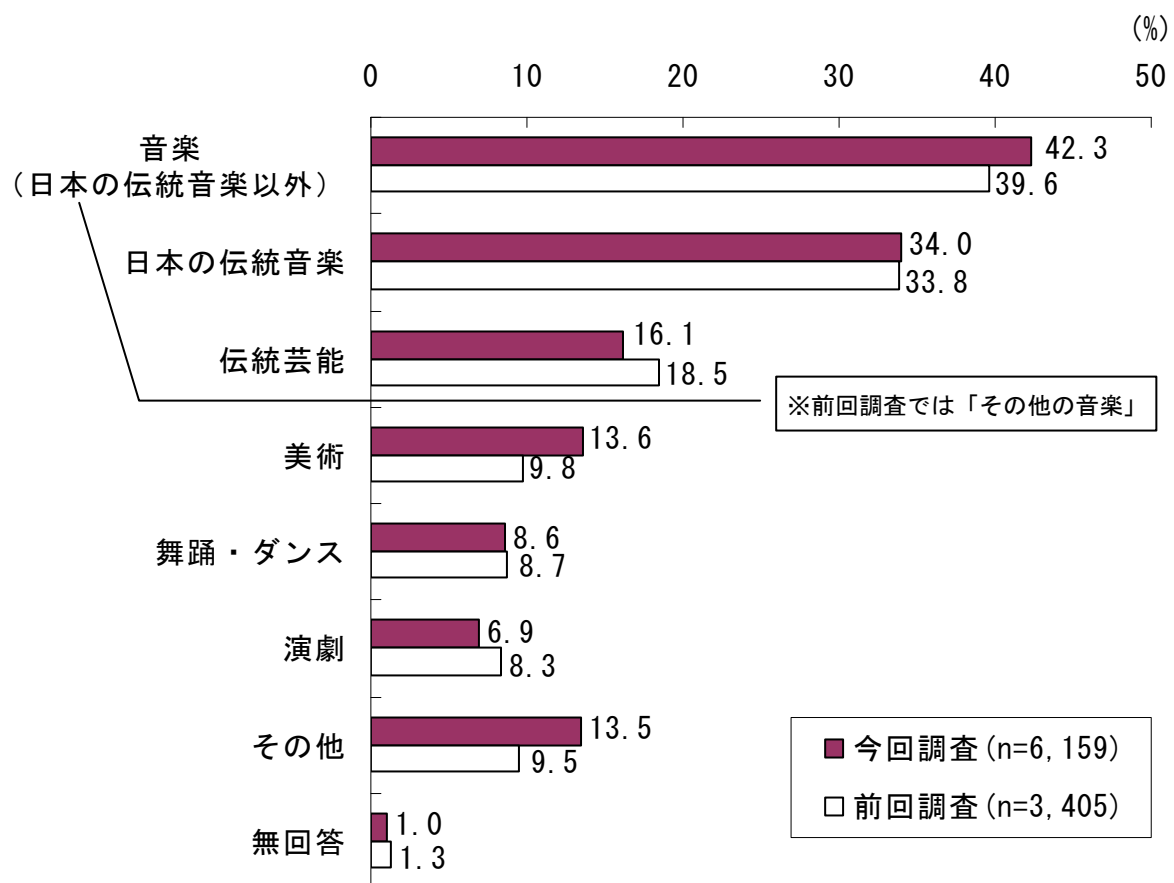
【学校調査：付問16-1＜学校ベース＞】〔問16で「1招く」を選択した学校にお尋ねします。〕
 どのような分野の指導者を招きますか。あるいは、招く予定ですか。（複数回答）

招聘する指導者の専門芸術分野では、「音楽（日本の伝統音楽以外）」が42.3%と最も高く、「日本の伝統音楽」（34.0%）、「伝統芸能」（16.1%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「音楽（日本の伝統音楽以外）」「美術」の割合が前回よりも増加しており、「伝統芸能」の割合が前回よりも若干減少している。

学校区分別でみると、中学校は「日本の伝統音楽」が43.0%と小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっており、高等学校（全日制）は「舞踊・ダンス」が12.0%と小学校、中学校よりも割合が高くなっている。

図表Ⅲ—95 招聘する指導者の専門芸術分野（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】



図表Ⅲ—96 招聘する指導者の専門芸術分野（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】

<学校区分別>

		(%)							
	n	音楽（日本以外の音楽）	日本の伝統音楽	伝統芸能	美術	舞踊・ダンス	演劇	その他	無回答
全 体	6,159	42.3	34.0	16.1	13.6	8.6	6.9	13.5	1.0
小学校	3,575	42.9	31.7	16.6	14.2	7.9	6.9	12.9	1.0
中学校	1,783	40.2	43.0	15.5	12.2	8.6	6.4	9.9	1.0
高等学校（全日制）	591	45.3	22.5	16.4	12.2	12.0	8.3	25.4	1.0
高等学校（定時制）	61	44.3	21.3	14.8	16.4	6.6	11.5	31.1	0.0
中等教育学校	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
特別支援学校	174	39.7	28.2	10.3	20.7	13.2	6.9	21.3	1.1
無回答	6	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7

（３）指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけ

【学校調査：付問１６－２＜学校ベース＞】〔問１６で「１招く」を選択した学校にお尋ねします。〕
外部の指導者の招聘を、学校教育の中でどのように位置づけていますか。（複数回答）

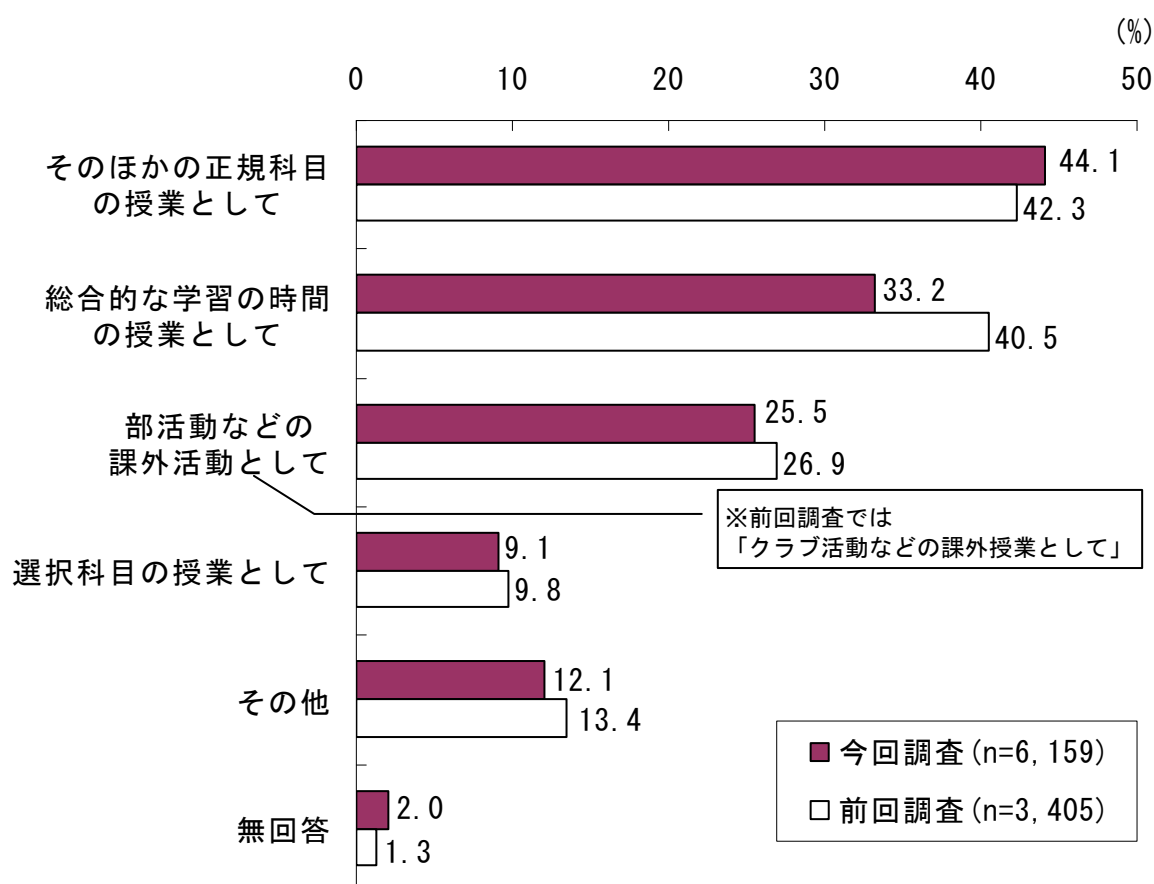
指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけでは、「そのほかの正規科目の授業として」が44.1%と最も高く、「総合的な学習の時間の授業として」（33.2%）、「部活動などの課外活動として」（25.5%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「総合的な学習の時間の授業として」の割合が前回よりも減少している。

学校区分別でみると、「そのほかの正規科目の授業として」「総合的な学習の時間の授業として」はいずれも学年が低くなるほど割合が高くなり、「部活動などの課外活動として」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、中学校では「選択科目の授業として」が22.9%と、小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっている。

図表Ⅲ—97 指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけ（複数回答）

【指導者招聘・招聘意向有り】



図表Ⅲ—98 指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけ（複数回答）

【指導者招聘・招聘意向有り】

<学校区分別>

（％）

	n	そのほ かの授 業と正 規で	総合 的な学 習の時 間	活動 として の課 外	選 択科 目の 授業と	そ 他	無 回 答
全 体	6,159	44.1	33.2	25.5	9.1	12.1	2.0
小学校	3,575	55.2	37.5	15.2	1.5	13.5	2.1
中学校	1,783	32.1	31.3	33.1	22.9	8.9	1.5
高等学校 （全日制）	591	14.2	12.0	67.2	14.4	10.0	2.2
高等学校 （定時制）	61	8.2	14.8	68.9	16.4	6.6	3.3
中等教育 学校	4	0.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0
特別支援 学校	174	47.1	34.5	11.5	5.2	22.4	4.0
無回答	6	66.7	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7

（４）指導者（芸術）招聘の目的

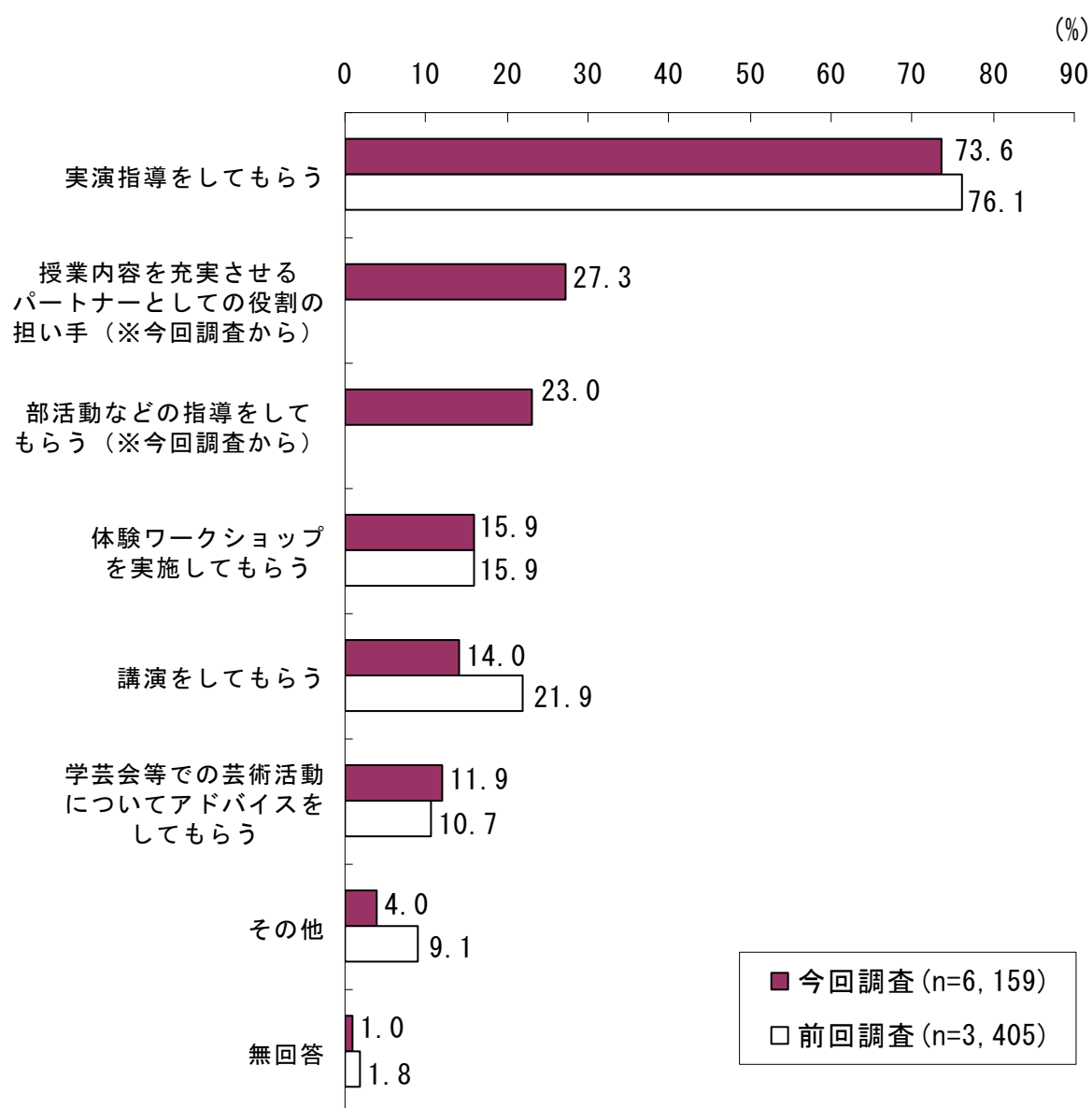
【学校調査：付問１６－３＜学校ベース＞】〔問１６で「１招く」を選択した学校にお尋ねします。〕
どのような目的で、外部から指導者を招聘しますか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。（複数回答）

指導者（芸術）招聘の目的では、「実演指導をしてもらう」が73.6%と最も高く、「授業内容を充実させるパートナーとしての役割の担い手」（27.3%）、「部活動などの指導をしてもらう」（23.0%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「講演をしてもらう」の割合が前回よりも減少している。

学校区分別でみると、「部活動などの指導をしてもらう」は学年が高くなるほど割合が高くなり、「体験ワークショップを実施してもらう」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、中学校では「学芸会等での芸術活動についてアドバイスをもらう」が15.4%と、小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっており、高等学校（全日制）では「実演指導をしてもらう」が55.7%、「授業内容を充実させるパートナーとしての役割の担い手」が13.5%と、小学校、中学校よりも割合が低くなっている。

図表Ⅲ—99 指導者（芸術）招聘の目的（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】



図表Ⅲ—100 指導者（芸術）招聘の目的（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】

<学校区分別>

（％）

	n	も 実 演 指 導 を し て ら う	授 業 内 容 を 充 実 さ せ る パ ー ト ナ ー と し て の 役 割 の 担 い 手	部 活 動 な ど の 指 導 を し て ら う	体 験 ワ ー ク シ ョ ッ プ を 実 施 し て ら う	講 演 を し て ら う	学 芸 会 等 で の 芸 術 活 動 に つ い て ア ド バ イ ス を し て ら う	そ の 他	無 回 答
全 体	6, 159	73. 6	27. 3	23. 0	15. 9	14. 0	11. 9	4. 0	1. 0
小学校	3, 575	76. 0	28. 2	13. 2	19. 6	14. 0	11. 3	4. 6	1. 0
中学校	1, 783	75. 4	29. 5	29. 9	10. 9	14. 0	15. 4	2. 7	0. 8
高等学校 （全日制）	591	55. 7	13. 5	64. 3	7. 1	13. 2	6. 8	3. 2	0. 8
高等学校 （定時制）	61	52. 5	16. 4	65. 6	6. 6	14. 8	8. 2	3. 3	1. 6
中等教育 学校	4	100. 0	25. 0	25. 0	0. 0	25. 0	25. 0	0. 0	0. 0
特別支援 学校	174	67. 8	33. 3	9. 2	20. 7	16. 1	6. 3	8. 6	2. 3
無回答	6	66. 7	16. 7	16. 7	33. 3	16. 7	0. 0	0. 0	16. 7

（５）招聘する指導者（芸術）の決定方法

【学校調査：付問１６－４＜学校ベース＞】〔問１６で「１招く」を選択した学校にお尋ねします。〕
外部から指導者を招くとき、どのようにして情報を得ましたか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。（複数回答）

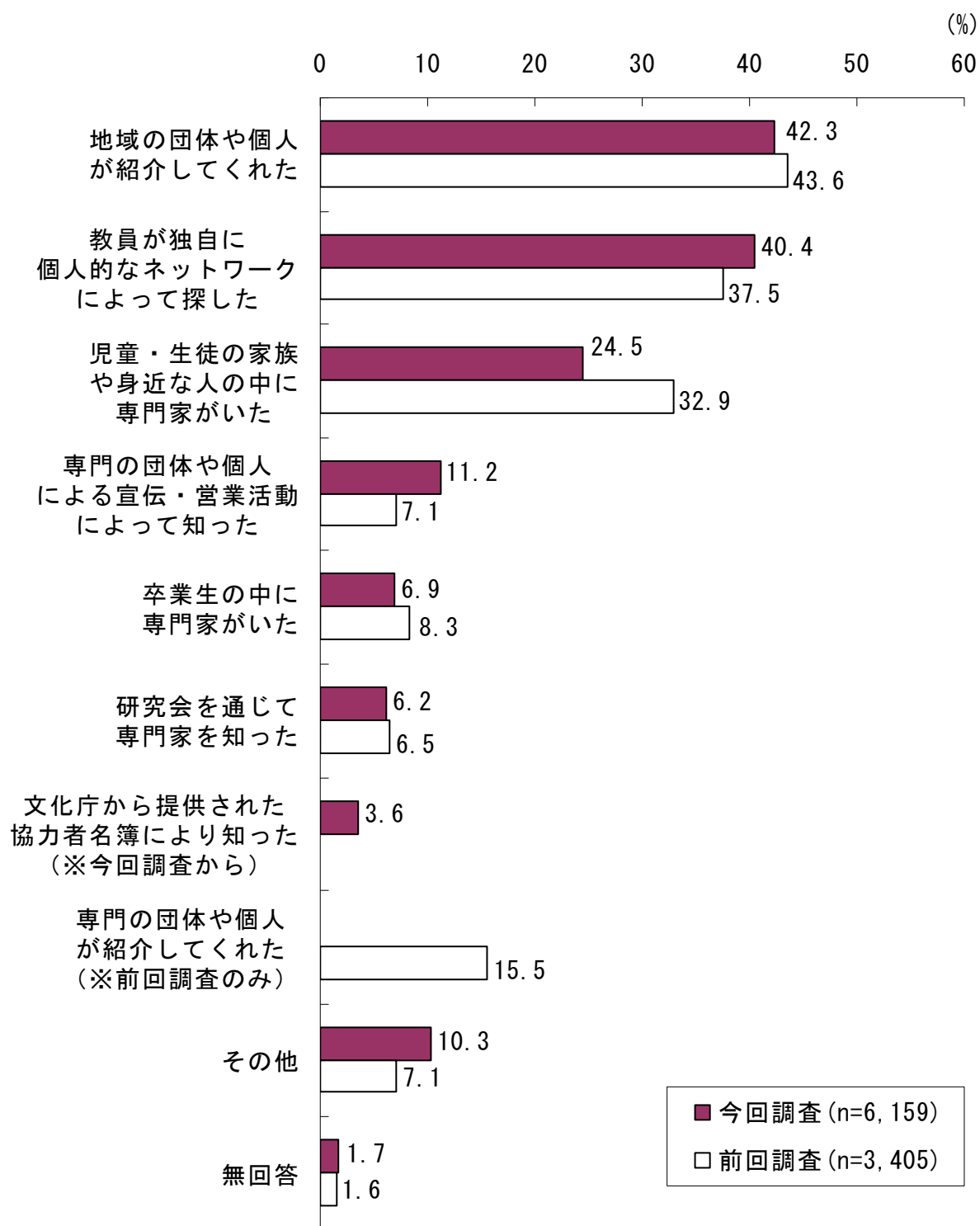
招聘する指導者（芸術）の決定方法では、「地域の団体や個人が紹介してくれた」が 42.3%と最も高く、「教員が独自に個人的なネットワークによって探した」(40.4%)、「児童・生徒の家族や身近な人の中に専門家がいた」(24.5%)と続いている。

前回調査結果と比較すると、「教員が独自に個人的なネットワークによって探した」「専門の団体や個人による宣伝・営業活動によって知った」の割合が前回よりも若干増加しており、「児童・生徒の家族や身近な人の中に専門家がいた」の割合が前回よりも減少している。

学校区分別でみると、「教員が独自に個人的なネットワークによって探した」「卒業生の中に専門家がいた」は学年が高くなるほど割合が高くなり、「児童・生徒の家族や身近な人の中に専門家がいた」「文化庁から提供された協力者名簿により知った」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。

小学校は「専門の団体や個人による宣伝・営業活動によって知った」が 13.0%と中学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっており、高等学校（全日制）は「地域の団体や個人が紹介してくれた」が 33.3%と小学校、中学校よりも割合が低くなっている。

図表Ⅲ—101 招聘する指導者（芸術）の決定方法（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】



図表Ⅲ—102 招聘する指導者（芸術）の決定方法（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】

<学校区分別>

(%)

	n	が地域の団体や個人を紹介してくれた人	的なネットワークによって探した	教員が独自に個人専門家がいた	児童・生徒の家族や身近な人の中に	専門の団体や個人による宣伝・営業活動によって知った	卒業生の中に専門家がいた	研究会を通じて専門家を知った	文化庁から提供された協力者名簿により知った	その他	無回答
全 体	6, 159	42. 3	40. 4	24. 5	11. 2	6. 9	6. 2	3. 6	10. 3	1. 7	
小学校	3, 575	42. 6	32. 4	28. 2	13. 0	4. 7	6. 5	4. 3	11. 8	1. 7	
中学校	1, 783	45. 5	48. 2	22. 4	8. 3	8. 2	6. 2	2. 9	7. 8	1. 5	
高等学校 (全日制)	591	33. 3	57. 5	10. 7	10. 7	16. 2	6. 4	1. 5	9. 5	2. 9	
高等学校 (定時制)	61	27. 9	63. 9	3. 3	6. 6	16. 4	1. 6	1. 6	9. 8	3. 3	
中等教育 学校	4	50. 0	75. 0	50. 0	0. 0	25. 0	0. 0	0. 0	25. 0	0. 0	
特別支援 学校	174	33. 9	60. 9	20. 1	7. 5	2. 9	2. 9	4. 6	8. 6	1. 1	
無回答	6	16. 7	16. 7	33. 3	16. 7	33. 3	0. 0	0. 0	33. 3	0. 0	

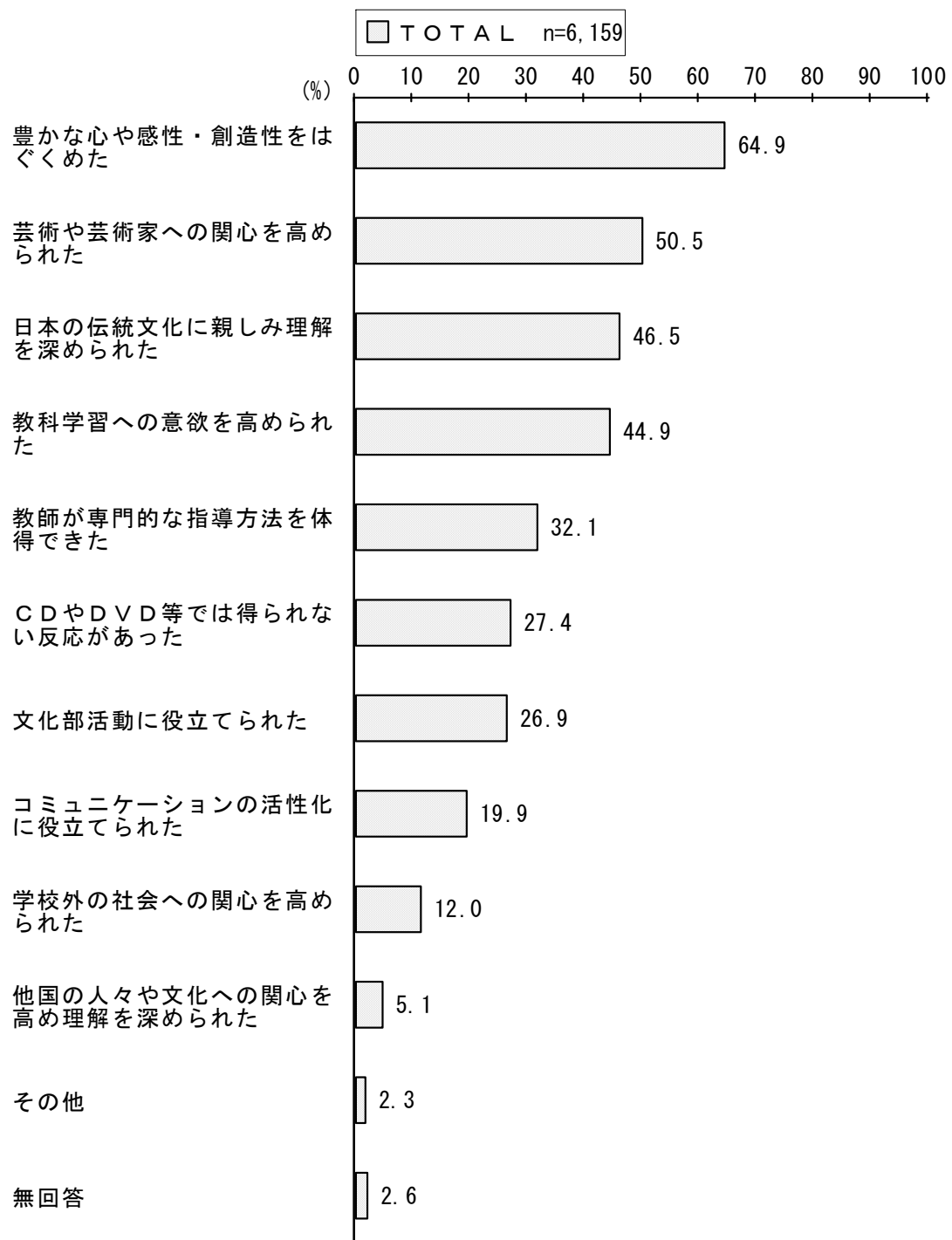
（６）指導者（芸術）を招聘することによる効果

【学校調査：問１７＜学校ベース＞】〔問１６で「１招く」を選択した学校にお尋ねします。〕
外部から指導者を招くことはどのような効果がありましたか。次のうち、あてはまるものすべてに
○印をつけてください。（複数回答）

指導者（芸術）を招聘することによる効果では、「豊かな心や感性・創造性をはぐくめた」が 64.9%と最も高く、「芸術や芸術家への関心を高められた」（50.5%）、「日本の伝統文化に親しみ理解を深められた」（46.5%）と続いている。

学校区分別でみると、「豊かな心や感性・創造性をはぐくめた」「芸術や芸術家への関心を高められた」「教科学習への意欲を高められた」「ＣＤやＤＶＤ等では得られない反応があった」「コミュニケーションの活性化に役立てられた」はいずれも学年が低くなるほど割合が高くなり、「文化部活動に役立てられた」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。また、中学校は「日本の伝統文化に親しみ理解を深められた」が 51.1%、「教師が専門的な指導方法を体得できた」が 35.5%と、小学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっている。

図表Ⅲ—103 指導者（芸術）を招聘することによる効果（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】



図表Ⅲ—104 指導者（芸術）を招聘することによる効果（複数回答）【指導者招聘・招聘意向有り】

<学校区分別>

			(%)					
		n	た創造性を 高める・め	豊かな心 や芸術家 への関心	芸術や 文化の 理解を 深める	日本の 伝統文 化に親 しむ意 欲	教科書 学習の 意欲	指導方 法が専 門的で ない指
全 体		6,159	64.9	50.5	46.5	44.9	32.1	27.4
区 分	小学校	3,575	69.1	53.2	45.9	50.4	31.3	30.6
	中学校	1,783	60.6	46.6	51.1	42.6	35.5	23.3
	高等学校 (全日制)	591	50.4	44.8	39.8	21.2	26.4	17.6
	高等学校 (定時制)	61	49.2	42.6	44.3	19.7	24.6	19.7
	中等教育学校	4	75.0	50.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	特別支援学校	174	73.6	54.0	35.1	39.7	34.5	35.6

			(%)					
		n	文化活動に 関与する	地域の 活性化に 関与する	学校の 外部と 連携する	他の 人々と 交流する	その他	無回答
全 体		6,159	26.9	19.9	12.0	5.1	2.3	2.6
区 分	小学校	3,575	16.6	20.3	10.9	5.8	2.1	2.6
	中学校	1,783	36.4	18.3	13.6	4.2	2.5	2.1
	高等学校 (全日制)	591	61.8	16.4	11.2	4.4	2.5	3.4
	高等学校 (定時制)	61	62.3	24.6	14.8	3.3	1.6	3.3
	中等教育学校	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特別支援学校	174	16.7	36.2	20.1	4.0	3.4	4.6

（７）指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じること

【学校調査：問１８＜学校ベース＞】

外部から指導者を招聘しようとする場合、どのようなことが困難だと感じられますか。次のうち、あてはまるもの３つまでに○印をつけてください。（○は３つまで）

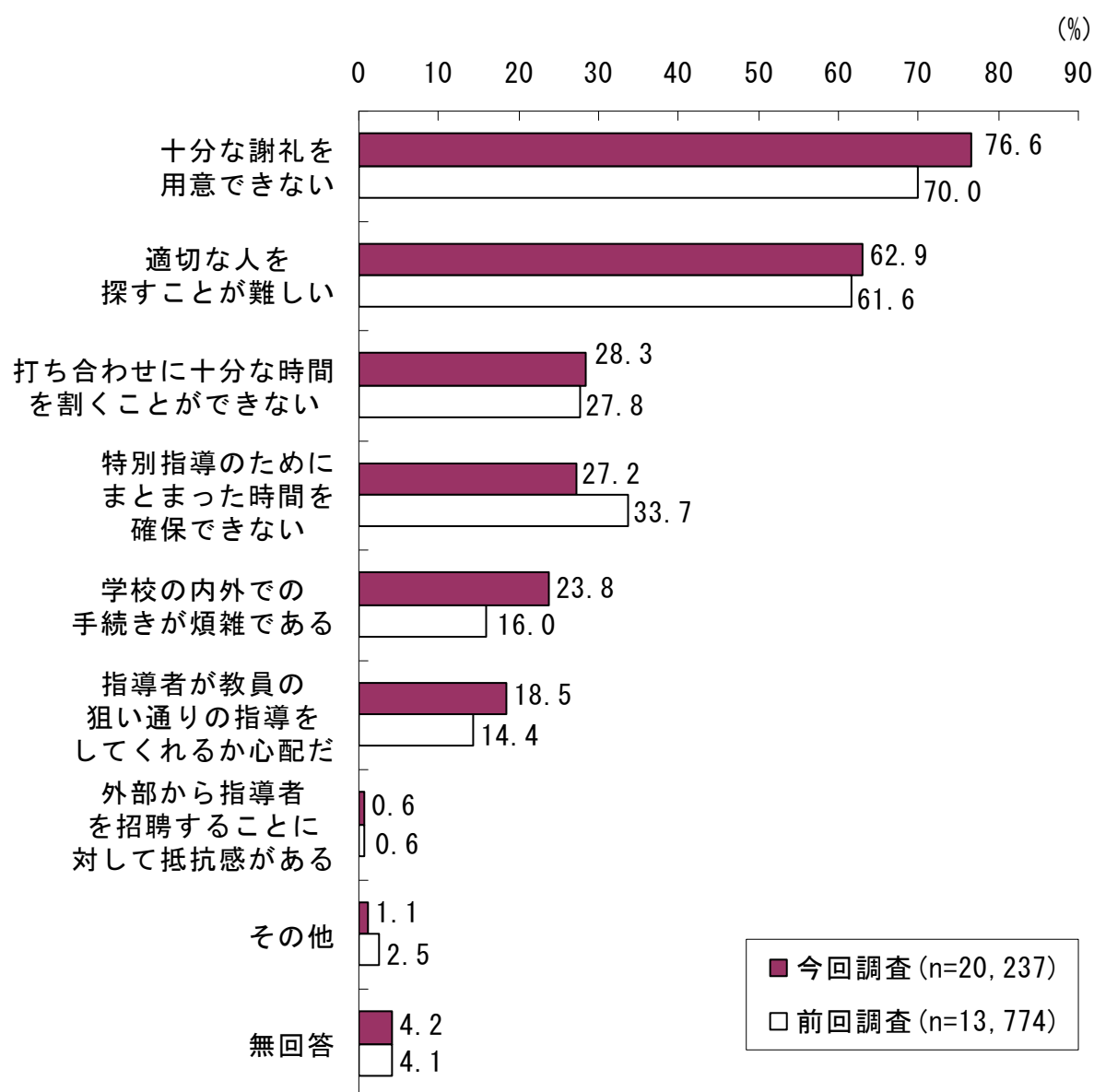
指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じることでは、「十分な謝礼を用意できない」が 76.6%と最も高く、「適切な人を探すことが難しい」（62.9%）、「打ち合わせに十分な時間を割くことができない」（28.3%）と続いている。

前回調査結果と比較すると、「十分な謝礼を用意できない」「学校の内外での手続きが煩雑である」「指導者が教員の狙い通りの指導をしてくれるか心配だ」の割合が前回よりも増加しており、「特別指導のためにまとまった時間を確保できない」の割合が前回よりも減少している。

学校区分別でみると、「十分な謝礼を用意できない」「適切な人を探すことが難しい」は学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。

小学校は「特別指導のためにまとまった時間を確保できない」が 24.9%と中学校、高等学校（全日制）よりも割合が低くなっており、「学校の内外での手続きが煩雑である」が 25.3%と中学校、高等学校（全日制）よりも割合が高くなっている。また、高等学校（全日制）は「打ち合わせに十分な時間を割くことができない」が 18.3%と小学校、中学校よりも割合が低くなっている。

図表Ⅲ—105 指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じること（複数回答）



図表Ⅲ—106 指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じること（複数回答）

<学校区分別>

（％）

	n	で十分な謝礼を用意	適切な人を探し	がな打ち合を割くに十分	確保とまっつたない時間をに	あ手続きの内外雑での	てい通導者のが教員の狙	し招部から指導者に	その他	無回答
全 体	20, 237	76. 6	62. 9	28. 3	27. 2	23. 8	18. 5	0. 6	1. 1	4. 2
小学校	11, 331	77. 4	65. 1	30. 0	24. 9	25. 3	19. 0	0. 4	0. 6	3. 8
中学校	5, 724	76. 3	61. 0	30. 3	31. 8	21. 7	18. 4	0. 6	1. 4	3. 9
高等学校 （全日制）	2, 361	72. 8	57. 7	18. 3	29. 4	22. 6	17. 8	1. 3	2. 0	6. 4
高等学校 （定時制）	274	77. 7	56. 2	20. 1	28. 5	21. 5	16. 4	1. 5	1. 8	4. 4
中等教育 学校	22	72. 7	68. 2	18. 2	13. 6	31. 8	27. 3	0. 0	0. 0	4. 5
特別支援 学校	639	78. 7	62. 1	19. 4	21. 3	18. 9	13. 6	0. 5	2. 7	5. 9
無回答	34	70. 6	52. 9	32. 4	32. 4	23. 5	14. 7	0. 0	0. 0	11. 8

（８）指導者（芸術）招聘の活用方針

【学校調査：問１９＜学校ベース＞】

貴校では、今後外部の指導者の招聘をどの程度活用していく方針ですか。

指導者（芸術）招聘の活用方針では、「今後の方針は未定」が 50.2%と最も高く、「従来と変わらない」（29.3%）、「外部の指導者・講師の招聘を増やしたい」（16.6%）と続いている。

学校区分別でみると、「外部の指導者・講師の招聘を増やしたい」は学年が低くなるほど割合が高くなり、「従来と変わらない」「今後の方針は未定」は学年が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも「従来と変わらない」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にある。また、高等学校（全日制）では「今後の方針は未定」は人数が少ないほど割合が高くなる傾向にあり、小学校、中学校とも「100 人以下」で「今後の方針は未定」が他の層よりも割合が高くなっている。

都道府県別でみると、「外部の指導者・講師の招聘を増やしたい」は「茨城県」が 24.0%と最も高く、「京都府」（23.8%）、「佐賀県」「大分県」（22.2%）と続いている。

鑑賞教室の実施に関わる方針別でみると、「鑑賞教室の実施を増やしたい」は「外部の指導者・講師の招聘を増やしたい」が 54.8%と他の方針より割合が高くなっている。

図表Ⅲ—107 指導者（芸術）招聘の活用方針

	外部の指導者・講師の招聘を増やしたい	従来と変わらない	外部の指導者・講師の招聘を減らしたい	今後の方針は未定	無回答	(n) サンプル数
TOTAL	16.6	29.3	0.1	50.2	3.8	20,237
小学校	20.1	28.2	0.1	48.1	3.6	11,331
中学校	15.1	30.3	0.2	50.5	3.9	5,724
高等学校（全日制）	5.5	33.3	0.1	56.7	4.4	2,361
高等学校（定時制）	7.3	30.7	0.0	59.9	2.2	274
中等教育学校	13.6	27.3	0.0	59.1	0.0	22
特別支援学校	11.9	23.5	0.0	58.7	5.9	639

図表Ⅲ—108 指導者（芸術）招聘の活用方針

＜学校区分別・生徒数別＞

				増講外 や師部の 招聘を した 指導者・	従来と 変わら ない	減講外 ら師部の 招聘を した 指導者・	今後の方 針は未 定	(%) 無回 答
全 体		20,237	16.6	29.3	0.1	50.2	3.8	
小学校	100人以下	3,072	19.2	26.4	0.0	51.1	3.3	
	101～200人	2,016	23.0	26.6	0.0	46.9	3.5	
	201～400人	2,727	20.7	28.4	0.0	47.3	3.5	
	401～600人	1,927	18.8	30.4	0.1	46.4	4.4	
	601人以上	1,492	18.4	31.4	0.2	46.5	3.5	
中学校	100人以下	1,117	15.4	26.4	0.1	54.3	3.8	
	101～200人	929	17.2	30.5	0.0	49.6	2.7	
	201～400人	1,744	15.8	29.4	0.3	50.6	3.9	
	401～600人	1,267	14.6	33.0	0.4	47.5	4.5	
	601人以上	623	10.9	33.9	0.3	50.1	4.8	
高等学校 (全日制)	400人以下	572	6.3	29.7	0.0	60.0	4.0	
	401～600人	513	5.3	33.1	0.2	58.5	2.9	
	601～800人	520	6.0	33.5	0.2	54.6	5.8	
	801 ～1000人	511	4.5	37.0	0.2	53.0	5.3	
	1001人以上	208	4.8	34.1	0.0	57.7	3.4	

図表Ⅲ—109 指導者（芸術）招聘の活用方針

<都道府県別>

（％）

	n	増講外 や師部の したの招 たい聘導 を者・	従 来と 変わ らない	減講外 ら師部の したの招 たい聘導 を者・	今 後 の 方 針 は 未 定	無 回 答
全 体	20,237	16.6	29.3	0.1	50.2	3.8
北海道	1,226	12.0	27.5	0.1	55.4	5.1
青森県	443	10.6	28.7	0.2	55.8	4.7
岩手県	520	8.5	30.2	0.0	57.7	3.7
宮城県	529	11.7	29.3	0.2	54.8	4.0
秋田県	352	15.3	26.1	0.3	57.4	0.9
山形県	368	14.7	35.6	0.0	45.9	3.8
福島県	597	14.4	33.2	0.0	49.2	3.2
茨城県	529	24.0	24.2	0.0	47.8	4.0
栃木県	447	19.5	34.7	0.0	43.4	2.5
群馬県	379	14.0	33.2	0.0	48.8	4.0
埼玉県	528	19.5	27.8	0.0	46.6	6.1
千葉県	805	18.0	33.4	0.0	44.7	3.9
東京都	838	21.2	30.1	0.0	42.6	6.1
神奈川県	686	13.0	34.8	0.3	47.7	4.2
新潟県	581	14.3	31.7	0.3	50.4	3.3
富山県	241	15.8	37.3	0.0	44.8	2.1
石川県	258	12.8	32.9	0.0	50.4	3.9
福井県	199	20.6	33.7	0.5	44.7	0.5
山梨県	230	21.7	37.0	0.0	39.6	1.7
長野県	420	16.9	35.0	0.0	42.4	5.7
岐阜県	425	18.6	36.5	0.0	42.4	2.6
静岡県	604	19.2	32.1	0.2	45.2	3.3
愛知県	827	13.4	35.2	0.4	48.4	2.7
三重県	390	16.9	24.1	0.0	55.1	3.8

(%)

	n	増講師の 外部の 指導を したい	従来と 変わらない	減講師の 外部の 指導を したい	今後の 方針は 未定	無 回 答
全 体	20,237	16.6	29.3	0.1	50.2	3.8
滋賀県	232	19.8	32.3	0.9	43.1	3.9
京都府	315	23.8	25.7	0.0	42.9	7.6
大阪府	715	14.8	29.0	0.1	51.2	4.9
兵庫県	636	15.9	28.0	0.0	51.6	4.6
奈良県	237	18.1	27.0	0.4	51.1	3.4
和歌山県	242	19.0	19.4	0.0	57.0	4.5
鳥取県	153	17.6	34.0	0.0	46.4	2.0
島根県	245	18.0	23.3	0.0	54.3	4.5
岡山県	432	12.5	29.6	0.2	53.7	3.9
広島県	514	19.6	28.2	0.0	47.7	4.5
山口県	345	15.4	24.9	0.3	57.4	2.0
徳島県	220	17.3	21.8	0.5	60.0	0.5
香川県	218	22.0	29.4	0.0	46.8	1.8
愛媛県	340	17.6	25.9	0.0	55.6	0.9
高知県	220	21.4	18.2	0.5	55.9	4.1
福岡県	581	19.8	31.2	0.3	44.1	4.6
佐賀県	207	22.2	28.0	0.0	46.4	3.4
長崎県	385	13.2	22.1	0.0	61.8	2.9
熊本県	356	17.7	20.2	0.0	59.8	2.2
大分県	275	22.2	17.5	0.0	54.9	5.5
宮崎県	277	12.6	29.2	0.0	55.2	2.9
鹿児島県	429	20.5	19.3	0.0	57.6	2.6
沖縄県	240	21.3	20.8	0.0	51.7	6.3
不 明	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

図表Ⅲ—110 指導者（芸術）招聘の活用方針

＜鑑賞教室の実施に関わる方針別＞

（％）

			問 1 9					
			n	増 講 外 や 師 の し の 招 指 た い 聘 導 を 者 ・	従 来 と 変 わ ら な い	減 講 外 ら 師 の し の 招 指 た い 聘 導 を 者 ・	今 後 の 方 針 は 未 定	無 回 答
全 体			20,237	16.6	29.3	0.1	50.2	3.8
問 13	鑑賞教室の実施を 増やしたい	1,433	54.8	12.9	0.1	28.6	3.5	
	従来と変わらない	12,592	15.2	39.1	0.1	42.5	3.2	
	鑑賞教室の実施を 減らしたい	132	9.8	34.1	3.8	50.0	2.3	
	今後の方針は未定	5,849	11.0	12.8	0.1	73.2	3.1	
	無回答	231	6.5	11.3	0.4	18.6	63.2	

6. 文化部活動の実態

(1) 1校あたりの文化部の数

【学校調査：問20＜学校ベース＞】

1校あたりの文化部の数

1校あたりの文化部の平均数は、「小学校」で2件、「中学校」で3件、「高等学校（全日制）」で10件となっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数が多いほど文化部の平均数が多くなる傾向にある。

図表Ⅲ—111 1校あたりの文化部の数

＜学校区分別・生徒数別＞

		(%)						
		n	0 (問 20 記入 無)	1 }	3 }	6 }	1 1 以上	平均
全 体		20,237	31.7	30.1	20.9	11.1	6.2	3
区 分	小学校	11,331	45.2	29.4	16.6	8.0	0.8	2
	中学校	5,724	13.9	43.5	33.5	7.6	1.5	3
	高等学校 (全日制)	2,361	2.4	4.3	12.9	36.0	44.4	10
	高等学校 (定時制)	274	5.1	8.4	15.7	32.1	38.7	9
	中等教育学校	22	4.5	27.3	22.7	27.3	18.2	7
	特別支援学校	639	66.8	19.2	11.7	1.6	0.6	1
小学校	100人以下	3,072	69.2	24.3	6.1	0.4	0.0	1
	101～200人	2,016	49.7	29.6	18.5	2.2	0.0	1
	201～400人	2,727	36.8	32.0	22.9	8.2	0.2	2
	401～600人	1,927	29.4	31.8	22.8	15.0	0.9	3
	601人以上	1,492	26.1	31.6	16.2	21.3	4.8	3
中学校	100人以下	1,117	55.6	39.7	3.5	0.9	0.3	1
	101～200人	929	11.0	73.8	11.8	2.7	0.6	2
	201～400人	1,744	2.4	52.2	39.6	5.3	0.6	3
	401～600人	1,267	1.3	27.2	58.3	10.8	2.4	4
	601人以上	623	1.9	12.7	52.8	27.1	5.5	5
高等学校 (全日制)	400人以下	572	2.8	14.7	35.5	38.3	8.7	6
	401～600人	513	1.4	1.4	11.3	51.5	34.5	9
	601～800人	520	2.5	0.8	4.2	38.1	54.4	11
	801 ～1000人	511	2.9	0.4	2.7	23.1	70.8	13
	1001人以上	208	2.9	0.5	1.9	16.3	78.4	14

(2) 部の類型

【学校調査：問20-1＜文化部ベース＞】

部の類型区分番号

小学校の部の類型では、「コンピュータ」が11.8%と最も高く、「手芸」(9.2%)、「器楽」(7.5%)と続いている。

図表Ⅲ—112 部の類型
〔小学校〕

クラブ名	今回調査結果		前回調査結果	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
コンピュータ	2,294	11.8	94	10.6
手芸	1,774	9.2	82	9.2
器楽※ ¹	1,463	7.5	32	3.6
将棋	1,118	5.8	31	3.5
漫画	1,091	5.6	35	3.9
理科	1,048	5.4	51	5.7
吹奏楽	1,023	5.3	24	2.7
美術・工芸	1,000	5.2	80	9.0
合唱	827	4.3	32	3.6
マーチング・バンド	715	3.7	17	1.9
茶道	651	3.4	18	2.0
囲碁	647	3.3	6	0.7
ダンス・舞踊	553	2.9	14	1.6
伝統音楽(日本)※ ²	428	2.2	9	1.0
自然科学	385	2.0	37	4.2
図書	365	1.9	18	2.0
華道	264	1.4	7	0.8
郷土芸能・民俗芸能※ ³	235	1.2	15	1.7
演劇	206	1.1	15	1.7
放送	189	1.0	2	0.2
デザイン	182	0.9	11	1.2
英語	176	0.9	14	1.6
その他のパフォーマンス・アート	173	0.9	8	0.9
小倉百人一首かるた	164	0.8	5	0.6
軽音楽	129	0.7	—	—
生活科学	127	0.7	30	3.4
奉仕・ボランティア	121	0.6	14	1.6
書道	97	0.5	10	1.1
JRC	86	0.4	—	—
国際理解・国際教育・国際交流※ ⁴	77	0.4	6	0.7
郷土研究	70	0.4	19	2.1
文芸	52	0.3	5	0.6

クラブ名	今回調査結果		前回調査結果	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
写真	48	0.2	2	0.2
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	0.2	8	0.9
映画研究	40	0.2	4	0.4
新聞	38	0.2	—	—
人形劇※5	34	0.2	—	—
福祉研究	31	0.2	4	0.4
民族／民俗音楽	30	0.2	—	—
ミュージカル※6	20	0.1	—	—
オーケストラ	20	0.1	—	—
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	0.1	—	—
吟詠剣詩舞	12	0.1	1	0.1
鉄道研究	11	0.1	1	0.1
ギター	10	0.1	—	—
農業	10	0.1	—	—
社会・社会科学	9	0.0	1	0.1
ユネスコ	6	0.0	—	—
職業・技術	6	0.0	—	—
オペラ・オペレッタ※6	5	0.0	—	—
国語	5	0.0	2	0.2
特別支援	4	0.0	—	—
放送劇※5	3	0.0	—	—
計算技術	3	0.0	—	—
水産	3	0.0	—	—
工業	2	0.0	—	—
インターアクト	2	0.0	1	0.1
無線	1	0.0	—	—
弁論	—	—	—	—
商業	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	1,179	6.1	26	2.9
無回答	57	0.3	80	9.0
合計	19,379	100.0	890	100.0

※1: 前回調査では「器楽・管弦楽」

※2: 前回調査では「日本音楽」

※3: 前回調査では「郷土芸能」(13s、1.5%)と「民俗芸能」(2s、0.2%)

※4: 前回調査では「国際理解」(5s、0.6%)と「国際教育」(1s、0.1%)

※5: 前回調査では「人形劇・放送劇」(3s、0.3%)

※6: 前回調査では「オペラ・ミュージカル・オペレッタ」(1s、0.1%)

中学校の部の類型では、「吹奏楽」が 25.4%と最も高く、「美術・工芸」(20.7%)、「コンピュータ」(6.5%)と続いている。

図表Ⅲ—113 部の類型
〔中学校〕

クラブ名	今回調査結果		前回調査結果	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
吹奏楽	3,843	25.4	84	12.2
美術・工芸	3,134	20.7	91	13.2
コンピュータ	990	6.5	35	5.1
合唱	711	4.7	33	4.8
茶道	479	3.2	20	2.9
演劇	470	3.1	27	3.9
理科	425	2.8	24	3.5
手芸	418	2.8	19	2.8
英語	362	2.4	30	4.4
放送	331	2.2	24	3.5
自然科学	331	2.2	22	3.2
書道	268	1.8	21	3.1
華道	252	1.7	9	1.3
文芸	248	1.6	16	2.3
奉仕・ボランティア	239	1.6	10	1.5
将棋	209	1.4	12	1.7
器楽※ ¹	201	1.3	14	2.0
囲碁	181	1.2	9	1.3
伝統音楽(日本)※ ²	138	0.9	10	1.5
軽音楽	99	0.7	—	—
写真	92	0.6	12	1.7
生活科学	87	0.6	16	2.3
ダンス・舞踊	80	0.5	3	0.4
その他のパフォーミングアーツ	70	0.5	3	0.4
漫画	69	0.5	7	1.0
オーケストラ	67	0.4	1	0.1
図書	64	0.4	4	0.6
マーチング・バンド	58	0.4	1	0.1
ギター	56	0.4	3	0.4
国際理解・国際教育・国際交流※ ³	49	0.3	5	0.7
職業・技術	48	0.3	—	—
郷土芸能・民俗芸能※ ⁴	47	0.3	6	0.9

クラブ名	今回調査結果		前回調査結果	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
社会・社会科学	42	0.3	5	0.7
鉄道研究	37	0.2	2	0.3
JRC	37	0.2	4	0.6
デザイン	32	0.2	2	0.3
新聞	32	0.2	7	1.0
農業	28	0.2	7	1.0
小倉百人一首かるた	24	0.2	3	0.4
郷土研究	23	0.2	7	1.0
映画研究	19	0.1	2	0.3
人形劇	14	0.1	—	—
弁論	11	0.1	3	0.4
ミュージカル	10	0.1	—	—
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	0.1	—	—
工業	10	0.1	—	—
福祉研究	10	0.1	1	0.1
放送劇	8	0.1	—	—
国語	8	0.1	2	0.3
インターアクト	8	0.1	1	0.1
民族／民俗音楽	7	0.0	—	—
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	0.0	1	0.1
オペラ・オペレッタ	6	0.0	—	—
無線	5	0.0	1	0.1
計算技術	4	0.0	1	0.1
吟詠剣詩舞	3	0.0	—	—
特別支援	3	0.0	—	—
ユネスコ	1	0.0	—	—
商業	—	—	—	—
水産	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	589	3.9	16	2.3
無回答	30	0.2	36	5.2
合計	15,134	100.0	688	100.0

※1: 前回調査では「器楽・管弦楽」

※2: 前回調査では「日本音楽」

※3: 前回調査では「国際理解」(2s、0.3%)、「国際交流」(2s、0.3%)、「国際教育」(1s、0.1%)

※4: 前回調査では「郷土芸能」(5s、0.7%)と「民俗芸能」(1s、0.1%)

高等学校（全日制）の部の類型では、「美術・工芸」「吹奏楽」が 8.0%と最も高く、「茶道」（6.9%）、「書道」（5.4%）と続いている。

図表Ⅲ—114 部の類型
〔高等学校（全日制）〕

クラブ名	今回調査結果		前回調査結果	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
美術・工芸	1,874	8.0	245	7.4
吹奏楽	1,871	8.0	203	6.1
茶道	1,612	6.9	174	5.2
書道	1,262	5.4	162	4.9
写真	1,171	5.0	161	4.8
演劇	1,162	5.0	146	4.4
放送	1,058	4.5	134	4.0
華道	1,041	4.4	111	3.3
コンピュータ	874	3.7	139	4.2
英語	835	3.6	129	3.9
文芸	747	3.2	96	2.9
合唱	711	3.0	96	2.9
軽音楽	684	2.9	—	—
理科	497	2.1	130	3.9
自然科学	487	2.1	111	3.3
漫画	483	2.1	59	1.8
囲碁	473	2.0	44	1.3
将棋	467	2.0	49	1.5
奉仕・ボランティア	464	2.0	66	2.0
新聞	430	1.8	81	2.4
ダンス・舞踊	377	1.6	13	0.4
JRC	373	1.6	58	1.7
伝統音楽(日本)※ ¹	244	1.0	35	1.1
商業	241	1.0	60	1.8
手芸	209	0.9	47	1.4
図書	206	0.9	31	0.9
工業	194	0.8	42	1.3
インターアクト	185	0.8	20	0.6
生活科学	181	0.8	87	2.6
ギター	178	0.8	27	0.8
その他のパフォーミングアーツ	143	0.6	26	0.8
映画研究	126	0.5	30	0.9

クラブ名	今回調査結果		前回調査結果	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
国際理解・国際教育・国際交流※2	112	0.5	23	0.7
器楽※3	110	0.5	50	1.5
郷土芸能・民俗芸能※4	98	0.4	19	0.6
社会・社会科学	96	0.4	47	1.4
計算技術	84	0.4	20	0.6
小倉百人一首かるた	70	0.3	17	0.5
オーケストラ	69	0.3	2	0.1
農業	64	0.3	22	0.7
郷土研究	63	0.3	29	0.9
無線	63	0.3	19	0.6
鉄道研究	61	0.3	9	0.3
デザイン	53	0.2	9	0.3
マーチング・バンド	51	0.2	12	0.4
弁論	41	0.2	9	0.3
福祉研究	39	0.2	8	0.2
職業・技術※5	27	0.1	1	0.0
吟詠剣詩舞	20	0.1	5	0.2
ユネスコ	19	0.1	12	0.4
人形劇※6	18	0.1	—	—
放送劇※6	17	0.1	—	—
水産	16	0.1	4	0.1
ミュージカル※7	14	0.1	—	—
民族／民俗音楽	12	0.1	—	—
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	0.1	7	0.2
オペラ・オペレッタ※7	11	0.0	—	—
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	0.0	0	0.0
国語	5	0.0	4	0.1
特別支援	3	0.0	—	—
定通	2	0.0	1	0.0
その他	1,252	5.3	33	1.0
無回答	71	0.3	106	3.2
合計	23,442	100.0	3,322	100.0

※1: 前回調査では「日本音楽」

※2: 前回調査では「国際交流」(13s、0.4%)、「国際理解」(7s、0.2%)、「国際教育」(3s、0.1%)

※3: 前回調査では「器楽・管弦楽」

※4: 前回調査では「郷土芸能」(16s、0.5%)と「民俗芸能」(3s、0.1%)

※5: 前回調査では「職業」

※6: 前回調査では「人形劇・放送劇」(3s、0.1%)

※7: 前回調査では「オペラ・ミュージカル・オペレッタ」(2s、0.1%)

(3) 部の位置づけ

【学校調査：問20-2＜文化部ベース＞】

部の位置づけ

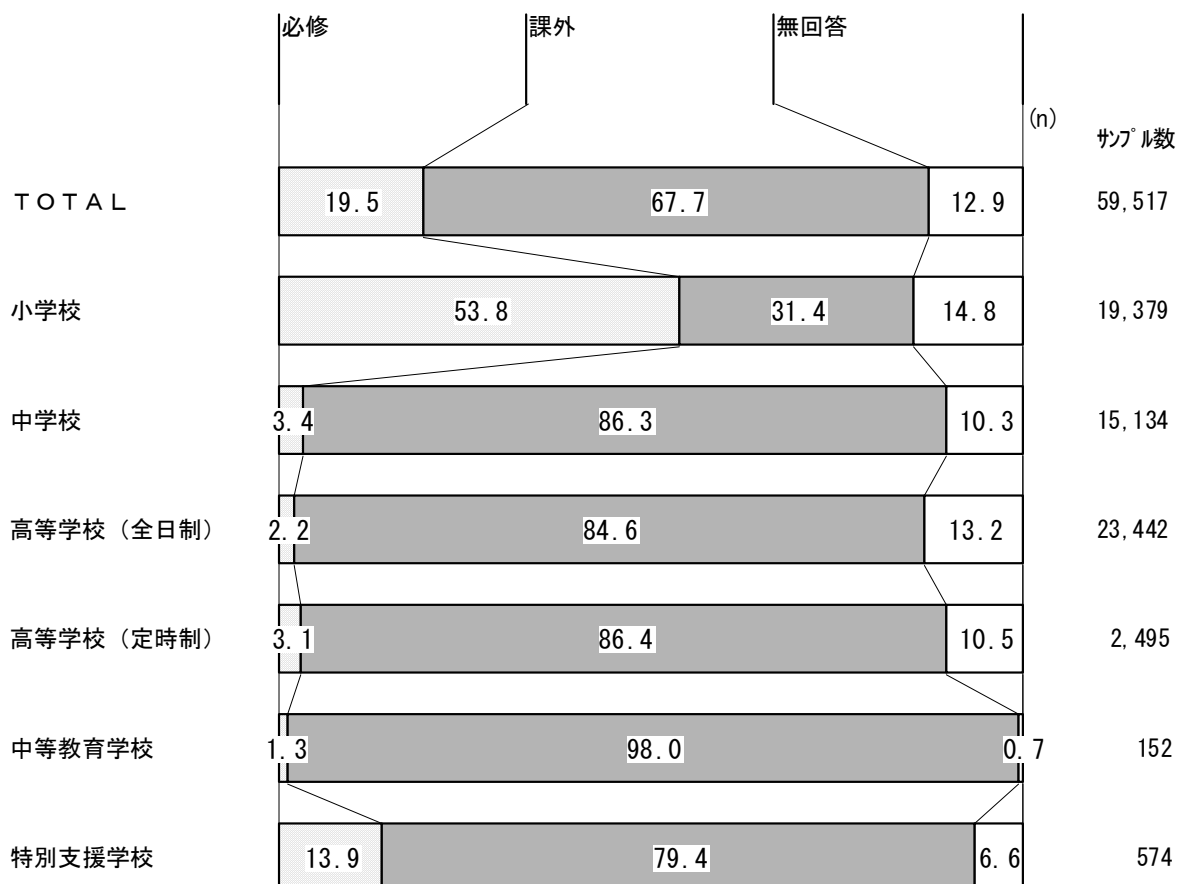
部の位置づけでは、小学校で「必修」が53.8%と半数以上を占めるが、中学校、高等学校（全日制）では「課外」が8割以上を占めている。

部の類型別でみると、小学校では100校以上が設置している部活動のうち「手芸」の必修の割合が66.6%と最も高く、「生活科学」（66.1%）、「自然科学」（64.9%）と続いている一方で、「吹奏楽」の課外の割合が84.5%と最も高く、「合唱」（81.0%）、「マーチング・バンド」（75.2%）と続いている。

中学校では「伝統音楽（日本）」の必修の割合が13.8%と最も高く、「器楽」（5.5%）、「華道」（4.8%）と続いている一方で、「吹奏楽」の課外の割合が90.5%と最も高く、「自然科学」（87.6%）、「美術・工芸」（87.1%）と続いている。

高等学校（全日制）では「図書」の必修の割合が9.2%と最も高く、「新聞」（4.7%）、「生活科学」（3.9%）と続いている一方で、「国際理解・国際教育・国際交流」の課外の割合が88.4%と最も高く、「吹奏楽」（88.2%）、「商業」（88.0%）と続いている。

図表Ⅲ—115 部の位置づけ



図表Ⅲ—116 部の位置づけ

〔小学校〕

(%)

クラブ名	n	必修	課外	無回答
合計	19,379	53.8	31.4	14.8
コンピュータ	2,294	62.8	19.9	17.3
手芸	1,774	66.6	17.1	16.2
器楽	1,463	46.3	42.1	11.6
将棋	1,118	60.5	21.3	18.2
漫画	1,091	63.5	19.2	17.2
理科	1,048	64.2	20.2	15.6
吹奏楽	1,023	10.0	84.5	5.6
美術・工芸	1,000	63.8	21.0	15.2
合唱	827	13.1	81.0	5.9
マーチング・バンド	715	17.3	75.2	7.4
茶道	651	60.5	25.2	14.3
囲碁	647	58.9	22.3	18.9
ダンス・舞踊	553	60.2	24.6	15.2
伝統音楽(日本)	428	50.5	36.4	13.1
自然科学	385	64.9	17.7	17.4
図書	365	59.2	25.8	15.1
華道	264	58.3	29.2	12.5
郷土芸能・民俗芸能	235	46.0	40.4	13.6
演劇	206	59.2	25.2	15.5
放送	189	46.6	39.7	13.8
デザイン	182	64.3	15.9	19.8
英語	176	57.4	24.4	18.2
その他のパフォーミングアーツ	173	43.4	39.9	16.8
小倉百人一首かるた	164	61.0	25.6	13.4
軽音楽	129	56.6	29.5	14.0
生活科学	127	66.1	18.1	15.7
奉仕・ボランティア	121	47.9	33.9	18.2
書道	97	58.8	26.8	14.4
JRC	86	36.0	54.7	9.3
国際理解・国際教育・国際交流	77	53.2	26.0	20.8
郷土研究	70	62.9	24.3	12.9
文芸	52	73.1	13.5	13.5

(%)

クラブ名	n	必修	課外	無回答
合計	19,379	53.8	31.4	14.8
写真	48	64.6	18.8	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	56.1	19.5	24.4
映画研究	40	62.5	20.0	17.5
新聞	38	52.6	34.2	13.2
人形劇	34	47.1	29.4	23.5
福祉研究	31	77.4	6.5	16.1
民族／民俗音楽	30	53.3	33.3	13.3
ミュージカル	20	85.0	10.0	5.0
オーケストラ	20	10.0	80.0	10.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	31.6	47.4	21.1
吟詠剣詩舞	12	16.7	66.7	16.7
鉄道研究	11	72.7	9.1	18.2
ギター	10	70.0	10.0	20.0
農業	10	60.0	20.0	20.0
社会・社会科学	9	88.9	11.1	0.0
ユネスコ	6	50.0	16.7	33.3
職業・技術	6	100.0	0.0	0.0
オペラ・オペレッタ	5	40.0	60.0	0.0
国語	5	60.0	20.0	20.0
特別支援	4	100.0	0.0	0.0
放送劇	3	33.3	66.7	0.0
計算技術	3	100.0	0.0	0.0
水産	3	33.3	33.3	33.3
工業	2	100.0	0.0	0.0
インターアクト	2	0.0	0.0	100.0
無線	1	100.0	0.0	0.0
弁論	—	—	—	—
商業	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	1,179	65.8	15.4	18.8
無回答	57	38.6	21.1	40.4

図表Ⅲ—117 部の位置づけ

〔中学校〕

(%)

クラブ名	n	必修	課外	無回答
合計	15,134	3.4	86.3	10.3
吹奏楽	3,843	2.4	90.5	7.2
美術・工芸	3,134	2.5	87.1	10.4
コンピュータ	990	3.3	86.4	10.3
合唱	711	3.9	86.9	9.1
茶道	479	4.6	82.9	12.5
演劇	470	2.8	84.5	12.8
理科	425	2.1	85.9	12.0
手芸	418	4.3	84.7	11.0
英語	362	3.3	85.1	11.6
放送	331	2.4	83.4	14.2
自然科学	331	3.0	87.6	9.4
書道	268	3.4	83.2	13.4
華道	252	4.8	83.3	11.9
文芸	248	4.0	81.0	14.9
奉仕・ボランティア	239	4.6	84.9	10.5
将棋	209	2.4	85.6	12.0
器楽	201	5.5	84.1	10.4
囲碁	181	2.8	86.7	10.5
伝統音楽(日本)	138	13.8	81.2	5.1
軽音楽	99	4.0	79.8	16.2
写真	92	3.3	81.5	15.2
生活科学	87	3.4	88.5	8.0
ダンス・舞踊	80	8.8	80.0	11.3
その他のパフォーミングアーツ	70	5.7	81.4	12.9
漫画	69	5.8	84.1	10.1
オーケストラ	67	4.5	80.6	14.9
図書	64	6.3	75.0	18.8
マーチング・バンド	58	1.7	89.7	8.6
ギター	56	7.1	78.6	14.3
国際理解・国際教育・国際交流	49	4.1	85.7	10.2
職業・技術	48	2.1	79.2	18.8
郷土芸能・民俗芸能	47	6.4	87.2	6.4

(%)

クラブ名	n	必修	課外	無回答
合計	15,134	3.4	86.3	10.3
社会・社会科学	42	4.8	81.0	14.3
鉄道研究	37	0.0	83.8	16.2
JRC	37	18.9	73.0	8.1
デザイン	32	6.3	90.6	3.1
新聞	32	15.6	68.8	15.6
農業	28	3.6	85.7	10.7
小倉百人一首かるた	24	8.3	70.8	20.8
郷土研究	23	13.0	69.6	17.4
映画研究	19	15.8	68.4	15.8
人形劇	14	21.4	71.4	7.1
弁論	11	18.2	63.6	18.2
ミュージカル	10	20.0	50.0	30.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	10.0	80.0	10.0
工業	10	10.0	70.0	20.0
福祉研究	10	10.0	80.0	10.0
放送劇	8	12.5	75.0	12.5
国語	8	12.5	75.0	12.5
インターアクト	8	25.0	62.5	12.5
民族／民俗音楽	7	14.3	85.7	0.0
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	0.0	42.9	57.1
オペラ・オペレッタ	6	16.7	83.3	0.0
無線	5	0.0	100.0	0.0
計算技術	4	0.0	75.0	25.0
吟詠剣詩舞	3	0.0	100.0	0.0
特別支援	3	33.3	66.7	0.0
ユネスコ	1	0.0	100.0	0.0
商業	—	—	—	—
水産	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	589	3.2	82.7	14.1
無回答	30	6.7	80.0	13.3

図表Ⅲ—118 部の位置づけ
〔高等学校（全日制）〕

(%)

クラブ名	n	必修	課外	無回答
合計	23,442	2.2	84.6	13.2
美術・工芸	1,874	1.5	86.4	12.1
吹奏楽	1,871	1.8	88.2	10.0
茶道	1,612	1.7	85.4	13.0
書道	1,262	2.4	84.4	13.2
写真	1,171	1.7	84.3	14.0
演劇	1,162	2.2	85.5	12.3
放送	1,058	2.4	84.8	12.9
華道	1,041	1.9	84.4	13.6
コンピュータ	874	3.2	83.9	12.9
英語	835	2.2	81.0	16.9
文芸	747	1.9	82.6	15.5
合唱	711	1.8	85.7	12.5
軽音楽	684	1.5	86.1	12.4
理科	497	2.4	85.7	11.9
自然科学	487	2.7	82.5	14.8
漫画	483	0.6	84.9	14.5
囲碁	473	2.1	85.0	12.9
将棋	467	1.9	83.9	14.1
奉仕・ボランティア	464	2.8	83.2	14.0
新聞	430	4.7	79.5	15.8
ダンス・舞踊	377	2.4	85.9	11.7
JRC	373	1.3	82.6	16.1
伝統音楽（日本）	244	2.5	80.7	16.8
商業	241	2.9	88.0	9.1
手芸	209	2.4	85.2	12.4
図書	206	9.2	77.2	13.6
工業	194	2.1	84.5	13.4
インターアクト	185	0.5	87.0	12.4
生活科学	181	3.9	82.9	13.3
ギター	178	0.6	84.3	15.2
その他のパフォーミングアーツ	143	0.7	76.9	22.4
映画研究	126	3.2	84.1	12.7

(%)

クラブ名	n	必修	課外	無回答
合計	23,442	2.2	84.6	13.2
国際理解・国際教育・国際交流	112	2.7	88.4	8.9
器楽	110	2.7	80.0	17.3
郷土芸能・民俗芸能	98	3.1	82.7	14.3
社会・社会科学	96	1.0	89.6	9.4
計算技術	84	4.8	85.7	9.5
小倉百人一首かるた	70	7.1	77.1	15.7
オーケストラ	69	5.8	85.5	8.7
農業	64	9.4	84.4	6.3
郷土研究	63	1.6	84.1	14.3
無線	63	6.3	88.9	4.8
鉄道研究	61	0.0	82.0	18.0
デザイン	53	1.9	79.2	18.9
マーチング・バンド	51	3.9	86.3	9.8
弁論	41	2.4	87.8	9.8
福祉研究	39	7.7	89.7	2.6
職業・技術	27	3.7	77.8	18.5
吟詠剣詩舞	20	5.0	80.0	15.0
ユネスコ	19	0.0	89.5	10.5
人形劇	18	5.6	83.3	11.1
放送劇	17	5.9	82.4	11.8
水産	16	12.5	87.5	0.0
ミュージカル	14	14.3	71.4	14.3
民族／民俗音楽	12	0.0	91.7	8.3
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	0.0	83.3	16.7
オペラ・オペレッタ	11	9.1	63.6	27.3
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	0.0	77.8	22.2
国語	5	20.0	80.0	0.0
特別支援	3	0.0	66.7	33.3
定通	2	0.0	50.0	50.0
その他	1,252	1.7	83.2	15.1
無回答	71	1.4	76.1	22.5

(4) 所属児童・生徒数

【学校調査：問20-3＜文化部ベース＞】

所属児童・生徒の実数

1校あたりの文化部への所属児童・生徒の平均人数は、「小学校」で59人、「中学校」で62人、「高等学校（全日制）」で146人となっている。

生徒数別でみると、小学校、中学校、高等学校（全日制）とも人数が多いほど文化部への所属児童・生徒の平均人数が多くなる傾向にある。

所属児童・生徒数では、平均人数が小学校で20人、中学校で21人、高等学校（全日制）では15人となっている。

部の類型別でみると、小学校では「マーチング・バンド」が46人と最も多く、「吹奏楽」(34人)、「合唱」(33人)と続いている。

中学校では「吹奏楽」が37人と最も多く、「合唱」(20人)、「奉仕・ボランティア」(19人)と続いている。

高等学校（全日制）では「吹奏楽」が38人と最も多く、「軽音楽」(30人)、「器楽」(25人)と続いている。

図表Ⅲ—119 所属児童・生徒数

<学校区分別・生徒数別>

(%)

		n	1 5 2 0 人	2 1 5 4 0 人	4 1 5 6 0 人	6 1 5 8 0 人	8 1 5 1 0 0 人
全 体		13,812	18.0	20.3	15.2	11.2	7.8
区 分	小学校	6,210	21.0	25.1	16.4	10.2	6.9
	中学校	4,928	18.3	20.1	17.6	14.3	9.6
	高等学校 (全日制)	2,304	5.4	7.5	7.9	8.3	7.6
	高等学校 (定時制)	260	14.2	10.0	8.1	5.4	6.2
	中等教育学校	21	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5
	特別支援学校	212	56.6	25.0	7.5	2.4	0.9
小学校	100人以下	947	61.1	24.5	7.3	1.0	0.4
	101～200人	1,014	28.9	36.7	18.6	5.6	2.1
	201～400人	1,724	16.0	26.9	20.2	14.8	9.3
	401～600人	1,361	6.9	21.3	17.5	13.2	12.5
	601人以上	1,103	4.5	16.3	15.1	11.6	6.3
中学校	100人以下	496	75.2	15.5	3.8	0.4	0.0
	101～200人	827	38.5	44.0	9.7	3.3	0.8
	201～400人	1,703	9.8	26.0	31.7	18.4	5.6
	401～600人	1,251	2.6	7.0	15.1	24.2	21.4
	601人以上	611	0.7	2.1	4.6	9.3	16.2
高等学校 (全日制)	400人以下	556	18.5	23.9	18.0	13.3	9.9
	401～600人	506	1.6	4.0	8.5	13.8	11.9
	601～800人	507	1.0	2.8	3.7	5.9	6.7
	801 ～1000人	496	0.6	0.8	2.6	1.8	3.2
	1001人以上	202	1.5	0.0	0.5	2.0	3.0

※この数表は学校ベース。

							(%)
		n	1 0 1 5 0 人	1 5 1 5 2 0 0 人	2 0 1 人 以 上	無 回 答	平 均
全 体		13,812	11.2	4.9	5.5	5.8	74
区 分	小学校	6,210	8.9	3.8	2.4	5.4	59
	中学校	4,928	11.2	2.7	1.6	4.5	62
	高等学校 (全日制)	2,304	18.6	13.1	22.2	9.5	146
	高等学校 (定時制)	260	16.9	13.5	18.8	6.9	124
	中等教育学校	21	28.6	9.5	4.8	9.5	91
	特別支援学校	212	0.5	0.0	0.0	7.1	21
小学校	100人以下	947	0.2	0.0	0.1	5.4	20
	101～200人	1,014	3.0	0.4	0.1	4.6	36
	201～400人	1,724	5.9	1.2	0.8	5.0	53
	401～600人	1,361	16.2	5.4	1.6	5.4	75
	601人以上	1,103	17.1	12.4	9.9	6.6	105
中学校	100人以下	496	0.2	0.2	0.0	4.6	14
	101～200人	827	0.7	0.1	0.2	2.7	27
	201～400人	1,703	3.1	0.5	0.5	4.5	51
	401～600人	1,251	20.9	2.2	1.8	4.7	85
	601人以上	611	37.3	15.7	7.7	6.4	132
高等学校 (全日制)	400人以下	556	6.5	1.4	2.0	6.5	55
	401～600人	506	26.7	13.2	9.7	10.7	122
	601～800人	507	25.0	20.1	23.7	11.0	163
	801 ～1000人	496	20.6	17.5	43.5	9.3	212
	1001人以上	202	11.9	17.3	54.5	9.4	265

※この数表は学校ベース。

図表Ⅲ—120 所属児童・生徒数 合計

	1 ～ 5 人	6 ～ 10 人	11 ～ 15 人	16 ～ 20 人	21 ～ 25 人	26 ～ 30 人	31 ～ 40 人	41 ～ 50 人	51 人 以上	無 回 答	(n)	サ ン プ ル 数 /平 均
TOTAL	13.8	20.4	15.8	11.2	7.2	5.7	3.0	4.2	12.6		59,517	18
小学校	4.4	18.1	18.4	15.4	10.1	7.9	2.6	12.1			19,379	20
中学校	12.6	17.7	14.9	10.9	7.8	6.9	5.1	9.4			15,134	21
高等学校（全日制）	21.0	23.7	14.4	8.2	4.8	3.7	15.0				23,442	15
高等学校（定時制）	25.6	24.4	13.4	7.7	4.4	1.9	13.3				2,495	14
中等教育学校	27.6	19.7	13.2	6.6	3.3	3.9	17.1				152	14
特別支援学校	42.0	26.7	13.1	4.9	1.2	9.1	574	8				

図表Ⅲ—121 所属児童・生徒数

〔小学校〕

クラブ名	n	平均値(人)			
		小4	小5	小6	合計
合計	19,379	7	7	7	20
コンピュータ	2,294	6	6	7	19
手芸	1,774	7	6	4	17
器楽	1,463	7	7	7	20
将棋	1,118	6	5	4	14
漫画	1,091	8	7	6	20
理科	1,048	7	7	7	20
吹奏楽	1,023	11	12	12	34
美術・工芸	1,000	6	5	4	15
合唱	827	11	12	11	33
マーチング・バンド	715	13	17	19	46
茶道	651	4	5	5	13
囲碁	647	5	5	4	13
ダンス・舞踊	553	6	6	5	16
伝統音楽(日本)	428	6	6	6	17
自然科学	385	6	7	6	19
図書	365	6	6	5	16
華道	264	4	4	3	11
郷土芸能・民俗芸能	235	6	7	7	19
演劇	206	4	5	6	14
放送	189	5	6	7	16
デザイン	182	6	6	5	17
英語	176	8	7	6	21
その他のパフォーミングアーツ	173	9	9	7	24
小倉百人一首かるた	164	6	6	5	16
軽音楽	129	5	5	5	13
生活科学	127	6	7	6	19
奉仕・ボランティア	121	6	6	7	16
書道	97	9	9	9	26
JRC	86	20	15	15	44
国際理解・国際教育・国際交流	77	7	7	7	19
郷土研究	70	4	4	4	12
文芸	52	4	4	3	11

		平均値(人)			
クラブ名	n	小4	小5	小6	合計
合計	19,379	7	7	7	20
写真	48	6	5	6	16
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	5	5	4	13
映画研究	40	6	6	6	17
新聞	38	4	7	7	16
人形劇	34	3	4	5	11
福祉研究	31	6	8	5	17
民族／民俗音楽	30	6	5	9	18
ミュージカル	20	5	4	4	12
オーケストラ	20	16	20	15	47
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	8	9	7	20
吟詠剣詩舞	12	7	11	12	29
鉄道研究	11	4	4	3	10
ギター	10	12	11	12	34
農業	10	6	11	7	21
社会・社会科学	9	5	3	4	9
ユネスコ	6	6	8	8	19
職業・技術	6	6	7	6	19
オペラ・オペレッタ	5	88	11	9	81
国語	5	5	7	7	17
特別支援	4	5	3	2	7
放送劇	3	9	3	4	16
計算技術	3	2	5	0	7
水産	3	4	4	4	11
工業	2	4	3	3	9
インターアクト	2	6	4	5	14
無線	1	3	2	5	10
弁論	—	—	—	—	—
商業	—	—	—	—	—
定通	—	—	—	—	—
その他	1,179	7	6	5	18
無回答	57	7	6	6	18

図表Ⅲ—122 所属児童・生徒数

〔中学校〕

クラブ名	n	平均値(人)			
		中1	中2	中3	合計
合計	15,134	7	7	7	21
吹奏楽	3,843	13	12	13	37
美術・工芸	3,134	6	6	6	18
コンピュータ	990	5	5	6	15
合唱	711	6	7	8	20
茶道	479	5	4	4	13
演劇	470	5	4	4	13
理科	425	5	5	4	14
手芸	418	4	4	4	12
英語	362	3	3	3	9
放送	331	4	3	4	11
自然科学	331	5	5	4	14
書道	268	3	3	3	8
華道	252	4	3	4	10
文芸	248	3	3	4	9
奉仕・ボランティア	239	7	6	7	19
将棋	209	4	4	4	11
器楽	201	7	7	6	18
囲碁	181	3	3	4	10
伝統音楽(日本)	138	7	6	6	18
軽音楽	99	5	5	5	13
写真	92	2	2	2	6
生活科学	87	4	4	4	12
ダンス・舞踊	80	8	9	6	22
その他のパフォーミングアーツ	70	5	5	7	15
漫画	69	4	4	5	13
オーケストラ	67	17	15	14	45
図書	64	8	4	4	15
マーチング・バンド	58	15	13	15	41
ギター	56	5	5	6	15
国際理解・国際教育・国際交流	49	4	4	8	15
職業・技術	48	6	5	5	15
郷土芸能・民俗芸能	47	5	6	6	16

		平均値(人)			
クラブ名	n	中1	中2	中3	合計
合計	15,134	7	7	7	21
社会・社会科学	42	2	5	2	9
鉄道研究	37	4	3	3	10
JRC	37	34	33	35	100
デザイン	32	6	5	6	17
新聞	32	3	3	4	10
農業	28	3	3	3	9
小倉百人一首かるた	24	2	2	3	6
郷土研究	23	5	4	2	9
映画研究	19	3	2	3	8
人形劇	14	4	7	7	16
弁論	11	3	4	5	9
ミュージカル	10	8	7	7	22
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	4	4	5	10
工業	10	5	5	4	12
福祉研究	10	9	24	2	30
放送劇	8	5	4	4	13
国語	8	3	6	4	14
インターアクト	8	1	1	3	5
民族／民俗音楽	7	15	3	3	20
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	2	3	2	8
オペラ・オペレッタ	6	5	6	5	13
無線	5	2	3	2	8
計算技術	4	6	5	0	11
吟詠剣詩舞	3	3	3	1	6
特別支援	3	50	48	2	100
ユネスコ	1	0	0	0	0
商業	—	—	—	—	—
水産	—	—	—	—	—
定通	—	—	—	—	—
その他	589	4	4	4	12
無回答	30	5	6	6	16

図表Ⅲ—123 所属児童・生徒数
〔高等学校（全日制）〕

クラブ名	n	平均値(人)			
		高1	高2	高3	合計
合計	23,442	6	5	5	15
美術・工芸	1,874	4	5	5	13
吹奏楽	1,871	14	13	12	38
茶道	1,612	5	5	5	14
書道	1,262	4	4	4	11
写真	1,171	4	3	3	10
演劇	1,162	4	4	3	10
放送	1,058	3	3	3	9
華道	1,041	3	3	3	9
コンピュータ	874	5	5	5	14
英語	835	4	4	4	11
文芸	747	3	4	4	10
合唱	711	6	6	6	17
軽音楽	684	13	11	8	30
理科	497	4	4	4	10
自然科学	487	3	3	3	10
漫画	483	5	4	4	13
囲碁	473	3	3	3	9
将棋	467	4	4	4	11
奉仕・ボランティア	464	4	5	5	13
新聞	430	3	3	3	8
ダンス・舞踊	377	9	8	7	22
JRC	373	4	4	5	12
伝統音楽(日本)	244	5	5	4	13
商業	241	5	5	6	16
手芸	209	4	4	4	11
図書	206	5	5	5	15
工業	194	7	8	8	22
インターアクト	185	5	6	7	17
生活科学	181	7	6	7	20
ギター	178	9	8	7	23
その他のパフォーミングアーツ	143	7	6	6	19
映画研究	126	5	4	5	13

		平均値(人)			
クラブ名	n	高1	高2	高3	合計
合計	23,442	6	5	5	15
国際理解・国際教育・国際交流	112	3	3	3	10
器楽	110	9	10	8	25
郷土芸能・民俗芸能	98	7	6	5	17
社会・社会科学	96	2	3	3	7
計算技術	84	3	4	5	11
小倉百人一首かるた	70	2	2	3	6
オーケストラ	69	17	16	14	45
農業	64	15	15	15	44
郷土研究	63	2	2	3	6
無線	63	3	3	2	8
鉄道研究	61	2	3	2	7
デザイン	53	6	5	6	16
マーチング・バンド	51	16	17	15	47
弁論	41	3	2	3	7
福祉研究	39	4	4	5	11
職業・技術	27	5	7	6	17
吟詠剣詩舞	20	2	2	3	6
ユネスコ	19	2	2	5	10
人形劇	18	4	4	5	12
放送劇	17	4	3	5	11
水産	16	5	4	4	13
ミュージカル	14	8	11	9	27
民族／民俗音楽	12	5	4	3	11
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	2	1	3	5
オペラ・オペレッタ	11	5	6	5	12
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	1	3	3	6
国語	5	3	4	4	11
特別支援	3	3	4	7	13
定通	2	3	2	4	8
その他	1,252	5	5	5	14
無回答	71	5	5	4	14

(5) 活動頻度

【学校調査：問20-4＜文化部ベース＞】

活動頻度

活動頻度では、小学校で「週1～2回程度」が29.2%、中学校で「週5回以上」が49.0%、高等学校（全日制）で「週1～2回程度」が43.2%とそれぞれ最も割合が高くなっている。

部の類型別でみると、小学校では「週5回以上」の割合が「吹奏楽」で30.0%と最も高く、「放送」(19.0%)、「合唱」(18.1%)と続いている一方で、「週1回未満」の割合が「華道」で37.9%と最も高く、「美術・工芸」(35.3%)、「茶道」(34.4%)と続いている。

中学校では「週5回以上」の割合が「吹奏楽」で86.1%と最も高く、「合唱」(58.6%)、「放送」(57.4%)と続いている一方で、「週1回未満」の割合が「華道」で7.5%と最も高く、「奉仕・ボランティア」(4.2%)、「茶道」(2.7%)と続いている。

高等学校（全日制）では「週5回以上」の割合が「吹奏楽」で77.9%と最も高く、「器楽」(47.3%)、「工業」(45.4%)と続いている一方で、「週1回未満」の割合が「映画研究」で4.0%と最も高く、「新聞」(3.3%)、「JRC」(2.7%)と続いている。

図表Ⅲ—124 活動頻度

	週1回未満	週1～2回程度	週3～4回程度	週5回以上	無回答	(n) サンプル数
TOTAL	9.6	33.2	13.9	24.3	18.9	59,517
小学校	27.3	29.2	6.0	4.0	33.4	19,379
中学校	0.7	20.7	21.7	49.0	8.0	15,134
高等学校（全日制）	1.2	43.2	15.7	25.9	14.0	23,442
高等学校（定時制）	1.4	46.2	14.8	25.5	12.1	2,495
中等教育学校	0.0	33.6	22.4	23.7	20.4	152
特別支援学校	5.4	64.1	6.4	3.7	20.4	574

図表Ⅲ—125 活動頻度

〔小学校〕

(%)

クラブ名	n	週 1 回 未 満	週 1 ～ 2 回 程 度	週 3 ～ 4 回 程 度	週 5 回 以 上	無 回 答
合計	19,379	27.3	29.2	6.0	4.0	33.4
コンピュータ	2,294	32.0	31.2	0.4	0.4	36.0
手芸	1,774	33.8	28.2	0.1	0.3	37.6
器楽	1,463	21.3	30.7	13.5	5.4	29.0
将棋	1,118	33.0	25.8	0.4	0.3	40.5
漫画	1,091	32.9	29.5	0.1	0.4	37.1
理科	1,048	34.1	32.3	0.5	0.2	32.9
吹奏楽	1,023	4.2	21.4	32.6	30.0	11.8
美術・工芸	1,000	35.3	28.5	1.2	0.4	34.6
合唱	827	6.2	27.0	30.2	18.1	18.5
マーチング・バンド	715	7.6	33.1	32.0	13.0	14.3
茶道	651	34.4	26.6	0.2	0.3	38.6
囲碁	647	31.1	28.6	0.5	0.5	39.4
ダンス・舞踊	553	27.5	35.8	1.8	1.3	33.6
伝統音楽(日本)	428	27.3	38.8	2.3	1.4	30.1
自然科学	385	28.1	34.3	0.5	0.5	36.6
図書	365	32.9	26.8	1.6	4.1	34.5
華道	264	37.9	22.0	0.0	0.4	39.8
郷土芸能・民俗芸能	235	26.0	39.6	3.8	2.6	28.1
演劇	206	25.7	35.4	2.4	0.5	35.9
放送	189	17.5	27.5	1.1	19.0	34.9
デザイン	182	31.3	29.7	0.0	0.0	39.0
英語	176	33.0	26.7	0.6	0.6	39.2
その他のパフォーミングアーツ	173	13.9	31.8	17.3	4.0	32.9
小倉百人一首かるた	164	32.9	22.6	1.8	0.6	42.1
軽音楽	129	22.5	28.7	4.7	0.8	43.4
生活科学	127	28.3	29.9	0.0	0.0	41.7
奉仕・ボランティア	121	27.3	28.1	0.8	3.3	40.5
書道	97	27.8	40.2	0.0	0.0	32.0
JRC	86	24.4	38.4	2.3	1.2	33.7
国際理解・国際教育・国際交流	77	37.7	23.4	0.0	0.0	39.0
郷土研究	70	34.3	24.3	0.0	0.0	41.4
文芸	52	34.6	40.4	0.0	0.0	25.0

(%)

クラブ名	n	週 1 回 未 満	週 1 ～ 2 回 程 度	週 3 ～ 4 回 程 度	週 5 回 以 上	無 回 答
合計	19,379	27.3	29.2	6.0	4.0	33.4
写真	48	31.3	29.2	0.0	0.0	39.6
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	41.5	31.7	0.0	0.0	26.8
映画研究	40	45.0	25.0	0.0	0.0	30.0
新聞	38	15.8	39.5	0.0	0.0	44.7
人形劇	34	32.4	38.2	2.9	0.0	26.5
福祉研究	31	29.0	22.6	0.0	0.0	48.4
民族／民俗音楽	30	23.3	50.0	0.0	0.0	26.7
ミュージカル	20	20.0	45.0	0.0	0.0	35.0
オーケストラ	20	0.0	20.0	35.0	30.0	15.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	15.8	36.8	5.3	0.0	42.1
吟詠剣詩舞	12	33.3	41.7	8.3	0.0	16.7
鉄道研究	11	18.2	36.4	0.0	0.0	45.5
ギター	10	60.0	30.0	0.0	0.0	10.0
農業	10	0.0	50.0	10.0	0.0	40.0
社会・社会科学	9	11.1	55.6	0.0	0.0	33.3
ユネスコ	6	33.3	16.7	0.0	0.0	50.0
職業・技術	6	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7
オペラ・オペレッタ	5	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0
国語	5	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0
特別支援	4	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0
放送劇	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
計算技術	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
水産	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0
工業	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
インターアクト	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
無線	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
弁論	—	—	—	—	—	—
商業	—	—	—	—	—	—
定通	—	—	—	—	—	—
その他	1,179	31.1	23.3	0.8	1.4	43.3
無回答	57	8.8	19.3	7.0	5.3	59.6

図表Ⅲ—126 活動頻度

〔中学校〕

(%)

クラブ名	n	週 1 回 未 満	週 1 ～ 2 回 程 度	週 3 ～ 4 回 程 度	週 5 回 以 上	無 回 答
合計	15,134	0.7	20.7	21.7	49.0	8.0
吹奏楽	3,843	0.1	0.9	7.7	86.1	5.3
美術・工芸	3,134	0.1	11.6	30.2	50.7	7.4
コンピュータ	990	0.3	20.2	33.2	40.4	5.9
合唱	711	0.0	12.1	20.7	58.6	8.6
茶道	479	2.7	61.0	16.5	9.2	10.6
演劇	470	0.9	20.0	28.3	41.7	9.1
理科	425	0.2	35.8	29.4	27.1	7.5
手芸	418	0.2	28.2	34.2	29.4	7.9
英語	362	0.3	51.9	24.0	16.9	6.9
放送	331	1.5	15.7	17.2	57.4	8.2
自然科学	331	1.5	29.3	28.7	31.7	8.8
書道	268	0.4	45.5	22.8	23.1	8.2
華道	252	7.5	64.3	8.7	6.0	13.5
文芸	248	0.4	37.9	24.6	25.8	11.3
奉仕・ボランティア	239	4.2	46.4	20.5	17.6	11.3
将棋	209	1.4	43.1	25.4	15.8	14.4
器楽	201	0.5	14.9	28.9	50.2	5.5
囲碁	181	0.0	45.3	25.4	17.1	12.2
伝統音楽(日本)	138	1.4	42.8	19.6	29.7	6.5
軽音楽	99	2.0	23.2	22.2	39.4	13.1
写真	92	2.2	59.8	18.5	5.4	14.1
生活科学	87	1.1	33.3	24.1	28.7	12.6
ダンス・舞踊	80	2.5	17.5	40.0	23.8	16.3
その他のパフォーミングアーツ	70	1.4	27.1	21.4	37.1	12.9
漫画	69	0.0	62.3	27.5	2.9	7.2
オーケストラ	67	0.0	6.0	20.9	55.2	17.9
図書	64	0.0	50.0	21.9	20.3	7.8
マーチング・バンド	58	0.0	8.6	8.6	79.3	3.4
ギター	56	0.0	19.6	26.8	42.9	10.7
国際理解・国際教育・国際交流	49	0.0	42.9	28.6	18.4	10.2
職業・技術	48	0.0	22.9	33.3	35.4	8.3
郷土芸能・民俗芸能	47	8.5	44.7	12.8	17.0	17.0

(%)

クラブ名	n	週 1 回 未 満	週 1 ～ 2 回 程 度	週 3 ～ 4 回 程 度	週 5 回 以 上	無 回 答
合計	15,134	0.7	20.7	21.7	49.0	8.0
社会・社会科学	42	4.8	64.3	14.3	2.4	14.3
鉄道研究	37	0.0	43.2	29.7	5.4	21.6
JRC	37	10.8	54.1	2.7	10.8	21.6
デザイン	32	0.0	28.1	43.8	15.6	12.5
新聞	32	3.1	43.8	18.8	21.9	12.5
農業	28	3.6	32.1	21.4	35.7	7.1
小倉百人一首かるた	24	8.3	45.8	25.0	4.2	16.7
郷土研究	23	4.3	65.2	8.7	8.7	13.0
映画研究	19	0.0	52.6	15.8	10.5	21.1
人形劇	14	0.0	28.6	28.6	35.7	7.1
弁論	11	0.0	54.5	18.2	9.1	18.2
ミュージカル	10	0.0	30.0	40.0	10.0	20.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	0.0	60.0	10.0	20.0	10.0
工業	10	0.0	20.0	40.0	30.0	10.0
福祉研究	10	0.0	60.0	0.0	0.0	40.0
放送劇	8	0.0	12.5	25.0	37.5	25.0
国語	8	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0
インターアクト	8	0.0	75.0	12.5	0.0	12.5
民族／民俗音楽	7	0.0	57.1	0.0	14.3	28.6
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0
オペラ・オペレッタ	6	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
無線	5	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0
計算技術	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
吟詠剣詩舞	3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
特別支援	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
ユネスコ	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
商業	—	—	—	—	—	—
水産	—	—	—	—	—	—
定通	—	—	—	—	—	—
その他	589	0.8	37.0	28.0	25.0	9.2
無回答	30	3.3	26.7	23.3	20.0	26.7

図表Ⅲ—127 活動頻度
〔高等学校（全日制）〕

(%)

クラブ名	n	週 1 回 未 満	週 1 ～ 2 回 程 度	週 3 ～ 4 回 程 度	週 5 回 以 上	無 回 答
合計	23,442	1.2	43.2	15.7	25.9	14.0
美術・工芸	1,874	0.7	28.9	21.3	37.0	12.1
吹奏楽	1,871	0.1	4.9	6.0	77.9	11.1
茶道	1,612	0.2	74.8	9.9	2.7	12.5
書道	1,262	0.7	39.5	24.3	23.1	12.4
写真	1,171	2.0	59.4	13.2	9.4	16.0
演劇	1,162	1.8	20.7	25.1	38.0	14.4
放送	1,058	1.9	25.8	12.7	44.7	14.9
華道	1,041	2.2	75.5	6.2	2.2	13.8
コンピュータ	874	1.7	38.8	20.8	26.0	12.7
英語	835	1.4	68.7	11.9	5.3	12.7
文芸	747	0.9	62.4	10.3	10.2	16.2
合唱	711	1.0	22.1	21.9	40.9	14.1
軽音楽	684	0.6	21.2	21.2	41.2	15.8
理科	497	1.2	51.1	16.9	15.3	15.5
自然科学	487	2.3	55.4	15.2	13.6	13.6
漫画	483	0.8	50.9	20.5	11.4	16.4
囲碁	473	1.3	44.2	19.0	19.5	16.1
将棋	467	0.9	41.3	20.6	20.8	16.5
奉仕・ボランティア	464	2.4	64.9	11.0	5.2	16.6
新聞	430	3.3	55.8	10.9	11.2	18.8
ダンス・舞踊	377	0.8	17.2	29.7	38.7	13.5
JRC	373	2.7	67.8	9.4	3.8	16.4
伝統音楽(日本)	244	0.4	40.2	22.1	27.0	10.2
商業	241	1.7	21.6	20.7	45.2	10.8
手芸	209	1.4	67.9	13.4	7.2	10.0
図書	206	0.0	37.4	9.7	37.9	15.0
工業	194	0.0	25.3	19.1	45.4	10.3
インターアクト	185	0.5	73.0	8.6	3.8	14.1
生活科学	181	2.2	72.9	10.5	3.9	10.5
ギター	178	0.6	24.2	29.2	29.2	16.9
その他のパフォーミングアーツ	143	0.0	30.8	19.6	35.7	14.0
映画研究	126	4.0	57.9	5.6	4.8	27.8

(%)

クラブ名	n	週 1 回 未 満	週 1 ～ 2 回 程 度	週 3 ～ 4 回 程 度	週 5 回 以 上	無 回 答
合計	23,442	1.2	43.2	15.7	25.9	14.0
国際理解・国際教育・国際交流	112	0.9	67.9	9.8	5.4	16.1
器楽	110	0.0	14.5	24.5	47.3	13.6
郷土芸能・民俗芸能	98	0.0	34.7	14.3	40.8	10.2
社会・社会科学	96	4.2	67.7	7.3	4.2	16.7
計算技術	84	1.2	33.3	21.4	33.3	10.7
小倉百人一首かるた	70	0.0	48.6	20.0	18.6	12.9
オーケストラ	69	0.0	5.8	21.7	62.3	10.1
農業	64	0.0	35.9	20.3	23.4	20.3
郷土研究	63	3.2	69.8	11.1	1.6	14.3
無線	63	3.2	47.6	22.2	11.1	15.9
鉄道研究	61	1.6	50.8	21.3	6.6	19.7
デザイン	53	1.9	45.3	22.6	17.0	13.2
マーチング・バンド	51	0.0	2.0	9.8	72.5	15.7
弁論	41	2.4	51.2	22.0	12.2	12.2
福祉研究	39	0.0	69.2	12.8	2.6	15.4
職業・技術	27	0.0	40.7	25.9	25.9	7.4
吟詠剣詩舞	20	5.0	50.0	15.0	15.0	15.0
ユネスコ	19	0.0	68.4	5.3	10.5	15.8
人形劇	18	0.0	27.8	27.8	16.7	27.8
放送劇	17	0.0	35.3	17.6	23.5	23.5
水産	16	0.0	12.5	43.8	25.0	18.8
ミュージカル	14	0.0	21.4	42.9	28.6	7.1
民族／民俗音楽	12	8.3	50.0	8.3	16.7	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	0.0	41.7	25.0	8.3	25.0
オペラ・オペレッタ	11	0.0	36.4	18.2	27.3	18.2
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	0.0	55.6	0.0	0.0	44.4
国語	5	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
特別支援	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
定通	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
その他	1,252	1.2	54.3	13.4	16.9	14.1
無回答	71	1.4	36.6	8.5	18.3	35.2

(6) 学校外部の指導者・講師の有無

【学校調査：問20-5＜文化部ベース＞】

学校外部の指導者・講師

学校外部の指導者・講師の有無では、「有」の割合が小学校で17.4%、中学校で19.0%、高等学校（全日制）で15.8%となっている。

部の類型別でみると、小学校では「有」の割合が「華道」で76.5%と最も高く、「茶道」(70.5%)、「郷土芸能・民俗芸能」(69.4%)と続いている一方で、「無」の割合が「漫画」で85.2%と最も高く、「理科」(85.1%)、「放送」(84.7%)と続いている。

中学校では「有」の割合が「華道」で77.0%と最も高く、「茶道」(70.1%)、「伝統音楽（日本）」(65.9%)と続いている一方で、「無」の割合が「コンピュータ」で91.4%と最も高く、「理科」(91.3%)、「美術・工芸」(90.5%)と続いている。

高等学校（全日制）では「有」の割合が「華道」で73.0%と最も高く、「茶道」(72.1%)、「伝統音楽（日本）」(69.3%)と続いている一方で、「無」の割合が「商業」で92.9%と最も高く、「工業」(91.8%)、「生活科学」(88.4%)と続いている。

図表Ⅲ—128 学校外部の指導者・講師の有無

	有	無	無回答	(n) サンプル数
TOTAL	17.0	73.0	9.9	59,517
小学校	17.4	71.0	11.5	19,379
中学校	19.0	74.2	6.9	15,134
高等学校（全日制）	15.8	73.6	10.6	23,442
高等学校（定時制）	13.6	77.3	9.1	2,495
中等教育学校	15.1	77.6	7.2	152
特別支援学校	11.0	84.5	4.5	574

図表Ⅲ—129 学校外部の指導者・講師の有無

〔小学校〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	19,379	17.4	71.0	11.5
コンピュータ	2,294	3.5	83.2	13.3
手芸	1,774	6.4	79.4	14.3
器楽	1,463	11.3	79.6	9.2
将棋	1,118	17.4	68.7	13.9
漫画	1,091	1.9	85.2	12.8
理科	1,048	3.3	85.1	11.5
吹奏楽	1,023	27.7	66.1	6.3
美術・工芸	1,000	11.3	77.2	11.5
合唱	827	22.5	68.7	8.8
マーチング・バンド	715	29.7	64.1	6.3
茶道	651	70.5	21.4	8.1
囲碁	647	32.6	54.7	12.7
ダンス・舞踊	553	15.0	72.5	12.5
伝統音楽(日本)	428	63.3	30.4	6.3
自然科学	385	5.2	78.4	16.4
図書	365	3.6	83.0	13.4
華道	264	76.5	16.3	7.2
郷土芸能・民俗芸能	235	69.4	23.0	7.7
演劇	206	6.3	82.0	11.7
放送	189	1.6	84.7	13.8
デザイン	182	5.5	83.0	11.5
英語	176	37.5	50.6	11.9
その他のパフォーミングアーツ	173	24.3	66.5	9.2
小倉百人一首かるた	164	15.2	73.2	11.6
軽音楽	129	6.2	76.7	17.1
生活科学	127	7.1	79.5	13.4
奉仕・ボランティア	121	16.5	71.9	11.6
書道	97	38.1	53.6	8.2
JRC	86	7.0	87.2	5.8
国際理解・国際教育・国際交流	77	37.7	48.1	14.3
郷土研究	70	28.6	62.9	8.6
文芸	52	15.4	78.8	5.8

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	19,379	17.4	71.0	11.5
写真	48	16.7	70.8	12.5
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	24.4	70.7	4.9
映画研究	40	0.0	90.0	10.0
新聞	38	0.0	86.8	13.2
人形劇	34	38.2	52.9	8.8
福祉研究	31	45.2	45.2	9.7
民族／民俗音楽	30	60.0	30.0	10.0
ミュージカル	20	5.0	80.0	15.0
オーケストラ	20	55.0	35.0	10.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	94.7	0.0	5.3
吟詠剣詩舞	12	83.3	16.7	0.0
鉄道研究	11	0.0	81.8	18.2
ギター	10	20.0	60.0	20.0
農業	10	50.0	40.0	10.0
社会・社会科学	9	11.1	66.7	22.2
ユネスコ	6	0.0	66.7	33.3
職業・技術	6	16.7	66.7	16.7
オペラ・オペレッタ	5	0.0	100.0	0.0
国語	5	20.0	80.0	0.0
特別支援	4	25.0	25.0	50.0
放送劇	3	0.0	66.7	33.3
計算技術	3	0.0	100.0	0.0
水産	3	66.7	33.3	0.0
工業	2	50.0	50.0	0.0
インターアクト	2	0.0	100.0	0.0
無線	1	0.0	100.0	0.0
弁論	—	—	—	—
商業	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	1,179	11.6	74.3	14.1
無回答	57	8.8	54.4	36.8

図表Ⅲ—130 学校外部の指導者・講師の有無

〔中学校〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	15,134	19.0	74.2	6.9
吹奏楽	3,843	38.7	56.4	4.9
美術・工芸	3,134	2.8	90.5	6.8
コンピュータ	990	2.5	91.4	6.1
合唱	711	17.3	74.8	7.9
茶道	479	70.1	23.2	6.7
演劇	470	11.1	80.0	8.9
理科	425	2.1	91.3	6.6
手芸	418	5.0	88.3	6.7
英語	362	6.9	85.4	7.7
放送	331	4.5	87.6	7.9
自然科学	331	3.9	89.1	6.9
書道	268	13.8	78.4	7.8
華道	252	77.0	17.9	5.2
文芸	248	1.2	89.1	9.7
奉仕・ボランティア	239	6.3	83.7	10.0
将棋	209	7.2	79.9	12.9
器楽	201	20.9	73.1	6.0
囲碁	181	12.2	76.8	11.0
伝統音楽(日本)	138	65.9	28.3	5.8
軽音楽	99	8.1	81.8	10.1
写真	92	4.3	87.0	8.7
生活科学	87	0.0	90.8	9.2
ダンス・舞踊	80	32.5	58.8	8.8
その他のパフォーミングアーツ	70	31.4	61.4	7.1
漫画	69	1.4	92.8	5.8
オーケストラ	67	50.7	34.3	14.9
図書	64	1.6	92.2	6.3
マーチング・バンド	58	48.3	48.3	3.4
ギター	56	26.8	66.1	7.1
国際理解・国際教育・国際交流	49	12.2	81.6	6.1
職業・技術	48	4.2	85.4	10.4
郷土芸能・民俗芸能	47	63.8	29.8	6.4

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	15,134	19.0	74.2	6.9
社会・社会科学	42	0.0	85.7	14.3
鉄道研究	37	0.0	86.5	13.5
JRC	37	13.5	78.4	8.1
デザイン	32	3.1	87.5	9.4
新聞	32	0.0	90.6	9.4
農業	28	10.7	82.1	7.1
小倉百人一首かるた	24	8.3	75.0	16.7
郷土研究	23	8.7	69.6	21.7
映画研究	19	5.3	84.2	10.5
人形劇	14	21.4	71.4	7.1
弁論	11	9.1	72.7	18.2
ミュージカル	10	10.0	70.0	20.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	80.0	20.0	0.0
工業	10	0.0	100.0	0.0
福祉研究	10	10.0	40.0	50.0
放送劇	8	0.0	75.0	25.0
国語	8	12.5	87.5	0.0
インターアクト	8	0.0	87.5	12.5
民族／民俗音楽	7	71.4	14.3	14.3
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	0.0	100.0	0.0
オペラ・オペレッタ	6	0.0	100.0	0.0
無線	5	20.0	60.0	20.0
計算技術	4	0.0	100.0	0.0
吟詠剣詩舞	3	66.7	33.3	0.0
特別支援	3	0.0	100.0	0.0
ユネスコ	1	0.0	100.0	0.0
商業	—	—	—	—
水産	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	589	6.8	85.7	7.5
無回答	30	6.7	70.0	23.3

図表Ⅲ—131 学校外部の指導者・講師の有無
〔高等学校（全日制）〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	23,442	15.8	73.6	10.6
美術・工芸	1,874	5.3	84.6	10.1
吹奏楽	1,871	30.3	61.0	8.7
茶道	1,612	72.1	19.4	8.6
書道	1,262	9.6	79.1	11.3
写真	1,171	2.3	85.9	11.8
演劇	1,162	5.7	82.8	11.5
放送	1,058	2.5	85.2	12.4
華道	1,041	73.0	18.9	8.1
コンピュータ	874	0.3	88.3	11.3
英語	835	4.2	84.7	11.1
文芸	747	0.7	86.9	12.4
合唱	711	13.2	75.7	11.1
軽音楽	684	2.9	84.1	13.0
理科	497	1.2	87.3	11.5
自然科学	487	1.2	86.0	12.7
漫画	483	0.6	85.9	13.5
囲碁	473	4.9	83.5	11.6
将棋	467	2.6	85.7	11.8
奉仕・ボランティア	464	6.7	83.6	9.7
新聞	430	0.7	87.2	12.1
ダンス・舞踊	377	20.2	67.1	12.7
JRC	373	4.8	85.3	9.9
伝統音楽(日本)	244	69.3	21.7	9.0
商業	241	0.4	92.9	6.6
手芸	209	3.8	85.6	10.5
図書	206	0.5	86.9	12.6
工業	194	3.1	91.8	5.2
インターアクト	185	7.6	83.8	8.6
生活科学	181	2.8	88.4	8.8
ギター	178	12.4	74.7	12.9
その他のパフォーミングアーツ	143	37.1	53.8	9.1
映画研究	126	0.8	84.9	14.3

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	23,442	15.8	73.6	10.6
国際理解・国際教育・国際交流	112	7.1	83.0	9.8
器楽	110	30.9	62.7	6.4
郷土芸能・民俗芸能	98	57.1	38.8	4.1
社会・社会科学	96	1.0	85.4	13.5
計算技術	84	2.4	94.0	3.6
小倉百人一首かるた	70	11.4	77.1	11.4
オーケストラ	69	43.5	50.7	5.8
農業	64	3.1	87.5	9.4
郷土研究	63	3.2	85.7	11.1
無線	63	0.0	92.1	7.9
鉄道研究	61	1.6	86.9	11.5
デザイン	53	3.8	86.8	9.4
マーチング・バンド	51	45.1	47.1	7.8
弁論	41	0.0	92.7	7.3
福祉研究	39	17.9	66.7	15.4
職業・技術	27	0.0	92.6	7.4
吟詠剣詩舞	20	55.0	40.0	5.0
ユネスコ	19	0.0	84.2	15.8
人形劇	18	5.6	83.3	11.1
放送劇	17	17.6	70.6	11.8
水産	16	0.0	87.5	12.5
ミュージカル	14	14.3	78.6	7.1
民族／民俗音楽	12	8.3	75.0	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	8.3	75.0	16.7
オペラ・オペレッタ	11	9.1	81.8	9.1
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	66.7	22.2	11.1
国語	5	20.0	80.0	0.0
特別支援	3	0.0	33.3	66.7
定通	2	0.0	100.0	0.0
その他	1,252	4.6	87.1	8.3
無回答	71	4.2	59.2	36.6

(7) 県大会以上の大会参加実績

【学校調査：問20-6＜文化部ベース＞】

県大会以上の大会参加実績

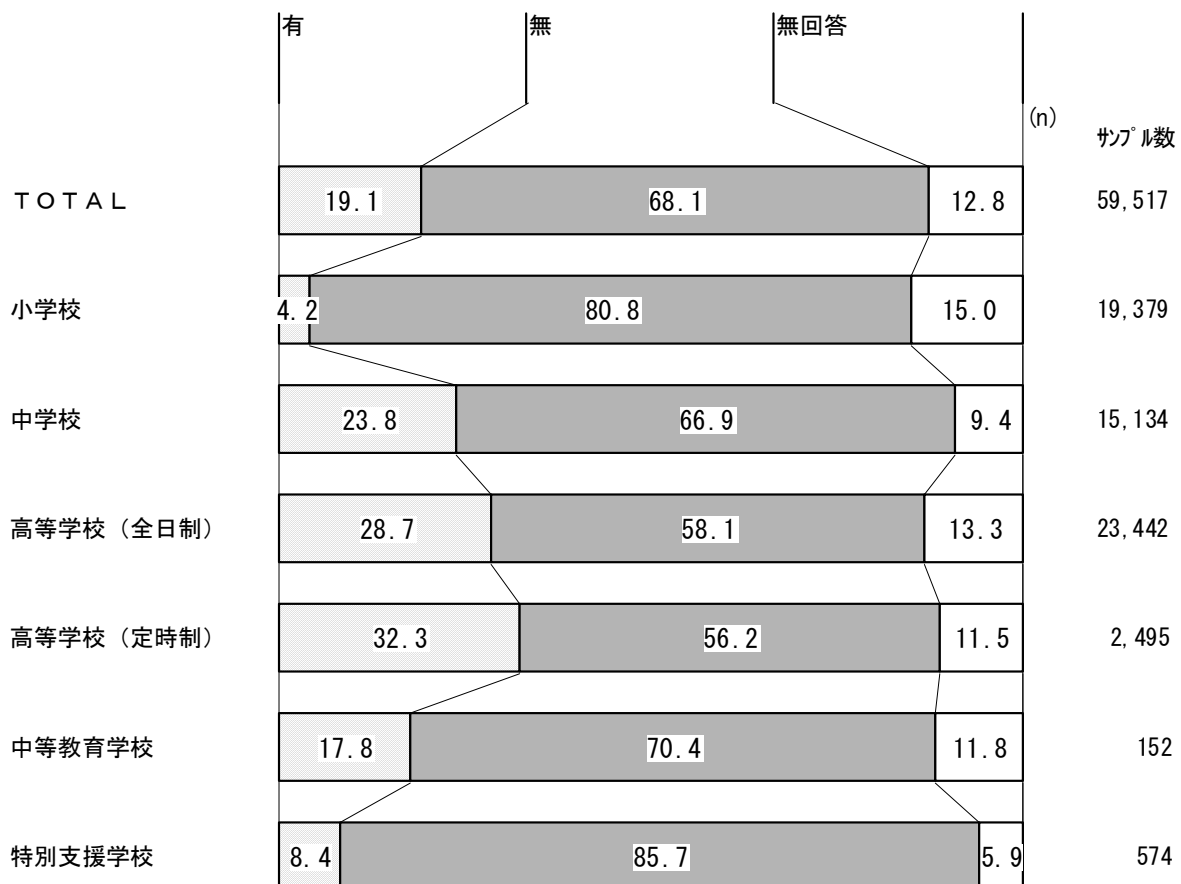
県大会以上の大会参加実績では、「有」の割合が小学校で4.2%、中学校で23.8%、高等学校（全日制）で28.7%となっている。

部の類型別でみると、小学校では「有」の割合が「合唱」で28.8%と最も高く、「吹奏楽」(27.1%)、「マーチング・バンド」(16.4%)と続いている一方で、「無」の割合が「放送」で85.2%と最も高く、「伝統音楽（日本）」(85.0%)、「理科」(84.8%)と続いている。

中学校では「有」の割合が「吹奏楽」で53.3%と最も高く、「合唱」(46.6%)、「放送」(29.0%)と続いている一方で、「無」の割合が「茶道」で87.3%と最も高く、「コンピュータ」(87.0%)、「華道」(86.9%)と続いている。

高等学校（全日制）では「有」の割合が「工業」で63.9%と最も高く、「商業」(56.0%)、「吹奏楽」(52.6%)と続いている一方で、「無」の割合が「手芸」で81.8%と最も高く、「華道」(80.4%)、「生活科学」(80.1%)と続いている。

図表Ⅲ—132 県大会以上の大会参加実績



図表Ⅲ—133 県大会以上の大会参加実績

〔小学校〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	19,379	4.2	80.8	15.0
コンピュータ	2,294	0.2	83.4	16.4
手芸	1,774	0.1	83.2	16.7
器楽	1,463	5.5	83.3	11.1
将棋	1,118	0.1	81.8	18.1
漫画	1,091	0.1	83.0	17.0
理科	1,048	0.5	84.8	14.7
吹奏楽	1,023	27.1	64.9	8.0
美術・工芸	1,000	0.2	84.6	15.2
合唱	827	28.8	61.2	10.0
マーチング・バンド	715	16.4	75.9	7.7
茶道	651	0.2	83.4	16.4
囲碁	647	0.2	81.3	18.5
ダンス・舞踊	553	1.3	84.1	14.6
伝統音楽(日本)	428	2.6	85.0	12.4
自然科学	385	0.3	80.8	19.0
図書	365	0.3	84.4	15.3
華道	264	0.4	81.4	18.2
郷土芸能・民俗芸能	235	3.4	83.0	13.6
演劇	206	1.5	83.0	15.5
放送	189	0.5	85.2	14.3
デザイン	182	0.0	84.6	15.4
英語	176	0.6	76.7	22.7
その他のパフォーミングアーツ	173	5.8	80.9	13.3
小倉百人一首かるた	164	3.0	81.1	15.9
軽音楽	129	2.3	76.7	20.9
生活科学	127	0.0	82.7	17.3
奉仕・ボランティア	121	0.8	80.2	19.0
書道	97	5.2	80.4	14.4
JRC	86	2.3	91.9	5.8
国際理解・国際教育・国際交流	77	0.0	79.2	20.8
郷土研究	70	0.0	84.3	15.7
文芸	52	1.9	88.5	9.6

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	19,379	4.2	80.8	15.0
写真	48	0.0	83.3	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	0.0	90.2	9.8
映画研究	40	0.0	82.5	17.5
新聞	38	2.6	81.6	15.8
人形劇	34	0.0	82.4	17.6
福祉研究	31	0.0	83.9	16.1
民族／民俗音楽	30	0.0	86.7	13.3
ミュージカル	20	0.0	75.0	25.0
オーケストラ	20	40.0	45.0	15.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	5.3	78.9	15.8
吟詠剣詩舞	12	8.3	91.7	0.0
鉄道研究	11	0.0	81.8	18.2
ギター	10	0.0	80.0	20.0
農業	10	0.0	70.0	30.0
社会・社会科学	9	0.0	77.8	22.2
ユネスコ	6	0.0	66.7	33.3
職業・技術	6	0.0	83.3	16.7
オペラ・オペレッタ	5	20.0	80.0	0.0
国語	5	20.0	80.0	0.0
特別支援	4	0.0	50.0	50.0
放送劇	3	0.0	66.7	33.3
計算技術	3	0.0	100.0	0.0
水産	3	0.0	100.0	0.0
工業	2	0.0	50.0	50.0
インターアクト	2	0.0	100.0	0.0
無線	1	0.0	100.0	0.0
弁論	—	—	—	—
商業	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	1,179	0.3	82.2	17.5
無回答	57	1.8	57.9	40.4

図表Ⅲ—134 県大会以上の大会参加実績

〔中学校〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	15,134	23.8	66.9	9.4
吹奏楽	3,843	53.3	41.5	5.2
美術・工芸	3,134	12.3	78.1	9.5
コンピュータ	990	4.3	87.0	8.7
合唱	711	46.6	45.3	8.2
茶道	479	1.9	87.3	10.9
演劇	470	14.9	73.4	11.7
理科	425	11.5	80.0	8.5
手芸	418	4.3	85.6	10.0
英語	362	6.1	82.9	11.0
放送	331	29.0	60.7	10.3
自然科学	331	15.7	73.4	10.9
書道	268	20.5	67.2	12.3
華道	252	1.2	86.9	11.9
文芸	248	2.4	84.3	13.3
奉仕・ボランティア	239	1.7	86.6	11.7
将棋	209	15.8	68.4	15.8
器楽	201	26.9	65.7	7.5
囲碁	181	23.2	62.4	14.4
伝統音楽(日本)	138	13.0	76.1	10.9
軽音楽	99	7.1	78.8	14.1
写真	92	10.9	72.8	16.3
生活科学	87	8.0	79.3	12.6
ダンス・舞踊	80	20.0	67.5	12.5
その他のパフォーミングアーツ	70	27.1	48.6	24.3
漫画	69	0.0	88.4	11.6
オーケストラ	67	47.8	34.3	17.9
図書	64	0.0	89.1	10.9
マーチング・バンド	58	72.4	25.9	1.7
ギター	56	25.0	62.5	12.5
国際理解・国際教育・国際交流	49	4.1	85.7	10.2
職業・技術	48	18.8	70.8	10.4
郷土芸能・民俗芸能	47	12.8	72.3	14.9

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	15,134	23.8	66.9	9.4
社会・社会科学	42	2.4	78.6	19.0
鉄道研究	37	5.4	73.0	21.6
JRC	37	5.4	78.4	16.2
デザイン	32	9.4	78.1	12.5
新聞	32	6.3	71.9	21.9
農業	28	7.1	82.1	10.7
小倉百人一首かるた	24	25.0	50.0	25.0
郷土研究	23	4.3	65.2	30.4
映画研究	19	10.5	68.4	21.1
人形劇	14	35.7	57.1	7.1
弁論	11	36.4	45.5	18.2
ミュージカル	10	10.0	70.0	20.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	20.0	50.0	30.0
工業	10	20.0	70.0	10.0
福祉研究	10	0.0	40.0	60.0
放送劇	8	25.0	50.0	25.0
国語	8	12.5	87.5	0.0
インターアクト	8	25.0	62.5	12.5
民族／民俗音楽	7	0.0	71.4	28.6
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	14.3	85.7	0.0
オペラ・オペレッタ	6	0.0	100.0	0.0
無線	5	0.0	80.0	20.0
計算技術	4	25.0	75.0	0.0
吟詠剣詩舞	3	66.7	33.3	0.0
特別支援	3	0.0	100.0	0.0
ユネスコ	1	100.0	0.0	0.0
商業	—	—	—	—
水産	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	589	7.1	81.8	11.0
無回答	30	16.7	50.0	33.3

図表Ⅲ—135 県大会以上の大会参加実績
〔高等学校（全日制）〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	23,442	28.7	58.1	13.3
美術・工芸	1,874	39.6	48.3	12.1
吹奏楽	1,871	52.6	37.1	10.3
茶道	1,612	6.5	78.5	15.0
書道	1,262	51.0	36.5	12.5
写真	1,171	38.2	47.2	14.6
演劇	1,162	33.0	53.5	13.5
放送	1,058	38.9	47.2	13.9
華道	1,041	4.6	80.4	15.0
コンピュータ	874	17.7	68.8	13.5
英語	835	15.8	69.5	14.7
文芸	747	21.2	64.3	14.6
合唱	711	39.8	48.4	11.8
軽音楽	684	8.3	76.2	15.5
理科	497	20.9	64.8	14.3
自然科学	487	17.2	69.0	13.8
漫画	483	6.6	78.1	15.3
囲碁	473	47.6	39.1	13.3
将棋	467	48.2	38.5	13.3
奉仕・ボランティア	464	8.4	79.3	12.3
新聞	430	25.1	60.0	14.9
ダンス・舞踊	377	23.9	62.6	13.5
JRC	373	16.9	69.4	13.7
伝統音楽(日本)	244	43.0	43.9	13.1
商業	241	56.0	36.5	7.5
手芸	209	5.3	81.8	12.9
図書	206	11.7	68.9	19.4
工業	194	63.9	31.4	4.6
インターアクト	185	18.9	69.2	11.9
生活科学	181	10.5	80.1	9.4
ギター	178	16.9	69.1	14.0
その他のパフォーミングアーツ	143	32.2	51.7	16.1
映画研究	126	6.3	77.0	16.7

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	23,442	28.7	58.1	13.3
国際理解・国際教育・国際交流	112	14.3	73.2	12.5
器楽	110	35.5	56.4	8.2
郷土芸能・民俗芸能	98	54.1	40.8	5.1
社会・社会科学	96	7.3	77.1	15.6
計算技術	84	52.4	42.9	4.8
小倉百人一首かるた	70	58.6	31.4	10.0
オーケストラ	69	55.1	36.2	8.7
農業	64	28.1	59.4	12.5
郷土研究	63	7.9	76.2	15.9
無線	63	25.4	66.7	7.9
鉄道研究	61	3.3	77.0	19.7
デザイン	53	24.5	60.4	15.1
マーチング・バンド	51	78.4	9.8	11.8
弁論	41	68.3	26.8	4.9
福祉研究	39	7.7	74.4	17.9
職業・技術	27	7.4	81.5	11.1
吟詠剣詩舞	20	75.0	20.0	5.0
ユネスコ	19	15.8	68.4	15.8
人形劇	18	16.7	55.6	27.8
放送劇	17	29.4	52.9	17.6
水産	16	18.8	68.8	12.5
ミュージカル	14	7.1	78.6	14.3
民族／民俗音楽	12	25.0	58.3	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	16.7	50.0	33.3
オペラ・オペレッタ	11	9.1	72.7	18.2
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	0.0	77.8	22.2
国語	5	20.0	80.0	0.0
特別支援	3	0.0	33.3	66.7
定通	2	50.0	50.0	0.0
その他	1,252	19.6	68.5	11.8
無回答	71	16.9	42.3	40.8

(8) 他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況

【学校調査：問20ー7＜文化部ベース＞】

他校や地域の芸術団体と一体となった部活動

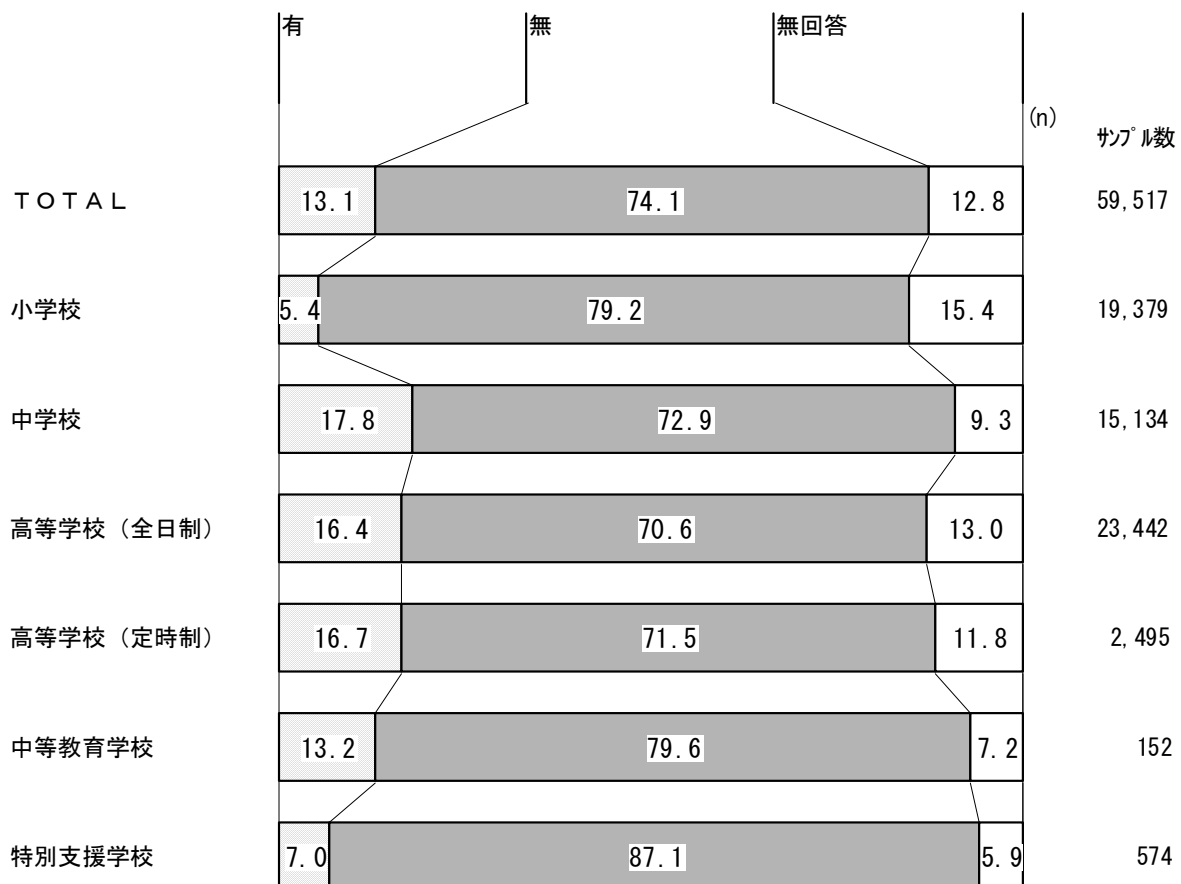
他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況では、「有」の割合が小学校で5.4%、中学校で17.8%、高等学校（全日制）で16.4%となっている。

部の類型別でみると、小学校では「有」の割合が「吹奏楽」で26.8%と最も高く、「マーチング・バンド」（22.1%）、「合唱」（20.9%）と続いている一方で、「無」の割合が「放送」で85.2%と最も高く、「理科」（84.8%）、「美術・工芸」（83.6%）と続いている。

中学校では「有」の割合が「吹奏楽」で41.2%と最も高く、「伝統音楽（日本）」（34.1%）、「合唱」（26.4%）と続いている一方で、「無」の割合が「コンピュータ」で90.1%と最も高く、「手芸」（87.8%）、「英語」（84.5%）と続いている。

高等学校（全日制）では「有」の割合が「インターアクト」で47.6%と最も高く、「吹奏楽」（41.9%）、「JRC」（38.6%）と続いている一方で、「無」の割合が「生活科学」で85.6%と最も高く、「手芸」（85.2%）、「映画研究」（82.5%）と続いている。

図表Ⅲ—136 他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況



図表Ⅲ—137 他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況
〔小学校〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	19,379	5.4	79.2	15.4
コンピュータ	2,294	0.5	83.1	16.4
手芸	1,774	0.5	82.6	17.0
器楽	1,463	7.1	81.1	11.8
将棋	1,118	0.4	81.2	18.3
漫画	1,091	0.2	82.3	17.5
理科	1,048	0.6	84.8	14.6
吹奏楽	1,023	26.8	65.1	8.1
美術・工芸	1,000	0.5	83.6	15.9
合唱	827	20.9	68.2	10.9
マーチング・バンド	715	22.1	69.5	8.4
茶道	651	4.9	77.4	17.7
囲碁	647	0.8	80.4	18.9
ダンス・舞踊	553	2.7	81.6	15.7
伝統音楽(日本)	428	17.5	71.5	11.0
自然科学	385	1.0	79.7	19.2
図書	365	0.5	83.6	15.9
華道	264	3.8	77.3	18.9
郷土芸能・民俗芸能	235	20.9	66.0	13.2
演劇	206	2.9	81.1	16.0
放送	189	0.0	85.2	14.8
デザイン	182	1.1	83.5	15.4
英語	176	0.0	76.7	23.3
その他のパフォーミングアーツ	173	11.0	74.0	15.0
小倉百人一首かるた	164	1.8	80.5	17.7
軽音楽	129	2.3	76.7	20.9
生活科学	127	0.8	81.9	17.3
奉仕・ボランティア	121	7.4	72.7	19.8
書道	97	3.1	79.4	17.5
JRC	86	10.5	83.7	5.8
国際理解・国際教育・国際交流	77	1.3	75.3	23.4
郷土研究	70	2.9	80.0	17.1
文芸	52	3.8	82.7	13.5

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	19,379	5.4	79.2	15.4
写真	48	0.0	83.3	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	41	2.4	85.4	12.2
映画研究	40	0.0	85.0	15.0
新聞	38	0.0	81.6	18.4
人形劇	34	14.7	67.6	17.6
福祉研究	31	0.0	83.9	16.1
民族／民俗音楽	30	20.0	66.7	13.3
ミュージカル	20	10.0	60.0	30.0
オーケストラ	20	35.0	45.0	20.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	19	42.1	52.6	5.3
吟詠剣詩舞	12	16.7	75.0	8.3
鉄道研究	11	0.0	81.8	18.2
ギター	10	0.0	70.0	30.0
農業	10	0.0	70.0	30.0
社会・社会科学	9	0.0	77.8	22.2
ユネスコ	6	16.7	50.0	33.3
職業・技術	6	0.0	66.7	33.3
オペラ・オペレッタ	5	40.0	60.0	0.0
国語	5	0.0	100.0	0.0
特別支援	4	0.0	50.0	50.0
放送劇	3	0.0	66.7	33.3
計算技術	3	0.0	100.0	0.0
水産	3	0.0	100.0	0.0
工業	2	100.0	0.0	0.0
インターアクト	2	0.0	100.0	0.0
無線	1	0.0	100.0	0.0
弁論	—	—	—	—
商業	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	1,179	1.0	81.7	17.3
無回答	57	5.3	57.9	36.8

図表Ⅲ—138 他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況

〔中学校〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	15,134	17.8	72.9	9.3
吹奏楽	3,843	41.2	52.9	5.9
美術・工芸	3,134	8.2	82.8	9.0
コンピュータ	990	1.9	90.1	8.0
合唱	711	26.4	64.0	9.6
茶道	479	19.8	70.4	9.8
演劇	470	16.2	72.8	11.1
理科	425	6.1	84.0	9.9
手芸	418	2.6	87.8	9.6
英語	362	5.2	84.5	10.2
放送	331	8.5	80.1	11.5
自然科学	331	7.3	84.0	8.8
書道	268	4.9	83.6	11.6
華道	252	9.9	78.6	11.5
文芸	248	3.6	83.9	12.5
奉仕・ボランティア	239	13.8	76.6	9.6
将棋	209	3.8	78.0	18.2
器楽	201	20.9	71.6	7.5
囲碁	181	6.1	78.5	15.5
伝統音楽(日本)	138	34.1	56.5	9.4
軽音楽	99	9.1	76.8	14.1
写真	92	6.5	81.5	12.0
生活科学	87	5.7	83.9	10.3
ダンス・舞踊	80	15.0	75.0	10.0
その他のパフォーミングアーツ	70	22.9	55.7	21.4
漫画	69	1.4	88.4	10.1
オーケストラ	67	31.3	50.7	17.9
図書	64	1.6	89.1	9.4
マーチング・バンド	58	39.7	53.4	6.9
ギター	56	14.3	75.0	10.7
国際理解・国際教育・国際交流	49	4.1	87.8	8.2
職業・技術	48	6.3	81.3	12.5
郷土芸能・民俗芸能	47	36.2	57.4	6.4

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	15,134	17.8	72.9	9.3
社会・社会科学	42	0.0	81.0	19.0
鉄道研究	37	5.4	73.0	21.6
JRC	37	27.0	59.5	13.5
デザイン	32	0.0	87.5	12.5
新聞	32	3.1	75.0	21.9
農業	28	0.0	89.3	10.7
小倉百人一首かるた	24	12.5	66.7	20.8
郷土研究	23	4.3	65.2	30.4
映画研究	19	5.3	78.9	15.8
人形劇	14	7.1	85.7	7.1
弁論	11	9.1	72.7	18.2
ミュージカル	10	0.0	80.0	20.0
歌舞伎・文楽・能・狂言	10	50.0	20.0	30.0
工業	10	0.0	90.0	10.0
福祉研究	10	10.0	30.0	60.0
放送劇	8	0.0	75.0	25.0
国語	8	12.5	87.5	0.0
インターアクト	8	50.0	37.5	12.5
民族／民俗音楽	7	42.9	28.6	28.6
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	7	0.0	100.0	0.0
オペラ・オペレッタ	6	0.0	100.0	0.0
無線	5	0.0	80.0	20.0
計算技術	4	0.0	100.0	0.0
吟詠剣詩舞	3	33.3	66.7	0.0
特別支援	3	33.3	66.7	0.0
ユネスコ	1	0.0	100.0	0.0
商業	—	—	—	—
水産	—	—	—	—
定通	—	—	—	—
その他	589	3.2	84.6	12.2
無回答	30	13.3	56.7	30.0

図表Ⅲ—139 他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況
〔高等学校（全日制）〕

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	23,442	16.4	70.6	13.0
美術・工芸	1,874	16.4	71.5	12.1
吹奏楽	1,871	41.9	47.5	10.6
茶道	1,612	16.1	70.5	13.4
書道	1,262	19.2	67.1	13.7
写真	1,171	11.6	74.4	14.0
演劇	1,162	22.4	63.4	14.2
放送	1,058	9.8	75.6	14.6
華道	1,041	7.1	79.5	13.4
コンピュータ	874	3.9	82.4	13.7
英語	835	6.7	80.2	13.1
文芸	747	7.0	78.6	14.5
合唱	711	30.4	57.7	12.0
軽音楽	684	10.4	74.7	14.9
理科	497	10.1	75.3	14.7
自然科学	487	9.7	77.8	12.5
漫画	483	2.3	81.8	15.9
囲碁	473	9.7	75.9	14.4
将棋	467	10.1	76.4	13.5
奉仕・ボランティア	464	31.3	58.2	10.6
新聞	430	9.1	76.7	14.2
ダンス・舞踊	377	17.5	67.9	14.6
JRC	373	38.6	49.9	11.5
伝統音楽(日本)	244	28.3	59.0	12.7
商業	241	10.4	80.1	9.5
手芸	209	3.8	85.2	11.0
図書	206	5.8	78.6	15.5
工業	194	12.4	80.9	6.7
インターアクト	185	47.6	43.2	9.2
生活科学	181	5.0	85.6	9.4
ギター	178	10.7	73.6	15.7
その他のパフォーミングアーツ	143	21.0	64.3	14.7
映画研究	126	0.0	82.5	17.5

(%)

クラブ名	n	有	無	無回答
合計	23,442	16.4	70.6	13.0
国際理解・国際教育・国際交流	112	19.6	68.8	11.6
器楽	110	31.8	57.3	10.9
郷土芸能・民俗芸能	98	49.0	44.9	6.1
社会・社会科学	96	9.4	75.0	15.6
計算技術	84	6.0	88.1	6.0
小倉百人一首かるた	70	24.3	67.1	8.6
オーケストラ	69	37.7	49.3	13.0
農業	64	18.8	70.3	10.9
郷土研究	63	11.1	74.6	14.3
無線	63	7.9	84.1	7.9
鉄道研究	61	4.9	78.7	16.4
デザイン	53	3.8	83.0	13.2
マーチング・バンド	51	35.3	47.1	17.6
弁論	41	12.2	78.0	9.8
福祉研究	39	33.3	51.3	15.4
職業・技術	27	7.4	85.2	7.4
吟詠剣詩舞	20	65.0	30.0	5.0
ユネスコ	19	36.8	47.4	15.8
人形劇	18	11.1	61.1	27.8
放送劇	17	5.9	70.6	23.5
水産	16	6.3	81.3	12.5
ミュージカル	14	0.0	92.9	7.1
民族／民俗音楽	12	25.0	58.3	16.7
演芸(落語・講談・浪曲・奇術)	12	8.3	66.7	25.0
オペラ・オペレッタ	11	9.1	72.7	18.2
歌舞伎・文楽・能・狂言	9	44.4	44.4	11.1
国語	5	40.0	60.0	0.0
特別支援	3	33.3	0.0	66.7
定通	2	0.0	100.0	0.0
その他	1,252	8.0	80.8	11.2
無回答	71	5.6	52.1	42.3

(9) 文化部の新設・廃止状況

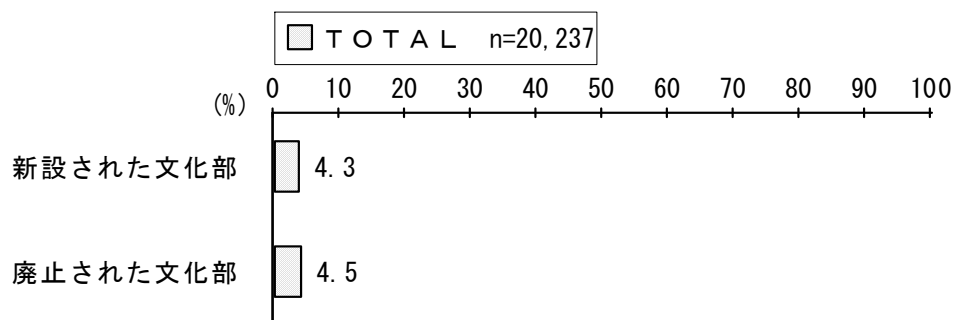
【学校調査：問21＜学校ベース＞】

平成18年度から平成19年度にかけて、文化部の新設や廃止があれば、名称をご記入ください。

文化部の新設・廃止状況では、「新設された文化部」が4.3%、「廃止された文化部」が4.5%となっている。

学校区分別でみると、高等学校（全日制）は「新設された文化部」が7.7%、「廃止された文化部」が10.2%と、小学校、中学校よりも割合が高くなっている。

図表Ⅲ—140 文化部の新設・廃止状況



図表Ⅲ—141 文化部の新設・廃止状況

＜学校区分別＞

			(%)	
		n	新設された文化部	廃止された文化部
全 体		20,237	4.3	4.5
区 分	小学校	11,331	4.1	3.5
	中学校	5,724	3.2	4.2
	高等学校 (全日制)	2,361	7.7	10.2
	高等学校 (定時制)	274	9.9	7.7
	中等教育学校	22	13.6	4.5
	特別支援学校	639	3.4	0.9

IV. 教育委員会調査の調査結果

1. 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度

(1) 小学校・中学校・高等学校での舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度

【市区町村教育委員会調査：問1、問2＜教育委員会ベース＞】

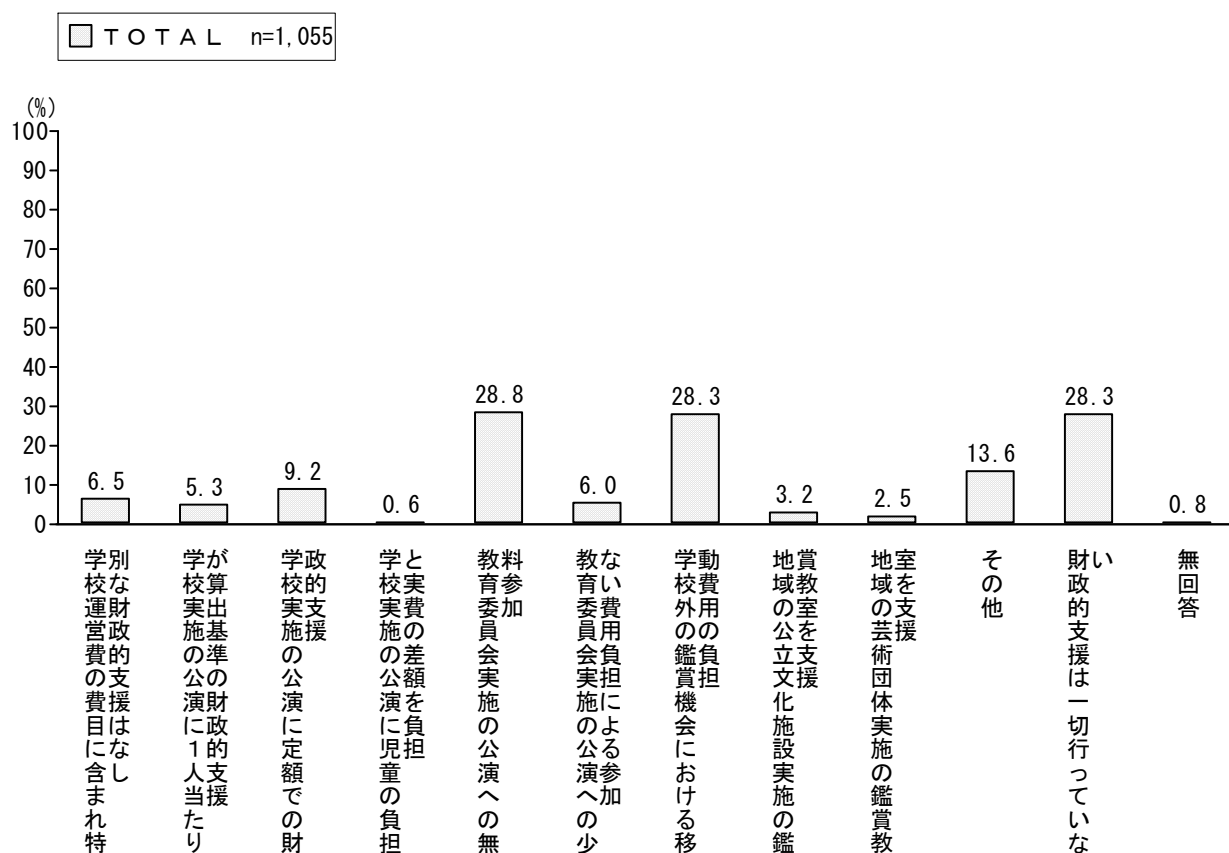
【都道府県教育委員会調査：問1＜教育委員会ベース＞】

貴市区町村（貴都道府県）では、所管内の小学校・中学校（高等学校）が舞台芸術の鑑賞機会を持つことに対して、財政的な支援となるような制度を有していますか。（複数回答）

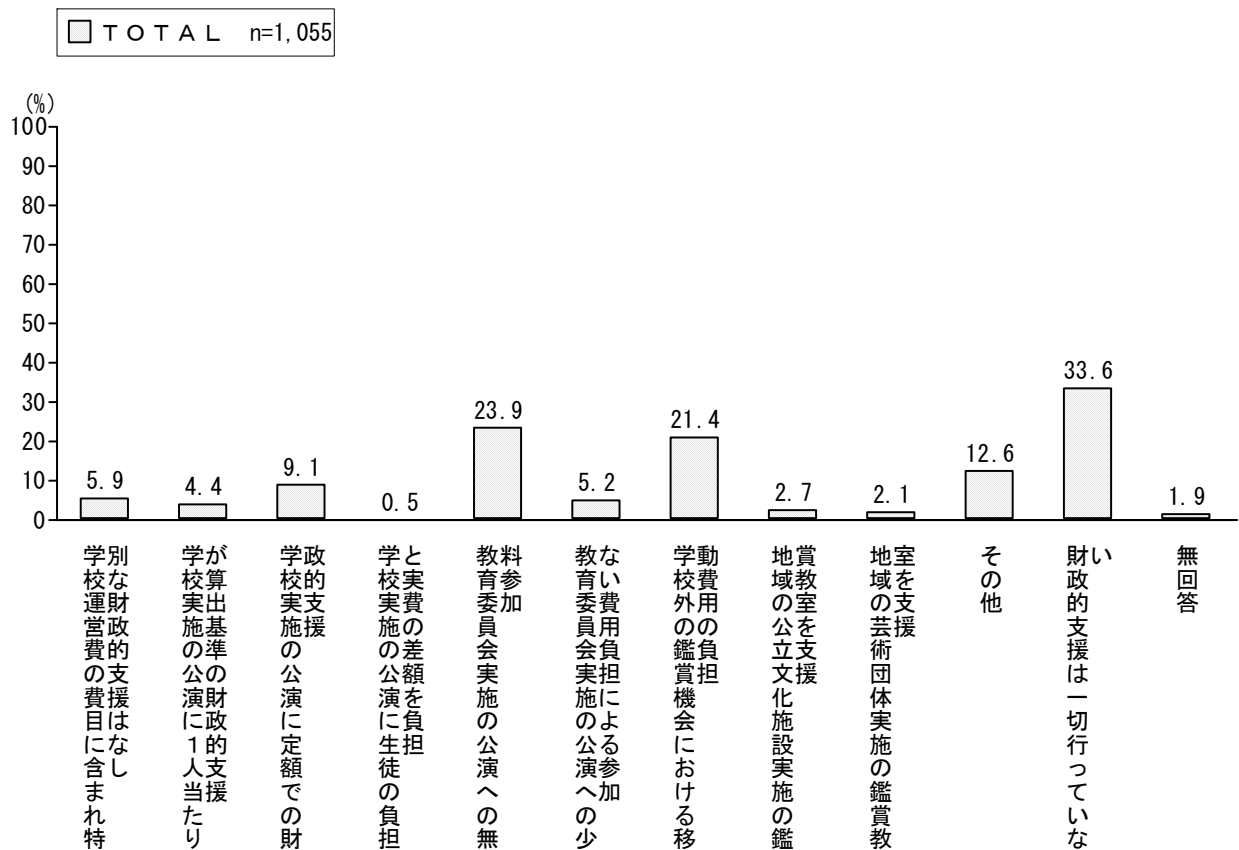
舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度では、何らかの財政的支援を行っている割合は小学校（市区町村教育委員会）で70.9%、中学校（市区町村教育委員会）で64.5%、高等学校（都道府県教育委員会）で41.5%と、学年が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。

具体的な支援制度としては、「教育委員会実施の公演への無料参加」が小学校（市区町村教育委員会）で28.8%、中学校（市区町村教育委員会）で23.9%、「学校外の鑑賞機会における移動費用の負担」が小学校（市区町村教育委員会）で28.3%、中学校（市区町村教育委員会）で21.4%と比較的高い一方で、高等学校（都道府県教育委員会）では「教育委員会実施の公演への少ない費用負担による参加」が12.2%と最も高かった。

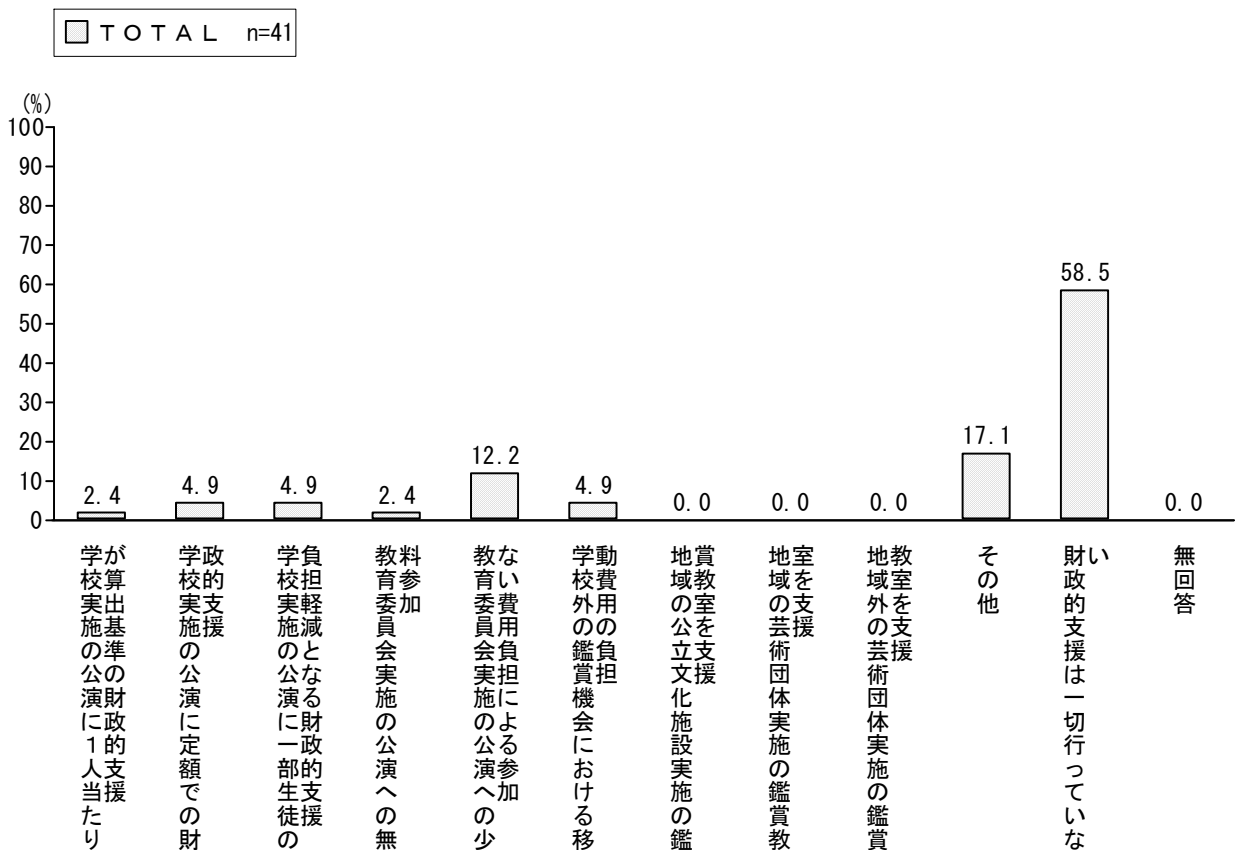
図表Ⅳ—1 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度（複数回答）〔市区町村教育委員会調査：小学校〕



図表Ⅳ—2 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度(複数回答)〔市区町村教育委員会調査：中学校〕



図表Ⅳ—3 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度(複数回答)〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—4 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度(複数回答)〔市区町村教育委員会調査：小学校〕

＜都道府県別＞

(%)

	n	政に学 的含校 支ま運 援れ特 は別費 なしな 財目	基1学 準入校 の当実 財た施 政りの 的が公 支算演 援出に	的に学 支定校 援額実 で施 のの 財公 政演	の児学 差童校 額の実 を施 負担の と公 実演 費に	参の教 加の育 公演委 へ員 の会 無実 料施	用公教 負演育 担へ委 によの員 る少会 参ない 加費の
全 体	1,055	6.5	5.3	9.2	0.6	28.8	6.0
北海道	126	3.2	0.8	10.3	0.0	42.1	2.4
青森県	26	0.0	0.0	11.5	0.0	11.5	11.5
岩手県	26	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	19.2
宮城県	27	11.1	0.0	0.0	0.0	59.3	11.1
秋田県	14	7.1	0.0	7.1	7.1	14.3	14.3
山形県	25	4.0	28.0	20.0	0.0	12.0	24.0
福島県	35	2.9	0.0	0.0	0.0	37.1	8.6
茨城県	32	3.1	0.0	3.1	3.1	25.0	9.4
栃木県	21	9.5	4.8	14.3	0.0	23.8	9.5
群馬県	17	17.6	35.3	5.9	0.0	23.5	17.6
埼玉県	33	12.1	3.0	3.0	0.0	21.2	3.0
千葉県	37	2.7	0.0	8.1	0.0	29.7	8.1
東京都	36	0.0	5.6	16.7	0.0	88.9	0.0
神奈川県	22	9.1	9.1	22.7	0.0	13.6	0.0
新潟県	22	0.0	0.0	18.2	0.0	31.8	9.1
富山県	12	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0
石川県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	10.0
福井県	8	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5
山梨県	18	16.7	16.7	27.8	0.0	16.7	5.6
長野県	46	8.7	26.1	10.9	4.3	13.0	4.3
岐阜県	17	0.0	0.0	5.9	5.9	17.6	23.5
静岡県	22	13.6	4.5	0.0	0.0	18.2	4.5
愛知県	36	11.1	11.1	2.8	0.0	22.2	2.8
三重県	16	25.0	18.8	31.3	0.0	6.3	0.0
滋賀県	15	6.7	0.0	6.7	0.0	33.3	0.0
京都府	19	15.8	15.8	21.1	0.0	5.3	0.0
大阪府	21	4.8	4.8	9.5	0.0	9.5	4.8
兵庫県	24	8.3	0.0	4.2	0.0	20.8	4.2
奈良県	17	23.5	5.9	17.6	0.0	17.6	0.0
和歌山県	14	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
鳥取県	7	28.6	0.0	14.3	0.0	42.9	0.0
島根県	11	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1
岡山県	16	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	6.3
広島県	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0
山口県	14	0.0	0.0	7.1	0.0	28.6	0.0
徳島県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
香川県	11	9.1	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0
愛媛県	12	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
高知県	13	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0
福岡県	33	15.2	6.1	6.1	0.0	6.1	6.1
佐賀県	12	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
長崎県	17	0.0	0.0	5.9	0.0	52.9	11.8
熊本県	22	0.0	9.1	9.1	0.0	18.2	9.1
大分県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0
宮崎県	16	6.3	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0
鹿児島県	33	3.0	0.0	6.1	0.0	48.5	0.0
沖縄県	16	0.0	6.3	12.5	6.3	43.8	0.0
無回答	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

	n	費会学 用にお のける 負担 鑑賞 移動 機	教室 を 支 援	施設 を 支 援	地域の 公立 文化 館	を 支 援	地域の 芸術 鑑賞 教室 団体	そ の 他	切財 行政 的 支 援 は い い な い	無 回 答
全 体	1,055	28.3	3.2	2.5	13.6	28.3	0.8			
北海道	126	31.7	0.8	4.8	27.0	19.0	0.8			
青森県	26	42.3	3.8	3.8	0.0	50.0	0.0			
岩手県	26	42.3	11.5	3.8	7.7	23.1	0.0			
宮城県	27	37.0	7.4	3.7	7.4	18.5	0.0			
秋田県	14	42.9	0.0	7.1	0.0	42.9	0.0			
山形県	25	68.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0			
福島県	35	40.0	2.9	5.7	25.7	17.1	0.0			
茨城県	32	28.1	0.0	0.0	9.4	40.6	3.1			
栃木県	21	33.3	9.5	0.0	4.8	28.6	0.0			
群馬県	17	52.9	0.0	0.0	17.6	5.9	0.0			
埼玉県	33	9.1	0.0	0.0	3.0	48.5	0.0			
千葉県	37	18.9	0.0	2.7	5.4	43.2	0.0			
東京都	36	41.7	8.3	0.0	5.6	2.8	0.0			
神奈川県	22	4.5	4.5	0.0	4.5	40.9	0.0			
新潟県	22	36.4	4.5	0.0	9.1	27.3	0.0			
富山県	12	50.0	16.7	8.3	8.3	0.0	8.3			
石川県	10	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0			
福井県	8	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0			
山梨県	18	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0			
長野県	46	56.5	4.3	4.3	13.0	6.5	0.0			
岐阜県	17	29.4	0.0	0.0	23.5	35.3	0.0			
静岡県	22	22.7	4.5	0.0	13.6	40.9	0.0			
愛知県	36	8.3	0.0	2.8	19.4	33.3	0.0			
三重県	16	6.3	0.0	0.0	18.8	12.5	0.0			
滋賀県	15	13.3	0.0	0.0	6.7	53.3	0.0			
京都府	19	10.5	0.0	0.0	15.8	31.6	0.0			
大阪府	21	9.5	0.0	0.0	9.5	61.9	0.0			
兵庫県	24	20.8	0.0	0.0	8.3	45.8	0.0			
奈良県	17	5.9	0.0	0.0	17.6	17.6	0.0			
和歌山県	14	42.9	0.0	0.0	21.4	35.7	0.0			
鳥取県	7	28.6	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0			
島根県	11	36.4	18.2	0.0	0.0	36.4	0.0			
岡山県	16	12.5	6.3	0.0	12.5	50.0	0.0			
広島県	7	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6	0.0			
山口県	14	14.3	7.1	7.1	7.1	42.9	7.1			
徳島県	10	20.0	0.0	0.0	10.0	50.0	0.0			
香川県	11	9.1	0.0	0.0	0.0	54.5	0.0			
愛媛県	12	41.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0			
高知県	13	23.1	7.7	0.0	7.7	38.5	7.7			
福岡県	33	6.1	6.1	6.1	9.1	48.5	3.0			
佐賀県	12	8.3	0.0	0.0	50.0	16.7	0.0			
長崎県	17	35.3	11.8	11.8	11.8	11.8	0.0			
熊本県	22	13.6	4.5	4.5	22.7	22.7	9.1			
大分県	10	20.0	0.0	10.0	20.0	40.0	0.0			
宮崎県	16	37.5	6.3	0.0	18.8	0.0	0.0			
鹿児島県	33	30.3	0.0	3.0	9.1	30.3	0.0			
沖縄県	16	12.5	6.3	6.3	0.0	50.0	0.0			
無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

図表Ⅳ—5 舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度(複数回答)〔市区町村教育委員会調査：中学校〕

<都道府県別>

(%)

	n	政に学 的含校 支ま運 援れ特 は別費 なしな 財目	基1学 準入校 の当実 財た施 政りの 的が公 支算演 援出に	的に学 支定校 援額実 で施の の公 財公 政演	の生徒 差額の 額を負 を担と 負担実 費に	参の教 加の育 の公委員 演へ会 への実 の無施 料料	用公教 負演育 担へ委 によ員 るの会 参少実 加ない 費施 の
全 体	1,055	5.9	4.4	9.1	0.5	23.9	5.2
北海道	126	2.4	0.0	10.3	0.0	38.9	2.4
青森県	26	0.0	0.0	11.5	0.0	7.7	11.5
岩手県	26	0.0	0.0	0.0	0.0	26.9	15.4
宮城県	27	3.7	0.0	0.0	0.0	37.0	7.4
秋田県	14	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	14.3
山形県	25	4.0	24.0	20.0	0.0	12.0	20.0
福島県	35	2.9	2.9	5.7	0.0	31.4	2.9
茨城県	32	3.1	0.0	3.1	3.1	21.9	9.4
栃木県	21	9.5	4.8	14.3	0.0	23.8	9.5
群馬県	17	17.6	35.3	0.0	0.0	23.5	17.6
埼玉県	33	12.1	0.0	6.1	0.0	15.2	3.0
千葉県	37	2.7	0.0	10.8	0.0	27.0	5.4
東京都	36	0.0	0.0	16.7	0.0	75.0	0.0
神奈川県	22	9.1	4.5	13.6	4.5	0.0	0.0
新潟県	22	0.0	0.0	18.2	0.0	31.8	9.1
富山県	12	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0
石川県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	10.0
福井県	8	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	12.5
山梨県	18	16.7	16.7	27.8	0.0	16.7	5.6
長野県	46	6.5	23.9	10.9	0.0	13.0	4.3
岐阜県	17	0.0	0.0	11.8	5.9	17.6	29.4
静岡県	22	13.6	4.5	0.0	0.0	4.5	4.5
愛知県	36	11.1	11.1	11.1	0.0	27.8	0.0
三重県	16	31.3	18.8	25.0	0.0	6.3	0.0
滋賀県	15	0.0	0.0	6.7	0.0	20.0	0.0
京都府	19	15.8	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0
大阪府	21	4.8	4.8	4.8	0.0	9.5	4.8
兵庫県	24	4.2	0.0	4.2	0.0	16.7	0.0
奈良県	17	23.5	0.0	29.4	0.0	11.8	0.0
和歌山県	14	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
鳥取県	7	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0
島根県	11	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1
岡山県	16	0.0	0.0	12.5	0.0	18.8	6.3
広島県	7	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0
山口県	14	0.0	0.0	7.1	0.0	35.7	0.0
徳島県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
香川県	11	9.1	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0
愛媛県	12	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	16.7
高知県	13	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
福岡県	33	12.1	6.1	3.0	0.0	9.1	6.1
佐賀県	12	16.7	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0
長崎県	17	0.0	0.0	5.9	0.0	47.1	5.9
熊本県	22	0.0	4.5	9.1	0.0	18.2	4.5
大分県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0
宮崎県	16	6.3	0.0	6.3	0.0	37.5	6.3
鹿児島県	33	6.1	0.0	6.1	0.0	27.3	0.0
沖縄県	16	0.0	0.0	6.3	6.3	31.3	0.0
無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

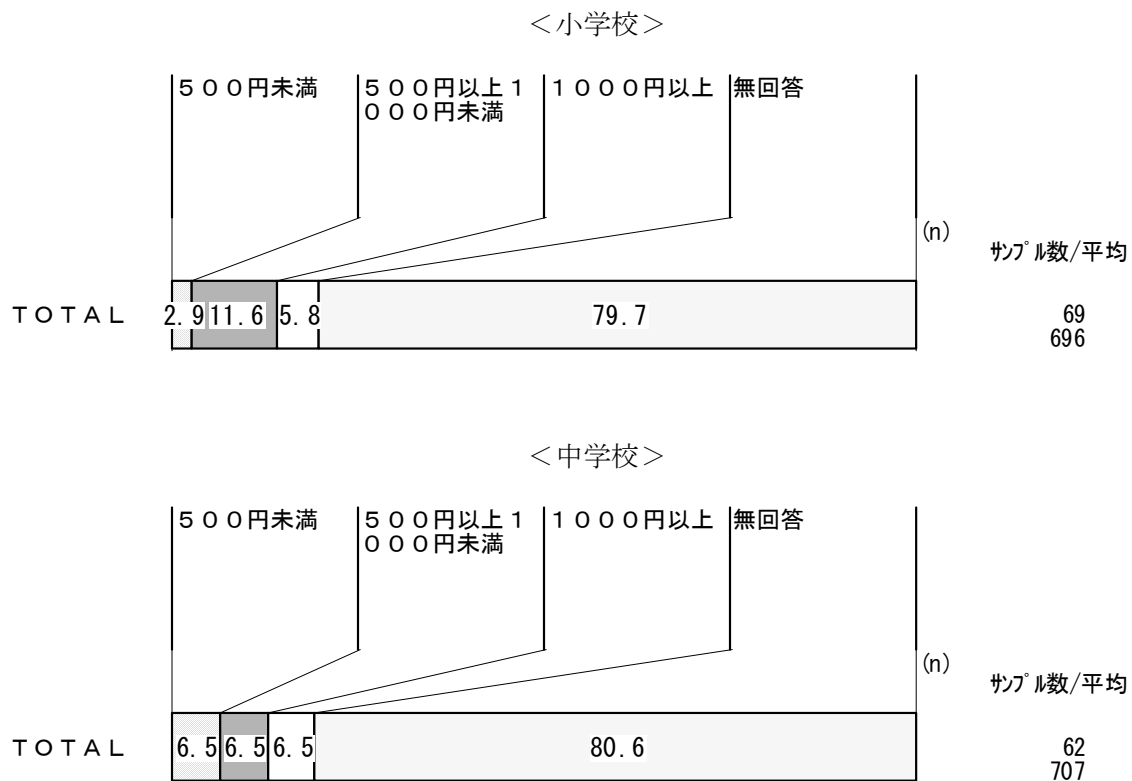
	n	費会学 用にお のける 負担 鑑賞 移動 機	教室 を 支 援	施設 設 実 施 の 公 立 鑑 賞 文 化	を 支 援	地 域 の 芸 術 鑑 賞 教 室 体	そ の 他	切財 行 政 的 支 援 は い -	無 回 答
全 体	1,055	21.4	2.7	2.1	12.6	33.6	1.9		
北海道	126	24.6	0.8	4.0	23.8	26.2	1.6		
青森県	26	30.8	3.8	0.0	3.8	53.8	0.0		
岩手県	26	30.8	11.5	11.5	15.4	30.8	3.8		
宮城県	27	22.2	7.4	0.0	11.1	29.6	7.4		
秋田県	14	42.9	0.0	7.1	0.0	42.9	0.0		
山形県	25	32.0	0.0	0.0	20.0	4.0	0.0		
福島県	35	25.7	2.9	5.7	22.9	25.7	0.0		
茨城県	32	21.9	0.0	0.0	9.4	40.6	3.1		
栃木県	21	28.6	9.5	0.0	4.8	28.6	0.0		
群馬県	17	47.1	5.9	0.0	11.8	5.9	0.0		
埼玉県	33	6.1	0.0	0.0	0.0	57.6	0.0		
千葉県	37	13.5	0.0	2.7	5.4	40.5	2.7		
東京都	36	36.1	2.8	2.8	5.6	8.3	0.0		
神奈川県	22	0.0	4.5	0.0	4.5	59.1	0.0		
新潟県	22	27.3	4.5	0.0	13.6	27.3	0.0		
富山県	12	50.0	16.7	8.3	8.3	8.3	0.0		
石川県	10	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0		
福井県	8	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5		
山梨県	18	22.2	5.6	0.0	0.0	11.1	0.0		
長野県	46	47.8	2.2	0.0	15.2	8.7	4.3		
岐阜県	17	29.4	0.0	0.0	17.6	23.5	5.9		
静岡県	22	13.6	4.5	0.0	9.1	54.5	0.0		
愛知県	36	8.3	0.0	2.8	13.9	25.0	0.0		
三重県	16	0.0	0.0	0.0	18.8	18.8	0.0		
滋賀県	15	0.0	0.0	0.0	0.0	73.3	0.0		
京都府	19	0.0	0.0	0.0	10.5	42.1	10.5		
大阪府	21	9.5	0.0	0.0	14.3	57.1	4.8		
兵庫県	24	25.0	0.0	0.0	4.2	54.2	0.0		
奈良県	17	5.9	0.0	0.0	17.6	23.5	0.0		
和歌山県	14	35.7	0.0	0.0	21.4	42.9	0.0		
鳥取県	7	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3		
島根県	11	18.2	9.1	0.0	0.0	54.5	0.0		
岡山県	16	0.0	0.0	0.0	12.5	56.3	0.0		
広島県	7	14.3	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0		
山口県	14	14.3	0.0	0.0	7.1	50.0	0.0		
徳島県	10	20.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0		
香川県	11	0.0	0.0	0.0	0.0	54.5	0.0		
愛媛県	12	41.7	0.0	0.0	8.3	50.0	0.0		
高知県	13	23.1	7.7	0.0	7.7	53.8	0.0		
福岡県	33	9.1	6.1	6.1	6.1	45.5	6.1		
佐賀県	12	0.0	0.0	0.0	33.3	25.0	8.3		
長崎県	17	29.4	11.8	11.8	11.8	11.8	0.0		
熊本県	22	13.6	4.5	4.5	27.3	27.3	4.5		
大分県	10	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	10.0		
宮崎県	16	25.0	6.3	0.0	18.8	6.3	0.0		
鹿児島県	33	18.2	0.0	3.0	12.1	48.5	0.0		
沖縄県	16	12.5	6.3	6.3	0.0	56.3	0.0		
無回答	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

（２）小学校・中学校運営費の費目における１人あたりの算定上限

【市区町村教育委員会調査：問１－１、問２－１＜教育委員会ベース＞】
 「問１で「１学校運営費の費目として含まれている」と回答した方にお尋ねします」
 その場合の１人あたりの算定上限はいくらですか。

小学校・中学校運営費の費目における１人あたりの算定上限では、小学校が平均金額で 696 円、中学校が 707 円とほぼ同程度である（小学校、中学校とも金額を回答した教育委員会は２割前後）。

図表Ⅳ—６ 学校運営費の費目に含まれる１人あたりの算定上限
 【市区町村教育委員会調査：小学校、中学校】



(3) 小学校・中学校の財政的支援における1人当たりの算定上限

【市区町村教育委員会調査：問1ー2、問2ー2＜教育委員会ベース＞】

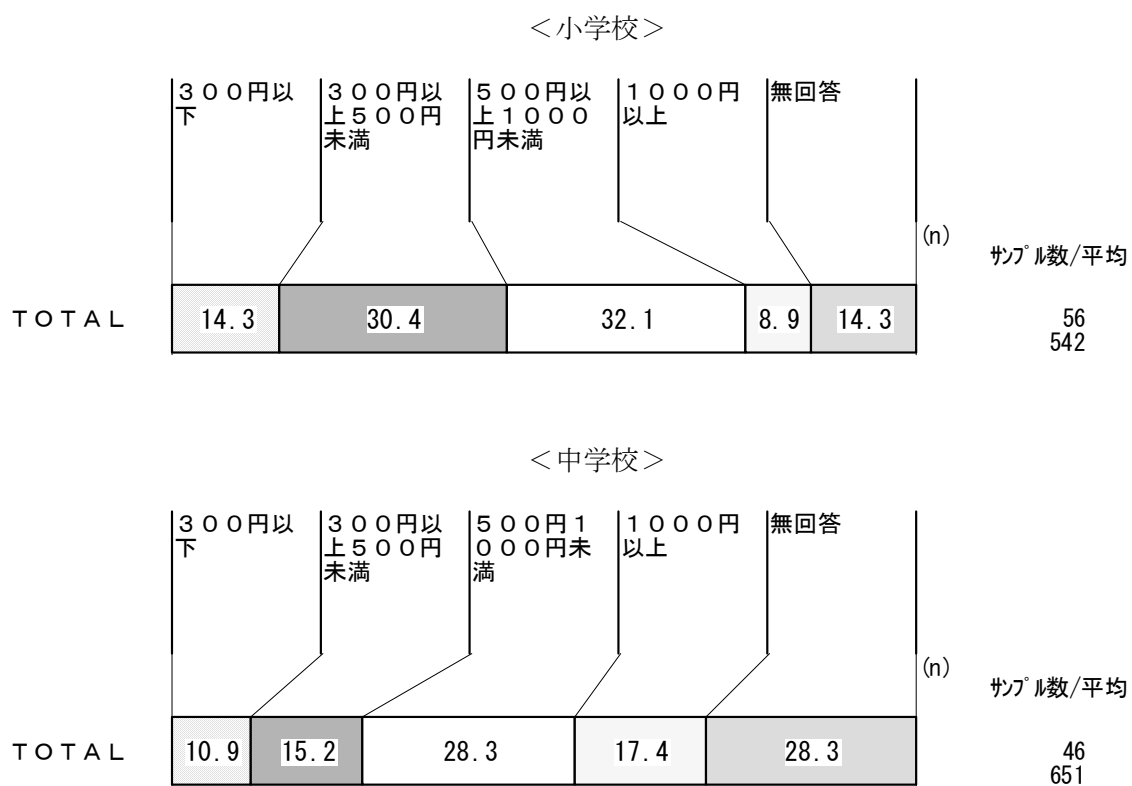
〔問1で「2財政支援を行っている」と回答した方にお尋ねします〕

その場合の1人あたりの算定上限はいくらですか。

小学校・中学校の財政的支援における1人当たりの算定上限では、小学校が平均金額で542円、中学校が651円と中学校のほうが100円以上高くなっている。

図表Ⅳ―7 学校実施の公演に対する財政支援の費目における1人あたりの算定上限

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕



2. 今年度実施した鑑賞教室の分野

【市区町村教育委員会調査：付問１－１、付問２－１＜教育委員会ベース＞】

【都道府県教育委員会調査：付問１－１＜教育委員会ベース＞】

〔問１で「５無料で参加」または「６少ない費用負担で参加」を選択した教育委員会にお尋ねします。〕

（市区町村教育委員会調査）

〔問１で「４無料で参加」または「５少ない費用負担で参加」を選択した教育委員会にお尋ねします。〕

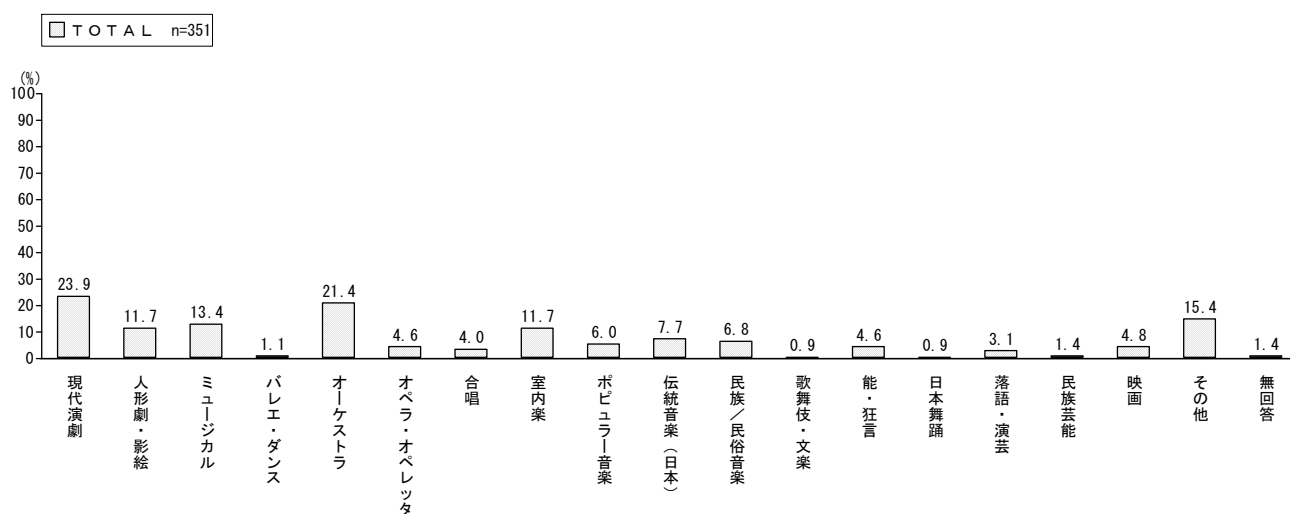
（都道府県教育委員会調査）

今年度実施した主催（共催）の鑑賞教室の分野を教えてください。（複数回答）

今年度実施した鑑賞教室の分野では、小学校（市区町村教育委員会）で「現代演劇」が23.9%と最も高く、「オーケストラ」(21.4%)、「ミュージカル」(13.4%)と続いており、中学校（市区町村教育委員会）で「オーケストラ」が25.0%と最も高く、「現代演劇」(20.3%)、「室内楽」(13.2%)と続いている。

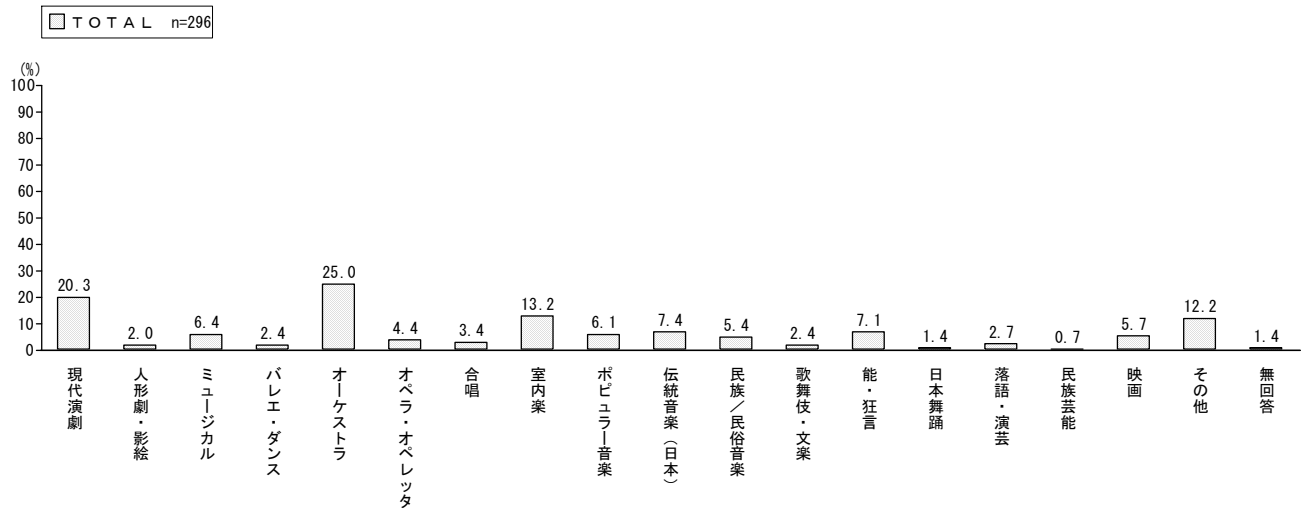
図表Ⅳ—８ 小学校で今年度実施した鑑賞教室の分野(複数回答)

〔市区町村教育委員会調査：小学校〕



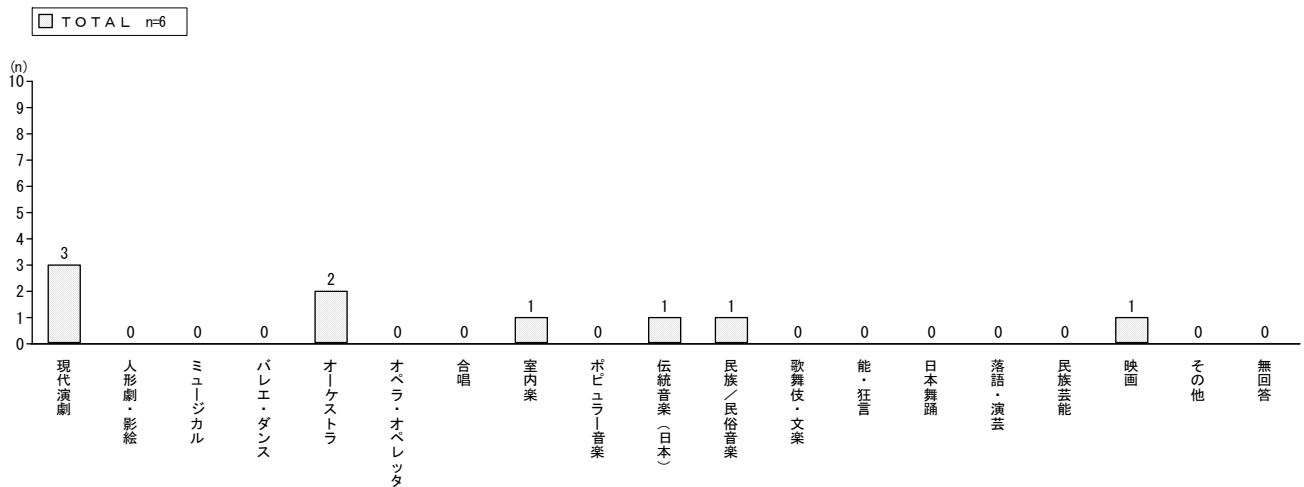
図表Ⅳ—9 中学校で今年度実施した鑑賞教室の分野(複数回答)

〔市区町村教育委員会調査：中学校〕



図表Ⅳ—10 今年度実施した鑑賞教室の分野(複数回答)

〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—11 小学校で今年度実施した鑑賞教室の分野(複数回答)〔市区町村教育委員会調査：小学校〕

<都道府県別>

(%)

	n	現代 演劇	人形 劇・影 絵	ミュー ジカル	バレ エ・ダ ンス	オー ケス トラ	オペ レッ タ	合 唱	室内 楽	ポピ ュラー 音楽	伝 統音 楽 (日本)
全 体	351	23.9	11.7	13.4	1.1	21.4	4.6	4.0	11.7	6.0	7.7
北海道	56	26.8	5.4	12.5	0.0	5.4	3.6	0.0	5.4	17.9	3.6
青森県	6	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
岩手県	16	12.5	0.0	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	43.8
宮城県	17	23.5	17.6	29.4	5.9	11.8	29.4	0.0	11.8	5.9	11.8
秋田県	4	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山形県	9	22.2	11.1	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0
福島県	16	43.8	6.3	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
茨城県	10	40.0	10.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0
栃木県	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7
群馬県	7	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
埼玉県	8	12.5	0.0	12.5	0.0	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
千葉県	12	16.7	16.7	8.3	0.0	50.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
東京都	32	12.5	9.4	0.0	0.0	81.3	0.0	3.1	6.3	3.1	6.3
神奈川県	3	0.0	33.3	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟県	9	22.2	0.0	44.4	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
富山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
石川県	7	42.9	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3
福井県	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
山梨県	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
長野県	7	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0
岐阜県	7	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3
静岡県	5	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0
愛知県	9	11.1	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2
三重県	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
滋賀県	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
京都府	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
大阪府	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
兵庫県	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
奈良県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
和歌山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鳥取県	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
島根県	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岡山県	4	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
広島県	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
山口県	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	25.0	25.0
徳島県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
香川県	2	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
愛媛県	6	66.7	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高知県	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福岡県	4	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
佐賀県	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
長崎県	10	30.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	30.0
熊本県	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0
大分県	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
宮崎県	6	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3
鹿児島県	16	18.8	37.5	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	25.0	6.3	6.3
沖縄県	7	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0
無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

	n	民族 ／ 民俗 音楽	歌 舞 伎 ・ 文 楽	能 ・ 狂 言	日 本 舞 踊	落 語 ・ 演 芸	民 族 芸 能	映 画	そ の 他	無 回 答
全 体	351	6.8	0.9	4.6	0.9	3.1	1.4	4.8	15.4	1.4
北海道	56	12.5	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	7.1	21.4	0.0
青森県	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岩手県	16	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
宮城県	17	23.5	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
秋田県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
山形県	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
福島県	16	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	6.3
茨城県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
栃木県	6	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
群馬県	7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
埼玉県	8	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
千葉県	12	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0
東京都	32	3.1	0.0	9.4	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
神奈川県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟県	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
富山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
石川県	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
福井県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
山梨県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
長野県	7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
岐阜県	7	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
静岡県	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛知県	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
三重県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
滋賀県	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
京都府	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
大阪府	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
兵庫県	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
奈良県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
和歌山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
鳥取県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
島根県	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岡山県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
広島県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山口県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
徳島県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
香川県	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
愛媛県	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
高知県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福岡県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
佐賀県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
長崎県	10	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0
熊本県	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
大分県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
宮崎県	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鹿児島県	16	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	43.8	6.3
沖縄県	7	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0
無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表Ⅳ—12 中学校で今年度実施した鑑賞教室の分野(複数回答)〔市区町村教育委員会調査：中学校〕

＜都道府県別＞

(%)

	n	現代 演劇	人形 劇・影 絵	ミュー ジカル	バレ エ・ダ ンス	オー ケス トラ	オペ レッ タ	合 唱	室内 楽	ポピ ュラー 音楽	伝 統音 楽 (日本)
全 体	296	20.3	2.0	6.4	2.4	25.0	4.4	3.4	13.2	6.1	7.4
北海道	51	27.5	2.0	5.9	0.0	2.0	2.0	0.0	7.8	17.6	3.9
青森県	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0
岩手県	10	10.0	0.0	50.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0
宮城県	11	27.3	0.0	9.1	9.1	18.2	45.5	0.0	0.0	0.0	18.2
秋田県	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
山形県	8	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0
福島県	12	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3
茨城県	9	22.2	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0
栃木県	6	33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	50.0
群馬県	7	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
埼玉県	6	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
千葉県	11	36.4	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東京都	27	3.7	0.0	0.0	0.0	81.5	0.0	7.4	0.0	7.4	0.0
神奈川県	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟県	9	22.2	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
富山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
石川県	7	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6
福井県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
山梨県	4	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
長野県	7	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0
岐阜県	8	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
静岡県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛知県	10	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	30.0	0.0	30.0
三重県	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
滋賀県	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
京都府	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
大阪府	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
兵庫県	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
奈良県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
和歌山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鳥取県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
島根県	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岡山県	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
広島県	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山口県	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	20.0	20.0
徳島県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
香川県	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛媛県	4	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高知県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福岡県	5	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0
佐賀県	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
長崎県	9	33.3	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1
熊本県	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0
大分県	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
宮崎県	7	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3
鹿児島県	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0
沖縄県	5	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

	調査数 (n)	民族／ 民俗音楽	歌舞伎・ 文楽	能・ 狂言	日本舞 踊	落語・ 演芸	民族芸 能	映画	その他	無回 答
全 体	296	5.4	2.4	7.1	1.4	2.7	0.7	5.7	12.2	1.4
北海道	51	17.6	0.0	2.0	0.0	2.0	3.9	7.8	15.7	0.0
青森県	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岩手県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
宮城県	11	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
秋田県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山形県	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
福島県	12	0.0	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	25.0	8.3
茨城県	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
栃木県	6	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
群馬県	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
埼玉県	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
千葉県	11	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0
東京都	27	3.7	0.0	11.1	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0
神奈川県	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟県	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0
富山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
石川県	7	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
福井県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
山梨県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
長野県	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
岐阜県	8	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
静岡県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
愛知県	10	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
三重県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
滋賀県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
京都府	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
大阪府	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
兵庫県	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
奈良県	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
和歌山県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
鳥取県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
島根県	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岡山県	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
広島県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山口県	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
徳島県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
香川県	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
愛媛県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
高知県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福岡県	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0
佐賀県	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
長崎県	9	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0
熊本県	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
大分県	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
宮崎県	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
鹿児島県	9	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1
沖縄県	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

3. 鑑賞機会の分野

【市区町村教育委員会調査：付問１－２、付問２－２＜教育委員会ベース＞】

【都道府県教育委員会調査：付問１－２＜教育委員会ベース＞】

〔問１で「５無料で参加」または「６少ない費用負担で参加」を選択した教育委員会にお尋ねします。〕

（市区町村教育委員会調査）

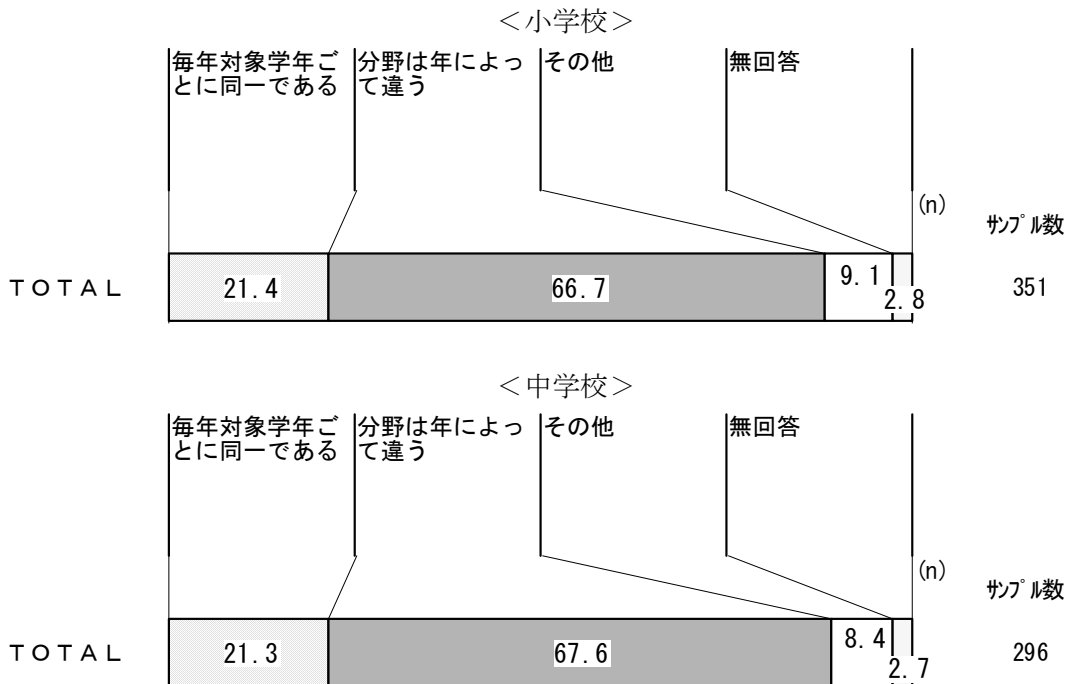
〔問１で「４無料で参加」または「５少ない費用負担で参加」を選択した教育委員会にお尋ねします。〕

（都道府県教育委員会調査）

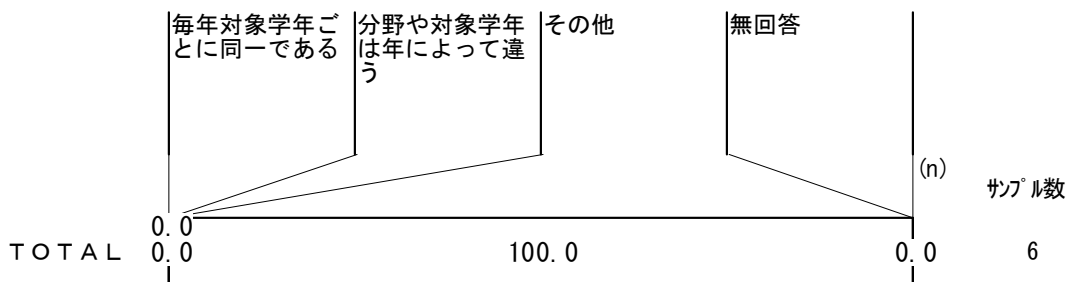
主催（共催）する鑑賞教室の分野は、どのようにしていますか。

鑑賞機会の分野では、「分野は年によって違う」の割合が小学校（市区町村教育委員会）で 66.7%、中学校（市区町村教育委員会）で 67.6%、「毎年対象学年ごとに同一である」の割合が小学校（市区町村教育委員会）で 21.4%、中学校（市区町村教育委員会）で 21.3%と、同様の傾向である。

図表Ⅳ—13 鑑賞機会の分野〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕



図表Ⅳ—14 鑑賞機会の分野〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—15 小学校での鑑賞機会の分野〔市区町村教育委員会調査：小学校〕

<都道府県別>

		(%)			
	n	あご毎 ると年 に対 同象 一学 で年	よ分 つ野 ては 違年 うに	そ の 他	無 回 答
全 体	351	21.4	66.7	9.1	2.8
北海道	56	5.4	80.4	12.5	1.8
青森県	6	0.0	100.0	0.0	0.0
岩手県	16	0.0	87.5	6.3	6.3
宮城県	17	5.9	82.4	11.8	0.0
秋田県	4	0.0	100.0	0.0	0.0
山形県	9	0.0	88.9	11.1	0.0
福島県	16	12.5	75.0	6.3	6.3
茨城県	10	10.0	70.0	0.0	20.0
栃木県	6	33.3	66.7	0.0	0.0
群馬県	7	57.1	42.9	0.0	0.0
埼玉県	8	62.5	37.5	0.0	0.0
千葉県	12	41.7	41.7	16.7	0.0
東京都	32	87.5	9.4	3.1	0.0
神奈川県	3	66.7	33.3	0.0	0.0
新潟県	9	22.2	66.7	11.1	0.0
富山県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
石川県	7	14.3	85.7	0.0	0.0
福井県	3	66.7	33.3	0.0	0.0
山梨県	4	25.0	75.0	0.0	0.0
長野県	7	14.3	85.7	0.0	0.0
岐阜県	7	0.0	85.7	14.3	0.0
静岡県	5	20.0	60.0	20.0	0.0
愛知県	9	33.3	55.6	0.0	11.1
三重県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
滋賀県	5	40.0	40.0	0.0	20.0
京都府	1	0.0	100.0	0.0	0.0
大阪府	3	0.0	66.7	33.3	0.0
兵庫県	6	33.3	66.7	0.0	0.0
奈良県	3	33.3	33.3	33.3	0.0
和歌山県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
鳥取県	3	33.3	0.0	33.3	33.3
島根県	2	0.0	100.0	0.0	0.0
岡山県	4	0.0	100.0	0.0	0.0
広島県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
山口県	4	0.0	100.0	0.0	0.0
徳島県	2	0.0	50.0	50.0	0.0
香川県	2	0.0	50.0	50.0	0.0
愛媛県	6	0.0	66.7	33.3	0.0
高知県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
福岡県	4	0.0	100.0	0.0	0.0
佐賀県	2	50.0	50.0	0.0	0.0
長崎県	10	10.0	90.0	0.0	0.0
熊本県	5	0.0	80.0	0.0	20.0
大分県	2	0.0	100.0	0.0	0.0
宮崎県	6	0.0	83.3	16.7	0.0
鹿児島県	16	12.5	62.5	25.0	0.0
沖縄県	7	14.3	42.9	28.6	14.3
無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表Ⅳ—16 中学校での鑑賞機会の分野〔市区町村教育委員会調査：中学校〕

＜都道府県別＞					
		(%)			
	n	あ ご と に 対 象 一 学 で 年	よ 分 つ 野 て は 違 年 う に	そ の 他	無 回 答
全 体	296	21.3	67.6	8.4	2.7
北海道	51	3.9	80.4	15.7	0.0
青森県	5	0.0	100.0	0.0	0.0
岩手県	10	0.0	80.0	10.0	10.0
宮城県	11	0.0	81.8	18.2	0.0
秋田県	3	0.0	100.0	0.0	0.0
山形県	8	0.0	87.5	12.5	0.0
福島県	12	0.0	91.7	0.0	8.3
茨城県	9	11.1	77.8	0.0	11.1
栃木県	6	16.7	83.3	0.0	0.0
群馬県	7	71.4	28.6	0.0	0.0
埼玉県	6	66.7	33.3	0.0	0.0
千葉県	11	36.4	27.3	36.4	0.0
東京都	27	88.9	7.4	3.7	0.0
神奈川県	0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟県	9	11.1	77.8	0.0	11.1
富山県	1	100.0	0.0	0.0	0.0
石川県	7	42.9	42.9	14.3	0.0
福井県	3	66.7	33.3	0.0	0.0
山梨県	4	25.0	75.0	0.0	0.0
長野県	7	14.3	85.7	0.0	0.0
岐阜県	8	0.0	87.5	12.5	0.0
静岡県	2	0.0	100.0	0.0	0.0
愛知県	10	40.0	50.0	0.0	10.0
三重県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
滋賀県	3	33.3	66.7	0.0	0.0
京都府	1	0.0	100.0	0.0	0.0
大阪府	3	33.3	66.7	0.0	0.0
兵庫県	4	50.0	50.0	0.0	0.0
奈良県	2	50.0	0.0	50.0	0.0
和歌山県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
鳥取県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
島根県	2	0.0	100.0	0.0	0.0
岡山県	3	0.0	100.0	0.0	0.0
広島県	2	50.0	50.0	0.0	0.0
山口県	5	20.0	80.0	0.0	0.0
徳島県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
香川県	2	0.0	50.0	50.0	0.0
愛媛県	4	0.0	75.0	25.0	0.0
高知県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
福岡県	5	0.0	100.0	0.0	0.0
佐賀県	1	0.0	100.0	0.0	0.0
長崎県	9	11.1	88.9	0.0	0.0
熊本県	5	20.0	60.0	0.0	20.0
大分県	2	0.0	100.0	0.0	0.0
宮崎県	7	0.0	85.7	14.3	0.0
鹿児島県	9	0.0	77.8	11.1	11.1
沖縄県	5	0.0	60.0	20.0	20.0
無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0

4. 鑑賞機会の確保の方針

【市区町村教育委員会調査：問3＜教育委員会ベース＞】

【都道府県教育委員会調査：問2＜教育委員会ベース＞】

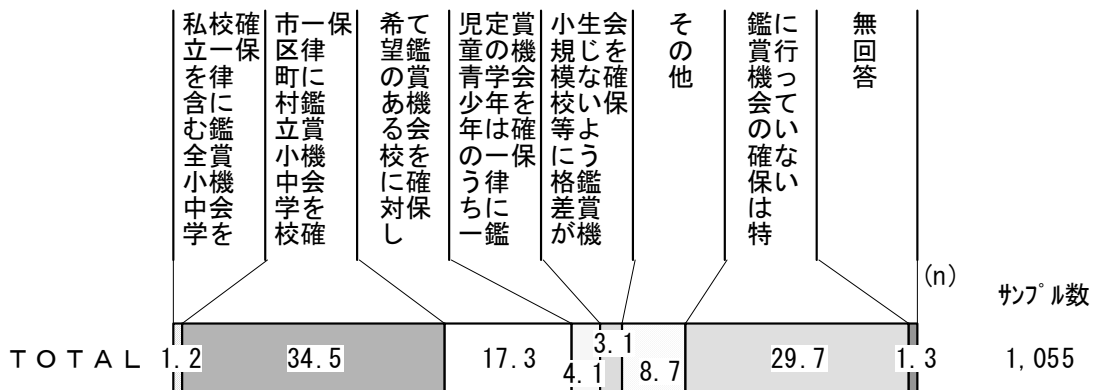
貴教育委員会では、小学校・中学校・高等学校の鑑賞機会の確保について、どのように対応されていますか。

鑑賞機会の確保の方針では、いずれかの方法で鑑賞機会を確保している割合は小学校、中学校（市区町村教育委員会）で69.0%、高等学校（都道府県教育委員会）で31.7%と、高等学校では小学校、中学校よりも鑑賞機会を確保している割合は低くなっている。

具体的な鑑賞機会の確保の方針としては、小学校、中学校（市区町村教育委員会）で「市区町村立小中学校一律に鑑賞機会を確保」の割合が34.5%と最も高く、「希望のある校に対して鑑賞機会を確保」（17.3%）と続いており、高等学校（都道府県教育委員会）では「希望のある校に対して鑑賞機会を確保」の割合が17.1%と最も高かった。

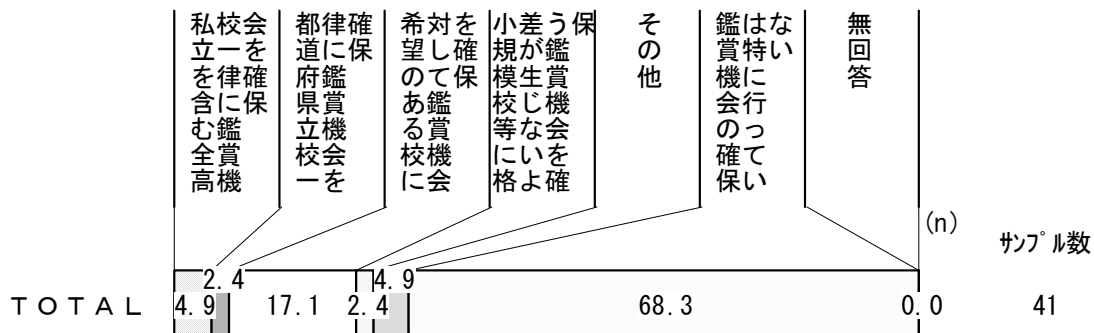
図表Ⅳ—17 小中学校の鑑賞機会の確保の方針

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕



図表Ⅳ—18 高等学校の鑑賞機会の確保の方針

〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—19 小中学校の鑑賞機会の確保の方針〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕

<都道府県別>

(%)

	n	賞中私 機学立 会校を を一含 確確む 保に鑑 小	機学市 会校区 を一町 確律村 保に立 鑑小 賞中	を対希 確し望 保の 鑑ある 賞機校 会に	に一定 鑑の 賞学 機年 会は を一 確律 保	保う差 鑑が 賞生 機模 会じ をな 確い 格	その他	ない特 に鑑 行賞 つ機 て会 の確 保	無 回 答
全 体	1,055	1.2	34.5	17.3	4.1	3.1	8.7	29.7	1.3
北海道	126	1.6	57.9	5.6	2.4	1.6	12.7	17.5	0.8
青森県	26	0.0	26.9	15.4	3.8	3.8	0.0	50.0	0.0
岩手県	26	0.0	42.3	0.0	23.1	7.7	19.2	7.7	0.0
宮城県	27	0.0	22.2	18.5	11.1	0.0	18.5	25.9	3.7
秋田県	14	0.0	28.6	14.3	7.1	7.1	14.3	28.6	0.0
山形県	25	0.0	76.0	12.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0
福島県	35	2.9	54.3	14.3	5.7	0.0	2.9	20.0	0.0
茨城県	32	0.0	43.8	15.6	0.0	0.0	0.0	40.6	0.0
栃木県	21	9.5	33.3	14.3	9.5	0.0	4.8	28.6	0.0
群馬県	17	0.0	47.1	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	0.0
埼玉県	33	0.0	24.2	15.2	0.0	0.0	3.0	57.6	0.0
千葉県	37	0.0	27.0	16.2	2.7	0.0	16.2	35.1	2.7
東京都	36	2.8	72.2	0.0	2.8	0.0	2.8	16.7	2.8
神奈川県	22	0.0	22.7	13.6	4.5	0.0	18.2	40.9	0.0
新潟県	22	9.1	31.8	13.6	9.1	4.5	4.5	27.3	0.0
富山県	12	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
石川県	10	10.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0
福井県	8	0.0	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0
山梨県	18	0.0	44.4	11.1	0.0	11.1	5.6	27.8	0.0
長野県	46	2.2	32.6	37.0	0.0	0.0	2.2	26.1	0.0
岐阜県	17	5.9	11.8	17.6	17.6	5.9	5.9	35.3	0.0
静岡県	22	0.0	9.1	31.8	4.5	4.5	18.2	31.8	0.0
愛知県	36	0.0	41.7	5.6	2.8	0.0	11.1	38.9	0.0
三重県	16	0.0	18.8	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	6.3
滋賀県	15	6.7	6.7	20.0	13.3	0.0	6.7	46.7	0.0
京都府	19	0.0	21.1	21.1	0.0	10.5	5.3	36.8	5.3
大阪府	21	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0
兵庫県	24	0.0	8.3	20.8	0.0	4.2	20.8	45.8	0.0
奈良県	17	0.0	35.3	17.6	5.9	0.0	11.8	29.4	0.0
和歌山県	14	0.0	7.1	35.7	0.0	0.0	7.1	42.9	7.1
鳥取県	7	0.0	14.3	57.1	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
島根県	11	0.0	18.2	18.2	0.0	18.2	9.1	27.3	9.1
岡山県	16	0.0	37.5	12.5	0.0	6.3	6.3	37.5	0.0
広島県	7	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0
山口県	14	0.0	28.6	35.7	0.0	7.1	0.0	28.6	0.0
徳島県	10	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	70.0	0.0
香川県	11	0.0	9.1	54.5	0.0	0.0	9.1	27.3	0.0
愛媛県	12	0.0	16.7	25.0	8.3	25.0	8.3	16.7	0.0
高知県	13	0.0	7.7	30.8	7.7	0.0	7.7	46.2	0.0
福岡県	33	0.0	15.2	18.2	3.0	3.0	9.1	45.5	6.1
佐賀県	12	0.0	16.7	33.3	0.0	8.3	0.0	33.3	8.3
長崎県	17	5.9	41.2	17.6	0.0	11.8	5.9	17.6	0.0
熊本県	22	0.0	18.2	36.4	4.5	0.0	9.1	22.7	9.1
大分県	10	0.0	30.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	10.0
宮崎県	16	0.0	50.0	18.8	0.0	0.0	6.3	25.0	0.0
鹿児島県	33	0.0	36.4	15.2	0.0	15.2	9.1	24.2	0.0
沖縄県	16	0.0	31.3	25.0	0.0	12.5	0.0	31.3	0.0
無回答	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5. 鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用

【市区町村教育委員会調査：問4＜教育委員会ベース＞】

【都道府県教育委員会調査：問3＜教育委員会ベース＞】

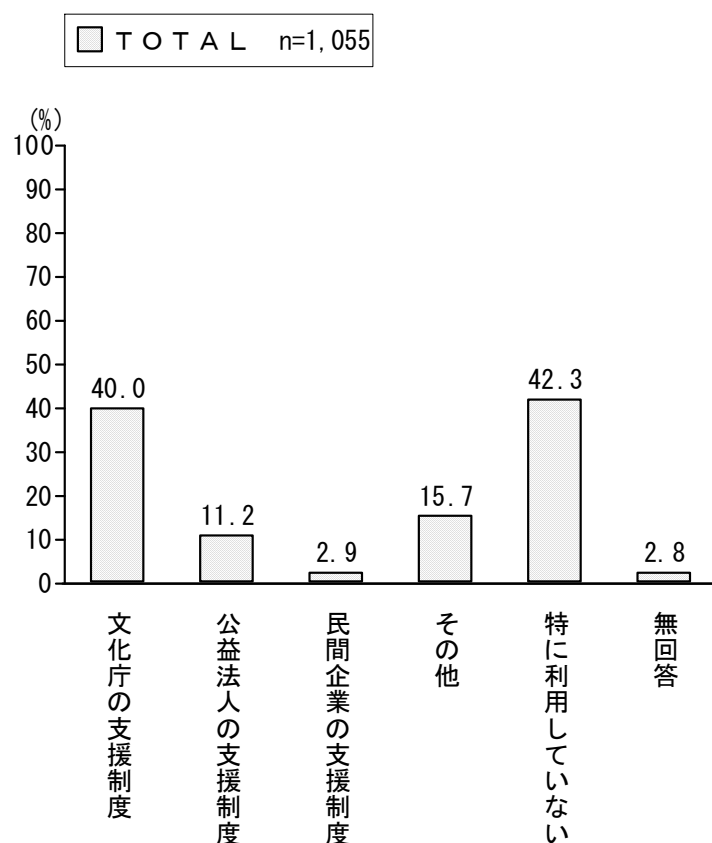
貴教育委員会では、小学校・中学校・高等学校の鑑賞機会を確保するために、外部の支援制度を利用していますか。（複数回答）

鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用では、いずれかの方法で外部支援制度を利用している割合は小学校、中学校（市区町村教育委員会）で54.9%、高等学校（都道府県教育委員会）で58.5%と、高等学校では小学校、中学校よりも外部支援制度を利用している割合は高くなっている。

具体的な外部支援制度としては、「文化庁の支援制度」が小学校、中学校（市区町村教育委員会）で40.0%、高等学校（都道府県教育委員会）で53.7%といずれも最も高かった。

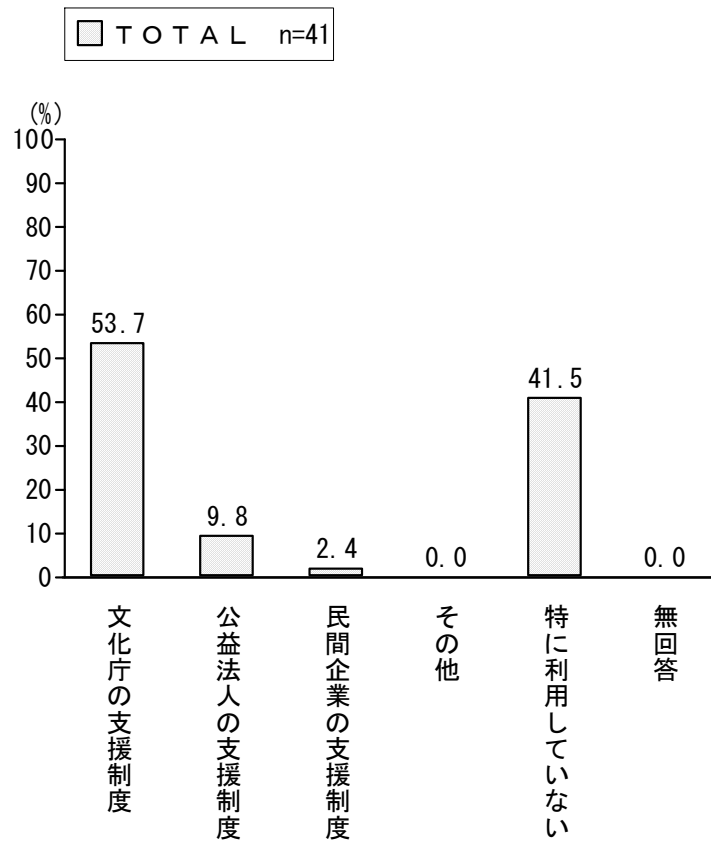
図表Ⅳ—20 小中学校の鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕



図表Ⅳ—21 高等学校の鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用（複数回答）

〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—22 小中学校の鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用(複数回答)

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞

(%)

	n	文 化 庁 の 支 援 制 度	公 益 法 人 の 支 援 制 度	民 間 企 業 の 支 援 制 度	そ の 他	特 に 利 用 し て い ない	無 回 答
全 体	1,055	40.0	11.2	2.9	15.7	42.3	2.8
北海道	126	19.8	10.3	4.0	34.9	42.1	2.4
青森県	26	42.3	11.5	11.5	0.0	46.2	7.7
岩手県	26	38.5	38.5	3.8	19.2	23.1	0.0
宮城県	27	37.0	18.5	3.7	22.2	29.6	7.4
秋田県	14	57.1	7.1	0.0	21.4	28.6	0.0
山形県	25	20.0	4.0	0.0	36.0	48.0	0.0
福島県	35	34.3	14.3	5.7	8.6	51.4	2.9
茨城県	32	25.0	9.4	3.1	9.4	68.8	0.0
栃木県	21	47.6	19.0	4.8	14.3	23.8	9.5
群馬県	17	17.6	5.9	0.0	23.5	58.8	0.0
埼玉県	33	24.2	9.1	0.0	3.0	69.7	3.0
千葉県	37	40.5	0.0	2.7	8.1	56.8	2.7
東京都	36	11.1	2.8	2.8	11.1	75.0	0.0
神奈川県	22	50.0	0.0	4.5	9.1	50.0	0.0
新潟県	22	36.4	13.6	0.0	13.6	50.0	0.0
富山県	12	66.7	8.3	0.0	8.3	33.3	0.0
石川県	10	20.0	10.0	10.0	40.0	20.0	20.0
福井県	8	37.5	50.0	0.0	12.5	25.0	0.0
山梨県	18	33.3	0.0	5.6	11.1	55.6	5.6
長野県	46	17.4	4.3	6.5	8.7	67.4	2.2
岐阜県	17	17.6	5.9	0.0	17.6	47.1	11.8
静岡県	22	45.5	27.3	4.5	4.5	27.3	0.0
愛知県	36	25.0	2.8	5.6	2.8	63.9	5.6
三重県	16	56.3	18.8	0.0	0.0	37.5	6.3
滋賀県	15	73.3	6.7	0.0	6.7	26.7	0.0
京都府	19	68.4	10.5	5.3	0.0	26.3	0.0
大阪府	21	71.4	14.3	0.0	23.8	23.8	0.0
兵庫県	24	45.8	29.2	0.0	25.0	33.3	12.5
奈良県	17	41.2	5.9	0.0	17.6	41.2	0.0
和歌山県	14	50.0	14.3	0.0	0.0	42.9	7.1
鳥取県	7	85.7	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0
島根県	11	63.6	9.1	0.0	0.0	36.4	0.0
岡山県	16	62.5	12.5	0.0	31.3	25.0	0.0
広島県	7	71.4	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0
山口県	14	78.6	7.1	0.0	14.3	21.4	0.0
徳島県	10	50.0	0.0	0.0	10.0	50.0	0.0
香川県	11	63.6	0.0	0.0	0.0	36.4	0.0
愛媛県	12	100.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高知県	13	84.6	7.7	7.7	7.7	7.7	0.0
福岡県	33	45.5	15.2	3.0	12.1	36.4	6.1
佐賀県	12	50.0	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0
長崎県	17	82.4	11.8	0.0	29.4	11.8	0.0
熊本県	22	54.5	4.5	0.0	18.2	31.8	4.5
大分県	10	80.0	20.0	0.0	10.0	10.0	10.0
宮崎県	16	37.5	6.3	0.0	12.5	56.3	0.0
鹿児島県	33	30.3	24.2	6.1	27.3	33.3	3.0
沖縄県	16	43.8	12.5	0.0	6.3	50.0	0.0
無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

6. 舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針

【市区町村教育委員会調査：問5＜教育委員会ベース＞】

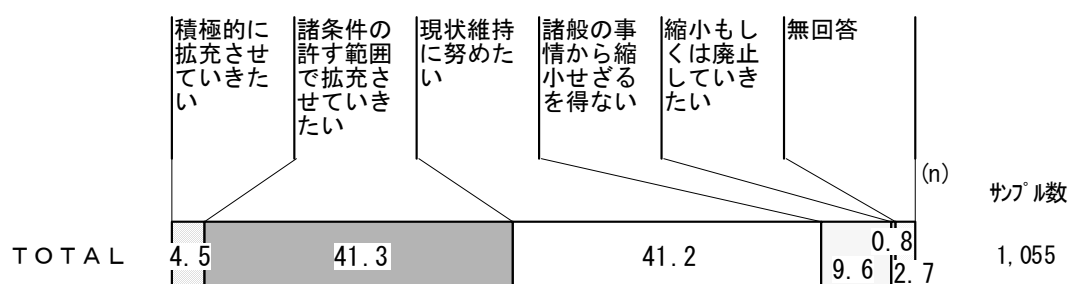
【都道府県教育委員会調査：問4＜教育委員会ベース＞】

今後、貴教育委員会では、小学校・中学校・高等学校における舞台芸術の鑑賞機会について、どのようにお考えですか。

舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針では、小学校、中学校（市区町村教育委員会）で「諸条件の許す範囲で拡充させていきたい」が41.3%、「現状維持に努めたい」が41.2%とほぼ同様の割合であるのに対し、高等学校（都道府県教育委員会）で「諸条件の許す範囲で拡充させていきたい」が51.2%、「現状維持に努めたい」が36.6%と、「諸条件の許す範囲で拡充させていきたい」の割合が高くなっている。

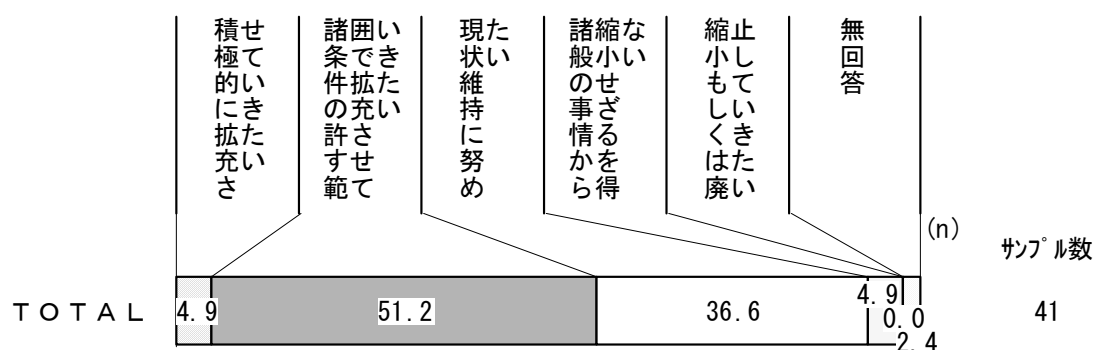
図表Ⅳ—23 小中学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕



図表Ⅳ—24 高等学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針

〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—25 小中学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞

（％）

	n	積極的 に拡 充 す い	範囲 で充 た す い	現状 維持 に	縮 小 の 事 情 を 得 ら な い	縮 小 し て も い く た は 廃	無 回 答
全 体	1,055	4.5	41.3	41.2	9.6	0.8	2.7
北海道	126	4.0	36.5	50.8	4.0	0.0	4.8
青森県	26	3.8	23.1	42.3	19.2	3.8	7.7
岩手県	26	0.0	46.2	42.3	11.5	0.0	0.0
宮城県	27	3.7	37.0	40.7	14.8	0.0	3.7
秋田県	14	7.1	28.6	50.0	7.1	0.0	7.1
山形県	25	4.0	28.0	64.0	4.0	0.0	0.0
福島県	35	2.9	54.3	34.3	2.9	0.0	5.7
茨城県	32	0.0	34.4	31.3	25.0	3.1	6.3
栃木県	21	14.3	33.3	28.6	23.8	0.0	0.0
群馬県	17	0.0	35.3	58.8	5.9	0.0	0.0
埼玉県	33	0.0	51.5	36.4	6.1	3.0	3.0
千葉県	37	5.4	48.6	35.1	8.1	0.0	2.7
東京都	36	2.8	33.3	52.8	5.6	0.0	5.6
神奈川県	22	9.1	22.7	54.5	9.1	0.0	4.5
新潟県	22	9.1	13.6	63.6	13.6	0.0	0.0
富山県	12	8.3	33.3	50.0	0.0	8.3	0.0
石川県	10	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
福井県	8	12.5	12.5	62.5	12.5	0.0	0.0
山梨県	18	0.0	61.1	38.9	0.0	0.0	0.0
長野県	46	2.2	39.1	54.3	2.2	2.2	0.0
岐阜県	17	11.8	41.2	41.2	0.0	5.9	0.0
静岡県	22	4.5	40.9	40.9	9.1	4.5	0.0
愛知県	36	0.0	36.1	52.8	8.3	0.0	2.8
三重県	16	6.3	68.8	18.8	0.0	0.0	6.3
滋賀県	15	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
京都府	19	5.3	47.4	42.1	5.3	0.0	0.0
大阪府	21	4.8	47.6	33.3	9.5	0.0	4.8
兵庫県	24	0.0	20.8	62.5	12.5	0.0	4.2
奈良県	17	5.9	47.1	23.5	23.5	0.0	0.0
和歌山県	14	0.0	71.4	21.4	7.1	0.0	0.0
鳥取県	7	0.0	57.1	28.6	0.0	0.0	14.3
島根県	11	0.0	45.5	27.3	27.3	0.0	0.0
岡山県	16	0.0	68.8	25.0	6.3	0.0	0.0
広島県	7	14.3	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0
山口県	14	7.1	50.0	28.6	14.3	0.0	0.0
徳島県	10	10.0	50.0	20.0	20.0	0.0	0.0
香川県	11	9.1	54.5	27.3	9.1	0.0	0.0
愛媛県	12	0.0	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0
高知県	13	15.4	69.2	7.7	7.7	0.0	0.0
福岡県	33	0.0	57.6	27.3	9.1	0.0	6.1
佐賀県	12	0.0	8.3	16.7	58.3	8.3	8.3
長崎県	17	11.8	58.8	23.5	5.9	0.0	0.0
熊本県	22	4.5	50.0	40.9	4.5	0.0	0.0
大分県	10	20.0	50.0	20.0	0.0	0.0	10.0
宮崎県	16	0.0	37.5	56.3	6.3	0.0	0.0
鹿児島県	33	9.1	45.5	33.3	12.1	0.0	0.0
沖縄県	16	18.8	37.5	18.8	25.0	0.0	0.0
無回答	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

7. 指導者（芸術）を招聘する際の予算措置

【市区町村教育委員会調査：問6、問7＜教育委員会ベース＞】

【都道府県教育委員会調査：問5＜教育委員会ベース＞】

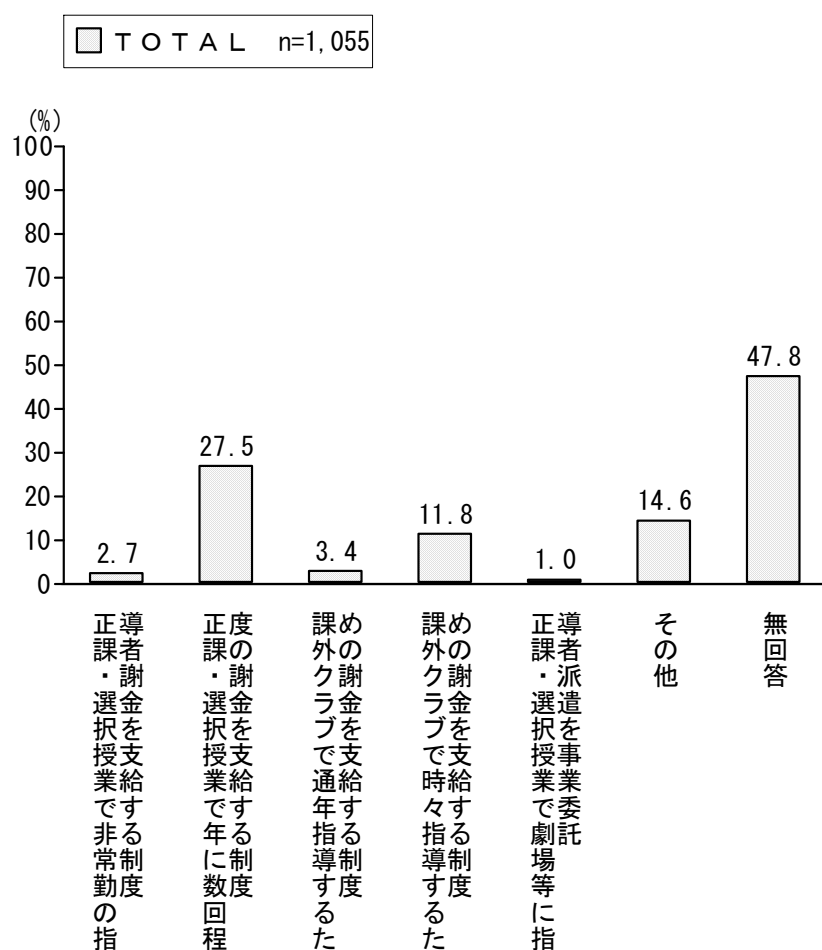
小学校・中学校・高等学校が芸術文化の分野で、専門家などの外部指導者を招聘する際に、貴教育委員会では、なんらかの予算措置をとっていますか。芸術分野に特化していなくても適用できる制度があれば○印をつけてください。（複数回答）

指導者（芸術）を招聘する際の予算措置では、小学校（市区町村教育委員会）で「正課・選択授業で年に数回程度の謝金を支給する制度」の割合が27.5%と最も高く、「課外クラブで時々指導するための謝金を支給する制度」（11.8%）と続いており、中学校（市区町村教育委員会）で「正課・選択授業で年に数回程度の謝金を支給する制度」の割合が25.9%と最も高く、「課程外の部活で時々指導するための謝金を支給する制度」（14.1%）と続いている。

また、高等学校（都道府県教育委員会）で「正課・選択授業で年に数回程度の謝金を支給する制度」「課程外の部活で通年指導するための謝金を支給する制度」「課程外の部活で時々指導するための謝金を支給する制度」がいずれも24.4%となっている。

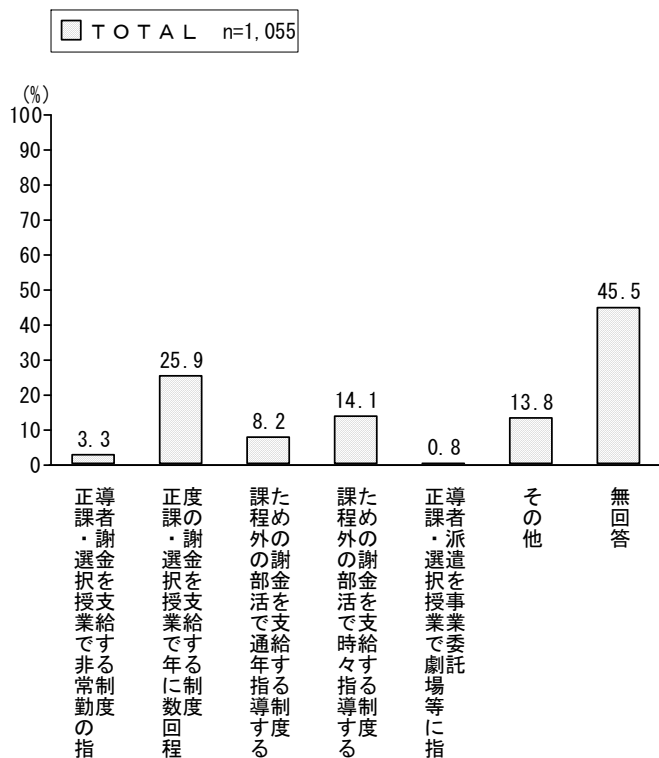
図表Ⅳ—26 小学校が指導者（芸術）を招聘する際の予算措置（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：小学校〕



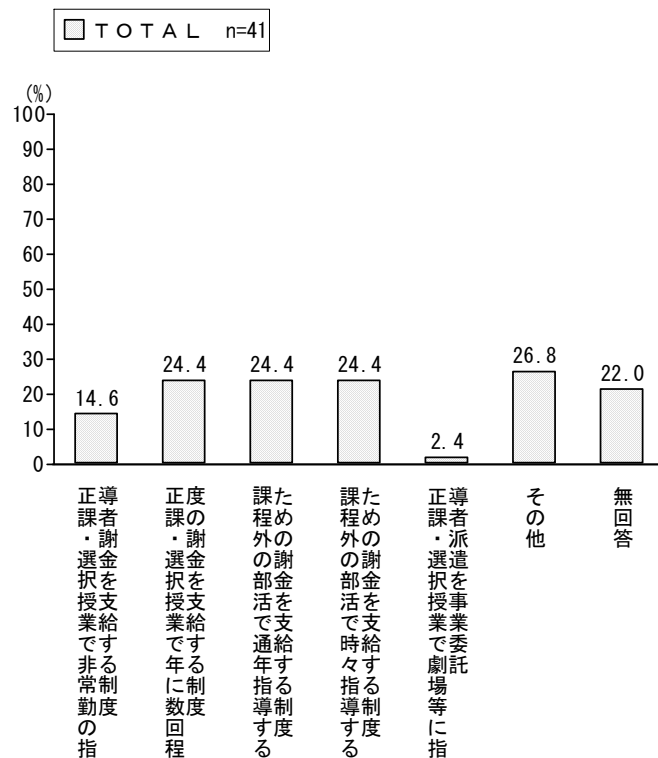
図表Ⅳ—27 中学校が指導者（芸術）を招聘する際の予算措置（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：中学校〕



図表Ⅳ—28 指導者（芸術）を招聘する際の予算措置（複数回答）

〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—29 小学校が指導者（芸術）を招聘する際の予算措置（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：小学校〕＜都道府県別＞

（％）

	n	金 非 正 を 常 課 支 勤 ・ 選 給 の 指 招 す 導 授 制 者 業 度 謝 で	金 年 正 を に 課 給 回 選 す 程 招 る 度 授 制 の 業 度 謝 で	金 指 課 を 導 外 給 ず ク す ラ る た ブ る め で 制 の 通 度 謝 年	金 指 課 を 導 外 給 ず ク す ラ る た ブ る め で 制 の 時 度 謝 ヲ	遣 劇 正 を 場 課 事 等 ・ 選 業 に 指 招 委 託 導 授 者 業 派 で	そ 他	無 回 答
全 体	1,055	2.7	27.5	3.4	11.8	1.0	14.6	47.8
北海道	126	0.8	16.7	0.0	6.3	0.0	16.7	64.3
青森県	26	0.0	19.2	0.0	19.2	0.0	3.8	61.5
岩手県	26	3.8	7.7	0.0	3.8	0.0	11.5	73.1
宮城県	27	0.0	29.6	0.0	11.1	0.0	18.5	40.7
秋田県	14	0.0	35.7	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9
山形県	25	0.0	36.0	8.0	20.0	0.0	12.0	48.0
福島県	35	5.7	31.4	2.9	11.4	0.0	20.0	37.1
茨城県	32	6.3	28.1	0.0	21.9	0.0	9.4	43.8
栃木県	21	4.8	14.3	4.8	4.8	9.5	14.3	57.1
群馬県	17	11.8	11.8	0.0	23.5	0.0	17.6	47.1
埼玉県	33	3.0	21.2	3.0	12.1	3.0	6.1	63.6
千葉県	37	5.4	43.2	5.4	5.4	2.7	10.8	43.2
東京都	36	2.8	38.9	8.3	22.2	0.0	16.7	33.3
神奈川県	22	0.0	40.9	4.5	13.6	9.1	13.6	31.8
新潟県	22	0.0	31.8	4.5	4.5	4.5	4.5	50.0
富山県	12	0.0	25.0	0.0	16.7	0.0	0.0	58.3
石川県	10	0.0	50.0	0.0	10.0	0.0	0.0	50.0
福井県	8	0.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
山梨県	18	5.6	44.4	5.6	38.9	0.0	5.6	22.2
長野県	46	0.0	39.1	6.5	6.5	0.0	19.6	34.8
岐阜県	17	11.8	35.3	17.6	11.8	0.0	0.0	47.1
静岡県	22	4.5	22.7	4.5	13.6	0.0	9.1	50.0
愛知県	36	2.8	38.9	8.3	16.7	0.0	11.1	41.7
三重県	16	0.0	25.0	0.0	6.3	0.0	25.0	43.8
滋賀県	15	0.0	33.3	0.0	13.3	6.7	20.0	33.3
京都府	19	5.3	31.6	5.3	0.0	0.0	10.5	47.4
大阪府	21	0.0	42.9	4.8	23.8	0.0	23.8	33.3
兵庫県	24	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	58.3
奈良県	17	0.0	47.1	0.0	5.9	0.0	17.6	35.3
和歌山県	14	7.1	21.4	7.1	28.6	0.0	14.3	35.7
鳥取県	7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1
島根県	11	9.1	18.2	18.2	18.2	0.0	27.3	18.2
岡山県	16	0.0	18.8	0.0	18.8	0.0	12.5	56.3
広島県	7	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6
山口県	14	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	28.6	50.0
徳島県	10	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	70.0
香川県	11	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	36.4	45.5
愛媛県	12	0.0	33.3	0.0	8.3	0.0	8.3	58.3
高知県	13	7.7	30.8	0.0	15.4	0.0	15.4	38.5
福岡県	33	6.1	45.5	9.1	18.2	0.0	0.0	39.4
佐賀県	12	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3	66.7
長崎県	17	5.9	35.3	11.8	5.9	0.0	11.8	41.2
熊本県	22	4.5	13.6	9.1	13.6	0.0	18.2	50.0
大分県	10	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0	40.0	30.0
宮崎県	16	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	37.5	43.8
鹿児島県	33	3.0	15.2	0.0	6.1	6.1	18.2	54.5
沖縄県	16	0.0	12.5	0.0	6.3	0.0	31.3	50.0
無回答	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

図表Ⅳ—30 中学校が指導者（芸術）を招聘する際の予算措置（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：中学校〕＜都道府県別＞

（％）

	n	金非正 を常課 支給の選 給の指授 する導業 制者業 度謝で	金年正 をに課 支給回数 給の選授 給の程授 する度業 制の業 度謝で	度謝年課 金指程 を導外 支給す 給の部 する活 るめ 制の通	制の時課 度謝々程 金指外 を導の 支給す 給の部 する活 るめ	遣劇正 を場課 事等に 業に選 委託指 導授 者業 派で	そ 他	無 回 答
全 体	1,055	3.3	25.9	8.2	14.1	0.8	13.8	45.5
北海道	126	0.8	16.7	0.0	6.3	0.0	16.7	64.3
青森県	26	0.0	15.4	0.0	19.2	0.0	3.8	65.4
岩手県	26	3.8	7.7	0.0	3.8	0.0	11.5	73.1
宮城県	27	0.0	22.2	0.0	7.4	0.0	25.9	44.4
秋田県	14	0.0	35.7	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9
山形県	25	4.0	36.0	8.0	16.0	0.0	12.0	48.0
福島県	35	2.9	28.6	2.9	8.6	0.0	20.0	45.7
茨城県	32	6.3	28.1	0.0	25.0	0.0	9.4	43.8
栃木県	21	9.5	9.5	14.3	4.8	4.8	14.3	52.4
群馬県	17	5.9	5.9	5.9	35.3	0.0	17.6	47.1
埼玉県	33	3.0	21.2	9.1	27.3	3.0	3.0	48.5
千葉県	37	10.8	43.2	10.8	10.8	2.7	8.1	40.5
東京都	36	2.8	33.3	52.8	27.8	0.0	8.3	11.1
神奈川県	22	0.0	36.4	22.7	18.2	4.5	13.6	27.3
新潟県	22	0.0	31.8	9.1	4.5	4.5	4.5	50.0
富山県	12	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	50.0
石川県	10	0.0	50.0	10.0	10.0	0.0	0.0	50.0
福井県	8	0.0	50.0	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0
山梨県	18	11.1	44.4	5.6	38.9	0.0	5.6	22.2
長野県	46	2.2	37.0	4.3	8.7	0.0	17.4	37.0
岐阜県	17	23.5	29.4	23.5	11.8	0.0	0.0	41.2
静岡県	22	4.5	22.7	9.1	22.7	0.0	4.5	45.5
愛知県	36	2.8	38.9	22.2	16.7	0.0	11.1	30.6
三重県	16	0.0	25.0	0.0	18.8	0.0	25.0	31.3
滋賀県	15	0.0	33.3	0.0	13.3	6.7	20.0	33.3
京都府	19	21.1	21.1	10.5	5.3	0.0	10.5	42.1
大阪府	21	0.0	42.9	19.0	23.8	0.0	23.8	28.6
兵庫県	24	0.0	16.7	8.3	20.8	0.0	16.7	45.8
奈良県	17	0.0	47.1	17.6	5.9	0.0	17.6	29.4
和歌山県	14	7.1	14.3	7.1	28.6	0.0	14.3	35.7
鳥取県	7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1
島根県	11	9.1	18.2	9.1	27.3	0.0	18.2	27.3
岡山県	16	0.0	18.8	0.0	25.0	0.0	12.5	50.0
広島県	7	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3	28.6
山口県	14	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	28.6	50.0
徳島県	10	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	60.0
香川県	11	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	27.3	45.5
愛媛県	12	0.0	25.0	0.0	16.7	0.0	8.3	58.3
高知県	13	7.7	30.8	0.0	15.4	0.0	15.4	38.5
福岡県	33	9.1	48.5	18.2	18.2	0.0	0.0	36.4
佐賀県	12	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	75.0
長崎県	17	0.0	29.4	11.8	11.8	0.0	11.8	41.2
熊本県	22	0.0	13.6	9.1	13.6	0.0	18.2	50.0
大分県	10	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0
宮崎県	16	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	37.5	43.8
鹿児島県	33	0.0	12.1	0.0	6.1	3.0	18.2	60.6
沖縄県	16	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	50.0
無回答	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

8. 指導者（芸術）の導入・活用に対する予算措置以外のサポート

【市区町村教育委員会調査：問8＜教育委員会ベース＞】

【都道府県教育委員会調査：問6＜教育委員会ベース＞】

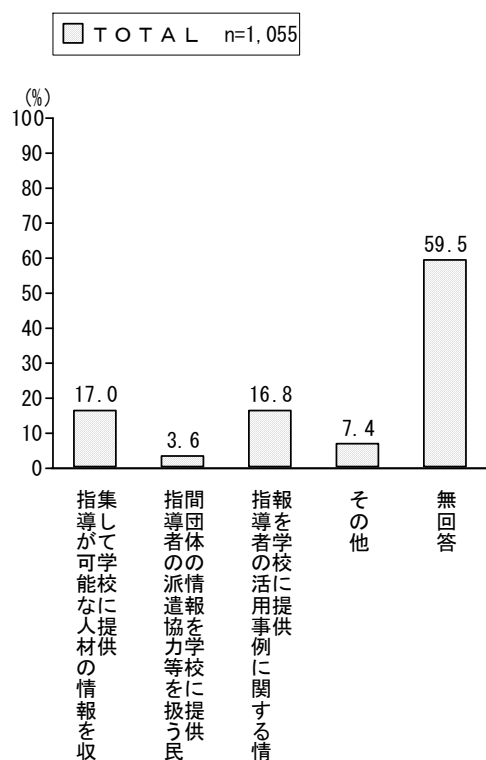
貴教育委員会では、芸術文化の外部指導者の導入・活用に対して、予算措置以外のサポートがありますか。（複数回答）

指導者（芸術）の導入・活用に対する予算措置以外のサポートでは、小学校、中学校（市区町村教育委員会）で「指導が可能な人材の情報を収集して学校に提供」の割合が17.0%と最も高く、「指導者の活用事例に関する情報を学校に提供」（16.8%）と続いている。

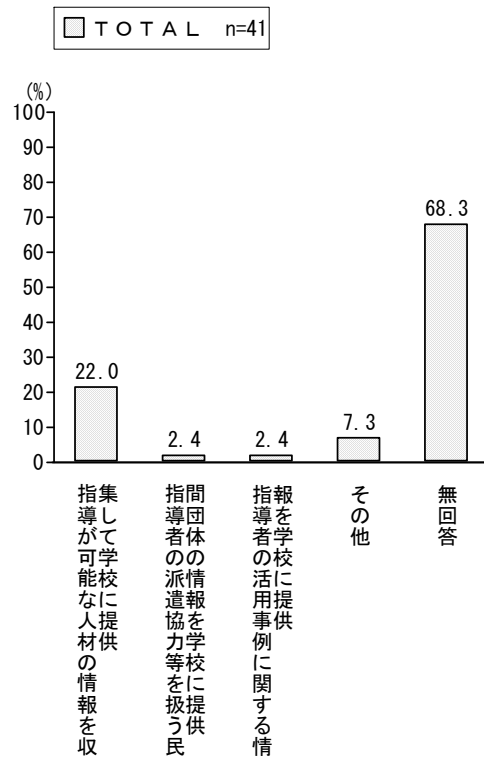
また、高等学校（都道府県教育委員会）で「指導が可能な人材の情報を収集して学校に提供」が22.0%と最も高くなっている。

図表Ⅳ—31 指導者（芸術）の導入に対する予算措置以外のサポート（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕



図表Ⅳ—32 指導者（芸術）の導入に対する予算措置以外のサポート（複数回答）
〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕



図表Ⅳ—33 指導者（芸術）の導入に対する予算措置以外のサポート（複数回答）

〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞

（％）

	n	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供
		指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供	指導者の派遣協力 を例に活用する情報提供
全 体	1,055	17.0	3.6	16.8	7.4	59.5
北海道	126	14.3	1.6	15.1	6.3	65.1
青森県	26	19.2	3.8	15.4	3.8	61.5
岩手県	26	23.1	3.8	19.2	7.7	46.2
宮城県	27	18.5	11.1	22.2	14.8	48.1
秋田県	14	28.6	7.1	35.7	0.0	42.9
山形県	25	4.0	12.0	16.0	4.0	64.0
福島県	35	14.3	2.9	25.7	0.0	65.7
茨城県	32	21.9	3.1	15.6	9.4	53.1
栃木県	21	14.3	0.0	4.8	0.0	81.0
群馬県	17	29.4	11.8	5.9	0.0	64.7
埼玉県	33	18.2	3.0	15.2	6.1	57.6
千葉県	37	32.4	5.4	10.8	10.8	48.6
東京都	36	16.7	0.0	8.3	16.7	58.3
神奈川県	22	13.6	4.5	18.2	4.5	59.1
新潟県	22	9.1	0.0	13.6	0.0	77.3
富山県	12	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3
石川県	10	0.0	10.0	10.0	10.0	70.0
福井県	8	0.0	0.0	0.0	12.5	87.5
山梨県	18	0.0	5.6	22.2	11.1	61.1
長野県	46	15.2	0.0	17.4	8.7	58.7
岐阜県	17	11.8	5.9	11.8	0.0	70.6
静岡県	22	18.2	0.0	18.2	4.5	63.6
愛知県	36	25.0	2.8	8.3	16.7	52.8
三重県	16	12.5	0.0	6.3	6.3	75.0
滋賀県	15	20.0	0.0	40.0	0.0	46.7
京都府	19	15.8	0.0	26.3	0.0	57.9
大阪府	21	47.6	14.3	28.6	4.8	38.1
兵庫県	24	37.5	4.2	20.8	4.2	41.7
奈良県	17	17.6	0.0	35.3	11.8	41.2
和歌山県	14	14.3	7.1	21.4	14.3	42.9
鳥取県	7	14.3	14.3	14.3	28.6	42.9
島根県	11	9.1	9.1	9.1	9.1	63.6
岡山県	16	12.5	6.3	31.3	0.0	56.3
広島県	7	14.3	0.0	42.9	0.0	57.1
山口県	14	14.3	14.3	21.4	0.0	57.1
徳島県	10	0.0	30.0	20.0	20.0	50.0
香川県	11	9.1	0.0	18.2	9.1	63.6
愛媛県	12	25.0	0.0	33.3	0.0	50.0
高知県	13	7.7	0.0	23.1	7.7	61.5
福岡県	33	15.2	3.0	6.1	9.1	69.7
佐賀県	12	8.3	0.0	16.7	8.3	66.7
長崎県	17	17.6	0.0	0.0	0.0	82.4
熊本県	22	18.2	0.0	18.2	0.0	63.6
大分県	10	30.0	10.0	10.0	10.0	50.0
宮崎県	16	12.5	0.0	6.3	18.8	62.5
鹿児島県	33	9.1	0.0	12.1	21.2	60.6
沖縄県	16	25.0	0.0	25.0	12.5	50.0
無回答	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

V. 調査票及び単純集計結果

1. 学校調査票及び単純集計結果

学校における鑑賞教室等実態調査

本調査は全国の全小中高等学校を対象とし、子どもたちの学校における文化芸術活動の充実を図るための参考資料とするための実態調査です。ご返信いただいた内容は統計的に処理され、あなた様のお名前や学校名が公になることは決してございませんので、ご安心ください。質問には下記の要領にしたがってお答えください。

ご記入にあたってのお願い

- ・このアンケートは、**舞台芸術の鑑賞教室を担当されている先生**にご記入をお願いしておりますが、舞台芸術の鑑賞教室（以下、鑑賞教室とする）を実施されていない場合も鑑賞教室のあり方、文化芸術関連教育、文化部活動についての設問がありますので、可能な範囲でご記入をお願いいたします。
- ・ご回答はあてはまる番号に○印をつけていただくか、文字または数字をご記入いただく形式です。質問文の末尾に（○は1つだけ）とあれば1つだけ、（○はいくつでも）とあればいくつでも、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- ・「その他（ ）」に該当する場合は、（ ）内に、できるだけ具体的にご記入ください。
- ・質問の番号順にお答えください。質問によっては一部の方にのみお尋ねするものがあります。その場合は、→印に従って進んでください。
- ・ご記入いただいたアンケートは、返信用封筒（切手不要）にて**1月31日（木）まで**にご投函いただきますよう、お願いいたします。
- ・ご不明な点やご質問等がございましたら、別紙の問い合わせ先までご連絡ください。

【調査内容】

1. 鑑賞教室の実施に関して（p.2）
2. 鑑賞教室のあり方について（p.5）
3. 文化芸術関連の外部指導員の導入について（p.6）
4. 文化部活動について（p.8）

【貴校の概要について教えてください。】

N=20,237

フリガナ					
学校名					
所在地		〒 都・道 府・県			
学校の概要	区分および 児童・生徒数	1. 小学校 56.0% …児童数（平均 296 人） 2. 中学校 28.3 …生徒数（平均 316 人） 3. 高等学校（全日制） 11.7 …生徒数（平均 638 人） 4. 高等学校（定時制） 1.4 …生徒数（平均 250 人） 5. 中等教育学校 0.1 …生徒数（平均 487 人） 6. 特別支援学校 3.2 …生徒数（平均 105 人） 無回答 0.2			
	※該当する区分 に○印をつけて、その右の欄 に人数を記入し てください。	※一貫校の場合は初等、中等、高等それぞれの教育課程に対して調査票をお送りしていますので、 「1」「2」「3」いずれか1つに○印をつけてください。 ※高等学校で全日制と定時制を併設している場合は、「3」と「4」とに○印をつけてください。			
	設置者	1. 国立 0.5% 2. 公立 94.5 3. 私立 4.2 無回答 0.8			

【1. 鑑賞教室の実施に関してお聞きします。】

問1 貴校では今年度（平成19年度）、舞台芸術の鑑賞教室を実施しましたか。または実施する予定ですか。

N=20,237

1. 実施した（実施する予定） 68.9%	2. 実施しない 30.9	無回答 0.2
-----------------------	---------------	---------

付問1-1、2へ

付問1-1

貴校では、鑑賞教室の機会を、どのような頻度でお持ちですか。（○は1つだけ）

N=13,943

1. 1年に数回	11.5%
2. 毎年1回	69.6
3. 2年に1回	3.5
4. 3年に1回	1.7
5. 4年に1回以下	0.2
6. 不定期	10.5
無回答	3.0

付問1-2

貴校では、鑑賞教室を、舞台芸術の多様な分野を考慮し、計画的なローテーションで実施していますか。

（例：年に1回の鑑賞教室で演劇、音楽、舞踊を3年で一回りするようにしている、など）

N=13,943

1. 実施している	52.0%
2. 実施していない	44.0
無回答	4.0

→ 問2へ

付問1-3、4へ

付問1-3

貴校における鑑賞教室の状況は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つだけ）

N=6,259

1. 以前から実施しているが、今年度は計画で実施しない年に当たる	20.6%
2. 以前は実施していたが、鑑賞教室は取り止めた	23.5
3. もともと実施していない	53.7
無回答	2.2

付問1-4

鑑賞教室を実施しない理由は何ですか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。（○はいくつでも）

N=6,259

1. 実施したいが予算がない	58.0%
2. 実施したいが準備する担当者がいない	5.8
3. 授業時間との兼ね合いで難しい	50.4
4. 教育上必要ない	1.0
5. その他（具体的に）	18.9
無回答	3.2

→ 問9へ (p. 5)

問2 平成19年度に実施または実施予定の鑑賞教室についてお答えください。

3つ以上の鑑賞教室を実施（または実施予定）の場合は、お手数ですがこのページをコピーしてご回答ください。

※ 全日制・定時制併設の高等学校で、それぞれ異なる鑑賞教室を実施した場合は、別々の欄に記入してください。

N=17,261

		鑑賞教室（1つ目）			
(1) 実施日 ・実施予定日		平成（ ）年（ ）月（ ）日			
(2) 作品名・ 主要演奏曲名		()			
(2-1)作品の種類 (〇はいくつでも)		1. 現代演劇 24.8%	10. 伝統音楽（日本） 7.0		
		2. 人形劇・影絵 6.6	11. 民族／民俗音楽 4.6		
		3. ミュージカル 10.2	12. 歌舞伎・文楽 1.3		
		4. バレエ・ダンス 0.8	13. 能・狂言 2.5		
		5. オーケストラ 7.8	14. 日本舞踊 0.3		
		6. オペラ・オペレッタ 3.6	15. 落語・演芸 3.0		
		7. 合唱 4.1	16. 民俗芸能 1.8		
		8. 室内楽 12.7	17. その他（ ） 8.9		
		9. ポピュラー音楽 6.2	無回答 2.9		
(3) 鑑賞対象学年 (〇はいくつでも)		1. 小学1年 54.8%	7. 中学1年 22.5		
		2. 小学2年 55.0	8. 中学2年 22.2		
		3. 小学3年 56.4	9. 中学3年 21.5		
		4. 小学4年 58.1	10. 高校1年（全日制） 12.4		
		5. 小学5年 59.4	11. 高校2年（全日制） 12.3		
		6. 小学6年 60.3	12. 高校3年以上（全日制） 12.1		
			13. 高校1年（定時制） 0.5		
			14. 高校2年（定時制） 0.5		
			15. 高校3年以上（定時制） 0.5		
			無回答 1.3		
		※一貫校で、学校区分を超えて開催した場合は、該当する区分についてのみ対象学年に〇印 (例: 貴校が中学校の場合、中学・高校の合同開催でも、中学についてのみ対象学年を回答)			
(4) 鑑賞者数 ※児童・生徒に限る		(平均 306)人			
(5) 実施場所 (〇は1つだけ)		1. 自校 62.6%			
		2. 他校 5.3			
		3. 公立文化施設 27.6			
		4. 民間の文化施設 2.9			
		5. その他(具体的に) 0.9			
		無回答 0.6			
(6) 開催運営の方法 (〇はいくつでも)		1. 自校単独 53.1%			
		2. 他校と共同 17.6			
		3. 公立文化施設と共同 4.3			
		4. 教育委員会と共同 20.1			
		5. 地域の文化団体と共同 3.0			
		6. 文化庁と共同 4.7			
		7. 民間企業・財団等と共同 2.5			
		8. その他(具体的に) 4.1			
		無回答 1.3			
(7) 家族や地域の 人々の参加		1. あり 54.3%	2. なし 44.3	無回答 1.4	

以下、問 3 から問 8 までは、平成 19 年度において一番最近に実施した鑑賞教室についてお答えください。
また、これから実施する予定の場合は、実施予定の鑑賞教室についてお答えください。

問 3 その鑑賞教室は学校教育の中で、どのように位置づけて実施しましたか。(○は 1 つだけ)

N=13,943

1. 学芸的行事として	72.0%	4. 総合的な学習の時間の中で	6.4	
2. 健康安全・体育行事として	0.1	5. 課外授業として	1.6	
3. 教科の授業として	15.2	6. その他 (具体的に)	3.3	無回答 1.3

付問 3-1 それはどのような教科ですか。(○は 1 つだけ)

N=2,123

1. 国語	22.5%	3. 体育	0.0	5. 図工・美術	0.2	7. その他 ()	2.1
2. 音楽	72.4	4. 社会	0.3	6. 生活科	0.4	無回答	2.1

問 4 鑑賞教室の内容は、どのようにして決めましたか。(○は 1 つだけ)

N=13,943

1. 自校で独自に決める	64.8%	3. 教育委員会で決められる	14.6	
2. 地区の教育研究会等で決められる	6.4	4. その他 (具体的に)	13.3	無回答 1.0

問 5 作品や劇団・楽団等の公演団体 (以下、公演団体等) を選定する際に、どのような情報を参考にしましたか。(○はいくつでも)

N=13,943

1. ダイレクトメール	39.1%	4. インターネット	11.3	7. 実際に見聞きた	15.3
2. 公演団体等の人の話	28.0	5. 他校や研究会等で聞いた評判	25.1	8. 例年決まっている	10.4
3. 専門雑誌、研究雑誌	2.4	6. 知人の紹介	11.4	9. その他 (具体的に)	19.6
				無回答	5.6

問 6 鑑賞教室を実施するにあたり、何らかの団体から協力を得ましたか。(○はいくつでも)

N=13,943

1. 市町村の教育委員会	30.9%	5. 地域外の公益法人、NPO など	1.4
2. 都道府県の教育委員会	7.7	6. その他 (具体的に)	10.2
3. 地域の公立文化施設	8.2	7. 団体からの協力は得なかった	42.6
4. 地域の文化団体	4.6	無回答	5.8

問 7 鑑賞教室では、公立文化施設がどのように関与していましたか。(○はいくつでも)

N=13,943

1. 鑑賞教室の企画・立案に協力してもらった	5.2%	6. 施設を利用した	19.3
2. 公立文化施設の企画提案に乗った	6.1	7. 以前は協力があったが、関わりがなくなった	1.2
3. 作品や公演団体等決定の際に助言を求めた	1.5	8. 以前から特に関わりを持たなかった	48.7
4. 利用料を減免して施設を提供してもらった	8.6	9. その他 (具体的に)	5.3
5. 施設を優先的に利用させてもらった	3.8	無回答	13.7

問 8 その鑑賞教室で貴校は、公演団体等 (または文化施設等) に直接公演料を支払いましたか。

N=13,943

1. 支払った	65.9%	2. 支払わなかった	32.9	無回答	1.2
---------	-------	------------	------	-----	-----

付問 8-1

その鑑賞教室では、児童・生徒の負担や学外の支援・分担がありましたか。

(○はいくつでも)

N=9,195

1. 児童・生徒の負担があった	78.4%
(児童・生徒 1 人当たりの負担額 平均 943 円)	
2. 教育委員会の支援があった	19.0
3. その他民間の財団などの支援制度を利用した	1.3
4. P T A や同窓会の支援があった	25.5
5. 他校と費用を分担した	4.9
6. 共催となっていた民間団体と費用を分担した	0.7
7. その他 (具体的に)	6.2
無回答	1.8

付問 8-2

その理由は何ですか。(○はいくつでも)

N=4,583

1. 文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」だったから	26.0%
2. 教育委員会が費用を負担し、学校負担を求められなかったから	44.3
3. 公立文化施設が主催で学校負担を求められなかったから	8.2
4. 民間の団体が主催で招待だったから	4.9
5. P T A、同窓会など学校に関連する団体が主催で児童・生徒負担がなかったから	3.6
6. ボランティア、アマチュアグループが無償や交通費程度の謝金で公演してくれたから	9.2
7. その他、支援制度などを利用したから	6.9
無回答	3.1

～ここからは、全員の方がお答えください。～

【2. 鑑賞教室のあり方についてお聞きします。】

問 9 学校教育において、鑑賞教室をどのように活かせると思いますか。(〇はいくつでも)

N=20,237

1. 鑑賞教室の内容を事前に学習して、舞台芸術に親しむきっかけを作る	73.7%
2. 上演・演奏される舞台芸術に児童・生徒が参加できるよう、事前に練習する	19.9
3. 学芸会や文化祭等に活かす	37.1
4. 鑑賞教室をきっかけに、公演団体等から指導を受ける機会を増やす	11.4
5. 地域との交流を行う機会として利用している	14.6
6. 作品について感想文を書く	48.7
7. ホームルーム等で意見交換をする	13.8
8. 通常の教科の一環として位置づけている	11.7
9. その他 (具体的に)	5.7
無回答	1.3

問 10 鑑賞教室を実施する際に困難を感じることはありますか。以下の意見について「そう思う」から「そう思わない」までのいずれかに〇印を付けてください。

(〇はそれぞれの意見について1つずつ)

N=20,237

	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. あまりそうは思わない	4. そう思わない	無回答
(1) 公演団体等の情報が不足している	11.5%	34.6	40.1	12.6	1.3
(2) 作品に関する情報が不足している	11.0	37.1	39.3	11.3	1.3
(3) 情報が多すぎて選ぶのが大変である	7.9	20.4	51.0	18.9	1.7
(4) 教員の間で情報交換する場が少ない	14.4	41.5	32.5	10.2	1.3
(5) 他の教員の理解を得るのが難しい	2.1	9.8	53.2	33.5	1.4
(6) 鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい	10.5	17.1	40.2	30.6	1.7
(7) 費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける	45.2	28.5	16.4	8.8	1.2
(8) 鑑賞教室を開催するには児童・生徒数が不十分	16.4	15.3	33.6	33.3	1.4
(9) 保護者の理解を得るのが難しい	0.6	3.5	44.8	49.7	1.4
(10) 鑑賞教室のための時間を割きにくい	12.4	23.9	38.2	24.3	1.2

問 11 鑑賞教室を実施することで、児童・生徒にどのような効果がありましたか。(〇はいくつでも)

N=13,943

1. 舞台芸術への関心を高めることができた	85.1%
2. 豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた	82.0
3. コミュニケーションの活性化に役立てることができた	15.1
4. 自己認識・他者理解を深めることができた	13.3
5. 教科学習への意欲を高めることができた	19.6
6. 文化部活動に役立てることができた	17.3
7. 学外の専門家の能力への関心を高めることができた	23.3
8. 日本の文化芸術に親しみ、理解を深めることができた	30.1
9. 他国の人々や文化への関心を高め、理解を深めることができた	12.5
10. CD や DVD 等では得られない反応があった	54.4
11. その他 (具体的に)	1.6
無回答	0.6

問 12 鑑賞教室の代替として、CD や DVD 等による鑑賞を行なった場合、同様の効果を期待できると思いますか。(〇は1つだけ) N=20,237

1. そう思う	0.4%	2. どちらかといえばそう思う	4.4	3. あまりそうは思わない	48.8	4. そう思わない	44.9
無回答							1.5

問 13 貴校では今後、鑑賞教室をどの程度実施していく方針ですか。(〇は1つだけ) N=20,237

1. 鑑賞教室の実施を増やしたい	7.1%	3. 鑑賞教室の実施を減らしたい	0.7
2. 従来と変わらない	62.2	4. 今後の方針は未定	28.9
無回答		1.1	

付問 13-1 【問 13 で「1. 鑑賞教室の実施を増やしたい」と回答した方にうかがいます。】そのように考える理由は何ですか。(〇はいくつでも) N=1,433

1. 豊かな人間性や社会性の育成がいつそう重要視されるようになってきているから	86.7%
2. 学校の創意工夫による特色ある教育活動の一環として活かせるから	40.8
3. 教科学習に対してよい影響をもたらすから	37.7
4. その他 (具体的に)	7.3
無回答	2.0

問 14 学校における鑑賞教室を増やしていくために、どのような支援があったらよいと思いますか。次のうち、特に必要と思われる支援策を3つまでお答えください。(〇は3つまで) N=20,237

1. 文化庁や教育委員会などからの助成支援	81.2%
2. 国や学校の方針などで教育の一環として位置づけられる	33.7
3. 他校との合同鑑賞の機会を公立文化施設、行政や民間団体などがコーディネートする	33.9
4. 週末などに地域も含めた鑑賞の機会を公立文化施設、行政や民間団体などがコーディネートする	22.6
5. 作品や劇団・楽団など、芸術鑑賞に必要な情報の提供を充実させる	27.7
6. その他 (具体的に)	2.4
無回答	3.3

問 15 貴校では、舞台芸術鑑賞以外に芸術文化の鑑賞機会を設けていますか。次のうち、実施しているものすべてに〇印をつけてください。(〇はいくつでも) N=20,237

1. 美術館・博物館などでの作品鑑賞	18.0%		
2. 映画館などでの映画鑑賞	4.4		
3. その他（具体的に	11.2	無回答	68.4

【3. 文化芸術関連の外部指導員の導入についてお聞きます。】

問 16 平成 19 年度に、貴校では教員以外に、専門の芸術家などの指導者を外部から招いていますか。あるいは、招く予定がありますか。(〇は1つだけ) N=20,237

1. 招いている・招く予定がある	30.4%	2. 招いていない・招く予定はない	67.9	無回答	1.7
------------------	-------	-------------------	------	-----	-----

付問 16-1 ~ 4 へ

問 18 へ

付問 16-1 【問 16 で「1. 招いている・招く予定がある」と回答した方にうかがいます。】どのような分野の指導者を招きますか。あるいは、招く予定ですか。(〇はいくつでも) N=6,159

1. 演劇	6.9%	3. 日本の伝統音楽	34.0	5. 舞踊・ダンス	8.6	7. その他	13.5
2. 伝統芸能	16.1	4. 音楽 (日本の伝統音楽以外)	42.3	6. 美術	13.6	無回答	1.0

付問 16-2 【問 16 で「1. 招いている・招く予定がある」と回答した方にうかがいます。】外部の指導者の招聘を、学校教育の中でどのように位置づけていますか。(〇はいくつでも) N=6,159

1. 総合的な学習の時間の授業として	33.2%	4. 部活動などの課外活動として	25.5
2. そのほかの正規科目の授業として	44.1	5. その他 (具体的に)	12.1
3. 選択科目の授業として	9.1	無回答	2.0

付問 16-3 【問 16 で「1. 招いている・招く予定がある」と回答した方にうかがいます。】どのような目的で、外部から指導者を招聘しますか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。(○はいくつでも) N=6,159

1. 講演をしてもらうため	14.0%
2. 実演指導をしてもらうため	73.6
3. 授業内容を充実させるパートナーとしての役割を担ってもらうため	27.3
4. 学芸会等での芸術活動についてアドバイスをしてもらうため	11.9
5. 体験ワークショップを実施してもらうため	15.9
6. 部活動などの指導をしてもらうため	23.0
7. その他 (具体的に)	4.0
無回答	1.0

付問 16-4 【問 16 で「1. 招いている・招く予定がある」と回答した方にうかがいます。】外部から指導者を招くとき、どのようにして情報を得ましたか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。(○はいくつでも) N=6,159

1. 児童・生徒の家族や身近な人の中に専門家がいた	24.5%
2. 卒業生の中に専門家がいた	6.9
3. 地域の団体や個人が紹介してくれた	42.3
4. 専門の団体や個人による宣伝・営業活動によって知った	11.2
5. 研究会を通じて専門家を知った	6.2
6. 教員が独自に個人的なネットワークによって探した	40.4
7. 文化庁から提供された協力者名簿により知った	3.6
8. その他 (具体的に)	10.3
無回答	1.7

問 17 外部から指導者を招くことはどのような効果がありましたか。次のうち、あてはまるものすべてに○印をつけてください。(○はいくつでも) N=6,159

1. 豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた	64.9%
2. コミュニケーションの活性化に役立てることができた	19.9
3. 教科学習への意欲を高めることができた	44.9
4. 文化部活動に役立てることができた	26.9
5. 芸術や芸術家への関心を高めることができた	50.5
6. 学校外の社会への関心を高めることができた	12.0
7. 日本の伝統文化に親しみ、理解を深めることができた	46.5
8. 他国の人々や文化への関心を高め、理解を深めることができた	5.1
9. CD や DVD 等では得られない反応があった	27.4
10. 教師が専門的な指導方法を体得できた	32.1
11. その他 (具体的に)	2.3
無回答	2.6

問 18 外部から指導者を招聘しようとする場合、どのようなことが困難だと感じられますか。次のうち、あてはまるもの3つまでに○印をつけてください。(○は3つまで) N=20,237

1. 適切な人を探すことが難しい	62.9%
2. 十分な謝礼を用意できない	76.6
3. 学校の内外での手続きが煩雑である	23.8
4. 指導計画等の打ち合わせに十分な時間を割くことができない	28.3
5. カリキュラムの中で、特別指導のためにまとまった時間を確保できない	27.2
6. 依頼した外部指導者・講師が、教員の狙い通りの指導してくれるかどうか心配である	18.5
7. 外部から指導者・講師を招聘することに対して抵抗感がある	0.6
8. その他 (具体的に)	1.1
無回答	4.2

問 19 貴校では今後、外部の指導者の招聘をどの程度活用していく方針ですか。(○は1つだけ) N=20,237

1. 外部の指導者・講師の招聘を増やしたい	16.6%	3. 外部の指導者・講師の招聘を減らしたい	0.1
2. 従来と変わらない	29.3	4. 今後の方針は未定	50.2
		無回答	3.8

次のページへお進みください。

【4. 文化部活動についてお聞きします。】

問 20 貴校にある文化部すべてをシートにご記入ください。

「①部の類型区分番号」は下記より選択し、同じ類型で複数の部活動がある場合は、別々にご記入ください。また、欄が足りない場合は、お手数ですが、このページをコピーしてご回答をお願いします。

No.	①部の類型 区分番号	②部の 位置づけ (どちらかに ○)	③所属児童・生徒の実数			④活動頻度	⑤学校外部の 指導者・講師 (どちらかに○)	⑥県大会以上の 大会参加実績 (どちらかに○)	⑦他校や地域の 芸術団体と一体と なった部活動 (どちらかに○)
			小4	小5	小6				
			中1	中2	中3				
			高1	高2	高3				
1		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
2		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
3		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
4		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
5		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
6		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
7		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
8		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
9		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
10		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
11		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
12		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
13		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
14		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
15		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
16		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
17		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
18		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
19		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無
20		必修／課外	人	人	人	回/週	有 / 無	有 / 無	有 / 無



1.演劇 2.人形劇 3.放送劇 4.映画研究 5.ミュージカル 6.ダンス・舞踊 7.器楽 8.ギター 9.吹奏楽 10.マーチング・バンド 11.オーケストラ 12.オペラ・オペレッタ 13.合唱 14.軽音楽 15.伝統音楽（日本） 16.民族／民俗音楽 17.歌舞伎・文楽・能・狂言	18.演芸（落語・講談・浪曲・奇術） 19.吟詠剣詩舞 20.郷土芸能・民俗芸能 21.その他のパフォーマンスアーツ（シートに記入） 22.美術・工芸 23.デザイン 24.手芸 25.書道 26.茶道 27.華道 28.写真 29.放送 30.囲碁 31.将棋	32.国語 33.弁論 34.新聞 35.文芸 36.郷土研究 37.小倉百人一首かるた 38.図書 39.漫画 40.英語 41.国際理解・国際教育・国際交流 42.ユネスコ 43.生活科学 44.理科 45.自然科学 46.社会・社会科学 47.計算技術 48.コンピュータ	49.無線 50.工業 51.農業 52.商業 53.水産 54.職業・技術 55.定通 56.鉄道研究 57.福祉研究 58.特別支援 59.奉仕・ボランティア 60.JRC 61.インターアクト 62.その他（シートに記入）
---	--	---	---

問 21 平成 18 年度から平成 19 年度にかけて、文化部の新設や廃止があれば、名称をご記入ください。 N=20,237

1. 新設された文化部（名称： ）	4.3%	2. 廃止された文化部（名称： ）	4.5	無回答	92.5
-------------------	------	-------------------	-----	-----	------

問 22 子どもたちが文化芸術を鑑賞したり体験したりする機会についてご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上で終わりです。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手不要）にてご投函ください。

2. 市区町村教育委員会調査票及び単純集計結果

学校における鑑賞教室等実態調査 ＜市区町村教育委員会＞

本調査は全国の市区町村教育委員会を対象とし、子どもたちの学校における文化芸術活動の充実を図るための参考資料とするための実態調査です。ご返信いただいた内容は統計的に処理され、貴委員会名が公になることは決してございませんので、ご安心ください。質問には下記の要領にしたがってお答えください。

ご記入にあたってのお願い

- ・ご回答はあてはまる番号に○印をつけていただく形式です。
- ・「その他（ ）」に該当する場合は、（ ）内に、できるだけ具体的にご記入ください。
- ・ご記入いただいたアンケートは、返信用封筒（切手不要）にて **2月15日（金）** までにご投函いただきますよう、お願いいたします。
- ・ご不明な点やご質問等がございましたら、別紙の問い合わせ先までご連絡ください。

【調査内容】

1. 小・中学校での鑑賞機会への支援について
2. 外部指導者について

（ ）都・道・府・県 （ ）市・区（ ）町・村

【1. 小・中学校での鑑賞機会への支援についてお聞きします。】

問1 貴市区町村では、小学校が舞台芸術の鑑賞機会を持つことに対して、財政的な支援となるような制度を有していますか。（○はいいくつでも）

N=1,055

1. 鑑賞教室にかかる費用は、学校運営費の費目として含まれているので、特別な財政支援とはなっていない	6.5%
→（その場合の1人当たりの算定上限は、平均 696 円）	
2. 小学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演に、児童1人当たりを算出基準として財政的支援を行っている	
→（その場合の1人当たりの算定上限は、平均 542 円）	5.3
3. 小学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演に、定額で財政的支援を行っている	9.2
4. 小学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演で、小規模校が不利にならないように、児童の負担と実際の費用との差額を負担している	0.6
5. 教育委員会が主催（共催）する舞台芸術公演に、特定の学年の児童が無料で参加できるようにしている	28.8
6. 教育委員会が主催（共催）する舞台芸術公演に、特定の学年の児童が少ない費用負担で参加できるようにしている	6.0
7. 小学校が舞台芸術を学校外で鑑賞する機会に、バスなどの移動のための費用を負担している	28.3
8. 地域の公立文化施設が行う鑑賞教室に支援している	3.2
9. 地域の芸術団体が行う鑑賞教室に支援している	2.5
10. その他（具体的に ）	13.6
11. 小学校の舞台芸術鑑賞に対して財政的支援は一切行っていない	28.3
無回答	0.8

付問１－１ 【問１で「５」または「６」を選択した教育委員会にお尋ねします。】今年度実施した主催（共催）の鑑賞教室の分野を教えてください。（〇はいくつでも） N=351

1. 現代演劇	23.9%	6. オペラ・オペレッタ	4.6	11. 民族／民俗音楽	6.8	16. 民族芸能	1.4
2. 人形劇・影絵	11.7	7. 合唱	4.0	12. 歌舞伎・文楽	0.9	17. 映画	4.8
3. ミュージカル	13.4	8. 室内楽	11.7	13. 能・狂言	4.6	18. その他	15.4
4. バレエ・ダンス	1.1	9. ポピュラー音楽	6.0	14. 日本舞踊	0.9	【具体的に】	
5. オーケストラ	21.4	10. 伝統音楽（日本）	7.7	15. 落語・演芸	3.1		無回答 1.4

付問１－２ 【問１で「５」または「６」を選択した教育委員会にお尋ねします。】主催（共催）する鑑賞機会の分野は、どのようにしていますか。（〇は１つだけ） N=351

1. 毎年、教育委員会が実施する舞台芸術の分野は対象学年ごとに同一である （例：毎年、オーケストラ鑑賞を５年、伝統芸能鑑賞を６年生対象に実施など）	21.4%
2. 分野は年によって違う（例：昨年は演劇、今年は日本舞踊など）	66.7
3. その他（具体的に）	9.1
無回答	2.8

問２ 貴市区町村では、中学校が舞台芸術の鑑賞機会を持つことに対して、財政的な支援となるような制度を有していますか。（〇はいくつでも） N=1,055

1. 鑑賞教室にかかる費用は、学校運営費の費目として含まれているので、特別な財政支援とはなっていない →（その場合の１人当たりの算定上限は、平均 707 円）	5.9%
2. 中学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演に、生徒１人当たりを算出基準として財政的支援を行っている →（その場合の１人当たりの算定上限は、平均 651 円）	4.4
3. 中学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演に、定額で財政的支援を行っている	9.1
4. 中学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演で、小規模校が不利にならないように、生徒の負担と実際の費用との差額を負担している	0.5
5. 教育委員会が主催（共催）する舞台芸術公演に、特定の学年の生徒が無料で参加できるようにしている	23.9
6. 教育委員会が主催（共催）する舞台芸術公演に、特定の学年の生徒が低い費用負担で参加できるようにしている	5.2
7. 中学校が舞台芸術を学校外で鑑賞する機会に、バスなどの移動のための費用を負担している	21.4
8. 地域の公立文化施設が行う鑑賞教室に支援している	2.7
9. 地域の芸術団体が行う鑑賞教室に支援している	2.1
10. その他（具体的に）	12.6
11. 中学校の舞台芸術鑑賞に対して財政的支援は一切行っていない	33.6
無回答	1.9

付問２－１ 【問２で「５」または「６」を選択した教育委員会にお尋ねします。】今年度実施した主催（共催）の鑑賞教室の分野を教えてください。（〇はいくつでも） N=296

1. 現代演劇	20.3%	6. オペラ・オペレッタ	4.4	11. 民族／民俗音楽	5.4	16. 民族芸能	0.7
2. 人形劇・影絵	2.0	7. 合唱	3.4	12. 歌舞伎・文楽	2.4	17. 映画	5.7
3. ミュージカル	6.4	8. 室内楽	13.2	13. 能・狂言	7.1	18. その他	12.2
4. バレエ・ダンス	2.4	9. ポピュラー音楽	6.1	14. 日本舞踊	1.4	【具体的に】	
5. オーケストラ	25.0	10. 伝統音楽（日本）	7.4	15. 落語・演芸	2.7		無回答 1.4

付問２－２ 【問２で「５」または「６」を選択した教育委員会にお尋ねします。】主催（共催）する鑑賞機会の分野はどのようにしていますか。（〇は１つだけ） N=296

1. 毎年、教育委員会が実施する舞台芸術の分野は対象学年ごとに同一である （例：毎年、オーケストラ鑑賞を２年、伝統芸能鑑賞を３年生対象に実施など）	21.3%
2. 分野は年によって違う（例：昨年は演劇、今年は日本舞踊など）	67.6
3. その他（具体的に）	8.4
無回答	2.7

問3 貴教育委員会では、小中学校の鑑賞機会の確保について、どのように対応されていますか。

(○は1つだけ)

N=1,055

1. 私立を含む全小中学校一律に鑑賞機会を確保するようにしている	1.2%
2. 市区町村立小中学校一律に鑑賞機会を確保するようにしている	34.5
3. 市区町村立小中学校のうち、希望のあるところに対して鑑賞機会を確保するようにしている	17.3
4. 市区町村の児童青少年のうち、一定の学年は一律に鑑賞機会を確保するようにしている	4.1
5. 市区町村立小中学校のうち、小規模校や地理的に不利な地域にある学校に格差が生じないように鑑賞機会を確保するようにしている	3.1
6. その他 (具体的に)	8.7
7. 学校における鑑賞機会の確保は特に行っていない	29.7
無回答	1.3

問4 貴教育委員会では、小中学校の鑑賞機会を確保するために、外部の支援制度を利用していますか。

(○はいくつでも)

N=1,055

1. 文化庁の支援制度	40.0%	4. その他 (具体的に)	15.7
2. 公益法人の支援制度	11.2	5. 特に利用していない	42.3
3. 民間企業の支援制度	2.9	無回答	2.8

問5 義務教育期間における舞台芸術の鑑賞機会の提供は重要だと考えられていますが、今後、貴教育委員会では、舞台芸術の鑑賞機会の提供について、どのようにお考えですか。(○は1つだけ) N=1,055

1. 積極的に拡充させていきたい	4.5%
2. 諸条件の許す範囲で拡充させていきたい	41.3
3. 現状維持に努めたい	41.2
4. 意義のあることだが、諸般の事情から縮小せざるを得ない	9.6
5. 縮小もしくは廃止していきたい	0.8
無回答	2.7

引き続き、次ページもご回答下さい。

【2. 外部指導者についてお聞きします。】

問6 小学校が芸術文化の専門家などの外部指導者を招聘する際に、貴教育委員会では、なんらかの予算措置をとっていますか。芸術分野に特化していなくても適用できる制度があれば○印をつけてください。

(○はいくつでも)

N=1,055

1. 正課および選択授業で外部指導者が通年、または半期で授業をできるように、非常勤の指導者謝金を支給できる制度がある	2.7%
2. 正課および選択授業で不定期に外部指導者を招聘できるように、年に数回程度分の謝金を支給できる制度がある	27.5
3. 課外クラブの活動に外部指導者が通年で指導できるように、謝金を支給できる制度がある	3.4
4. 課外クラブの活動に外部指導者が時々指導できるように、謝金を支給できる制度がある	11.8
5. 正課および選択授業に外部指導者を派遣できるような劇場、博物館、芸術団体等に事業委託を行っている	1.0
6. その他 (具体的に)	14.6
無回答	47.8

問7 中学校が芸術文化の専門家などの外部指導者を招聘する際に、貴教育委員会では、なんらかの予算措置をとっていますか。芸術分野に特化していなくても適用できる制度があれば○印をつけてください。

(○はいくつでも)

N=1,055

1. 正課および選択授業で外部指導者が通年、または半期で授業をできるように、非常勤の指導者謝金を支給できる制度がある	3.3%
2. 正課および選択授業で不定期に外部指導者を招聘できるように、年に数回程度分の謝金を支給できる制度がある	25.9
3. 課程外の部活動に外部指導者が通年で指導できるように、謝金を支給できる制度がある	8.2
4. 課程外の部活動に外部指導者が時々指導できるように、謝金を支給できる制度がある	14.1
5. 正課および選択授業に外部指導者を派遣できるような劇場、博物館、芸術団体等に事業委託を行っている	0.8
6. その他 (具体的に)	13.8
無回答	45.5

問8 貴教育委員会では、芸術文化の外部指導者の導入・活用に対して、予算措置以外のサポートがありますか。(○はいくつでも)

N=1,055

1. 外部指導者として指導が可能な人材の情報を収集して学校に提供しており、その中に芸術文化にかかわる人材が含まれている	17.0%
2. 外部指導者の派遣協力等をサポートしてくれる民間団体の情報を学校に提供しており、その中に芸術文化の部門がある	3.6
3. 外部指導者の活用の事例にかんする情報を学校に提供している	16.8
4. その他 (具体的に)	7.4
無回答	59.5

質問は以上で終わりです。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

返信用封筒(切手不要)にてご投函ください。

3. 都道府県教育委員会調査票及び単純集計結果

学校における鑑賞教室等実態調査 ＜都道府県教育委員会＞

本調査は全国の都道府県教育委員会を対象とし、子どもたちの学校における文化芸術活動の充実を図るための参考資料とするための実態調査です。ご返信いただいた内容は統計的に処理され、貴委員会名が公になることは決してございませんので、ご安心ください。質問には下記の要領にしたがってお答えください。

ご記入にあたってのお願い

- ・ご回答はあてはまる番号に○印をつけていただく形式です。
- ・「その他（ ）」に該当する場合は、（ ）内に、できるだけ具体的にご記入ください。
- ・ご記入いただいたアンケートは、返信用封筒（切手不要）にて **2月15日（金）** までにご投函いただきますよう、お願いいたします。
- ・ご不明な点やご質問等がございましたら、別紙の問い合わせ先までご連絡ください。

【調査内容】

1. 高等学校での鑑賞機会への支援について
2. 外部指導者について

（ ） 都・道・府・県

質問は次のページから始まります。

【1. 高等学校での鑑賞機会への支援についてお聞きます。】

問1 貴都道府県では、所管内の高等学校が舞台芸術の鑑賞機会を持つことに対して、財政的な支援となるような制度を有していますか。(〇はいくつでも) N=41

1. 高等学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演に、生徒1人当たりを算出基準として財政的支援を行っている	2.4%
2. 高等学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演に、定額で財政的支援を行っている	4.9
3. 高等学校が演目を選択して主催（共催）する舞台芸術公演で、一部の生徒の負担軽減のための財政的支援を行っている	4.9
4. 教育委員会が主催（共催）する舞台芸術公演に、各高等学校の生徒を無料で参加できるようにしている	2.4
5. 教育委員会が主催（共催）する舞台芸術公演に、各高等学校の生徒が少ない費用負担で参加できるようにしている	12.2
6. 高校生が舞台芸術を学校外で鑑賞する機会に、バスなどの移動のための費用を負担している	4.9
7. 地域の公立文化施設が行う鑑賞教室に支援している	0.0
8. 地域の芸術団体が行う鑑賞教室に支援している	0.0
9. 地域外の芸術団体が行う鑑賞教室に支援している	0.0
10. その他（具体的に）	17.1
11. 高校生の舞台芸術鑑賞に対して財政的支援は一切行っていない	58.5
無回答	0.0

付問1-1 【問1で「4」または「5」を選択した教育委員会にお尋ねします。】今年度実施した主催（共催）の鑑賞教室の分野を教えてください。(〇はいくつでも) N=6

1. 現代演劇	50.0%	6. オペラ・オペレッタ	0.0	11. 民族／民俗音楽	16.7	16. 民族芸能	0.0
2. 人形劇・影絵	0.0	7. 合唱	0.0	12. 歌舞伎・文楽	0.0	17. 映画	16.7
3. ミュージカル	0.0	8. 室内楽	16.7	13. 能・狂言	0.0	18. その他	0.0
4. バレエ・ダンス	0.0	9. ポピュラー音楽	0.0	14. 日本舞踊	0.0	（具体的に）	
5. オーケストラ	33.3	10. 伝統音楽（日本）	16.7	15. 落語・演芸	0.0	無回答	0.0

付問1-2 【問1で「4」または「5」を選択した教育委員会にお尋ねします。】主催（共催）する鑑賞機会の分野はどのようにしていますか。(〇は1つだけ) N=6

1. 毎年対象学年ごとに同一である （例：毎年、オーケストラ鑑賞を1年生、オペラ鑑賞を2年生対象に実施など）	0.0%
2. 分野や対象学年は年によって違う（例：昨年は演劇、今年は日本舞踊など）	0.0
3. その他（具体的に）	100.0
無回答	0.0

問2 貴教育委員会では、高等学校の鑑賞機会の確保について、どのように対応されていますか。(〇は1つだけ) N=41

1. 都道府県内の私立を含む全高等学校一律に鑑賞機会を確保するようにしている	4.9%
2. 都道府県内の高等学校のうち、都道府県立校一律に鑑賞機会を確保するようにしている	2.4
3. 都道府県内の高等学校のうち、希望のあるところに対して鑑賞機会を確保するようにしている	17.1
4. 都道府県内の高等学校のうち、小規模校や地理的に不利な地域にある学校に格差が生じないように鑑賞機会を確保するようにしている	2.4
5. その他（具体的に）	4.9
6. 高校における鑑賞機会の確保は特に行っていない	68.3
無回答	0.0

問3 貴教育委員会では、高等学校の鑑賞機会を確保するために、外部の支援制度を利用していますか。

(○はいくつでも)

N=41

1. 文化庁の支援制度	53.7%	4. その他 (具体的に)	0.0
2. 公益法人の支援制度	9.8	5. 特に利用していない	41.5
3. 民間企業の支援制度	2.4	無回答	0.0

問4 今後、貴教育委員会では、高等学校における舞台芸術の鑑賞機会について、どのようにお考えですか。

(○は1つだけ)

N=41

1. 積極的に拡充させていきたい	4.9%
2. 諸条件の許す範囲で拡充させていきたい	51.2
3. 現状維持に努めたい	36.6
4. 意義のあることだが、諸般の事情から縮小せざるを得ない	4.9
5. 縮小もしくは廃止していきたい	0.0
無回答	2.4

【2. 外部指導者についてお聞きます。】

問5 高等学校が芸術文化の分野で、専門家などの外部指導者を招聘する際に、貴教育委員会では、なんらかの予算措置をとっていますか。芸術分野に特化していなくても適用できる制度があれば○印をつけてください。(○はいくつでも)

N=41

1. 正課および選択授業で外部指導者が通年または半期で授業できるように、非常勤の指導者謝金を支給できる制度がある	14.6%
2. 正課および選択授業で不定期に外部指導者を招聘できるように、年に数回程度分の謝金を支給できる制度がある	24.4
3. 課程外の部活動に外部指導者が通年で指導できるように、謝金を支給できる制度がある	24.4
4. 課程外の部活動に外部指導者が時々指導できるように、謝金を支給できる制度がある	24.4
5. 正課および選択授業に外部指導者を派遣できるような劇場、博物館、芸術団体等に事業委託を行っている	2.4
6. その他 (具体的に)	26.8
無回答	22.0

問6 貴教育委員会では、芸術文化の外部指導者の導入・活用に対して、予算措置以外のサポートがありますか。(○はいくつでも)

N=41

1. 外部指導者として指導が可能な人材の情報を収集して高等学校に提供しており、その中に芸術文化にかかわる人材が含まれている	22.0%
2. 外部指導者の派遣協力等をサポートしてくれる民間団体の情報を高等学校に提供しており、その中に芸術文化の部門がある	2.4
3. 外部指導者の活用の事例に関する情報を高等学校に提供している	2.4
4. その他 (具体的に)	7.3
無回答	68.3

質問は以上で終わりです。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

返信用封筒(切手不要)にてご投函ください。

【図表一覧】

図表番号

Ⅱ. 調査実施概要

図表Ⅱ—1	設置者〔学校調査〕	11
図表Ⅱ—2	設置者〔学校調査〕＜学校区分別＞	12
図表Ⅱ—3	設置者〔学校調査〕＜都道府県別＞	13
図表Ⅱ—4	学校の所在地〔学校調査〕	14
図表Ⅱ—5	児童・生徒数〔学校調査〕	15
図表Ⅱ—6	児童・生徒数〔学校調査：小学校〕＜都道府県別＞	16
図表Ⅱ—7	児童・生徒数〔学校調査：中学校〕＜都道府県別＞	18
図表Ⅱ—8	児童・生徒数〔学校調査：高等学校〕＜都道府県別＞	20

Ⅲ. 学校調査の調査結果

図表Ⅲ—1	平成19年度の鑑賞教室の実施状況＜上演作品数で細分＞	23
図表Ⅲ—2	平成19年度の鑑賞教室の実施状況＜学校区分別・生徒数別＞	24
図表Ⅲ—3	平成19年度の鑑賞教室の実施状況＜都道府県別＞	25
図表Ⅲ—4	平成19年度の鑑賞教室の実施状況 ＜パフォーミングアーツ系の文化部活動の有無別＞	26
図表Ⅲ—5	小学校における児童数の分布と平成19年度の鑑賞教室の実施率 ＜都道府県別＞	27
図表Ⅲ—6	実施（予定）月	29
図表Ⅲ—7	作品の種類（複数回答）	31
図表Ⅲ—8	作品の種類（複数回答）＜学校区分別＞	32
図表Ⅲ—9	鑑賞対象学年（複数回答）＜学校区分別＞	33
図表Ⅲ—10	鑑賞者数	35
図表Ⅲ—11	鑑賞者数＜学校区分別＞	36
図表Ⅲ—12	実施場所	37
図表Ⅲ—13	実施場所＜学校区分別＞	38
図表Ⅲ—14	開催の方法（複数回答）	39
図表Ⅲ—15	開催の方法（複数回答）＜学校区分別＞	40
図表Ⅲ—16	家族や地域の人々の参加	41
図表Ⅲ—17	家族や地域の人々の参加＜学校区分別＞	42
図表Ⅲ—18	鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】	44
図表Ⅲ—19	鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】 ＜学校区分別・生徒数別＞	45
図表Ⅲ—20	鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】 ＜都道府県別＞	46

図表Ⅲ—21	鑑賞教室の開催頻度【平成19年度鑑賞教室実施校】 ＜鑑賞教室で実施する分野のローテーション実施状況別＞……………	48
図表Ⅲ—22	鑑賞教室で実施する分野のローテーション状況 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別＞……………	49
図表Ⅲ—23	鑑賞教室で実施する分野のローテーション状況 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜生徒数別＞……………	50
図表Ⅲ—24	鑑賞教室の状況【平成19年度鑑賞教室非実施校】＜学校区分別＞……………	52
図表Ⅲ—25	鑑賞教室の状況【平成19年度鑑賞教室非実施校】＜生徒数別＞……………	53
図表Ⅲ—26	鑑賞教室の状況【平成19年度鑑賞教室非実施校】＜都道府県別＞……………	54
図表Ⅲ—27	鑑賞教室の非実施理由（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室非実施校】……………	55
図表Ⅲ—28	鑑賞教室の非実施理由（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室非実施校】＜生徒数別＞……………	56
図表Ⅲ—29	鑑賞教室の非実施理由（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室非実施校】＜都道府県別＞……………	57
図表Ⅲ—30	鑑賞教室の位置づけ【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	59
図表Ⅲ—31	鑑賞教室の位置づけ【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別＞……………	60
図表Ⅲ—32	鑑賞教室が位置づけられている教科 【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	61
図表Ⅲ—33	鑑賞教室が位置づけられている教科 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別＞……………	62
図表Ⅲ—34	鑑賞教室の内容の決定方法 【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	63
図表Ⅲ—35	鑑賞教室の内容の決定方法 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別・生徒数別＞……………	64
図表Ⅲ—36	鑑賞教室の内容を選定する際に参考にする情報（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	65
図表Ⅲ—37	外部の団体による協力（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	67
図表Ⅲ—38	外部の団体による協力（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別・生徒数別＞……………	68
図表Ⅲ—39	外部の団体による協力（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜都道府県別＞……………	69
図表Ⅲ—40	公立文化施設の役割（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	72
図表Ⅲ—41	公立文化施設の役割（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別・生徒数別＞……………	73
図表Ⅲ—42	公演料の支払いの有無 【平成19年度鑑賞教室実施校】……………	75

図表Ⅲ—43	公演料の支払いの有無 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別・生徒数別＞	76
図表Ⅲ—44	公演料の支払いの有無 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜都道府県別＞	77
図表Ⅲ—45	公演料の負担・支援（複数回答） 【公演料支払有り】	78
図表Ⅲ—46	公演料の負担・支援（複数回答） 【公演料支払有り】＜学校区分別・生徒数別＞	79
図表Ⅲ—47	児童・生徒が負担した金額（1人当たり） 【公演料支払有り】＜学校区分別＞	81
図表Ⅲ—48	児童・生徒が負担した金額（1人当たり） 【公演料支払有り】＜生徒数別＞	82
図表Ⅲ—49	児童・生徒が負担した金額（1人当たり） 【公演料支払有り】＜都道府県別＞	83
図表Ⅲ—50	児童・生徒が負担した金額（1人当たり） 【公演料支払有り】＜学校設置者別＞	85
図表Ⅲ—51	児童・生徒が負担した金額（1人当たり） 【公演料支払有り】〔公立校〕＜学校区分別・生徒数別＞	86
図表Ⅲ—52	公演料を支払わなかった理由（複数回答） 【公演料支払無し】	88
図表Ⅲ—53	公演料を支払わなかった理由（複数回答） 【公演料支払無し】＜学校区分別・生徒数別＞	89
図表Ⅲ—54	学校教育における鑑賞教室の活かし方（複数回答）	91
図表Ⅲ—55	学校教育における鑑賞教室の活かし方（複数回答） ＜学校区分別・生徒数別＞	92
図表Ⅲ—56	各意見の比較	94
図表Ⅲ—57	「公演団体等の情報が不足している」という意見について	95
図表Ⅲ—58	「公演団体等の情報が不足している」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	96
図表Ⅲ—59	「作品に関する情報が不足している」という意見について	97
図表Ⅲ—60	「作品に関する情報が不足している」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	98
図表Ⅲ—61	「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見について	99
図表Ⅲ—62	「情報が多すぎて選ぶのが大変である」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	100
図表Ⅲ—63	「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見について	101
図表Ⅲ—64	「教員の間で情報交換する場が少ない」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	102

図表Ⅲ—65	「他の教員の理解を得るのが難しい」という意見について	103
図表Ⅲ—66	「他の教員の理解を得るのが難しい」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	104
図表Ⅲ—67	「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」 という意見について	105
図表Ⅲ—68	「鑑賞教室の内容を自校の裁量で決めるのが難しい」 という意見について＜学校区分別・生徒数別＞	106
図表Ⅲ—69	「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」 という意見について	107
図表Ⅲ—70	「費用負担が大きいので企画・実施に制約を受ける」 という意見について＜学校区分別・生徒数別＞	108
図表Ⅲ—71	「鑑賞教室を開催するのには児童・生徒数が不十分」 という意見について	109
図表Ⅲ—72	「鑑賞教室を開催するのには児童・生徒数が不十分」 という意見について＜学校区分別・生徒数別＞	110
図表Ⅲ—73	「保護者の理解を得るのが難しい」という意見について	111
図表Ⅲ—74	「保護者の理解を得るのが難しい」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	112
図表Ⅲ—75	「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見について	113
図表Ⅲ—76	「鑑賞教室のための時間を割きにくい」という意見について ＜学校区分別・生徒数別＞	114
図表Ⅲ—77	鑑賞教室が児童・生徒に与える効果（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】	116
図表Ⅲ—78	鑑賞教室が児童・生徒に与える効果（複数回答） 【平成19年度鑑賞教室実施校】＜学校区分別＞	117
図表Ⅲ—79	鑑賞教室の代替としてのCD・DVD等の効果＜学校区分別＞	118
図表Ⅲ—80	鑑賞教室の実施に関わる方針	119
図表Ⅲ—81	鑑賞教室の実施に関わる方針＜学校区分別・生徒数別＞	120
図表Ⅲ—82	鑑賞教室の実施に関わる方針＜都道府県別＞	121
図表Ⅲ—83	鑑賞教室の実施に積極的な方針をとる理由（複数回答） 【実施増加意向有り】	123
図表Ⅲ—84	鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答）	125
図表Ⅲ—85	鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答） ＜学校区分別・生徒数別＞	126
図表Ⅲ—86	鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答） ＜都道府県別＞	127
図表Ⅲ—87	鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答） ＜鑑賞教室の実施の有無別＞	129

図表Ⅲ—88	鑑賞教室を増やしていくために必要と思われる支援策（複数回答）	
	＜鑑賞教室の内容の決定方法別＞	129
図表Ⅲ—89	舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞機会（複数回答）	130
図表Ⅲ—90	舞台芸術鑑賞以外の芸術鑑賞機会（複数回答）＜学校区分別＞	130
図表Ⅲ—91	芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無	131
図表Ⅲ—92	芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無	
	＜学校区分別・生徒数別＞	132
図表Ⅲ—93	芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無	
	＜都道府県別＞	133
図表Ⅲ—94	芸術家・芸術団体からの指導者の招聘の有無	
	＜鑑賞教室の実施の有無別＞	134
図表Ⅲ—95	招聘する指導者の専門芸術分野（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】	135
図表Ⅲ—96	招聘する指導者の専門芸術分野（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】＜学校区分別＞	136
図表Ⅲ—97	指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけ（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】	137
図表Ⅲ—98	指導者（芸術）の招聘の学校教育における位置づけ（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】＜学校区分別＞	138
図表Ⅲ—99	指導者（芸術）招聘の目的（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】	140
図表Ⅲ—100	指導者（芸術）招聘の目的（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】＜学校区分別＞	141
図表Ⅲ—101	招聘する指導者（芸術）の決定方法（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】	143
図表Ⅲ—102	招聘する指導者（芸術）の決定方法（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】＜学校区分別＞	144
図表Ⅲ—103	指導者（芸術）を招聘することによる効果（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】	146
図表Ⅲ—104	指導者（芸術）を招聘することによる効果（複数回答）	
	【指導者招聘・招聘意向有り】＜学校区分別＞	147
図表Ⅲ—105	指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じる事（複数回答）	149
図表Ⅲ—106	指導者（芸術）を招聘する際に困難に感じる事（複数回答）	
	＜学校区分別＞	150
図表Ⅲ—107	指導者（芸術）招聘の活用方針	151
図表Ⅲ—108	指導者（芸術）招聘の活用方針	
	＜学校区分別・生徒数別＞	152
図表Ⅲ—109	指導者（芸術）招聘の活用方針	
	＜都道府県別＞	153
図表Ⅲ—110	指導者（芸術）招聘の活用方針	
	＜鑑賞教室の実施に関わる方針別＞	155

図表Ⅲ—111	1校あたりの文化部の数＜学校区分別・生徒数別＞	156
図表Ⅲ—112	部の類型〔小学校〕	157
図表Ⅲ—113	部の類型〔中学校〕	159
図表Ⅲ—114	部の類型〔高等学校（全日制）〕	161
図表Ⅲ—115	部の位置づけ	163
図表Ⅲ—116	部の位置づけ〔小学校〕	164
図表Ⅲ—117	部の位置づけ〔中学校〕	166
図表Ⅲ—118	部の位置づけ〔高等学校（全日制）〕	168
図表Ⅲ—119	所属児童・生徒数＜学校区分別・生徒数別＞	171
図表Ⅲ—120	所属児童・生徒数 合計	173
図表Ⅲ—121	所属児童・生徒数〔小学校〕	174
図表Ⅲ—122	所属児童・生徒数〔中学校〕	176
図表Ⅲ—123	所属児童・生徒数〔高等学校（全日制）〕	178
図表Ⅲ—124	活動頻度	180
図表Ⅲ—125	活動頻度〔小学校〕	181
図表Ⅲ—126	活動頻度〔中学校〕	183
図表Ⅲ—127	活動頻度〔高等学校（全日制）〕	185
図表Ⅲ—128	学校外部の指導者・講師の有無	187
図表Ⅲ—129	学校外部の指導者・講師の有無〔小学校〕	188
図表Ⅲ—130	学校外部の指導者・講師の有無〔中学校〕	190
図表Ⅲ—131	学校外部の指導者・講師の有無〔高等学校（全日制）〕	192
図表Ⅲ—132	県大会以上の大会参加実績	194
図表Ⅲ—133	県大会以上の大会参加実績〔小学校〕	195
図表Ⅲ—134	県大会以上の大会参加実績〔中学校〕	197
図表Ⅲ—135	県大会以上の大会参加実績〔高等学校（全日制）〕	199
図表Ⅲ—136	他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況	201
図表Ⅲ—137	他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況 〔小学校〕	202
図表Ⅲ—138	他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況 〔中学校〕	204
図表Ⅲ—139	他校や地域の芸術団体と一体になった部活動の実施状況 〔高等学校（全日制）〕	206
図表Ⅲ—140	文化部の新設・廃止状況	208
図表Ⅲ—141	文化部の新設・廃止状況＜学校区分別＞	208

IV. 教育委員会調査の調査結果

図表Ⅳ—1	舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：小学校〕	209
図表Ⅳ—2	舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：中学校〕	210
図表Ⅳ—3	舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度（複数回答） 〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	210
図表Ⅳ—4	舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：小学校〕＜都道府県別＞	211
図表Ⅳ—5	舞台芸術鑑賞に対する財政的支援制度（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：中学校〕＜都道府県別＞	213
図表Ⅳ—6	学校運営費の費目に含まれる1人あたりの算定上限 〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	215
図表Ⅳ—7	学校実施の公演に対する財政支援の費目における1人あたりの算定上限 〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	216
図表Ⅳ—8	小学校で今年度実施した鑑賞教室の分野（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：小学校〕	217
図表Ⅳ—9	中学校で今年度実施した鑑賞教室の分野（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：中学校〕	218
図表Ⅳ—10	今年度実施した鑑賞教室の分野（複数回答） 〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	218
図表Ⅳ—11	小学校で今年度実施した鑑賞教室の分野（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：小学校〕＜都道府県別＞	219
図表Ⅳ—12	中学校で今年度実施した鑑賞教室の分野（複数回答） 〔市区町村教育委員会調査：中学校〕＜都道府県別＞	221
図表Ⅳ—13	鑑賞機会の分野 〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	223
図表Ⅳ—14	鑑賞機会の分野 〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	223
図表Ⅳ—15	小学校での鑑賞機会の分野 〔市区町村教育委員会調査：小学校〕＜都道府県別＞	224
図表Ⅳ—16	中学校での鑑賞機会の分野 〔市区町村教育委員会調査：中学校〕＜都道府県別＞	225
図表Ⅳ—17	小中学校の鑑賞機会の確保の方針 〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	226
図表Ⅳ—18	高等学校の鑑賞機会の確保の方針 〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	226
図表Ⅳ—19	小中学校の鑑賞機会の確保の方針 〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞	227

図表Ⅳ—20	小中学校の鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	228
図表Ⅳ—21	高等学校の鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用(複数回答)	
	〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	229
図表Ⅳ—22	小中学校の鑑賞機会確保のための外部支援制度の利用(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞	230
図表Ⅳ—23	小中学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	231
図表Ⅳ—24	高等学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針	
	〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	231
図表Ⅳ—25	小中学校の舞台芸術の鑑賞機会に対する今後の方針	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞	232
図表Ⅳ—26	小学校が指導者(芸術)を招聘する際の予算措置(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校〕	233
図表Ⅳ—27	中学校が指導者(芸術)を招聘する際の予算措置(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：中学校〕	234
図表Ⅳ—28	指導者(芸術)を招聘する際の予算措置(複数回答)	
	〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	234
図表Ⅳ—29	小学校が指導者(芸術)を招聘する際の予算措置(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校〕＜都道府県別＞	235
図表Ⅳ—30	中学校が指導者(芸術)を招聘する際の予算措置(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：中学校〕＜都道府県別＞	236
図表Ⅳ—31	指導者(芸術)の導入に対する予算措置以外のサポート(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕	237
図表Ⅳ—32	指導者(芸術)の導入に対する予算措置以外のサポート(複数回答)	
	〔都道府県教育委員会調査：高等学校〕	238
図表Ⅳ—33	指導者(芸術)の導入に対する予算措置以外のサポート(複数回答)	
	〔市区町村教育委員会調査：小学校、中学校〕＜都道府県別＞	239

【プロジェクト委員】（◎委員長）

栗原 和子 劇団コーロ

嶋田 卓司 風の子中四国

◎ 田辺 素子 劇団銅鑼

藤沢 義男 オペレッタ劇団ともしび

守屋 新 東京都交響楽団

清岡 朋子 小学校教諭

高崎 彰 中学校元校長 東京都演劇教育連盟会長

阿部 順 高等学校教諭 関東高校演劇連盟事務局長

恩田 耕太郎 株式会社 インテージ

内藤 暢久 株式会社 インテージ

本調査では上記の方々にご協力いただきました。
ご協力ありがとうございました。

【オブザーバー】 文化庁

佐藤 康宏 文化部芸術文化課 文化活動振興室 室長補佐

【事務局】（社）日本芸能実演家団体協議会

大和 滋 ／ 米屋 尚子 ／ 大井 優子

学校における鑑賞教室等実態調査 調査報告書 2008 年版

2008 年 3 月 31 日発行

企画・発行 文化庁

調査・編集 社団法人日本芸能実演家団体協議会

〒160-1466 新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー11F

tel : 03-5353-6600

research@geidankyo.or.jp

<http://www.geidankyo.or.jp>

印刷所 株式会社 トービ

本書全部、または一部の無断転載・複写および電子媒体への入力はお断りします。